
仮面ライダーDCDRW スピンオフ大戦！

ハルル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーDCDRW スピンオフ大戦！

【Nコード】

N1264Y

【作者名】

ハルル

【あらすじ】

【仮面ライダーデイケイド Re:imagination War】が、爆笑スピンオフになって登場！
皆の絵心は何処まであるか？

仮面ライダー達の、本編への主張とは？
フライングでも気にしない、ネタバレでも気にしない、自己主張の激しい昭和リイマジ達！

本編のシリアス空気を払拭するようなギャグ展開を、見逃すな！！

Ride001：体験！大学ライフ

夏海「大学ライフを満喫したいです」

士「…は？」

夏海「大学ライフを満喫してみたいんです！」

海東「なんだいナツメロン、まさか、大学に憧れているのかい？」

夏海「はい！……オープンキャンパスに、部活体験、講義に充実した夏休みライフ…楽しみじゃないですか！！」

カズマ「どうするシヨウイチさん」 短期大学卒業

シヨウイチ「俺に聞くな！」 4年大学卒業

シンジ「俺も大学には興味あるなあ…」 専門学校卒業

ソウジ「うむ」 高卒

シヨウイチ「………ん？お前、高卒後にZECT入ったのか…??」

カズマ「あそこ、頭いいイメージがあるんだけど」

ソウジ「入隊試験は実技と軽いテストだった」

シンジ「………これの何処が？」 超難問テスト取り出しながら

夏海「でも…でもっ、空気の読めないゴリラがやってきたせいで…

折角のキャンパスライフが！台無しに！！」

ユウスケ「あー、それはある！」

士「せめて部活ぐらいはしたかったぜ」

映司「大学生活かあ…俺も（政治家の家系だからという理由で）入れられたよ。短期制だったけど」

エイジス「大学…とは違うかもしれないが、偏差値の高い学問所になら（自費で）」

エイジ「大学行かなかった（面倒だし）」

タジャドル「……トリプルエイジに大学の入試問題出したら、王環が最初に脱落しそうな気がするのは気のせいかな？」
シャウタ「気のせいでOK」

トリプルエイジの中で頭がいいのは銃火器、残りの二人はそれぞれ少し下ぐらい

夏海「私は要求します！…大学の楽しいキャンパスライフを！！」
シンジ「おー！」

タクミ「いや、あなたLostでやりましたよね！オープンキャンパス満喫しましたよね！！」

エイジス「ポケモン大学紹介してやるうか？竜の怒りを覚えたコイキングがいるらしいぞ」

ユウスケ「懐かしいな、そのネタ！」

士「…ああなつたナツミカンは煩いからな。おいタジャドル、何とかならないか？」

タジャドル「無理。学長のオルタナティブ先生、厳しいし…」

プトテイラ「役に立たないね！」

タジャドル「おいコラ！」

プトテイラ「きゅーい！」 テイルディバイダー

タジャドル「おせえにあっ！？」

ソウジ「待て士。大学生と言えば、彼らがいるだろう」
士「彼ら？」

~~~~~

月島カズヤ「で、俺達の大学で好き勝手やらせてやってくれってことなんですね……」  
仁ケイスケ「しかも、俺（の親父）のコネで……ってか」  
ソウジ「ああ」  
シヨウイチ「頼んだぞ、教授の息子！」  
ケイスケ「……はああああ……まあいいや、で？参加するのは夏海とユウスケと……」

士「主役だから、当然だな！」  
シンジ「はい！」  
ソウジ「はい」  
カズマ「うえい」  
シヨウイチ（あれ、これ俺強制？）  
タクミ「はい」  
シャウタ「……」  
こっそり手を挙げる

ヒナ「お兄ちゃんのほうをお願いします」

エイジ「ええええええええ！？」

エイジス「…」 黙って拳手

映司（駄目だ、ダブルエイジ来たら俺もやんないといけない空気が…）

ケイスケ「で、フライング上等の昭和軍はいるか？」

紫電シゲル「おう！」

風祭シロウ「…」 黙って拳手

時雨リヨウ「はい」

天空ヒロシ「俺も…その大学、凄く通いたかつたんだ！」

本郷ハヤト「おつれもー！」

ケイスケ「おいあんだ植物学者！自然系大学卒！！」

ハヤト「いいじゃん別に！」

ヒロシ「ほっしのつみや！ほっしのつみや！！」

カズヤ「…なんか、凄く楽しそうにしてる…！orz」

この中で一名、ネタバレ防止策のために苗字を旧姓にしている人がいますが、スルーの方向で

彼らはスピノフではリンクもビックリ・フライング登場なので、『こういうキャラが出るんだ』程度の認識でお願いします

シャウタ「………深海科行きたい」

プトティラ「シャウタが行くなら行く！」

ラトラーター「行きたいです」

ガタキリバ「出番ないし行きたいです」

サゴーズ「ここぞとばかりに行きたいです」

タトバ「俺も」

タジャドル（…俺達が行ったら浮くと思うんだが…）

くくく

鳴滝を扱き使って大学までショートカットしました

カズヤ「オーロラって便利…」

ケイスケ「通学にな」

士「それよりも、まずは部活だな」

夏海「そうですね！」

カズヤ「いや、講義を受けに行こうよ！大学生活の基本はやっぱり勉強だよ！？」

士「そんなもん、後回しだ！」

夏海「部活動楽しみますよー！」

参加者達「わーい！」「」

ケイスケ「おい、これじゃあ部活動体験コーナーじゃないか！講義受けるよ、講義…！」

カズヤ「…あれ？ヒロシとシャウタは…」

シロウ「ヒロシは宇宙科の講義のある講堂に突っ走って行って、シャウタは仁深海研究所である講義を受けに行った」

ケイスケ「フリーダムだな！おい…！」

カズヤ「ハヤトさんは？」

シロウ「生け花同好会」

ケイスケ「リヨウさん……」

シロウ「軽音楽部」

カズヤ「シゲル！」

シロウ「アメフト部」

ケイスケ「……あなたは何処に行く予定だ？」

シロウ「乗馬クラブ」

カズヤ「……お願いだから、講義を受けにいった人達を見習ってください昭和リイマジ勢！orz」

ケイスケ「講義を受けに行ったのも、ヒロシとシャウタだけだけだな！」

プトティラ「ぶきゅん……omO」

カズヤ「……ああ、なんかシャウタに置いていかれた子がいる」

ケイスケ「どうした……プトティラ」

プトティラ「シャウタが迷子になった……」

カズヤ「……シャウタは今、難しいお勉強しに行ったから、誰かに遊んでもらいなさい」

ケイスケ「今なら、シンジさんに置いていかれてうえいうえい鳴いているカズマと遊んでもらえるぞ……」

土「お。ここは、映画研究部か」

夏海「何をしているんでしょう？」

ケイスケ「……やっと追いついた！」

ユウスケ「ここでは、演劇部の人達と協力して……学園祭で映画を作っているんだってさ」パンフ見ながら

映司「……うわっ、何これ楽しい！」ワイヤーアクション中

士「お前何やってるんだ映司!？」

エイジ「スタント体験つてのをやっているらしくて、今、火野とレ  
ヴアが遊んでる」 機材壊せないので自粛

エイジス「」ワイヤーアクション中

シヨウイチ「なんつー物を置いてるんだ、ここは!？」

カズヤ「さつき言ったじゃないですか。本格的な映画を作るために、  
ワイヤーアクション用の道具を購入したり…スタント紛いのことも  
学生がしているんです」

ガタキリバ「凄ッ!？」

カズヤ「ケイスケなんて、トラックに引かれるシーンのアクション  
スタントやら…3階建ての建物から落ちるスタントもさせられてる  
んですよ」

士「…お前、映画研究部の一員なのか？」

ケイスケ「いや…一年の時、時代劇の殺陣をやるからエキストラで  
手伝って欲しいって言われて…それ以来、何故か事あることに付き  
合わされる羽目に…」

カズヤ「去年なんて、学園祭で発表する映画の主役やらされたんで  
すよ。…ただし、壮絶な殺人ゲームの末に主役が犯人であること  
が明らかになつて、そこで10階建ての建物から落ちるアクション  
もやって…」

ラトラーター「あんたスタント系の役者になれるよ、マジで」

タジャドル「お。ここはフェンシング部もあるのか」

サゴーズ「フェンシング?」

タトバ「簡単に言つと、西洋の剣道かな」

ケイスケ「…」 素通り

士「ん?この紹介はしないのか?」

ケイスケ「いや、ちょっと…」

部員達「」「仁キャプテン、おはようございます！」「」  
士「」

タジャドル「は？」

ユウスケ「え？」

夏海「へ？」

ラトラーター「What？」

ガタキリバ「Really？」

カズヤ「あー、ケイスケは…フェンシング部のキャプテン……なんだ」

士「……性格的に似合わねええええ！？」

エイジ「何がどうなってフェンシン…ぶふっ」

映司「え、さっきのほうが天職じゃない？」

シヨウイチ「お前本当に技術科か！？ヒツキーか、機械オタクか！！？」

ケイスケ「……だから来たくなかったんだよ！そして、技術科への偏見やめい！！」

カズヤ「詳しく説明すると、ケイスケは中学から高校まで剣道をやっていたんですけど、この大学には剣道部がなくて…それでフェンシング部に」

ケイスケ「ちなみに、水曜日と金曜日はフェンシング休みだから…」

水曜は映画研究部・金曜は陸上部に顔出してる」

士「お前本当に技術科かよ！？」

ヒロシ「ああ、楽しかった…今の時間の講義、G体験の機械に乗る奴だったんだよ！凄く受けたかったから、もうテンションスカイハイ！！！」

カズヤ「良かったな…」

ケイスケ「orz」

ヒロシ「ケイスケはどうしたの？」

カズヤ「…フェンシング部だって知られてちよっと落ち込んでる」

エイジス「気にする必要はないぞ。フェンシングは、貴族の嗜みとも言われている神聖なスポーツだ」

ケイスケ「それフォーローじゃないよな、エイジス…」

エイジス「？」 フォローのつもりだった

ラトラーター「お、何この部活」

ガタキリバ「えーっと…【サバイバル部】？」

カズヤ「ああ、そこは」

パン！

全「…！？」

エイジ「レヴァ、お前誰を撃った!？」

エイジス「お前を撃つぞ王環!」

映司「ちよっと待って、部屋の中から聞こえたんだけど!？」

ユウスケ「すいません!一体何が…」

ヒュン ナイフがユウスケの頬を掠る音

ユウスケ「……………」 顔面蒼白

士「…」 自分の近くの壁に刺さって凝固

カズヤ「これがサバイバル部」

ケイスケ「大自然で生き抜くための方法を模索する部だ。そして、その一環として射撃訓練もしている」

シンジ「…一体どんなサークルだそれはああ!？」 写真部から

やって来た

サバイバル部キャプテン「入部希望者か？」

ユウスケ「…いえ、見学です…！」

サバ部キャプテン「そうか。だったら、射撃訓練でもしてみるか？」

本物の銃渡しながら

ユウスケ「ええええええええ！？ちょ、シンジさんパス」

シンジ「俺になんて渡す！…土パス」

士「ナツミカンやれ」

夏海「いやですよ！王環さんやってください…！」

エイジ「やだ壊す！…火野、どうぞ…！」

映司「え…エイジス！エイジスウウウウ…！」

エイジス「やらん！こんな場所に来てまで、銃火器シャウタ言われてたまるかアアア…！」

タジャドル「……」

パン！

パン、パン…！！

タジャドル「…よし、全部と真ん中」銃口に息吹きかけながら

全「…タジャドルスゲエ！？」

シャウタ「あれでも、射的で百発百中でしたから…」

ガタキリバ「しかも、一撃ででかい獲物狙ってさ…」

ラトラーター「ブラコンパワーがあったかもしれないとはいえ、マ

ジ凄かったわ。10回やって10の景品貰えるなんて」

エイジス「…銃火器タジャドル？」超いい笑顔

タジャドル「ちょ、それやめてくれマジやめてくれ」

サゴーズ「せめてスナイパータジャドルとか、ゴルゴタジャドルにしようよ…」

ラトラーター「タジャドル厨二風に言うなら、  
【レッドアイズ・スナイパー真紅の目の暗殺者】だよな」  
タジャドル「orz」  
シャウタ「厨二キャラなのが悪い」

ケイスケ「一旦外に出て…こっちは、乗馬クラブ」

シゲル「おー、やっと合流できた」

ヒロシ「アメフト部どうだった？」

シゲル「楽しそうだったぜ！この大学入ってみるのもいいかもなあ、  
朱空町の大学はアメフト部ないし…」

ケイスケ「入学試験、相当難しいぞ」

カズヤ「後、家がお金持ちとか、親がそっち関係の仕事をしている  
人とかじゃないと、入れない…かな」

シゲル「現実を言うな馬鹿野郎！orz」

シンジ「乗馬クラブってあんまり見ないけど、どんな部活なの？」

カズヤ「読んで字の如く、乗馬を楽しむの」

士「乗馬クラブな…キザな奴がやりそうなイメージだぜ」

シゲユウ「お前が言うな」

シロウ「…はっ！」 柵越え

見ていた女性達「…キヤーツ！」「」

女性陣「…かつこいいい！」」「」

女学生A「イケメンで馬にも乗れる！嫌いじゃないわ…！」

シゲル「しまった、あのキザ野郎忘れてた！」

ケイスケ「しかし、様にはなっているな…」

カズヤ「そうだな…」

士「…やるぞ」

ユウスケ「対抗意識燃やすなよ！」

シンジ「つか、馬に乗ったことなんてあるのか!？」

士「リンクに乗れるなら、俺にも乗れる！」

シンジ「その基準はリンク君に凄まじく失礼！」

映司「馬かー! エイジスや王環さんはどうします?」

エイジス「暇だしやるか」

エイジ「…馬潰れないよな!？」

映司「王環さん、自分が何kgあるつもりで言ってます?」

エイジス「ギルにならないければ100は越えないだろ」

リョウ「…楽しそうだな」 軽音部で凄まじいほどのベースの演奏してきた

ヒロシ「やってみます?」

士「…はっ!」

ユウスケ「おーい、逆送しないでー!」 馬が逆走

シンジ「…なぜ動かない?」 シンジのオーラがプレッシャーで馬が動かない

エイジ「…orz」 馬が牧草食べて動かない

リョウ「ハイヤ」 柵2つ越え

映司「うわ、揺れる!？」 馬は動かせるけどバランス取れない

エイジス「…せいやっ!」 自分の高さの半分ほどの柵越え

女学生達「…きゃー!」

士「…おいちよつと待て、何でエイジスで盛り上がるんだそこ!」

映司「…俺も同じ顔だよ…!?!?orz」

シャウタ「 気品の差」

タジャドル「エイジスって、仮面ライダーにさえならなければ普通にイケメンだしな…!」

ケイスケ「…!」 □押さえて笑い堪えてる

ハヤト「~~~~ツ！」 柵ベシベシ叩きながら爆笑  
シゲル「ぶっふふ…！」 腹抱えて爆笑

ソウジ「いやあ、楽しいな」 満喫

カズマ「うえい！O O」

プトテイラ「ぷー！> <」

シヨウイチ「遂に来たか、能天気一家…！」

タクミ「本当に、色々ある大学なんですわ…さつき、ハングライ  
ダー同好会なんてもの見かけましたよ」

士「大体分かった、スカイライダーネタだな」

カズヤ「それ言っちゃったら、アメフトもストロンガーネタになっ  
ちやうんですが…）」

夏海「ところで、カズヤさんって何かサークルに入っているんです  
か？」

カズヤ「え？いや、俺は何も入ってないよ」

ヒロシ「ええええええ！？」

夏海「それ、大学生活損してますよ！？」

ユウスケ「そうだよ！」

カズヤ「そんなこと言われても、宇宙科のレポートって難しいから  
時間かかるし…それに自分の時間（＝鍛錬）もできるだけ取りたい  
から…！」

夏海「凄くもつたいないじゃないですかあああ！」

ユウスケ「そうだそうだ！」

シヨウイチ「…大学行かなかった奴らが言っても、説得力ないぞ…  
？」

夏ユウ「orz」 高卒

ケイスケ「まあ、過ごし方なんて人それぞれだろ。エイジスも、大学に近いレベルの学問所行ってるって聞いたけど、何してた？」  
エイジス「そうだな…俺の場合は、費用は自分で稼いだ金で行っていたからな。そこが終わったら、バイトに行つて…帰ったら貿易学や貴族としての礼儀作法などを学んだり、学問所での課題をやったり、予習復習その他諸々」

エイジ「お前メツチャ優等生なんだな…レヴァ…」

映司「何か色々とごめん」

シャウタ「シャウタとしてもごめん」

エイジス「何がだ!？」

ケイスケ「俺だつて、親父が『技術一本にのめり込むのではなく、部活動やサークルに入つて視野を広げていけ』って言うから、剣道とかやっていたんだけど」

ヒロシ「色々あるんだね…」

シゲル「まあ、要するに、大学にしてもなんにしても…過ごし方は人それぞれつてやつか!」

シロウ「　　だが、いくら大学生生活には長い休みがあるからつて遊びに没頭しすぎると、レポート未提出で留年・ヘタすれば除籍と…墮落した生活になるかな?」

夏海「ゴフツ」

ユウスケ「ぐふっ!」

士「がつ」

カズマ「　　〇〇」

シゲル「お前もトドメ刺すんじゃないやねえよ!」

ケイスケ「……文字数も限界寸前だし、帰るか」  
カズヤ「さんせい」  
シゲル「おい！回収、回収してくれ！！」

Ride001：体験！大学ライフ（後書き）

（次回予告）

アスム「【キターツ！絵心大戦2012】！始まりますよ！！」  
ワタル「今回の司会は、僕・ワタルと…」  
アスム「アスムでお送りいたします！」

アスム「はい、全体的に出番の多い（特にレーヴァティン当主）オ  
ーズチームの今日の出番は、ここまでです」  
全「…「なんかヒデエ！！」」

カズマ「何このスズメバチ違い」  
ソウジ「何このビッチ臭」  
ワタル「ソウジさんから今、凄い暴言が」  
アスム「放っておきましょう」

Ride002：キターツ！絵心大戦2012その1

Ride002：キターツ！絵心大戦2012その1

アスム「【キターツ！絵心大戦2012】！始まりますよ！！」  
ワタル「今回の司会は、僕・ワタルと…」  
アスム「アスムでお送りいたします！」

カズマ「出番少ないしね」  
アスワタ「orz」  
シンジ「カズマアアア！」  
ショウイチ「止めを刺すなアアア！」  
カズマ「〜」 口笛

士「まあ、簡単に言うと今までの絵心大戦ってことか」  
アスム「ただし！第4回まではリイマジ昭和メンバーに描いていただきますがね！！」  
ワタル「そして、今回審判を出すのは…尾上タクミさんです！」  
タクミ「……どうせ僕なんて…リンクがないと出番すらないんだ…」  
ネガの空気

ユウスケ「何か激しくショック受けていらっしやるー!？」  
シンジ「仕方ないよ…現段階（36話執筆段階）で、タクミ君のセリフは…」

タクミ「言わないで…ください…orz」 更にネガの空気深める  
カズマ「それはシンジが言っちゃいけないかったよ」  
シヨウイチ「そうだぞ…せめて、その権利があるのはワタルだ」  
ワタル「どの道一緒じゃないですか…orz」 ネガ突入  
アスム「ワタルウウウ！」

ちなみに、各人の初登場セリフ（ネタバレあり）

ユウスケ 「そうみたいだな」  
ワタル 「ぐっ！」  
シンジ 「それにしても…念のために有給休暇届け出しておいて良かった…のか、それとも逆に心配されるから出さない方が良かった…のか」  
カズマ 「…嫌だね」  
タクミ …  
シヨウイチ 「…知らんな」  
電王 …  
ソウジ 「よ」  
アスム 「はあーッ！」

全「…ソウジさんあんたある意味酷い」「」  
ソウジ「ん？」  
カズマ「お母さん悪魔」  
シヨウイチ「俺よりお喋りって何だよお前」  
シンジ「ワケが分からないよ！」

士「…タクミは、もう、無理そうだな…色々と」

ワタル「皆でしましょうそうしましょう」

アスム「…さて、…それでは、僕達の出番を削る原因を作った、今回の参加者はこちら！」

ユウスケ「アスム君それメタい！」

月島カズヤ「…負けない…今回のお題だけは、絶対に負けない…」  
紫電シゲル「な、何とか頑張って見るぜ」

天空ヒロシ「マイペンライ」

時雨リョウ「全力を尽くそう」

1号（notオリジナル、オーズ兄弟）「…何故私だけ変身状態  
?orz」

風祭シロウ「36話執筆段階で、存在自体していないからだろう」  
花崎ユリコ「それ言ったら、アマゾンも絵心大戦用の絵を描いている段階じゃ、登場の『と』の字もなかったのよ…?」

士「今回からは、8人ずつの対決らしいな」

ワタル「はい！主に、作者が面倒くさがって（ry」

シンジ「何、今日メタ祭？」

ユウスケ「あれ、でも、そうなるかとあと一人は…?」

如月弦太郎「 出番、キターッ!!!」

士「何か出たーッ!?!」

映司「説明しなければならぬ…彼は、【仮面ライダーフォーゼ】  
に登場する、仮面ライダーフォーゼ！」

エイジ「そして、天ノ川高校2年生でもあり…学園の平和を守る仮

面ライダーの一員でもある！」

エイジス「これまで、【おいでよライダータウン！】でしか出番がない上に、そこではキャラが完全に迷走している為、本格的に原典のまま(?)の弦太朗はここが初登場となる」

ヒナ「更に！今回出てきた理由は、『Wバースですら、NOVEL大戦にまともに出ないでもスピンオフに出たのに、何で俺出れないんだよorz』ということである……！」

アスム「はい、全体的に出番の多い(特にレーヴァティン当主)オーズチームの今日の出番は、ここまでです」

全「……なんかヒデエ……」

エイジス「俺も出てみたいな……」

ワタル「フォーゼでトリプルエイジ対決したらいいじゃないですか。きつと、全体的に酷くなりますから……2位までには確実に入れますよ」

弦太朗「何それ俺ショック!orz」

アスム「ルールは簡単。お題に沿って、カオスな絵を描くだけです！」

カズマ「違うよお題に沿った絵を描けばいいんだよ」

シゲル「どっちだよ!?!」

ヒロシ「何でケイスケ、ツッコミ休暇取ったんだろっね?」

シロウ「疲れたからだろ」

寝たかった(b y . 仁ケイスケ)

アスム「今回のお題は……【仮面ライダースーパー1】！」

ワタル「5つの腕で世界を救った、仮面ライダーですよ!」

ソウジ「……」 5つの腕を持ったライダーを想像

シヨウイチ「やめるよ、おい。不気味すぎる」 読めた  
士（ああ、だから、カズヤが無駄に燃えているのか…）  
ユウスケ（星ノ宮天海大学2年としての、意地があるもんな…）

フィリップ「フォーゼも出てきたし、僕も出よう！」

カズマ「来たよフィリペディア」

シンジ「ところで、そのカツラ違和感バリバリなんだけど大丈夫？」  
フィリップ「…ちょっと坊主に興味を持ってね。まあ、そんなことはどうでもいいじゃないか…」

アスム「 仮面ライダースーパー1というのは、赤心少林拳とフ  
アイブハンドを武器に戦う、宇宙ライダー…つまりフォーゼの先輩  
ですね」

フィリップ「僕のセリフウウウ！」

ワタル「変身者は、沖一也と呼ばれる人で、現在月刊誌で連載中の  
【仮面ライダーSPIRITS】では、バダンシンドロームに掛か  
って変身出来なくなるという自体に陥っているライダーでもありま  
す」

カズヤ「やめて！沖さんのことを悪く言わないで！！」

アスム「それと、沖一也さんは12月発売のクレヨンしんちゃんの  
3DSゲーム【アチヨー！友情のおバカラテ】で声を当てていると  
のこと」

ワタル「ちなみに今回のしんちゃんのゲームは宣伝の時点で、若干  
良作臭が漂っています（ゲームビジュアル的に）」  
ヒロシ「凄まじくメタだね」

弦太郎「…あの、スーパー1の見た目の情報をください…」

アスム「何言ってるんですか。そんなの、言ったら皆分かるに決ま  
ってますよ」

ワタル「気合いで頑張ってくださいよ、あんた動画見てるんですよ」  
弦太郎「げええ…よく覚えてねえよ……」

翔太郎「ちなみに、スーパー1はスズメバチのライダーでもあるんだぜ」

フィリップ「翔太郎のクセに僕のセリフをオオオ!?」

翔太郎「その言い分何だコラアアア！」

シヨウイチ「もうこれ以上増えるとややこしいからW組出て行けよオオオ！」

アスム「なお、【どたばた!オーズ兄弟】でのスーパー1先生は…  
…ワタル並みのDSです」

ワタル「アスム。後でピンヒール頭踏みつけの刑」

カズマ「アスムクンマチガツテナイヨードSアツテルヨー」

ワタル「カズマはギロチン処刑です」

シヨウイチ「いや、それ、死ぬ…いや、死なない!?死ぬ、あれ!  
!?!」

ソウジ「カズマはきつと、世界の終わりが来ても元気な子」  
シンジ「それ、もう地球外生命体ですよね」

}}}}}

ワタル「さて、それでは発表タイム！」  
アスム「ちなみに、今回ビリだった人には…ワタルのゲテモノ料理を食べてもらいます」 スカイライダー（強化）色のカレーを出しながら  
ワタル「アスム、後で王の判決による絶滅タイムです」

カズマ「それでは、花崎ユリコさん。花崎ユリコさん、お手元のスーパー1モドキをお見せください」

ユリコ「もどき扱い!？」

カズマ「お見せください」

ユリコ「うう、ちょっと自信ないのよね…これ…」

> i 3 3 9 3 1 — 3 2 1 5 <

ワタル「なんというか」

アスム「ポーズは…忠実です」

カズマ「アクションビーム？」

カズヤ「梅花の構えですよ!！」

ユリコ「だから嫌だったのに…!」

シヨウイチ「いや、序盤でこれならまだいいほうだぞ？世の中には、もっと酷い奴もいるんだ…」

シンジ「じゃあ次は、風祭シロウさんお願いします」

シロウ「いいだろう。見る、俺のスーパー1」

> i 3 3 9 3 2 — 3 2 1 5 <

カズヤ「…」

ヒロシ「ケイスケー、ケイスケー。ここにボケがあるよ、早く来て  
ー」

士「スーパー1最大の特徴である、『パル・フォルレ』が着てい

る服の袖にあるヒラヒラした物体』がないぞ」  
ワタル「『ここは通さん』って感じですね」  
アスム「何か酷いですね」

シヨウイチ「今度は、天空ヒロシ」  
ヒロシ「任せて！ちゃんと特徴は捉えてるから！！」

> i 3 3 9 3 3 — 3 2 1 5 <  
カズヤ「……」

シゲル「…ケイスケ！ここにもボケが、早く来て突っ込んでくれ！」

ユウスケ「…ザビー、だよな」

シンジ「ザビー、ですよな」

カズマ「何このスズメバチ違い」

ソウジ「何このビツチ臭」

ワタル「ソウジさんから今、凄い暴言が」

アスム「放っておきましょう」

ソウジ「では今度は、月島カズヤ君」

全「…」ここで本命ツすか！？」「」

カズヤ「見せてやる…これが！俺達星ノ宮天海大学が作っている、

S-1だッ！！」

> i 3 3 9 3 4 — 3 2 1 5 <

弦太郎「何かまともなのキター！！」

士「なんだ、この、妙な説得力！」

アスム「流石に毎回見ている人は伊達じゃないですね！」

ワタル「本当に、2番目に見せた人が恥ずかしく思えるレベルですよ！」

シロウ「何処のどいつだ」  
シゲル「お前だよ！」

ユウスケ「じゃあ今度は、シゲル君」

シゲル「何か、さっきの絵の後だとプレッシャーが…」

> i 3 3 9 3 5 — 3 2 1 5 <

カズヤ「……………」

シロウ「仁ケイスケー、星ノ宮天海大学技術科3年の仁ケイスケ（21）ー、ここにいいボケがあるぞー」

リョウ「…何故、いちいち仁さんと呼ぶんだ？」

ワタル「なんでしよう、この、雑魚怪人の香りは」

アスム「他のライダーの敵でいそうですよね」

シゲル「ぐああああああ！なんかムカつく（特にシロウ）！！」

士「じゃあ、今度は時雨だな」

リョウ「ああ。見てくれ、これが俺の…絵だ！」

ワタル「自信满满ですね」

> i 3 3 9 3 6 — 3 2 1 5 <

全「…何処からどう見ても本郷町のDSですありがとうございますとついでにましたアアアアア！」「」

カズヤ「しかも、なんか、無駄に上手い…！orz」

ヒロシ「どうどう」

シロウ「馬か」

カズマ「じゃあ、1号さん！」

1号「分かった…でも、凄まじく自信がない…」

アスム「大丈夫ですよ、2番目かなり酷かったですから」

ワタル「あれを越えない限り、ビリになる可能性は薄いですよ」

シロウ「だとさ、紫電」

シゲル「俺じゃねえよ！お前だよ！！」

> i 3 3 9 3 7 — 3 2 1 5 <

全「**ブツ**！！？」」「」

カズヤ「……………」

ヒロシ「なにこれひどい」

リョウ「仁さん、早くツツコミの手を差し伸べてくれ」

シゲル「こりゃねーわー」

1号「orz」

カズマ「最後の方、如月弦太朗さん。さっさと絵を出して恥晒して撃沈してくださいーい」

弦太朗「酷い絵確定！？」

シンジ「カズマ、何食べたの？」

カズマ「ナニモタベテナイヨーカズマイツモノカズマヨー」

シンジ「ならいいや」

ユウスケ「放置しないでお願い！」

弦太朗「よし…こうなったら、タイマン張らせて貰うぜ！」

> i 3 3 9 3 8 — 3 2 1 5 <

全「**ブハツ**！！？」」「」

カズヤ「……………」 無言で梅花の構え

弦太朗「待ってくれ、5つの腕って言うもんだから、ちゃんと5本描いたんだ！」

ヒロシ「まさかとは思っけど、」

> i 3 3 9 4 5 — 3 2 1 5 <

ヒロシ「で困んだ所？」

弦太朗「ああ！」

全員「……ブフォバツ!?!」

カズヤ「…死んでみる? ねえ、赤心少林拳諸手頸動脈打、食らって  
みる…??」

ヒロシ「目が怖いよ? カズヤ」

~~~~~

アスム「それでは、…くくく」

ワタル「結果の発表を、…ぷぷ…どうぞ!」

参加者「…ドキドキ…」

士「発表する。今回、栄えある一位に輝いたのは……エントリーN
0・6番時雨リヨウによる、【何処からどう見ても某DSです本当に
ありがとうございます!】」

リヨウ「何?」

カズヤ「うわーっ、分かっていたけどショック…! orz」

シヨウイチ「何処が惜しかったんだろっな…どっちも、かなり上手
いんだが」

ソウジ「頭身の差じゃないのか? カズヤ君の絵は、頭身が頭身だから
マスク部分と若干不釣合いなことになっているが、時雨君のはデ

フォルメされているから…」

シンジ「2位は文句なしに、カズヤ君だよ」

カズヤ「はい…って言うか、それ以外にないって自分でも思います」
全「…おい！」

アスム「さて、このまま3位を発表しても、花崎さんって分かりきっていますしねー」

ユリコ「 そうなんだ」

ワタル「それでは、ビリの発表を…」

カズヤ「弦太朗」

全「…へ？」

カズヤ「問答無用で、如月弦太朗…お前は、お前はS-1を…人類の夢を、希望を、…俺達兄弟の約束の証を何だとオオオオオ！！？」
背後に見えてはいけないオーラ

弦太朗「何かいるーッ！？」

士「 沖一也だ！あれは、梅花の構えを取る鬼の形相をした沖一也だッ！！」

ヒロシ「このゲテモノカレーどうするの？」

カズヤ「弦太朗の腹に叩き込む」

弦太朗「ひっ！？」

カズヤ「…覚悟しろオオオオ！！」 更に背後の生霊が増えた
アスム「見えます…今度は、『人の夢の為に生まれた この拳…この命はその為のものだ』と言っているスーパー1の姿が！生霊が！
！鬼神と化した沖一也さんのオーラと共に見える！！！！」
ユウスケ「俺にはただのDS先生にしか見えないよ！？」

ワタル「それでは、次回の絵心大戦をお楽しみに！」

タクミ「次に絶望するのは…君だ…」

フォーゼ「終焉キターッ！！」 ロケット逃走

カズヤ「待たんかアアアアア！」 オーラに沖とスーパー1とドS

教師を従えつつ

シンジ「色々な意味で怖いな！おい！！！」

Ride002：キターツ！絵心大戦2012その1（後書き）

（次回予告）

龍騎「それでは、これより【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】を行います」

アポロガイスト「しかし！デイケイドに登場した私はと言えば…事あることに『なのだ』！これではまるで…まるで、バカボンのパパではないか！！」

X「知らないですよそんなの！」

スーパー1「つて言うかお前、そもそもライダーじゃないだろ」

タトバ「今更！？」

士「じゃあ、『なのだ』に変わる新しい口癖を考えてみればいいな」
カズマ「神敬介エエエエ！」

ケイスケ「なんだよ、その『クレアアアア！』みたいなの！？」

弦太朗「宇宙キター！」

ユウスケ「それはむしろスーパー1だ、うん！」

Ride003：行くのだ！仮面ライダーの主張その1

Ride003：行くのだ！仮面ライダーの主張その1

龍騎『それでは、これより【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】を行います』

シャウタ「19回って何処から出てきた数字なんだろう…」
タジャドル「あれじゃないか、…リマジの数」
サゴーズ「えっと、リマジの人って確か…」

1号

2号

V3

ライダーマン

X

アマゾン

ストロンガー

スカイライダー

スーパー1

ZX

クウガ

アギト

龍騎

ファイズ

ブレイド

響鬼

カブト

キバ

オーズ（ 王環ヒナ）

サゴーズ「……までは確定なんだっけ？」

タトバ「死なない人間で？」

ブラカワニ「誰か死ぬ前提なの、マイ息子タトバ!？」

ガタキリバ「正直、電王リイマジはピットかリンクでいいような……」

ラトラーター「ってか、はぶられてるZX以降と電王、Wって……」

龍騎「19の謎なんてどうでもいいんで、最初の発表者の方、登壇
してください」

全「……どうでもよくないよー!?」「」「」

X（でも、実際は本気でどうでもいいのかもしれない……）

アポロガイスト「 皆さん、こんにちは」

オーズ兄弟「」「場違いキターッ!?!?」「」「」

リュウガ「場違いにも程があるだろ!」

スカイライダー「X先生!あんたの友人ですよ!!!」

X「いや、初対面だから!」

アポロガイストはオーロラを使ってオーズ兄弟の世界に乗り込み
ました

龍騎『ひたすらどうでもいいので、さっさと始めちゃってください』
全「……お前のスルースキル凄げえよ!」

アポロガイスト「……私は、【仮面ライダーX】に登場する怪人の中でも、特に人気の高い怪人だ。それは、現代での支持を見れば分かることだろう」

ラトラーター「そうだったけ？」

プトティラ「プトわかんない」

シャウタ「えーでも、どっかのランキングでは死神博士・キングダーク・シヨツカーライダー・蜂女じゃなかったっけ？」

X「しつ、言わないでおく優しさも必要だぞ……」

アポロガイスト「orz」

V3「あーあ、X先生がトドメ刺したー」

X「私ですかー!?!」

スーパード「お前以外にいないだろー」

龍騎『落ち込んでないで、面白い話お願いしますねー。後、詰まっていますから』

リュウガ「お前も追い討ちするなよ司会者!」

アポロガイスト「げふん。ともかく、キングダークに次いで有名な怪人だ」

タトバ（妥協したなあ……）

アポロガイスト「【仮面ライダーディケイド】でも、大シヨツカーの大幹部として活躍・最終回でラストを飾るなど、実に華々しい活躍であった」

サゴゾ「そうだったけ」

シャウタ「ごめん、相棒に出てくる人って認識しかしてなかった」

アポロガイスト「しかし！デイケイドに登場した私はと言えば…事あることに『なのだ』！これではまるで…まるで、バカボンのパパではないか！！」

X「知らないですよそんなの！」

スーパード「って言うかお前、そもそもライダーじゃないだろ」
タトバ「今更！？」

アポロガイスト「仮面をつければ、誰だって仮面ライダー！」

龍騎「その理屈だと、縁日のお面をつけている子供も仮面ライダーになりますよー」

リュウガ「何だよその例え！」

アポロガイスト「故に私は要求する！デイケイドのスタッフ達よ、私はXへの復讐よりも先に、貴様らへ復讐してやる！！『なのだ』」

キャラを作ってしまった貴様達を、私は許さないぞオオオ！！」

龍騎「煩いんで追い出してください」

X「あーほら、もう降りて降りて！愚痴りたいなら、カブトHFさんのおでん屋で愚痴りなさい！！」

エターナル「絶望がお前のゴールだ！」

シャウタ「それお前のセリフじゃない！」

アポロガイスト「おのれデイケイドオオオオ！」

タジャドル「それも違う人のセリフ！違う人のセリフだから！！」
ブラカワニ「どんマイケル！」

龍騎「次の人が準備するまでの間、プトティラに歌ってもらいましょう」

全「…なんで！？」「…」

プトティラ「プトプトげんきだもん！」の一番、歌うよ！」

タトバ「歌うんだ！？」

プトティラ『あくびして目が覚めて シャウタの美味しいご飯食べよう』

プトティラ『ベンちゃんと遊びながら 商店街探索しよう』

プトティラ『八百屋さんにおでん屋さん お肉屋さん魚屋さん』

プトティラ『龍騎の餃子屋さんで一休み お腹が空いたらお家に帰ろう』

プトティラ『笑い声絶えないね みんな大好き本郷町』

プトティラ『青い空見ていたら タジャドルいたからすとりえいん どうーむ』

~~~~~

エイジ「　　プットツテイラーノー!!」

ヒナ「お兄ちゃん何叫んでるの!？」

エイジ「いや、何となく…」

カズマ「中継見てたけど、カオスだったねえ」

シヨウイチ（中継あったのか…）

海東「何だか、アポロガイスト違いとはいえ、可哀想に思えてきたよ」

夏海「そうですね…なのだのだって、バカボンの見すぎじゃないのかって思っていましたけど…」

ケイスケ「いや、原典そこまで『なのだ』じゃないからな?」

士「じゃあ、『なのだ』に変わる新しい口癖を考えてみればいいな」

カズマ「神敬介エエエエ!」

ケイスケ「なんだよ、その『クレアアアア!』みたいなの!？」

弦太郎「宇宙キター!」

ユウスケ「それはむしろスーパー1だ、うん!」

カズヤ「言いませんよ!？」

シヨウイチ「口癖か…難しいな」

ユウスケ「だよなあ…」

シンジ「リンク君の『えええ…』みたいなものかな」

映司「冷静に考えると、よくその口癖でスマブラ世界内の主役張れたよね…」

士「ピットもな…いや、あいつ一定の口癖ないんじゃないか?」

ソウジ「そんな皆のために、ハイパークロックアップして調べてきたぞ」

全「『ソウジさん何やってんの!』『』『』」

ソウジ「その結果が、これだ！」

士 大体分かった

海東 士

夏海 笑いのツボ

ユウスケ … (ライ街だと「カレー」)

ワタル 後で××です

シンジ 誰が母だ、ライ

カズマ うえい、お母さん

タクミ リンク、やあめろおお

シヨウイチ 俺を呼ぶなあああ！

ソウジ ん？

アスム 師匠

映司 パンツ

アंक アイス

弦太朗 ダチ、宇宙キター

エイジ レヴア

エイジス 王環、映司

ヒナ むしろ言葉よりゴリバゴンツッコミ

プトテイラ ぷう、ぷええ、ぷきゅ、プト介じゃないもん、きゅー

い、O O、O m O、O O、T T、ベンちゃん

ブラカワニ パパンシヨック！、マイペット、マイ息子、パパン、  
ママン

シャウタ きゅいきゅいきゅい (以下略)、もふもふもふ (以下略)

タジャドル おおいッ!?

シス ふーふふーのふー

リンク えええ…

ピット お人よし勇者

ユウスケ「俺の結果アアアア!!」

シンジ「こればかりは酷い」

ソウジ「うーん、あることはあるかもしれないんだが、ユウスケはむしろ…」

シヨウイチ「むしろ?」

ソウジ「写真館組の中で、比較的優遇傾向にあるから口癖らしい口癖を作る必要がないとか?」

カズマ「正直、リンクも若干その傾向っぽいもんね」

土夏東「…orz」

ヒロシ「でも、俺達も決め台詞欲しいなあ」

リョウ「そうだな、名乗りが欲しいな」

ケイスケ「決め台詞でも、名乗りでもなーいッ!」

シロウ「しかし、アポロガイストの件は口癖というより…語尾につける言葉だな」

シゲル「ああ、確かに」

士「語尾につける言葉、か」

夏海「『ニヤン』とか、『ですう』みたいなものですね!」

ユウスケ「夏海ちゃん、…今上げた語尾、やる覚悟ある?」

夏海「ないですorz」

アスム「いい例題で、カズマさんの『うえい』ですよー」

カズマ「そんなうえいいうえい言っただけじゃない?」

ワタル「言ってるじゃないですか!」

1号「じゃあ、例えば…このアポロガイストはどこか紳士的だっ

だから、『〜でしょう』とか？」

ケイスケ「気色悪いぞそれ」

リヨウ「なら、『〜でござる』」

ケイスケ「神話の怪人なのに日本風かよ！」

シゲル「『〜ですの』！」

ケイスケ「気色悪い上にどこのチーグル！」

シロウ「『〜アポロン』」

ケイスケ「そのまんまだろ！」

ハヤト「面倒だし、『〜ラフレシア』」

ケイスケ「結局植物かよ！」

アマゾン「ケイスケ、『〜ケケーツ』がいい！」

ケイスケ「それはお前の叫び声を流用しただけだろ！」

カズヤ「はっ、『〜ホームアドミアンサヤエントロピー』！」

ケイスケ「長い！面倒くさい、付き合いたくない！！」

ジョージ「…ならば、『〜ピロシキ』！」

ケイスケ「母国の食べ物語尾につけないでください！」

ヒロシ「『〜ゴルゴム』」

ケイスケ「それむしろBLACK関係だーッ！」

ケイスケ「…もう嫌だ、もう嫌だよ……こんな…orz」

エイジ「辛かったな、ジン…」

エイジス「お前は頑張った方だ…ケイスケ」

映司「皆、ケイスケ君がツッコミを放棄してシゲル君が代わりにや

らない限り、ボケっぱなしなんだから…ケイスケ君を労わろうよ」

リイマジ昭和軍団「『〜ごめんスカイ』」

ケイスケ「『なさい』はどうしたああああああ！！？」

ヒナ「誰か！誰か、本郷二丁目からX先生を…NOVEL大戦SU

MMERでトマトが頭に刺さっていた、X先生に連絡をオオオ！！」

士「しかし、キャラを立てるためにも口癖は必須…よし！アポロガ  
イストなんてどうでもいい、新しい自分を見つげるために、新しい  
口癖を考えるぞ…！」

全「…おー！」「」

ケイスケ「…アポロガイスト何処いったアアアアア！！！」

これ以降、ケイスケが胃痛を訴えた為ツッコミ休暇となります

くくく

士「通りすがりの、仮面ライダー『もやし』っ！」

夏海「士君！【笑いのツボ】押しますよ『ミカン』！」

海東「士、僕だけを見ていくれ『マルス』」

ユウスケ「いや、設定だから『クウキ』」

ワタル「僕は…王になりたい『判決』！」

シンジ「今は…僕達がチームだ『また戦っていたのかこの人殺し』  
！」

カズマ「あなたに俺の何が分かるって『オンドウル』！」

タクミ「やああめろおおお『ナマコムッコロ』…！」

シヨウイチ「俺を呼ぶなあああ『おい、俺に何を』!」

ソウジ「クロックアップのできないお前など、もはや脅威ではない『おでん』」

アスム「僕達も戦いま『スウェーデン』!」

弦太郎「タイマン張らせて『宇宙キター』!」

映司「なんとかなるって。少しの小銭と、明日のパンツがあれば『ブリーフ』」

エイジス「今の映司を見捨てて逃げたら、俺は一生後悔する『もう何も怖くない』!」

ヒナ「もう、いいんだよ。苦しまないでいいの『亜種』」

エイジ「…ああ、そうか。最期の言葉は……それでいいんだな『プトテイラ』?」

リンク「楽しそうな人達だなあ『カオス』」

ピット「あんたはあんたの道を行けばいいって、言われたばかりじゃないですか『バーロー』」

シス「さーて、オレンジコンボの実験だー『腸』」

レイラ「あだつ、いだつ!?!?…ちよ、何で俺を攻撃してんだ『オニゴリー』!?!?」

タジャドル「だからって…それが弟を殺す理由になるか『厨二病』ッ!?!?」

ガタキリバ「さつきから黙って聞いていれば…自分勝手な意見で人を殺すなんて、ふざけているにも程がある『アニメ』ッッッ!」

ラトラーター「あの時…手を離したくせに!どの口がそう言うんだよ『トライドオオオ』!?!」

サゴーズ「…えーっと、頭がライオンで…お喋りで、お調子者で、足だけ無駄に速い奴なんですけど『マツケン』」

シャウタ「何が『な?』だッ!冗談が過ぎるぞ『ウナギ』…!!」  
タトバ「…不遇と呼ばれたトラの一撃『普通』ッ!」  
プトティラ「ぷう…せいべちゅわかない『ぷつとつちらーの』」  
ブラカワニ「        パパンここだよ『フォーリン・ラブ』ー!」

ハヤト「ああ、ちょっと、…頭が痛くなっただけ『ラフレッシュ』」  
シロウ「……思い詰めるなよ。お前の場合は、特に『アポロン』」  
ジョージ「私はこれから……君に改造手術を行う『ピロシキ』」  
アマゾン「アマゾン…ケイスケとハヤト、信じる『ケケーツ』!」

シゲル「…戦うんだよ!俺達が、俺達として生きるために『ですの』  
!!!」

ヒロシ「胸も苦しいし、……死にたいほど辛い『ゴルゴム』」  
カズヤ「だけどこれは、俺の決めたことなんだ『ホムマドマミアン  
サヤエントロピー』」  
リョウ「それが、…俺の答え『でじわる』!」

全「…なんつじゃこりゃあああああああああ!!!!」  
「

X (not本郷町)「俺が知るか」 寝転がってTV視聴中  
士「何か台無しすぎる!何かが駄目すぎる!!」

カズヤ「お願い、これ何とかして、ツッコミ入れて!」

X「…只今、電話に出ることができません。“ピー”と言う発信音  
の後に、お名前と電話番号を」

シゲル「頼むからツッコミ…ボケに走られるとスゲエ辛い!」

X「只今、電波の届かない所にいるため、掛かりません。こちらは、

「LCCダカモです」 寝袋就寝

全「」Xウウウウウウウウ!!!」「」

結論：無理に口癖を作るのはやめましょう

Ride003：行くのだ！仮面ライダーの主張その1（後書き）

〈次回予告〉

シャウタ「キターツ！絵心大戦2012】…第2回、始まるよ！」  
タジャドル「本日の司会者は、俺達オーズ一家だ！」  
プトテイラ「タジャ××どいて！><」  
タジャドル「せいりんぐじゃんぷつ！？」

シャウタ「うちの不憫でいいんじゃない？」  
ラトラーター「うちの焼き鳥でいいんじゃない？」  
ガタキリバ「うちの厨二病でいいだろ」  
サゴーズ「うちのブラコンで」  
タトバ「オーズ家の誇るシャウバ力振りを発揮する長男で」

全「…」  
色んな意味で期待を裏切りすぎだアアアアアア！  
！？「」  
ヒロシ「うツそおお！？凄く上手い、っていうか欲しい！」  
スカイライダー「かなり同意！」  
ケイスケ「何かの間違いだろ！」

Ride004：キターツ！絵心大戦2012その2

## Ride004：キターツ！絵心大戦2012その2

シャウタ「キターツ！絵心大戦2012」…第2回、始まるよ！」  
タジャドル「本日の司会者は、俺達オーズ一家だ！」  
プトテイラ「タジャ××どいて！><」 テイルディバイダー  
タジャドル「せいりんぐじゃんぷつ！？」  
ラトラーター「本日は、なんと！この方達にやってもらいます」  
スルー

仁ケイスケ「…何とか、何とか勝ちたい」

月島カズヤ「負けない！」

天空ヒロシ「今回のお題は、あのライダーだからね…絶対負けないよ！」

時雨リョウ「全力を尽くそう」

弦太朗「前回の面目躍如、晴らせて貰うぜ！」

1号「だからなんで私は…orz」

紫電シゲル「よっしゃあ！せめて、下から3番目は確実だ！！」

本郷ハヤト「うげー、植物の絵を描くならいいのに…ったく」

ガタキリバ「さあ、今回のお題は…」

サゴーズ「【仮面ライダー（新）】に登場する、スカイライダー…  
…先生！」

全「…なんで先生つけるの！？」

サゴーズ「いや、何となく…」

ブラカワニ「気持ちは分かるけどね」

士「スカイライダーと言えば、あれだな。冬映画でディケイド激情態に」

ヒロシ「それ以上言うとスカイドリルで腸抉るよ？」 超いい笑顔  
士「…すみませんでした」

映司「 えー、スカイライダーとは、主人公・筑波洋が趣味のハングライダーで空を飛んでいる途中にネオショッカーに襲われていた志度博士を助けたことにより、主人公が重傷を負うのですが…」  
エイジ「その志度博士がネオショッカーに戻り、スカイライダーとして改造したことによって、筑波洋は一命を取り留めたという」  
エイジス「重力低減装置によって飛行するセイリングジャンプと、スカイターボに乗ってバイクで壁をぶつ壊すライダーブレイク、更に7人ライダーリンチによって99の必殺技を得た…：：某スーパー1がドSなら、それとは対極のドMであるスイカだ」  
全「…最後誤解されるから!？」

ヒロシ「やだな、俺のほうがSですよ!？」

カズヤ「そんな問題じゃないから!？」

ケイスケ「SとかMとかどうでもいいから!」

ヒロシ「ケイスケはMだよな」

ケイスケ「誤解されるからやめい!」

シャウタ「その理屈でいくと、タジャドルと親父はMか…」

タジャブラ「何故!？」

リョウ「S…M？」

サゴーズ「どう説明したらいいんだろう…」

ガタキリバ「えっと、あれだ、…攻める人と受ける人!」

ラトラーター「食う者と食われる者!」

タトバ「どっちも合っているから怖い!？」

リヨウ「成程…分かったぞ、……エイジスと王環君か！」  
エイジ「俺Mなのーッ!？」  
エイジス「誰がSだと…?」  
映司「じゃあ、俺は…どうなるんだろっ」  
ヒナ「…アंक相手だと、腹黒ドS発覚してるから…うん、映司さんSでいいんじゃない? エイジスと同じ顔だし」  
映司「同じ顔だからってそんな扱いしないで!？」

ラトラーター「シャウタはどっちも、だな…」  
シャウタ「お前は久々にメシ抜きにされたいか？」  
ラトラーター「ごめんなさい…!」 土下座  
ガタキリバ「ラトラーターは余計なことするから、Mだな」  
サゴーズ「俺は…」  
タトバ「リンチくらうし、Mで」  
サゴーズ「えええええ…orz」  
タジャドル「それだと、タトバもMだな」  
ブラカワニ「ガタキリバは…あれ、どっちかな」  
タトバ「そういえば…」  
シャウタ「50体分身して相手を攻撃するなら、SだろS」  
ラトラーター「でも、50体一斉に攻撃されるならMもあるだろー」

トライド『ガオオオン（訳：それより、絵心大戦やらなくていいのか）?』  
プトティラ「何言ってるのかわからないよベンちゃん…OMO」  
ユウスケ「まあ、犬だしなあ」  
シンジ「えっ、これ、ネコ科だから…猫じゃないの?」  
ワタル「どっちでもいいですよ!」  
トライド『グオオオオン（訳：どっちでもよくねええええ）!?!』

ソウジ「ふむふむ」

シヨウイチ「まさかとは思うが、分かったのか？」

ソウジ「『SとかMとかどうでもいいから、絵心大戦やるうぜ』みたいなことを」

トライド『グオン（訳：すげえ、大体合ってる）！？』

全「『あ、そうだった』」

カズヤ「…んー、」

タジャドル「どうした？」

カズヤ「3点ドロップしている絵を描きたいんだけど、相手は誰がいいかなって」

タジャドル「何そのHEXトラウマ技!？」

映司「あー、ガンバライドか」

エイジ「作者はスカイライダーがトラウマになるほど、HEX行って負けまくったからなあ」

シャウタ「うちの不憫でいいんじゃない？」

ラトラーター「うちの焼き鳥でいいんじゃない？」

ガタキリバ「うちの厨二病でいいだろ」

サゴーズ「うちのブラコンで」

タトバ「オーズ家の誇るシャウバ力振りを発揮する長男で」

プトティラ「タジャ　ならいいよO O」

ブラカワニ「マイ息子の全身真っ赤のほうだな」

トライド『グオオン（訳：相棒の色のコンボだからって優遇された、万年持病持ちだな）』

タジャドル「　お前らアアア!？」

エイジス「おいお前ら…本編で、スカイライダーとそのコンボで組

んだオーズに失礼だろ……」

エイジ「レヴァ……」

映司「……そう、だよな……」

でもタジャドルが人柱になりました

タジャドルに関してはお題ではないので、資料（というか本人見ながら描いても）OKの為、評価対象にはなりません

弦太朗「スカイライダーって……どんなのなんだよ……orz」

士「またかよ！」

1号「私も、まだ出ていないから分からないんだが……」

ハヤト「……無言作業

ガタキリバ「しょうがないな……スカイライダーというのは、」

筑波「ライダーブレイクッ！」

ドガアアアアン！

全「……壁ぶつ壊されたアアア！？」

筑波「ライダーブレ（ry」

ドゴオオオン！！

全「……またぶつ壊していったアアアアア！？」

沖「……筑波さんあんたって人はアアアアア！」  
Vジェットに乗って追いかける

全「……なんか通りすがって行っただー！？」

サゴーズ「……あーあ、だから、ライダータウンにある菊池西洋洗濯舗の一室を借りてやるなって言ったのに……」

ブラカワニ「だって、ここしかアポ取れなかったんだもん」

ケイスケ「なんだよその新事実!?一瞬、オリジナルが世界を越えてやってきたかと思っただよ!」  
カズヤ「壊した壁、どうなるんだろ?」  
ヒロシ「さあ?」

DCDRW本編でも、ライダーブレイクは(今のところ1回だけ)出ます

ガタキリバ「えー、ヒントを続けると…スカイライダーは、イナゴです」

弦太郎「イナ…ゴ?」

1号「…?」

ラトラーター「バッタみたいなものだよな」

サゴーズ「そして、空を跳べるライダー!」

タトバ「まあ、うちではスイカスイカって言われているけど…」

リョウ「そうか、スイカか!」

シャウタ「ああつ、何か誤解していそうな人が!誤解していそうな人がー!!」

カズヤ「できた!」

ヒロシ「出来た!」

シゲル「よし、これは自信あるぜ!」

ケイスケ「うっうーん…微妙…」

リョウ「…できた」

ハヤト「できたと」

1号「よし!」

弦太郎「…できたぜ!」

ブラカワニ「え、その二人早くない?さっきヒント聞いたのに」

プトテイラ「ぶぎゅんOMO?」  
士「嫌な予感しかないな…」

}}}

ガタキリバ「それでは、皆の絵を見せてもらいます！」  
ラトラーター「審査委員長は…【どたばた！オーズ兄弟】のスイク  
…スカイライダー先生!!!」  
スカイライダー「ラトラーター、お前歴史の平常点引くからな？」  
ラトラーター「やめてくださいただでさえ低いのにorz」  
タジャドル「アホだろ、本気で」

映司「ところで…どこら辺までが、許容範囲だと思えます？」  
スカイライダー「そうだな…相当変じゃなかったら」  
全（（うわあ…））  
スカイライダー「大丈夫。一応、クセのある教師陣の中では、温厚  
な方だから…」  
エイジ「きつとその温厚設定、崩壊するぐらい酷いの来るぞ？」  
エイジ「特に、前回こんな絵を描いた奴らはな」  
> i 3 3 9 3 7 — 3 2 1 5 < > i 3 3 9 3 8 — 3 2 1 5 <  
スカイライダー「何それメチャクチャ期待できない！orz」

ガタキリバ「じゃあ、最初は…前回参加していない、ケイスケだな」  
ケイスケ「うげー、あまり自信ない…」  
ラトラーター「大丈夫、1号と弦太朗よりは確実にいけるって」  
シンジ「こういう言い方するのもなんだけど、もつと酷いのがいたからね？恋愛コンボって言うているのに、筋肉隆々の天使描いている鳥頭とか…」

映司（アंकか…）

> i 3 4 0 4 5 — 3 2 1 5 <

全「…何となくそれっぽい!?」「」

シヨウイチ「おい、もう、こいつ優勝でいいだろ」

カズマ「はい、お開きー」

カズヤ「まだありますからね!？」

ラトラーター「自信のあったシゲルからいつてみる？」

シゲル「よっしゃ！前回よりは、自信があるぜ!！」

シロウ「どうだかな」

> i 3 4 0 4 6 — 3 2 1 5 <

サゴーズ「…あっ、何となく上手い！上手いけど、……セリフウウ  
ウー!！」

シゲル「全国ガンバイダーの叫び（003弾HEX限定）!」

カズヤ「……その気持ち…メチャクチャ分かる!」

ケイスケ「『皆も頑張れ』的なセリフを言うから、殺意抱くんだよな!？」

士「ああ…お前のせいでやられてるのに頑張れるか、とかな!」

シヨウイチ「LRタジャドルで挑戦しようとしたら超技属性で、フルボッコにあった時の苦痛は凄まじいぞ!」

ワタル「そうそうそう!」

ヒロシ「……皆、三点ドロップしていいかな。特に士」

シャウタ「じゃあ…今度は、……なんとなく嫌な予感がした時雨さん」

リョウ「ああ。ちゃんと描けたぞ」

> i 3 4 0 4 7 — 3 2 1 5 <

スカイライダー「スイカ描くなアアアア!!」

プトテイラ「スイカだ! O O」

タジャドル「スイカと説明したがばかりに……」

スカイライダー「いや、頭がスイカよりましだけどね…? orz」

タジャドル「よし、だったら今度は、ヒロシだ!」

ヒロシ「いいよ!」

> i 3 4 0 4 8 — 3 2 1 5 <

タジャドル「……」

エイジス「今からでも、ケイスケかシゲルのと交換してもらえ。な

…?」

ヒロシ「何で?」

士「しかも、何か必殺技決めた後かよ!」

ヒロシ「デイケイドにね?」

士「そして俺限定かよ!?」

ブラカワニ「怖いものばかり残ってるねえ……」

サゴゾ「だったら、もう、危ない人から見えていこう……」

タトバ「そんなわけで、弦太郎! カモン!!」

弦太朗「よつしゃあ！タイムン張らせてもらうぜー！」

> i34049—3215<

全「「お前の発想相変わらず病気だなああ！」「」

映司「アंकと対決したら、本当に！？」

弦太朗「何故に！？」

ヒロシ「ケイスケ、真空地獄車教えて」

ケイスケ「マーキュリー回路必要だぞ…」

ヒロシ「それか、赤心少林拳諸手頸動脈打やっていいと思う？」

カズヤ「…もつと酷い人がいた時のために、取っておきなさい」

サゴーズ「よし…もう、腹を決めた。1号さん！」

1号「まあ、自信はないが…」

> i34050—3215<

全「「あんたも本気で弦太朗とどっこいどっこいだなああああ

！」「」

1号「orz」

シロウ「ただし、酷いのは如月」

ユウスケ「それについて意見はない…」

弦太朗「嘘ー！？」

シャウタ「…うっわー、本郷さんにカズヤ…凄いのが残ったな」

タジャドル「カズヤはそこそこ上手いのが分かったから、能力未知数のハヤトさん行ったほうがいいぞ…」

ブラカワニ「そうだなあ…よし！本郷青年、絵を見せるのだー！！」

ハヤト「はいはい。…興味ないからどうでもいいんだよなー植物の絵ならやる気出たのに…」

全（（うわぁこいつもきっと期待が…）（）

> i 3 4 0 5 1 — 3 2 1 5 <

全「「「色んな意味で期待を裏切りすぎだアアアアアアアア!  
!?」」」

ヒロシ「うっそおお!? 凄く上手い、っていうか欲しい!」

スカイライダー「かなり同意!」

ケイスケ「何かの間違いだろ!」

カズヤ「あなた興味なくてこれって…ちょっと、スーパー1描いて  
ください! それかXを!」

ケイスケ「ごめん俺X! 無理なら、えーと、カリス!」

シゲル「ストロンガーかカブト!」

シロウ「V3…」

リョウ「ZXか、プトティラ」

エイジ「プトティラを…あ、オーズ兄弟のほうで! 可愛い方のプト  
ティラで!」

映司「アंक! アंकを! 腕でも怪人態でもいいから!」

エイジス「シャウタ! シャウタ!」

シャウタ「ペガサス!」

プトティラ「シャウタかパパンかベンちゃん描いて! O O」

タジャドル「デルタ先生…!」

ガタキリバ「えっと、俺! 無理ならラトラーター!」

ラトラーター「俺、オア、ガタキリバ、オア、トライド!」

サゴーズ「マツケンか水戸黄門を!」

タトバ「お願いします…俺を! 俺を書いてください!」

ブラカワニ「ママンかマイ息子達かプトティラを!」

士「ディケイド!」

ユウキ「はやぶさ君!」

賢吾「フォーゼ、フォーゼを!」

弦太朗「ユウキと賢吾キター!」

ハヤト「描かねーよ!」

タトバ「なんか…もう、…ごめんね………?」  
カズヤ「うん、平気じゃないけど、大丈夫」  
プトテイラ「がんばって!かじゅや!!○○」  
> i34052—3215<  
タジャドル「俺エエエ!予想はしていたけど、俺エエエエ!」  
タトガタラトサゴシャウ「わー予想通りの不憫だ」  
全「揺るぎない不憫だ」

〃  
〃  
〃

タジャドル「いや、何かもう、結果分かりきってるけど…」  
シャウタ「一応…発表してください?」

スカイライダー「……本郷ハヤト君で!」 プレート貰いながら  
全「ですよね」  
カズヤ「いいな…プレート」  
ハヤト「タンポポ観察中」  
プトテイラ「じゃあ、誰がビリなの?」

ヒロシ「士」

士「俺関係ないだろ!？」

ヒロシ「それか、弦太朗」

弦太朗「orz」

ヒロシ「又は……………1号さん」

1号「えっ!？」

ヒロシ「全員纏めて、殴り飛ばすよ？」 超いい笑顔でスカイ変身

士「ちよつと待て、俺無関係…!」

弦太朗「シゲル!シゲルはどうなんだ:暴言(?)書いてたぞ!」

1号「待つてくれ…俺は、俺はまだ、死にたくない!」

スカイライダー(notスカイ、ブッコワスカイ)「……………赤心少林

拳奥義:桜花の型…!」 背後にネオシヨツカー大首領

士弦1「「ぎゃあああああああああああああ!!!」」

タトバ「【キターツ!絵心大戦2012】…次のお題は、皆気になるあのライダーだよ!」

シャウタ「ゲストには、俺の中学時代の担任が登場予定!」

ガタキリバ「それでは最後に…」

タジャラトサゴブトラ「「シーユーネクスタースターツプ!」」

士「…そんな問題じゃねえエエエ!？」

弦太朗「ぎゃー!ぎゃー!」

1号「死にたくない…死にたくないイイイ!」

スカイライダー「ふーふふーのふー…!」 背後にネオシヨツカ

ー大首領と岩石大首領のオーラ

カズヤ「我が兄ながら、怖い」

ケイスケ「いつものヒロシだろ…」

次回の絵心大戦は、Ride008の予定です

Ride004：キターツ！絵心大戦2012その2（後書き）

〈次回予告〉

弦太郎「頼む！誰でもいいから、誰でもいいから俺と交換しようぜ！！そして友達になろうぜ！！」

エイジ「結局それかよ！」

映司「悪いけど俺、小銭とパンツしかないんだ」

エイジス「本物ならいるぞ」

プトティラ「普通に、おともだちさがしじゃ駄目なの？」

オオタチ「たちえ〇〇」

ファルコ「よし、採用。どう考えたつてお前ら、友達少ないからこの機会に友達を積極的に作っていけ。以上」

ガタキリバ「あのバカ、X先生怒らせるなって言ったのに！」

ラトラーター「だから機嫌が悪かったんだ、土のアホ…！」

サゴーズ（バカとアホに言われてるよ…）

Ride005：探せ！君だけのベストフレンド

## Ride005：探せ！君だけのベストフレンド

弦太朗「orz」

エイジス「おい、どうしたんだあいつ」

映司「あー、何でも、仮面ライダー部の皆と一緒にポケモン（黒白）で交換しようと思ったら」

- ・賢吾：「興味ない」で一蹴
- ・ユウキ：持っているのが同じホワイト
- ・美羽：ゲームに興味なし、そんな暇あったら自分磨き
- ・JK：ブラックだが弦太朗にしつこく絡まれる前に逃走
- ・隼：父親がゲームをする暇があったら努力を怠るなと煩かった
- ・友子：ゲームへの興味自体が薄い

エイジ「うわー、そりゃキツイな……」

弦太朗「バルチャイが、バルチャイが欲しいのに……バルチャイ……orz」

エイジス「本物取り寄せようか？」

映ヒナ「「本気でやめて！」」

弦太朗「頼む！誰でもいいから、誰でもいいから俺と交換しようぜ」

！！そして友達になろうぜ！！」

エイジ「結局それかよ！」

映司「悪いけど俺、小銭とパンツしかないんだ」

エイジス「本物ならいるぞ」 オオタチ取り出しながら

オオタチ「たちえー」

ヒナ「私、むしろPSP派だから…」

カズヤ「まあ、誰しもゲームをやっているわけじゃないし…」 ゲーム？それより勉強や鍛錬

ケイスケ「だよな」 ゲームやってる暇あったらサークルor勉強  
ヒロシ「二人ともゲームつ子じゃないもんねー」 そういう自分も  
宇宙の本ばかり読んでいた

ハヤト「興味ない」 そんなのどうでもいい植物出せ植物

シロウ「同じく」 実はポケモンならやっている上にブラックだが、  
弦太朗がウザイので明かさず

シゲル「おいおい…」 ホワイト

リョウ「…ばるちやい？」 ゲーム自体やったことがない

オーズ兄弟「…俺達は家にゲームの類ないしねー」 「…」 ただし  
龍騎の家ではやる

弦太朗「こうなったら…こうなったら、何としても皆と友達になつてやるぜー！」

海東「 だったら、この世界中の友達（お宝）がいる僕がレクチャーしようじゃないか！」

弦太朗「全世界！？すげー！」

ユウスケ「いやいや、虚勢だからね？虚勢」

士「第一、こいつにアスム以外のまともな友達がいると思うのか？」

海東「え、士、君と僕は友達じゃ」

士「『仲間は友達にはしない』(by・リンク)」  
海東「orz」

カズマ「海東なんて役に立たないから、」

海東「『なんて』!? ブレイド君風情が、『なんて』って言った!?!?」

シンジ「うちの子馬鹿にすると絞め殺すぞ?」

海東「…すみませんでしたorz」

カズマ「真の意味で友達が多そうな、この人に何とかしてもらおうと思います!」

ファルコ「ファルコ・ランバルディだ。よろしく頼むぜ!」

全「…なんでお前なんだよ!」

ファルコ「俺が知るか! カズマのアホに、『暴走族率いていた上に貧乏パイロットチームの一員なんでしょ、友達多いでしょ』って強制的に連れてこられたんだよ!! カズマのアホに!!!」

カズマ「『カズマのアホ』2回言った」

映司「で、実際友達の数は何?」

ファルコ「えー…と、そうだな、暴走族時代の奴らを含めていいなら100強…?」

ケイスケ(含めなかったらどうなるんだよ…!)

ピット「って言うか、ファルコさん出すぐらいなら普通はマリオさんじゃ?」

ヒナ「あー、歴史あるもんね」

リンク「……マリオのは、友達じゃなくて『仲間』とか『協力者』じゃない?」

全（（ご尤もです…！））

弦太朗「ところで、ポケモンはブラック？ホワイト!?」

ファルコ「は!?…ホワイト…」

弦太朗「orz」

リンク「バルチャイ欲しいんですけど、GTSやるうにもデータがないから探せないらしくて」

ファルコ「……マリオに頼むか、あいつ、ブラック持つてるから」

ピット「あーあ、マリオさん巻き込まれチャッタ」　ちなみにブラツク

~~~~~

弦太朗「バルチャイキターツ!」

マリオ「その等価交換がおかしいけどな…!」　ガマガル貰った

ラトラーター「まさか、ガマガル6体育てていたなんて思わなかった」

弦太朗「いや、だって、頭の奴がリーゼントみたいでイカすじゃねえか!」

エイジス「宇宙ライダーなら、スターミーとかルナトーン、ソルロツク、ピクシーなんかを使えよ…」

ファルコ「あいつの目的達成したみたいだし、俺、逃げていいか?」

ケイスケ「帰っていいか」じゃないんだな…」

弦太朗「まだだ！」

全「…！？」

弦太朗「皆とダチになるために、ポケモン交換大会をしようじゃないかアアア！」

全「…なんでだよポケモンから離れてくれよ！」

弦太朗がこの後、士を追いかけ始めたのでオオタチが頭突きで鎮めました

プトティラ「普通に、おともだちさがしじゃ駄目なの？」

オオタチ「たちえ。O O」弦太朗の上に乗って得意げ

ファルコ「よし、採用。どう考えたってお前ら、友達少ないからこの機会に友達を積極的に作っていけ。以上」

リンク「えーでも、仲間と友達ってじゃ」

ファルコ「リンクは封印されとけ」

ピット「まあ、実際問題、仮面ライダーって友達少ないですしね」

全「…orz」

士「待て、ちょっと待て、俺はまだ友達が多いほうだぞ……海東よりは」

夏海「何ですか！」

ユウスケ「俺のほうが多いって！」

カズマ「うえーい！」

海東「僕だって多いよ！？」

映司「しょうがないな…だったら、皆の今の段階での友人付き合いを纏めてみることにしました（ただしリイマジ昭和は、星ノ宮三人組までとする）！」

ユウスケ 2（ワタル、エイジス）

ワタル 2（ユウスケ、アスム）

シンジ 4（カズマ、ショウイチ、ソウジ、サンダース）

カズマ 3（シンジ、ショウイチ、ソウジ）

タクミ 2（リンク、エイジス）

ショウイチ 3（シンジ、カズマ、ソウジ）

ソウジ 3（シンジ、カズマ、ショウイチ） +1

アスム 1（ワタル）

リンク 2（エイジス、タクミ）

映司 2（エイジス、エイジ） 後藤達はむしろ、『仲間』なので
割愛

ヒナ 1（ライ街のカザリ）

エイジ 3（映司、エイジス、プトティラ）

エイジス 6（リンク、ユウスケ、タクミ、シャウタ、映司、エイジ）

ジ）

タジャドル 2（ライア、ギャレン）

ガタキリバ 2（龍騎、ガタック）

ラトラーター 3（龍騎、カブト、アギト）

サゴーズ 2（タイタン、ドッグ）

シャウタ 4（リュウガ、オーガ、ファイズ、エイジス）

タトバ 3（ディケイド、アマゾン、電王プラット）

ブラカワニ 5（龍騎S V、ライアS V、アギトS F、カブトH F、
1号）

プトティラ 1 3（エイジ、V 3、スーパー1、ライダーマン、X、
アマゾン、グロウイング、ブレイド、龍騎、Z X、スカイライダー、

オオタチ、ライダータウンの映司)

カズヤ 1(ケイスケ)

ヒロシ 1(ケイスケ)

ケイスケ 2(ヒロシ、カズヤ)

オオタチ 6(プトティラ、エルフィン、デスカーン、キリキザン、

ドレディア、サーナイト) レイラは元主人、エイジスは現主人

サンダース 5(シンジ、ドンカラス、ハッサム、ウインディ、キ

ノガッサ) ユウヤは主人

士「…おい、プトティラ反則だろオオオ!?教師足すな教師!」

プトティラ「おともだちだもん…OmO」

リンク「士、楽屋裏から伝言」

士「何?」

リンク「お前ちょっと、今すぐ楽屋裏に顔出せ by・スーパー

1他一同」

士「大体分かった…これが、死亡フラグと言う奴か…!orz」

ガタキリバ「気をつけるよ、X先生には特に」

ケイスケ(…“特に”って何?)

ヒロシ(…っていうか、教師と生徒の関係は適応されないんだね…)

エイジ「え、ヒナ、お前ライ街のカザリと仲いいの?」

ヒナ「仲いいっていうか…同情的っていうか、うーん、同じツッコ

ミとしての苦勞を分かち合えるというか…」

カズヤ「…っていうか、プトティラを除いたらエイジスとオオタチが

何気に…」

ファルコ「むしろ、エイジスの付き合いが妙な意味で濃すぎる」

ピット「仮面ライダー、何人いるんでしょうね?」

ファルコ「　　プトティラとエイジス、オオタチはクリアで良さそうだな」

プトティラ「わーい！○○」

オオタチ「たちえーい○○」

エイジス「じゃ、後頑張ってくれ」

ヒナ「ああつ、ずるい！」

ファルコ「解放されたければ、最低でも6人に増やせ！……あ、ソウジのノルマは2人な」

ワタル「何故に!？」

ヒナ「でもね、私にだって切札はある……ライダーマン先生、スーパー1先生、スカイライダー先生、V3先生、そして弟切さん」

映司「あ、そういえば弟切さんとは仲良かったっけ？」

ヒナ「うん。もうあれ友達でいいよね」

エイジ「じゃあ、残りは？」

ヒナ「　　本郷二丁目で散々ツッコミ入れたわよ……一人は腕換えるわ、一人は空飛ぶわ、一人は笑顔で腕換えるわ、一人はクレープ食べるわ！」

X「あー、うん、ヒナさんに申し訳ないから友達になってあげてください」

1ライ3「ふあーいず」

スカイライダー「俺、空飛ぶスイカとか言われたのに……orz」

X「なるうか？」　目が怖い

スカイライダー「はい……」

シャウタ「友達、なんて……引つ込み思案の俺にそんなすぐできるはずがない……orz」

ヒロシ「プクリンプクリン、皆友達……たあーっ！><」

カズマ「友達…友達イイイイ！」

シャウタ「…あの二人はやめよう」

ケイスケ「つーか、ゲームしてないのに何でプクリンとかリチャードの真似できるんだよ!?!」

ユウスケ「サツカーやるうぜ!」

シゲル「それは何処の稲妻11!」

シャウタ「…あのー」 おどおど

夏海「ええい、こうなれば、カズマさん友達になってください!」

カズマ「俺にも友達を選ぶ権利はあると思うの」

夏海「ならば…シンジさん!」

シンジ「あーもしもし、Lostの俺?俺だけど…頼娃坂さんと春沢さんと虎島君と城戸さんといいでに山羊野さん、友達と言えるなら誰??最大3人選べ」 電話中

夏海「ならばユウスケ!」

ユウスケ「よく考えたら、俺、パレットOKじゃん!パレットもいいとなると、ユウヤ君とツイハークさん…はギリギリOK、よし6人達成!」

シンジ「あ、頼娃坂さんと城戸さんと虎島君?分かったー…よし、3人達成!カズマ、俺の友達はお前の友達にしておくから抜けるぞ!」

カズマ「うえーい!」

シヨウイチ「その理論なら俺も抜けていいか!?正直、抜ける気がしない!」

ソウジ「ナットレイとチラチーノとフワライドは違うのか?」

ワタル「アスム…ここは、二人で組みましょう」

アスム「そうですね!」

ワタル「あ、ラトラーターさん、ガタキリバさん、サゴーズさん、タトバ、ブラカワニさん…僕達と友達になりませんか?」

アスム「ここは助け合いで行きましょう！」
タトガタラトサゴブラ「いいとも！」
スカイライダー（利用されていることに気付いてないのか…）

ヒロシ「こうなったら…スカイライダー先生、友達になりましょう！」

カズヤ「スーパー1先生、友達になってください！」

ケイスケ「ありかよそんなの！…ありならX先生に交渉してみるか」
シャウタ「…orz」

ケイスケ「あれ、どうした。お前」

シャウタ「いえ…俺、引つ込み思案すぎてなかなか声掛けづらくてよく考えたら、リュウガやオーガ、ファイズも声掛けてもらったパターンだなあと…」

ヒロシ「あ、俺達もそんな感じだったよ？そういうえば、最初は俺達、田舎育ちだからって虐められていたなあ」

カズヤ「そうそう。移動教室で、上級生がうちのクラスを使うことになったんだけど…誰よりも早くケイスケが来て…それがきっかけ」

シャウタ「そうなんですか？」

ケイスケ「まあ、友達っていうのはきつかけがないと作れないものだからな。お前もこの際、俺達と友達になるか？…数合わせとかそういうの抜きに」

シャウタ「…は、い」

プトティラ「プトモープトモー」

ヒロシ「いいよー」

オオタチ「たちえー」

カズヤ「え、この子も…？まあ、いいや」

V3「オマケに俺も」
ケイスケ「…もう好きにしてくれ…」
シャウタ「っていうか、あんた教師じゃ」

ファルコ「終了！」
全「…げっ!?」「」

ファルコ「さて、楽屋裏で教師にボコられ、最悪にもXに『最初変身ポーズなかったくせに』という暴言を吐いて天に召された士以外は、友達が出来たか？」

ガタキリバ「あのバカ、X先生怒らせるなって言ったのに！」

ラトラーター「だから機嫌が悪かったんだ、土のアホ…！」

サゴーズ（バカとアホに言われてるよ…）

シロウ「ところで、何をしたんだ？」

X「え？ライドルホイップで手足の自由を奪って、ライドルスティックで顔面殴打して、ライドルロープによる電気ショックを30秒間続けた後に、ライドルロングポールで海に突き落としてきた」

シゲル「充分えげつねえよ！」

リヨウ「凄いな…」

シロウ「それならまだ軽い方だぞ!?…100段階のいくつだ！」

X「そうだな…45段階目」

シロウ「俺の知っている奴はな…その60段階目に分類される所業をやつてのけたんだぞ…」

シゲル「何の話してるんだよ、さっきから!?!」

プトティラ「シャウタ！おともだちできた？」

シャウタ「うん、出来た」

プトテイラ「よかったね！」

タジャドル「辛うじてヒロシが…声を掛けてくれた……」

プトテイラ「タジャ には聞いてないよ？ O O」

タジャドル「おおいッ！？泣くぞそろそろ！」

弦太郎「 よおし、友達が増えた記念に、皆でスマブラやろうぜ！」

全「…何故そうなる！？」「」

弦太郎「…頼むよ、やるつよ……皆で遊ぼうぜ…orz」

シロウ「お前、よく『ウザイ』と言われないか？」

オオタチ「ちっ」 Wi iヌンチャクでリンク選ぶ

サンダース「ダース」 Wi iヌンチャクでネス選ぶ

トライド『ガオン』 GCコンでピット選ぶ

ソウジ「何気に参加者が…」

弦太郎「……よっしゃー！俺、キャプテン・ファルコンキターツ！」

シヨウイチ「参加者ポケモン×2とペットだぞ。悲しくないのかお前」

ピット「おいトライド、僕使って負けたらどっかのオニゴーリに頭マミらせるからね？」

トライド『グオオン（訳：何気にシャフトネタを取り入れるのやめてくれ）』

詳細は分かりませんが、何らかの形でシャフトが新・光神話パルテナの鏡に関わっているようです

トライド『グオオオオン！』

オオタチ「ちー！ちー！！」

サンダース「ダダース！」

弦太郎「orz」 ストック制バトルで真っ先にカモになってヤラレチャッタ

エイジス「そもそも、あいつらと挑むこと事態が無謀だろ……つか
シャウタは俺のオオスバメ返せ」

オオスバメ「…OO」

シャウタ「もふもふもふもふ」

NOVEL大戦後、伝令鳩代わりに欲しいがためにオオタチ連れて捕まえに行きました

Ride005：探せ！君だけのベストフレンド（後書き）

（次回予告）

龍騎「【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】続きましては…」

スカイライダー「皆が、皆が俺のことをスカイって！スカイなのに…スカイなのに！空、空なのにイイイ！！」

タジャドル「スカイライド！スカイライダー先生、落ち着いて！ガタキリバ」そうだって、スカイb！スカイライダー先生！

ラトラーター「俺やガタキリバも似たようなものだって！」

サゴーズ「そうですね、萃香！スカイライダー先生！」

カズヤ「元々は、ヒナさんがスカイライダー先生のことを空飛ぶスカイって言ったのが悪いんじゃない…」

ヒナ「だ、だって、あのギャグの世界じゃあの言い回ししか」

筑波「スカイですよ！す、か、い！！」

ヒロシ「Sky！Sky！！」

シゲル「だああああああ、煩いなこのスカイ軍団！」

Ride006：スカイ変身！仮面ライダーの主張

Ride006：スカイ変身！仮面ライダーの主張その2

龍騎『【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】続きましては…』

タジャドル「本当に、今度は仮面ライダーで頼む。頼むぞ…！」
ガタキリバ「でも、龍騎だしなあ」

ラトラーター「主催者（＝作者）だしなあ」
サゴーズ「そこ、メタ禁止」

スカイライダー「皆さん、どうも、スカイライダーです」

全「…良かったライダーだ！」「」

龍騎「えー、あんたオールライダースピノフでやったじゃないですかーやだー」

スカイライダー「orz」

リュウガ「止めをこの段階で刺すな馬鹿兄！」

龍騎「じゃ、どうぞ」

スカイライダー「……えー、私スカイライダーは、本来ならば“仮面ライダー”と言うタイトルに沿ってその呼称で呼ばれるはずでしたが…共演上の都合で、スカイライダーとなって行きました」

龍騎「ちなみに、最初に呼んだ犯人ストロンガーですよ」

ストロンガー「俺！？」

シャウタ「うん」

スカイライダー「空を飛ぶからスカイ。うん、別にいいんじゃないかな…だけど、俺が言いたいのはそこじゃない！」
タトバ「何処なんですか!?!」
ブラカワニ「大体予想できたけどね!」

スカイライダー「皆が、皆が俺のことをスイカって!スカイなのに…スカイなのに!空、空なのにイイイ!!」
タジャドル「スカイライド…スカイライダー先生、落ち着いて!」
ガタキリバ「そうだって、スイカb…スカイライダー先生!」
ラトラーター「俺やガタキリバも似たようなものだって!」
サゴゾ「そうですよ、萃香…スカイライダー先生!」
シャウタ「スイk…スカイライダー先生、大丈夫、バカキリバなんてどこかのオンドウル息子の流用だから!」
タトバ「そうですよ、スイ…スカイライダー先生!」
スーパー1「そうだなスイカ」
スカイライダー「ラトラーターのように呼ばないようにするなどは言わない、だけど、
あんたはせめて隠す努力をしてくれよオオオ!?!」

龍騎「いやー、ラトラーターの対処一番正しいですね」

リュウガ「ガチでそうなのが悲しいな…」

V3「泣くなスカイライダー!」

スカイライダー「あんたも隠してエエエ!」

ライダーマン「あまり突っ込むと、この人達面白がっているだけですから、スイカ…スイ、…スカイライド」

スカイライダー「もう正直にスイカと言ってくれ…って名前エエエエエ!?!?!」

X（ああ、昔から弄られ体質なのは変わっていないな…） 同期

スカイライダー「うわああああああああああ…！」
ラトラーター「号泣でしたよ！」

トライド「グオオン（訳：お前ら血も涙もないな）！」

プトティラ「頑張つて、しゅかいらいだーせんしえ！O O」

X「スカイライダー先生！降りましょう、もう降りましょう…！」

スカイライダー「緑だからって、こんなのってないよ…あんまりだよおお…！orz」

スーパー「スカイカー」

スカイライダー「スカイじゃないもおおおおおん…！」

X「ああつ、遂にはプトティラの『プト介じゃないもん』が！流用された…！」

V3「スイカは煩いな、プト介」

プトティラ「プト介じゃないもん。…あんまり、しゅかいらいだーせんしえ虐めないでね…？OmO」

ストロンガー（コイツしか良心がいねえ！）

龍騎「何かもう手遅れですけど、いつもの歌って誤魔化すパターンで行きましょう」

リュウガ「パターン言うな！」

プトティラ「はいはい！新曲がいい…！」

全「…新曲あるの！？」

V3「作詞：俺とタトバ、作曲：ライダーマン」

シャウタ「タトバなにしてんの！？」

タトバ「ごめん…でもV3先生は解説しかしてない！その部分しか仕事してない…っていうか！それは駄目、スカイライダー先生にトドメさすからアアア…！」

プトテイラ「おいしいスイカの歌」、1番いくよ！」 マイク持ち
V3「おー」 マイク持ち
タジャドル「は？ちよッ…はあああああああ！？」
ZX「…ちよおおおお待てええええやあああああああー
！！？」

V3の説明は本来かなりの長文ですが、プトテイラの合いの手が
入るため変なところで文章では切れております

V3『ようしプト介、これから美味しいスイカの見分け方を教える
ぞ』

プトテイラ『プト介じゃないもん』

V3『まず最初に、スイカというのはウリ科のツル性一年草といわ
れている』

プトテイラ『ふう』

V3『ウリ科と言うのは他にも、キュウリやカボチャ、トウガン、
ヘチマ、メロンなどがある』

プトテイラ『ぶっふう』

V3『ツル性とはツル植物とも言われていて、』

プトテイラ『ぶいぶ』

V3『自らの力で体を支えるのではなく』

プトテイラ『ぶきゅん』

V3『他の樹木を支えにすることで』

プトテイラ『ぶとぶと』

V3『高い所に茎を伸ばす植物だ』

プトテイラ『ぶつきゅん』

V3『そして一年生植物とは種子から発芽して一年以内に』

プトテイラ『ねーねー』

V3『何だプト介?』

プトテイラ『プト介じゃないもん スイカの見分け方は?』

V3『あ、そうだった』

プトテイラ『きゅーん』

V3『美味しいスイカの』

プトテイラ『見分け方ぶうぶうぷー』> <』

V3『へそが緑なら』

プトテイラ『美味しいよO O』

V3『叩いてポンポンと』

プトテイラ『鳴ったらうまいよー』> <』

V3『スカイ叩いたけど』

プトテイラ『気にしないO O』

ブラカワニ『気にしてあげてー!?!?』

シャウタ『タトバ...』

タトバ『心からごめん!』

龍騎『ちなみに、スイカの歌の2番からはスカイライダー先生が・
3番からはX先生が・最後部分ではスーパー1先生が乱入しなくてはならない予定です』

X『何その重労働!?!?』

タトバ『...大丈夫、X先生はライドルライダー嫌いだから!』

X『いや、私じゃなくて、スカイライダー先生(の心身)が!』

~~~~~

ヒロシ「本当に、…なんでなんでしよう…」 背後に魔人提督

筑波「そうだよなー」 背後にネオシヨッカー大首領

士「おい、何でライダーブレイク中毒がいるんだ」

アスム「『異世界の俺がスイカスイカと言われていると聞いて』だ  
そうです」

海東「凄い理由だね」

沖「…本当に、あの人は…orz」 机ダン

カズヤ「沖さん、これでも飲んで落ち着いてください…俺なんて…」  
互いのグラスにお酒注ぐ

夏海「どうしてお母さんもいるんですか？」

シヨウイチ「息子いるところに母ありだ」

ソウジ「そうそう」

シンジ「それでいいのかあんたら、そして絞められたいのかあんた  
ら」

カズマ「うえい？」

敬介「…親父イ…」 酔いどれ中

ケイスケ「神さん、その気持ち分かるよ…俺だって…！」 泣き上戸

シロウ「あっちもあっちで、何をしているんだ」

風見「【父親喪失の会】」

城「不吉じゃねーか！」

シゲル「つか、ケイスケ軽くネタバレ！もう手遅れだけどー！」

村雨「皆酔ってるな…」

リョウ「ああ。俺達も、一杯やるっ…」

ジョージ「そうだな、皆で飲もう…ふふふ、ゴッドシヨッカーのバ  
ーロー…」

結城「デストロン…orz」

一文字「所で、いつからオリマジ大宴会になってるんだ、ここ？」  
ハヤト「さあ？」

一号、アマゾン欠席中

ヒロシ「ねーねーなんでスイカなのーなんでスイカなのー？」

筑波「答えないとライダーブレイクしますよー」

士「こら、お前ら、腕引っ張るな！」

シンジ「…なんでお前主人公なのー？」

カズマ「なんでチーズなのに一番あるのー？」

ソウジ「なんでお前もやしと言われているんだー？」

シヨウイチ「なんでお前電柱壊しておいて逮捕されないんだー？」

士「…orz」

ユウスケ「ああつ、精神アタック！精神アタックが！！」

カズヤ「元々は、ヒナさんがスカイライダー先生のことを空飛ぶス  
イカって言ったのが悪いんじゃない？」

ヒナ「だ、だって、あのギャグの世界じゃあの言い回ししか」

筑波「スカイですよ！す、か、い！！」

ヒロシ「Sky! Sky!!」

シゲル「だああああああ、煩いなこのスイカ軍団！」

ハヤト「あれ？今日は珍しくお前が突っ込みなんだな」

シゲル「しょうがないだろ、あれを見る！！」

敬介「　　大事な人達を失うぐらいなら…もう…：…：親しい人を作

りたくない…orz」　バーボン5本目

ケイスケ「　　もう嫌だ…俺のせいで、俺のせいで親父や…たく

さんの人達が…orz」　焼酎3本目

シゲル「…：Wけいすけがツッコミとして機能してないからだよ！」

城「いや、うちの敬介もあまりツッコミとして機能してないし…：つ

ーかお前毎回ツッコミじゃないの！？orz」

シゲル「…：ケイスケが駄目になったときだけ出勤…」

城「なんで（ギャグとシリアスの壁があるとはいえ）そんな精度が

あるんだよ、リイマジ昭和ああ…：orz」

筑波「こうなったら、スカイライダーによるスカイライダーのため  
のスカイライダーの反乱を起こそう！」

ヒロシ「そうですね！このままじゃ、スカイライダー先生が浮かば  
れないです！！」

ユウスケ「無駄に燃えてるな…」

士「所で、それを誰に言うんだ？」

Wひろし「それは…」

〃  
〃  
〃

スーパー1「で、俺が呼ばれたと」

V3「茶菓子まだかー？」

X「……なぜ私も？」

プトティラ「エイジー！> <」 エイジにぎゅー

エイジ「プトティラー！」 プトティラにぎゅー

映司（王環さんに絞められて、よく平気だなあ…）

エイジス「というか、何でお前達も来たんだ？」

シャウタ「プトティラが、王環さんに会いたい会いたいって煩くて

…」

エイジス「いや、むしろ助かる」

ヒナ「お兄ちゃん、禁断症状出してたからね」

筑波「いいですか！よく考えれば、あなた方が一番スイカスイカって  
言っているんですよ！？」

ヒロシ「そうですよ！スカイライダー先生に謝ってくださいー！！」

X「あの、何故私まで？」

シゲル「そりゃあ…あんたは、あっちのフォローしてもらいたいか  
らだろ」

城「ああ…もう、あれ、俺達にはどうしようもないから」

沖「ヘンリー博士…父さん、母さん、玄海師範…弁慶…orz」  
ウイスキー5本目

カズヤ「父さん、母さん、師範代、ヒロシ、ケイスケ、敬一郎博士…もう嫌だ、嫌だよ…俺のせいだ…orz」 ウイスキー5本目  
敬介「…どうせ俺なんて、爆発ネタが主流さ…タイガーロイドに負けたさ…人体欠損・洗脳されて仲間と戦うお決まりパターンやられたさ…！orz」 バーボン6本目

ケイスケ「俺は技術者として、親父のように優れた才能があるわけじゃない…俺には才能が無いんだよ…！orz」 焼酎5本目

X「何これ荷が重い！」  
ラトラーター「浄化フラッシュOK？」

風見「無理だな、特に沖はバダンシンドローム再発だ」  
城「バダンシンドロームと無関係のリイマジまで同じことになってるけどな」

プトティラ「プトが癒すよ！OO」 オオタチの着ぐるみ着ながら  
シャウタ「何それ癒される！！」 もふモードON  
プトティラ「Xせんしえも皆を癒すよ！」 サンダースの着ぐるみ渡しながら

X「……………え？」

X「…orz」 結局サンダースの着ぐるみ着た  
プトティラ「ごめんなしゃい…OmO」 尻尾で慰め中  
シャウタ「もふもふもふもふ」 プトティラもふもふ中  
ガタキリバ「今度から、年齢考えような……うん」

スーパード「いや、だってからかうと面白いし」  
筑波「それが駄目なんですよ！スイカ、スイカって！！」

ヒロシ「スカイライダー先生にだって人権はあるんですよ！先生だって、スーパーマーケットとか言われたくないでしょう！？」

スーパー1「いや、それあまり言われないな…」

サゴーズ「ドSとは言われてるけどね」

この後サゴーズは赤心少林拳諸手頸動脈打を食らいました

サゴーズ「動かない

タジャドル「アホだろ、本当に」

スーパー1「だって緑に黒だし、赤字のマフラーに斑点だし、スイカ要素満載だろ！」

筑波「そうであるとしても、それだけでスイカと言っちゃあいけませんよ！」

ヒロシ「スーパー1先生だって、腕の奴をそうめんとか言われたらどうするんですか！？」

V3「茶菓子うまい」 夏海のプリン食べながら

夏海「ああっ、皆に内緒で買った私のプリンがー！」

全「…：ほう？」「」

筑波「俺だって、小さい頃はよく佃煮って呼ばれて…その拳句イナゴのライダーですよ！本当の佃煮、いや筑波煮ですよ！？」

ヒロシ「俺なんて…俺なんて、虐められていた時こけしって言われましたからね！？表情変えないでいつも笑っているからって理由で！」

士「佃煮にこけし…ブツ」

エイジス「お前、人のこと笑えないぞ…もやし」

タジャドル「俺なんて、現状維持でタジャ x x…」

ガタキリバ「バカキリバ…」

ラトラーター「アホラーター」

サゴーズ「押すーゾ」

シャウタ「もふ魔神」

タトバ「普通orz」

ユウスケ「ライ街限定で、カレー軍曹」

シンジ「終末サゴーズ、妖怪タツミドラグシンジレッダー、破壊神

龍騎、終焉、混沌、お母さん…今更数え切れるか!!」

カズマ「ガードベント・カズマ」

シヨウイチ「絶叫王orz」

ソウジ「教組？」

映司「リュウガサバイブ激情態、映司さん目エ怖！モード」

エイジス「歩く生存フラグorz」

敬介「歩く爆発フラグ」

ケイスケ「歩く絶望フラグ」

X「歩く教育指導スイッチ」

沖「歩く影薄フラグ」

カズヤ「歩く他人への死亡フラグ」

シゲル「絶望しかありやしねえ!!」

城「何だおい、これ、Xとスーパー1関係ヒデエ!!」

一文字「あと沖、お前今本誌では主役編だから！スーパー1に変身できなくても主役だから!!」

沖「…追加、歩く変身不可フラグもといバダンシンドロームフラグ

…orz」

一文字「あれ？」

全「…アホオオオ!!」

QB『僕と契約して、魔法少女になってよ!!』

全「…ナズエオマエガイルンデイス!？」

QB『経営戦略だよ。第二次成長期の少女達の、希望から絶望への転換期を利用したエネルギー回収……だけど、それよりもっとエントロピーを凌駕しているのが、昭和時代の仮面ライダーさ!』

シゲル「清々しく言うなよ!」

城「そして、魔法“少女”じゃねえだろそれ!」

シンジ「そういえば、俺達も以前クソ面倒なQB君と面会したことがあるんだが…」

カズマ「うん、でもあれきつと本物」

ソウジ「ああ、…分かった」

シヨウイチ「分かりすぎて、辛い」

QB『君は、漫画版では場所の都合で延々と後回しにされた挙句…バダンシンドロームの影響で変身不可能な状態に追い込まれているんだよね?』

沖「トドメ

昭和ライダー勢「沖イイイ!?!」

異世界一家「やっぱり」

筑波「やめて、彼をこれ以上虐めないで…!」

村雨（筑波さんから意外な言葉が!?!）

QB『ところで君が雑誌移転後、ようやくまともな出番を見せるのは4巻の辺り…3巻では下手をすればXが主役に近いんじゃないかという』

沖「……ふふふ、そうさ、どうせ俺は…チェックマシンがないと変身すらできないさ…!orz」

プトティラ「らめええええええO O」

X「そろそろ黙るところか…お前は…」 QBの頭をアイアンクロー

QB『きゅぷフォアツ』 頭グシヤア

全「『教育指導スイッチキターッ!!?』」  
タジャドル「シャウタセーフ!」 シャウタの目を塞ぎながら  
ブラカワニ「プトティラセーフ!」 プトティラの目を塞ぎながら  
昭和ライダー勢「『凝固  
リイマジ昭和勢』」 上に同じく  
冲敬カズケイ「『酔いが醒めた  
Wひろし』」 笑顔氷結  
DCD軍団「『ソウジ以外硬直

QB2『まったく、代わりの体はいくらでもあるけど無意味に潰され  
れブギョバツ』 ライドルステック貫通

QB3『キュブブブブ』 口から泡

X「人の気に行っていることを、ズケズケと攻めるのは、……や・  
め・よ・う・か?」 QB3首ボキヤ

士「あいつなら、総てのインキュベーターを殺せる気がした」

冲「俺、希望を持って頑張ることにします、そうしないと、……X  
に殺される!!」 ガクブル

カズヤ「俺も!」

敬介「ああ!」

ケイスケ「うん、そうだな…あの光景(=QB一方向的リンチ)見て  
いると、そう思える」

ソウジ(ところで、スカイライダーのスイカ問題はどくなっ  
たのだろうか…)

Ride006：スカイ変身！仮面ライダーの主張その2（後書き）

〈次回予告〉

カズヤ「本日は、ここ、本郷町立一文字高校の…特別指導室に来て  
おります！」

ヒロシ「ここでは、一文字高校の授業を体験できるそうですが…」

士「いや、『特別指導室』だろ！？何かおかしい、おかしすぎる！」

スーパー1「はい、それでは…」

士「やつと授業か」

スーパー1「今から3分以内に着替えてグラウンドに集合！」

全「ええええええー！？」「」

士「くそつ、当たらない…あのDSLライダーに当たらないッ！」

スーパー1「赤心少林拳奥義、梅花の型（手を使わないバージョン）  
！」

ケイスケ「それただの回避だから！梅花違うから！！」

シゲル「それでも、何だよあの回避力は！？ドッジボールなのに当  
てられないって鬼かこれ！」

カズヤ「本日は、ここ、本郷町立一文字高校の…特別指導室に来て  
おります！」

ヒロシ「ここでは、一文字高校の授業を体験できるそうですが…」  
士「いや、『特別指導室』だろ！？何かおかしい、おかしすぎる！」

タジャドル「何らおかしいことはないぞ？」

ガタキリバ「むしろ、ある意味で正解だろ」  
ラトラーター「折檻的な意味でな」

サゴーズ「ほら見てよ、電気椅子自作するレベルの人なんだから」

シャウタ「あそこには、ギロチンもあるからな」

シヨウイチ「ちょ、待て！何か不安要素が満載過ぎるぞ…なぜに拷  
問器具が！？ここは特別視同質じゃなくて、死刑執行室じゃないの  
か！！？」

ワタル「盗んでいいですかね」

カズマ「盗むの？」

アスム「盗んだら殺されますよ、ワタル！」

プトティラ「ぷっぴーい○○」 お絵描き中

ユウスケ「和むなあ」

シンジ「もう、プトティラ教でも作れば？」

エイジ「何それ作りたい」

エイジス「何それ王環殴りたい」

映司（この状況下で、『タジャドル教作りたくないなあ』とか言ったら、王環さんとエイジスに殺される気がする…後プロティラ）

弦太朗「って言うか、今回って何するんだよ」

タトバ「拷問じゃない？」

ブラカワニ「何それパパン泣きたい」

シャウタ「親父死なないだろ。エイジスの次に」

エイジス「おい！とんがりコーンを差し置いて、何故俺！？」

カズマ「ガードベントじゃないよ」

タクミ「さつき、“授業体験”って言っていませんでしたっけ…？」

ハヤト「あー、暇だな…」

シロウ「まったくだ」

シゲル「まだ始まらないっていうのもあるけどさあ」

ヒロシ「宇宙関係の話がいいな」

カズヤ「…お前、星ノ宮行つて来たら、ヒロシ…」

ケイスケ「所で、海東がいないな」

夏海「あ、そうですね。ダブルの二人はいるのに」

翔太郎「おいそんなぞんざいな扱いかよ！」

スーパード「よし、全員集まっているようだな」 海東引き摺りながら

海東「屍

士「海東オオオ！」

ユウスケ「【分岐されし未来】を思い出すレベルの重傷だぞ！一体誰が…」

夏海「その犯人、ユウスケですよね！？」

ユウスケ「今回は違うよ！」

カズマ「分岐認めちゃうんだ！」

ソウジ「カズマがツッコミになってきている件について」

シヨウイチ「しかし、ボケとしてもシンジ並みの黒さが出てきている件について」

三十路「……悪影響（母の）？」

シンジ「あんたら絞め殺すぞ」

スーパー「いやー、俺のブルージェットを盗もうとしていたからな。このアホ」

シヨウイチ「……それは海東が悪い。届け、出そうか」

スーパー「一時間吊るしておくから大丈夫」

アスム「それもどうかと……」

スーパー「これでよし」

海東「教室の外から見たら上窓にマミられているように見える吊るし方」

ユウスケ「……吊るすつて、首吊りで!？」

スーパー「本当に絞めないように、首にタオルとスポンジ巻いてあるから大丈夫」

カズヤ「大丈夫って問題でもないような気がしますけど!」

ヒロシ「そうですね。せめて、吊るすなら窓際に……坊主にして吊るしましょうよ!」

ケイスケ「てるてる坊主!？」

リョウ「所で、この拷問器具は……私物なのか？」

スーパー「昔からあったぞ」

タジャドル「昔……って、……うちの学校、俺が一年の時までX先生が教育指導員だったけど……」

ガタキリバ「まさか、あの人の…？」  
サゴーズ「どうしよう。スカイライダー先生に、『同期だからって警戒してないとヤバイ』とか言っておくべきかな」  
ラトラーター「ここは龍騎を呼ぼう」

龍騎（電話越し）『特別教室の拷問器具？ あー、それ、1号校長がまだ新任の先生だった時からあったみたいだっけ。あとX先生は使ってないって』  
ラトラーター「どもっすー」

龍騎『でもスーパー1先生は有効活用してるけどな』  
ガタキリバ「犠牲者だから言えることだな」

タジャドル「ちょい待て！X先生に100段階中100段階目で絞められ、スーパー1先生の地獄折檻を受けて生きているのかあの龍騎！？」

エイジス「良かった、俺以上に死なない奴がいた！」  
翔太郎「そこ、喜ぶ所なのか！？」

スーパー1「…龍騎、後で電気椅子の刑だな」  
シゲル「ああつ、死刑宣告：死刑宣告が！」

ヒロシ「…どうせなら、これ使いましょうよ。刃をオリハルコンに変えて」ギロチン叩きながら  
スーパー1「その発想はなかった」  
カズヤ「ヒロシイイ！」  
ケイスケ「流石…流石、スーパー1になるはずだった男！発想がドS教師と一緒かよ！！」

士（そう言われれば、カズヤにはどうしてもスーパー1というよりスカイライダーの臭いしかなかったな…）  
シンジ（……<sup>スーパー1</sup>発想の病気と、<sup>スカイライダー</sup>不遇体質か…）



カズマ「先生！俺、ブルマです！！」  
シヨウイチ「なんでじゃい！」  
翔太郎「先生、俺、…電波塔の道化師です…！orz」  
フリリップ「先生、僕は若菜姉さんの服なんです」  
ユウスケ「先生…【戦国鍋TV】の織田信長の服を俺に渡すなら、カズマに蘭丸の服をあげてください！」  
シンジ「先生…俺、学ランです！」  
ソウジ「俺なんて武士の服だぞ？」  
ヒロシ「俺はシヨツカー戦闘員の黒タイツだったよ？」  
カズヤ「…沖さんの道着だった」  
ケイスケ「…カオスじゃねーかッ！」

(そして外)

ソウジ「シヨウイチだけデフォルトずるい」  
カズマ「ずるい」  
シヨウイチ「仕方ないだろ！俺だけなかったんだ！！」  
シンジ「その服、コスプレ扱いされているんじゃないですか？」  
シヨウイチ「orz」  
士「俺なんて、シマウマの着ぐるみだからな」  
ユウスケ「それにしても、夏海ちゃん遅いな…」  
スーパードル「よし、集まったな」  
タジャドル「夏海がまだです」  
ラトラーター「無理もないと思うぞ」

夏海「……」 ナツミカンの着ぐるみ

全「……ブハツ!?」「」

ラトラーター「な?」

タトバ「何故そんなことに……ぷぷぷ」 帽子

夏海「あのドS先生、いつか絞められればいいのに……!orz」

プトティラ「……ミカン割っていい……?o o」 メダガブリュー構える

ガタキリバ「お腹空いたのか!？」

シャウタ「いや違う、ドS……もといスーパー1先生の悪口言ったことに怒っているんだ!あの人プトティラには優しいから……!」

ブラカワニ「これが一番接点の多いV3先生だと、色々まずいんじゃない?」

ラトラーター「俺はガタキリバの意見に賛成しておく。じゃないと怖い」

スーパー1「今日は、授業体験だし……適当にドッジボールでもするか」

士「待て!俺と夏海が不利だろ……!」

アスム「何言っているんですか!僕の……オニゴーリに比べれば、まだマシじゃないですか……!」

ワタル「僕のキング衣装に比べれば!」

タクミ「……良かった、念のために体操服持ってきておいて……!」

狼の着ぐるみが準備されていた

シロウ「俺は何で厚着のコートなんだ」

シゲル「俺はアメフトの服だよ」

ハヤト「俺なんて、何故かマジグリーンなんだけど。正直汗臭い」

リョウ「俺は……ストレッチマンの服装だった」

ヒロシ「うわぁ、懐かしい……全身黄色タイツ」

カズヤ「そういえば、ケイスケは？」

ケイスケ「死んでいいですか俺エエエ…！orz」 キュアミ

ユーズ(黄色Ver)

カズマ「やった女装増えた」

フィリップ「女装の会ができるね！」

スーパード「さて、チーム分けするか」

エイジ「俺見学でいいですか。海東いないし、ボール破壊するからスーパード「許可する」

#### Aチーム

・土

・夏海

・ワタル

・アスム

・シヨウイチ

・フィリップ

・翔太郎

・映司(1000回記念のパンツ姿)

・弦太郎(頭にユウキの被っていたロケット)

・カズヤ

・シロウ

・シゲル

・タジャドル

・ラトラーター

・タトバ

・サゴーズ

Bチーム

- ・スーパー1
- ・シンジ
- ・ユウスケ
- ・カズマ
- ・タクミ
- ・ソウジ
- ・エイジス（リンクの服）
- ・ヒナ（サウタ）
- ・ケイスケ
- ・ハヤト
- ・ヒロシ
- ・リョウ
- ・プトティラ
- ・シャウタ
- ・ガタキリバ
- ・ブラカワニ

士「 Bに強い奴偏りすぎだろオオオ!?!」

夏海「でも、ケイスケさんは狙い目ですよ…!」

ケイスケ「orz」

スーパー1「ちなみに、外野はオーズ兄弟チームな。お前らは当てたら帰っていいけど、内野から外野に来た奴は当てても帰るなよ」

プトティラ「わかった!OOO」

ラトラーター「え、帰っていいの(家に)?」

スーパー1「…ラトラーターは補習…:と」

ラトラーター「ぎゃーっす!」

シャウタ「アホだ…久々に、アホを見た…!」

士「ジャンプボールは俺がやるぜ！」

ケイスケ「……」

士「おい、ケイスケで大丈夫なのか」

ヒロシ「殺る気満々ですし、いいんじゃないですか？」

Aチーム「……殺る気!?!?!」

オオタチ「ちっ」 ボール持ちながら

シヨウイチ「コイツでボールトス大丈夫なのか!?!」

プトティラ「ぶきゅ」 オオタチ持ち上げながら

シャウタ「あ、和む」

カズヤ「可愛さ二段構えだ」

アスム（プトティラがやれば早いのでは……）

オオタチ「ちっ!」 10mの高さまでボールがポーン

シヨウイチ「プトティライなくても問題なかったアアア!」

士「クソッ、こうなったらシマウマの首のリーチを生かして……」

ケイスケ「……ふ、ははは、ははは……!」 ライドルホイップ取り出し

全「……え」「」

ケイスケ「 もうどうにでもなれよおおお!」 ライドルロング

ボール移動

士「おーいつ、アレ反則!反則じゃないのか!?!」

アポロガイスト（審判）「……オツケイ!」

ユウスケ「なんでお前が審判してるんだよ!ゴッドシヨッカー本部  
か、長崎支部に帰れよ!?!」

アポロガイスト「いや、退屈していたのでな……」

ケイスケ「そあい!」 ボールに踵落とし

ブラカワニ「アウチッ!」 直撃

プトテイラ「パパーン！〇〇」

士「おい、誰か取れ！命をかけて取れ！！」

夏海「無理ですよ、高く跳ね上がりましたもん！」

サウタ「ほいっと」　ウナギ捕縛

全「ヒナのほうがずるかった！！」

サウタ「サイヘッドスマッシュ！」

シゲル「ひやくめたいたんツ！？」

アポロガイスト「ストロンガー、もとい、紫電シゲル…アウト！」

士「電気カブトムシの死は無駄にしないぜ！」

シゲル「動かない

カズヤ「本当に動かないのが怖い！」

士「まずは…連携してDSを潰すぞ！」

タトタジャラトサゴ「勝手にやっってください！！」

士「おおいッ！？」

ガタキリバ「無理もないだろ…」

士「しょうがない、わざと渡して外野に協力者を増やすか！」

カズマ「うえいつ」　顔面ばこーん

シンジ「カズマアアア！」

士「ドジるなああああ！！？」

アポロガイスト「顔面はセーフだ」

夏海「じゃあ、着ぐるみの部分は！？」

アポロ「アウト」

夏海「orz」

ヒロシ「余談ですけど、マントは？」

アポロ「セーフ」

アスム「不公平だああああ！！」

シンジ「つ、か、さ…？」 背後に雷神サンダース  
士「ちよつと待て、シンジ、俺はカズマに当てる気はなかったんだ  
！つーかお前が怖くてできるか！！」  
シヨウイチ「おい破壊者」  
シンジ「問答無用ッ！」  
士「しゅうまつッ！？」  
アポロガイスト「門矢士ことディケイド、アウト！」

士「だが、これで…これでDSを殺れるぜ！翔太郎、弦太朗、シロ  
ウ…手伝え！！」  
弦太朗「よっしゃ！！」  
翔太郎「俺パス」  
シロウ「同じく」  
士「…ええい味方は一人でもいい！覚悟！！」  
スーパー1「はっ」  
弦太朗「そらっ！」  
スーパー1「ほっ」

(5分経過…)

士「くそつ、当たらない…あのDSライダーに当たらないッ！」  
スーパー1「赤心少林拳奥義、梅花の型(手を使わないバージョン)  
！」  
ケイスケ「それただの回避だから！梅花違うから！！」 順応でき  
てきた  
シゲル「それでも、何だよあの回避力は！？ドッジボールなのに当  
てられないって鬼かこれ！」 生き返った  
ヒロシ「えい！」

ケイスケ「あ、真のスーパー1が取った」

ヒロシ「…スカイドリル（生身バージョン）！」

弦太郎「まぐねつとすていつツ!？」

アポロガイスト「如月弦太郎、アウト！」

翔太郎「これ、一方的過ぎないか!?!…とりあえず、せめて一人だけでも…」

ケイスケ「…ライドルボール返し！」

翔太郎「がいあめもりツ!？」

アポロガイスト「半熟卵、アウト！」

士「…だから…ライドルは反則でいいだろオオオ!？」

映司「誰を狙おうかな…って言っても、誰を狙ってもこっちが死ぬし…このメンバー」

カズマ「わくわく」 ボールを取りたそうな目

映司「…アレは無視しよう。ドジって顔面ヒットかアウトになった日には、シンジさんに殺される」

シヨウイチ「つか、殺れる奴いないだろ…!」

映司「だったら…」

映司「唯一の穴！タクミ君覚悟!!」

タクミ「わーっ!？」

謎のアクセルトリアル「…」 蹴りでボール返し

映司「うわっ!」 回避

シヨウイチ「おいなんだ今のアク…ごふうっ!？」

アポロガイスト「芦河シヨウイチもとい、アギト…アウト！」

士（…リンクだ）

エイジス（惑うことなき、リンクだ…）

カズヤ（何あれスタンド?）

## キーンコーンカーンコーン

スーパー「よし、今日の体験授業はこれで終わりだ！」  
士「なんだこれ…拷問すぎるだろ…」

カズヤ「この世界のスーパー怖い…orz」

スーパー「ラトラーターは個人補習な」

ラトラーター「うええ…orz」

ケイスケ「やっと脱げる！やっと帰れる！！」

シロウ「結局俺達、ただ突っ立っているだけだったな」

タジャドル「まあ、普段の授業よりはいいかと…」

ガタキリバ「今日は、まだいいほうですよ」

リョウ「どうしてだ？」

ガタキリバ「授業に遅刻なんてした日には、427周走らされ

…」

タジャドル「話を聞いていない生徒の尻に、バットをねじ込んだり

…」

サゴゾ「時々、赤心少林拳が火を噴きますよ」

シャウタ「本当に…プティラ愛されてるなあってぐらいに、いつもの教え方が鬼ですからね」

ラトラーター「…シャウタも愛されてる方だと思っつて言うか、X先生にいつペン絞められてるからお前には加減しているっていうか……とにかく、お前への扱いもまともな方だぞ」

スーパー「……シャウタ以外、全員屋上から吊るされたいか？サ

ンドバッグという錘つきで「

タジャガタラトサゴ「「ぎゃーっす!」「」

シャウタ「…あーあ」

タトバ(っっていうか、V3先生だけじゃなくてスーパー1先生も沈めたんだ…X先生…!)

Ride007：授業体験！スーパー1編（後書き）

（次回予告）

ユウスケ「えー、本日は、趣向を変えまして…」

ワタル「上位3人以外の人達に、ちよつと地獄を…いや、天国を見てもらいます」

弦太郎「天国！？」

シロウ「どちらにしても最悪だろうが…！」

カズヤ「……あれ、鞭なの…？」

ユウスケ「何それ初耳」

ケイスケ「 Wikipediaぐらい見るオオオオオ！！」

映司「…マスクが、Vだったらまだ…なんとか…」

X「大丈夫、ライドル忘れてないから許容範囲」

シヨウイチ「おい、これ、1号も許してもらえるんじゃないか？」

1号「…普段なら絶対に許されないレベル…？orz」

Ride008：キターツ！絵心大戦2012その3

Ride008：キターツ！絵心大戦2012その3

カズマ「【キターツ！絵心大戦2012】はーじまーるよー！！」  
シンジ「本日、絵を描いていただくのは…こちらの8人！」

ケイスケ「…今回は、今回はせめて2位…！」

カズヤ「が、頑張る」

ヒロシ「そうだねー」

1号「あの、どうして私は…いつも…orz」

シゲル「よしっ、ビリにはならない組み合わせだ！」

シロウ「さあ、どうだろうな」

弦太朗「今日こそはビリから抜けるぜ！」

士「 いや、お前無理だろ。一生」

海東「1号もだけどね？」

1号「orz」

弦太朗「何だと！？じゃあお前らも描いてみるよ！」

士「はっ、俺達は描かなくていいんだよ…次のプトティラ戦まではな！」

シゲル「ずりいいい！」

ユウスケ「えー、本日は、趣向を変えまして…」

ワタル「上位3人以外の人達に、ちよつと地獄を…いや、天国を見

てもらいます」

弦太郎「天国!?!」

シロウ「どちらにしても最悪だろうが…!」

リョウ「…背後にある、あの棺は何なんだ…?」

ハヤト「拷問で有名な、アイアンメイデンだぜ。中にびっしり棘が敷き詰められていて、その中に人入れんの」

ユウスケ「シス・コムセの技術協力で、このアイアンメイデンはカイゾーグの体すら貫通する威力です」

ワタル「ちなみに、今、この中には鳴滝さんがいますよ」

アスム「あー、通りで誰もいないはずなのに中から血が…」

参加者「…嫌アアアアア!?!?」「」「」

映司「まあ、お題は…仮面ライダーXです!」

エイジ「お前ら…今まで散々見てきたんだから、分かるよな…?」

エイジス「今回の判定者は、オーズ兄弟の世界のXだから…変な物描いたらその時点で死ぬぞ」

カズヤ「…心から承知しています…!」

ヒロシ「死ぬ気で頑張ろうね!俺死んでるけど」

ケイスケ「メタやめてくれ!…俺も人のこと言えないけど」

ワタル「僕としては、1位以外全員拷問でいいんですけどねえ」

シゲル「やめてくれえええええ!」

カズマ「それは救いがなさ過ぎない?」

シヨウイチ「とりあえず、4〜7位までがアイアンメイデンでよくないか」

アスム「えっ、それだと、8位は?」

ソウジ「シンジ（真の破壊者）」

シヨウイチ「シンジ（終末）」

カズマ「シンジ（サゴーズ）」

ユウスケ「採用」

ワタル「何それ凄くいいです！」

シンジ「……ヲイ」

タクミ（こんな発言しておいて、よく生きていられるよなあ…上3人……）

アスム「そして、何気に（ ）を繋げると文章になる件について

士「大体分かった。最下位は終末サゴーズによって存在を破壊

…か」

ヒロシ「嫌あああああ！死にたくない、死にたくない！！死んでるけど……！」

ケイスケ「頼む、今殺さないでくれ。今はまだ殺さないでくれ！」

シゲル「ギャグだからって、死なない世界だからって、それだけはあああ！」

シロウ「………」

リョウ「……」

1号「……頑張ろう、せめて下から2番目を目指そう」

弦太郎「張り切るぜ！」

映司「ヒント欲しい人ー」

弦太郎「…はい」

ユウスケ「結局お前かよ！」

シゲル「もう、お前最下位確定じゃねーか……」

シロウ「普通、あれだけのこと（Ride6参照）を目の前で展開

されれば、覚えているはずだが…？」

1号「いや、私と弦太朗君、その時いなかったぞ…orz」  
士「二人いるなら、仕方がない。ヒントをくれてやるう！」

映司「仮面ライダーXとは、ライダーと言う武器を使って戦う深海開発用改造人間カイゾーグです」

1号「ライダー？」

エイジ「ライダーは4つの形態があつて、通常形態のライダーホイップ・棒状のライダースティック・ロープ状のライダーロープ・ライダースティックを更に長くしたライダーロングポール…だ」

ヒロシ「はい」

士「なんだ？」

ヒロシ「…なんで、スティック形態が2つもあるんですか？」

ケイスケ「…なんでだろう…？」

シロウ「確かに…もっと、別のライダーがあつてもいいのに」

シゲル「例えば？」

シロウ「ライダーブレード」

ケイスケ「いや、ホイップが剣だから。…馬上で使う短鞭<sup>ホイップ</sup>だけど、フェンシングの剣も合わさったデザインだから！」

カズヤ「…あれ、鞭なの…？」

ユウスケ「何それ初耳」

ケイスケ「 Wikipediaぐらい見るオオオオオ！！」

1号「はい」

カズマ「どーぞ」

1号「…ロングボールの存在する意味は？」

カズマ「物干し竿代わり？」

ケイスケ「んなわけあるかアアア！最大10mまで延伸可能で、ジ

ヤンプの補助や高所を一気に上ったり、相手との間合いを取る為に使うんだよオオオオオ!!」

シゲル「はい」

シヨウイチ「どうした」

シゲル「…なんで昨今のXはライドルスティックが主流なんだ？」

DCD夏、DCD本編、レッツゴー」

シヨウイチ「…面倒くさいから？」

ソウジ「新しくスーツを作る際、スティックしか作らなかった」

ケイスケ「メタすぎるわあああ!本当かどうか知らないけど!」

弦太郎「はい!」

ユウスケ「はいどうぞ」

弦太郎「 マーキュリー回路設置による強化後は、パンチなどの力技主流になっていたのは何故なんだ?」

ケイスケ「…そこ疑問に思うってことは、お前X見とるやるオオオオオ!!?」

カズヤ「ケイスケ落ち着いてえええ!」

ソウジ「自分の絵に集中しような」

シヨウイチ(あいつが俺の絶叫ポジションを受け継いでくれる…!)  
涙ぐむ

シンジ「そこ、何喜んでる」

リョウ「はい」

シンジ「どうぞ」

リョウ「…逆に、どうしてDCDRWのXはライドルの戦い方が主流なんだ?」

ケイスケ「……8話終わってすぐでその疑問言つなアアア!せめて、せめて14話が15話、もっと言えば17話ぐらいに言ってくれえ

えええええ!!」

カズヤ「あえて応えると、マーキュリー回路による強化がされていないせいですよ!」

ヒロシ「メタ発言を言えば、作者が必殺技を出すのが面倒臭くて簡略化しているだけですよ!」

カズヤ「…どうせなんで、俺も質問」

ワタル「どうぞ?」

カズヤ「…なんでSPIRITSのXは爆発ネタから逃れられない(ソゾンガー、偽スーパー1etc)んですか?」

ケイスケ「…知らねえよ…!」

士「本編で何か、やらかしたんじゃないのか?」

弦太郎「14話でアポロガイストが人間態に戻って、潔く負けを認めて神さんと握手したかと思えば、右腕のアーム爆弾で道連れ自爆を謀ったからじゃないか?」

ケイスケ「…そこまで知っている以上、お前俺よりヘタクソなX描いたらムッコロすぞオオオオ!!」

ヒロシ「Xじゃないけど、個人的な質問」

士「どうした?」

ヒロシ「…なんで原典は二連装銃のアポロショットなのに、DCDRWアポロガイストの装備が、フェンシングで使われるような細身剣なの?」

ケイスケ「…、…アポロガイスト初登場時の参考資料が、手元にあったDCD本だったから」

カズヤ「もっとメタな発言をすると、剣術対決の方が燃えるからと…そっちの方が純粹にカッコいいから。ちなみにアーム爆弾は搭載されていないらしいよ」

リョウ「あと、DCDRWのアポロガイスト=仮面ライダーX本編のアポロガイスト、と言うわけでもないらしい。それを言い始める

と、4話あたりで話題に出た沖一也もオリジナルと〃である可能性は低いとのことだ」

シゲル「とどのつまり、『あまり細かいこと気にすると、この先の展開についていけなくなるぞ』（特に地獄大使）」

〃〃〃

士「さて、…そういえばお前ら、Xに対する特徴の質問なかったけど…いいの…?」

カズヤ「あー、大丈夫。脳裏に焼きついているから」

ヒロシ「あのアイアンクローは忘れられないですよー」

シロウ「むしろ、忘れられたら凄いで。あのQB15000大量駆除」

シゲル「それでも増え続けるQBも凄かったけどな…」

ユウスケ「それじゃあ、ゲストのX先生…どうぞ!」

X「こんばんはー」（投稿時間が21時の為）

全「…こんばんはー」

X「さて…月島カズヤ君、後で…個人的に“お話”しようか?」

カズヤ「…はい…orz」

シゲル（…爆発だ）

ケイスケ（爆発のことだな…）

ヒロシ（紛れもなく爆発だね）

シンジ「あ、そういえば、俺質問し忘れてた」

士「お前がかよ！」

タクミ「何なんですか？」

シンジ「…なんでSPIRITSのXは、右腕が？がれたり…捕ま  
って鎖に吊るされたり、洗脳され手味方と戦ったりと、作者の闇の  
部分ド直球なネタをやるんでしょうか」

X「……………さあ」

ケイスケ「それは…神さんに言っても、分からないかと…」

俺に聞かないでくれ（by・ライ街の敬介）

ユウスケ「じゃあ、最初は、シゲル」

シゲル「今適当に決めたな!？」

ユウスケ「基準決めとして役立ってくれ」

シゲル「つまり…人柱だろそれエエエエ!？」

> i 3 4 6 4 1 — 3 2 1 5 <

X「…」 ちよつとツボった

ケイスケ「あの、大丈夫ですか」

X「ごめん、ちよつと面白かった」

シゲル「落ち込んでいいか!？」

X「いや、だって、腕とマフラーで『X』やってるって新しいなあ  
と…!」

カズマ「この先生意外と、弦太郎の絵を許してくれるんじゃない？」

弦太朗「普通なら許されない前提!？」

タクミ「今度は、誰にしよう…」

士「ここは、ヒロシだ。コイツは何かをやらかしている!」

ヒロシ「ええつ、失礼だな。ちゃんとしてるよ!」

> i 3 4 6 4 2 — 3 2 1 5 <

ユウスケ「ちゃんと…してる、のか…?」

士「何かが惜しい…何かが」

映司「…マスクが、Vだつたらまだ…なんとか…」

X「大丈夫、ライドル忘れてないから許容範囲」

シヨウイチ「おい、これ、1号も許してもらえらんじゃないか?」

1号「…普段なら絶対に許されないレベル…? or z」

シンジ「じゃあ、シロウさん」

シロウ「任せろ、自信作だ」

> i 3 4 6 4 3 — 3 2 1 5 <

全「…あー、大体合ってる…」

シンジ「Vが後1つ足りないけど、大体これでいいよな…」 本

人と確かめながら

X「ライドルホイップ描いてくれる人少ないんだよなあ、ロープや

ロングポールの方がもっと酷いけど」

ヒロシ「どのぐらい酷いんですか?」

X「ステイックの比率がバカ高い」

ソウジ「うーん、Xキックをする時に使われているのが大きいから

なあ…」

アスム「では、リヨウさん！」

リヨウ「ああ。分かった」

> i 3 4 6 4 4 — 3 2 1 5 <

士「…『まだつづく』って何だあああ!?!」

リヨウ「ライドルロングポールだから」

ユウスケ「描き切れなかったとかじゃなくて!?!」

カズマ「あれ、今回ホントまとも…!」

シンジ「だよなあ…?」

タクミ「相当、アイアンクローの衝撃が凄まじいんでしょうね」

シヨウイチ「ならば、ここでケイスケだな」

ケイスケ「…ツツコミに集中しすぎて、全然こつちに集中できなかった…orz」

ヒロシ「ドンマイ」

> i 3 4 6 4 6 — 3 2 1 5 <

カズマ「あ、上手い!何となく上手い!」

シロウ「…」

シゲル「おい、どうした?」

シロウ「なんだろう、ケイスケ、お前の絵は無個性だ」

ケイスケ「表・情・氷・結」

カズヤ「ケイスケエエエ!」

シロウ「いや、だってそうだろう、ポーズが棒立ちすぎて個性が」

ケイスケ「…うわあああああ…!そこ、凄まじく気にしていたのに…4番目に触れられて欲しくないほど、気にしていたのにイイイ…!」

シンジ「ドンマイ…!」

ヒロシ「3番目は?」

ケイスケ「豚肉アレルギー」

カズマ「2番目は？」

ケイスケ「…親父関係（ネタバレなので明かせません）」  
士「じゃあ、1位は」

ヒロシ「あ、それ知ってますよ。確かケイスケってカナ…」  
ケイスケ「もおおーいいだろおおー!?」

士「おい、どうする。カズマが先か…ビリ候補が先か!」  
タクミ「それによつて、X先生の怒りが変わりますよ…!」  
シヨウイチ「弦太朗 カズマ 1号の順で行くぞ、その方が良さそ  
うだ」

ソウジ「では、弦太朗君。…:頑張つて逝こうか」

弦太朗「よつしゃ! タイマン張らせて貰うぜ!」

> i 3 4 6 4 7 — 3 2 1 5 <

ケイスケ「…:メタグロスじゃねええかああああー!」

X「…:」 頭痛を感じた

カズマ「メタグロエックス(X)…:」

シンジ「上手いこと言つたつもりか!」

X「…:」

士「おい、一気に不機嫌になつたぞ…:」

シンジ「流石に、弦太朗はインパクトがでかかつたか…:」

カズマ「カズマの絵で回復できるかな?」

ソウジ「できなかつたら、シヨウイチも罰ゲームだな」

シヨウイチ「やめえええい!」

> i 3 4 6 4 8 — 3 2 1 5 <

全「「上手い!」」

ワタル「あ、ケイスケさんが駄目な理由分かりました…紙の大きさ  
に対して、絵が小さいんですよ！」

シロウ「それは…インパクトが残らなくて当然だな」

ケイスケ「orz」

ヒロシ「やめたげてよお！」

士「このポーズ、どこかで見たことがあるような…」

ソウジ「…ガンバライド01弾のXのカード？」

シンジ「いや、違う、『仮面ライダーディケイド RIDER T

HE DECADE』に収録されている、59ページ目のXだ！」

カズマ「誰もそんな通な場所分らないよシンジ！」

カズヤ「所で、最後、本当に1号さんでよかったですか？」

カズマ「今更」

シンジ「シヨウイチさんの責任だし、大丈夫」

1号「orz」

> i 3 4 6 4 9 — 3 2 1 5 <

ユウスケ「なんか…酷い」

X「…」 指バキボキ

カズマ「あーあ」

1号「もう好きにしてくれ…orz」

〵〵〵

ワタル「それでは、X先生…上位3名をお答えください！」

X「そうだな…まず一人目は、月島カズヤ君…だなあ……………」

カズヤ「やった！」

士「二人目は？」

X「仁ケイスケ君。パーツが大体合ってる」

ケイスケ「4位以下を免れればそれでいい…！もう、それ以上は望

まない…！！orz」 号泣

ユウスケ「それじゃあ、3位は？」

全「…」

X「 紫電シゲル君で」

ヒロシ「ええええええええー！？」

ハヤト「何故だ！ツポに入ったからか！？」

X「それもあるけど、…足のライン描いてくれているのが、彼だけ  
だったから…腕まであつたら、言うことないんだけど」

弦太郎「そんな細かいところが判断基準なのかー！？」

X「でも、ヒロシ君はポーズもしつかりしているし、ライドルを抜  
いていない時の状態がしつかりしてあるからなあ…リョウ君はロン  
グポール描いてくれたし、シロウ君はホイップ…」

シンジ「えっ、そこ、判断基準に入れちゃうんですか？」

X「 もう、いつそのこと、月島ヒロシ君・風祭シロウ君・時雨  
リョウ君も…同率3位で」

ヒロシ「やったー！」

シロウ「分かってくれる人でよかった…」

リヨウ「？そうになると、残りの二人は」

X「…弦太朗君7位、1号さん最下位」

全「…ええええええー!?」

弦太朗「初めての7位キターッ!」

カズマ「いや、結局罰ゲームだからね？」

映司「えっ、何ですか!？」

エイジス「正直…終わってるのは、弦太朗の絵だと思っただが」

X「例えメタグロエックスでも…ポーズはしっかりしていた、から…」  
実はメタグロエックスがツボツた

カズマ「メタグロエックス気に入っちゃったんだ…」

シヨウイチ「むしろそれ、カズマの功績だろ」

ソウジ「では、最下位はどこが悪かったと？」

X「…ロープかホイップか分からないほど、ライドルがへによい」

1号「よりもよって、ライドルの差…!orz」

X「ライドルを馬鹿にする者はライドルに泣くぞ…?」

ワタル「それでは、弦太朗さんはアイアンメイデンに入ってください  
ーい」

弦太朗「ぎゃあああああー!?ちょ、これ、ちょおおお!」

カズマ「大丈夫、弦太朗!」

シヨウイチ「あつちに比べれば…」

ソウジ「まだ軽い!」

サゴーズ（終末）「…待たんかアアアア!」  
絶対サゴーズじゃ

ないレベルの速さ

X「……」 全力ダッシュ

1号「ぎゃあああああー!?!」

アスム「1号さんは、『ライドルがへによい』と言う理由で、圧倒的破壊力を誇る真のラスボス・終末サゴーズだけでなく、『オーズ兄弟の世界』最強とまで言われるX先生にまで絞められようとしているんですよ?」

ワタル「あの拷問と、アイアンメイデン。どっちがいいです?」

弦太郎「…アイアンメイデン」

Ride008：キターッ！絵心大戦2012その3（後書き）

（次回予告）

士「さあ、始まるぜ！仮面ライダークイズ！！」

夏海「全問正解、出来るといいですね！」

V3「…答えられるか！」

2号「そうだそうだ！」

アマゾン「グルル…！」

スカイライダー「リコール、出題者全員リコール！」

スーパー1「ついでに腐敗政治家もリコール！」

X「ZZZ…」

シヨウイチ「興味がなくなつて寝始めたアアア！？」

ストロンガー「しょうがねえだろ…あんな意地悪問題、やる気も失せるって…」

スカイライダー「総辞職しましょうよ、ライダーの意味でも」

タクミ「何それ胸が痛い！」

Ride009：ライダークイズ！全問正解せよ

## Ride009：ライダークイズ！全問正解せよ

士「さあ、始まるぜ！仮面ライダークイズ！！」

夏海「全問正解、出来るといいですね！」

1号「 質問」

翔太郎「お、どうした？」

1号「私はいいんだが、」

2号以下省略「「「なんで俺達変身状態なわけ？」「」

アマゾン「ガウ」

カズマ「いい質問だね、感動的だね、でも無意味だ！」

X「おい！」

シンジ「まあ、簡単に言うと…毎回1号ばかり顔見せできないのは可哀想なので、いつそ皆変身状態でクイズしてやろうかと」

V3「何故そうなる！」

士「まあ、お前達は仮面ライダーになるはずじゃなかったのに、なつてしまった不幸な奴らだ」

ライダーマン「まあ、否定は出来ないが」

ユウスケ「そこで！仮面ライダーのことをもつと知るためにも…」

アスム「仮面ライダーのクイズをすることにしました！」

ワタル「残念なことに、罰ゲームはないらしいので気軽に参加して

くださいね!」

スーパード「『残念なことに』って!?!」

ソウジ「ちなみに、互いに呼び合う時は『1号』とか『ZX』とか、ライダー名でな」

ストロンガー「何でだよ!1号とXに関しては抵抗ないけど!」

2号「もつと言えば、アマゾンもな!」

アマゾン「アマゾンよく分からない。ケイ!」

スカイライダー「駄目だよアマゾン!ライダー名で呼ばないと!」

アマゾン「…むうう」

タクミ「どうでもいいので第1問!」

昭和リイマジ「…どうでもって!」

タクミ「【仮面ライダーSPIRITS】現時点） 2012年1

2月号）で、変身出来ないのは?その理由も詳しくお答えください

!」

1号「何だその問題は!?!」

スカイライダー「え、変身出来ないのって、誰だったっけ」

X「沖一也さん…は确实だよな」

ストロンガー「ああ…確か、そうだった」

アマゾン「?」

ZX「うーむ、理由…理由か!」

スーパード「確か、バダンの光の龍を見て改造された部分と脳の部分  
が断裂状態…だったっけ?」

V3「簡潔に纏める」

ストロンガー「早い話が、バダンシンδροームに掛かって変身出来

ない？」

スカイライダー「え、でも、何でスーパー1だけそうなったんてし  
たっけ？」

2号「知るか！」

1号「確か、ZXとかXもいなかったか…？」

アマゾン「アマゾン分らない…」

ライダーマン「うーむ、すまない、その漫画途中までしか読んで  
いないんだ…」

X「どの辺までっすか」

ライダーマン「ZXが…V3やスーパー1などと対峙している所、  
だったような」

スーパー1「あー、確かもつと先ですよ…今回のクイズ」

ストロンガー「思い出した！確か、光の龍を見て死んだ赤心寺の人  
を走馬灯のように思い出していた…？」

スーパー1「そうだったっけ!？」

スカイライダー「と言うより、スーパー1がバダンシンドロームに  
掛かった根本的な原因をまずは」

X「なあ、」

V3「どうした」

X「…確か、V3も変身出来ないんじゃないかったっけ？」

2号「……だったっけ？俺、15巻までしか読んでねーわ」

スカイライダー「立ち読みだけど、飛び飛びでないんだよねえ。行  
きつけのBOO OF」

V3「何で変身出来ないんだ？」

1号「さあ…私は、コンビニの奴しか…」

X「それ1巻から3巻までじゃないですか！戦力外多すぎだろ！！  
……だー、全巻（立ち読みで）読んでるけど理由までは思い出せな  
い…」

V3「お前、どのぐらいのペースで1巻読んでるんだ？」

X「…1巻に付き10分で読破した、気がする」

ストロンガー「それ駄目だろある意味！買えよもう！！」

スーパードット「えっと、確か、ベルト壊れたんじゃないっけ？」

X「そんな感じ」

1号「どうして壊れたんだ…？」

スーパードット「…さあ、火柱キックが原因だっけ？」

X「え、確か、巨大な骸骨のせいでベルト壊れたんじゃないっけ…」

V3「ところで、ストロンガーは？」

スカイライダー「アレは確か、一時的ですよ。今はもう出来るはずです」

X「スパークがどうのこうのでどーたらこーたら、だったような」

2号「Xお前適當すぎるだろ」

ストロンガー「え、だったら、Xは？」

X「いやいや、変身できてる。変身できてるから！」

スカイライダー「そしてゾゾンガーにまた爆発ネタを」

X「絞めるぞお前はアアア！」

ストロンガー「え、でも、なんか変身できなかった瞬間なかったっけ？」

ZX「そうだったのか!？」

X「何故俺を見るんだ!？」

2号「いや、マーキュリー回路が作動しなくて、その後セタップしただろ。ただしその後でマーキュリー回路は平然と仕事していたという」

ストロンガー「何だよマーキュリー仕事しろよ！」

スカイライダー「所で、何でスーパードットだけバダンシンドロームに掛かったんだっけ？」

スーパードット「なんで今蒸し返すかな!？」

X「あー、簡潔に説明すると、沖さんはそもそも改造人間になった

理由がポジティブなものだけど、ネガ要素を乗り越えていないからこそ……」

2号「なんでXはバダンシンドロームに掛からないんだっけ？」

X「いや、だから、Xっていうか神敬介さんは父が死に婚約者が死にその妹が死にと、そのネガティブ要素を乗り越えて」

1号「自ら志願したライダーはバダンシンドロームに掛かるのか？」

X「そうじゃなくてV3やストロンガーは……」

ユウスケ「…なんで皆、理由答えさせようって思ったんだよ。收拾つかなくなってきたぞ」

士「まさか、SPIRITS談義をし始めるとは……」

シヨウイチ「いや、予測できたよな。予測できたよな!？」

タクミ「答え、用意できてます?」

カズマ「え、『答えは…自分で読んで調べてね』って言う予定だったから……」

シンジ「冷静に考えると、今それを言ったらここにいる全員殺されるよな。特にXに」

翔太郎（つか、Xは1話何分のペースで読んでいたんだよ……!）

士「お前ら、1問目はもういい!2問目だ!……」

昭和リイマジ「…」  
「煩いちょっと黙ってる!」「」

アマゾン「今いいところ!」

士「orz」

2号「…」  
「で、ストロンガーとV3はバダンシンドロームに掛からないことは分かったけど、じゃあ何でスーパー1は掛かったんだ?」

X「いや、ですからスーパー1は……!」

スカイライダー「噛み砕いて言うと、メンタル低かった」

スーパー1「何それ俺のこと言ってる!?!」

この後、30分間は無法地帯となりました

士「…もう、次の問題出していいか…?orz」

昭和リイマジ「…あ、どぞどぞ」

士「…たく…第2問だ! 今度は、【仮面ライダーディケイド&スマブラ もう一つのコア大戦】から出題!!」

スカイライダー「何それ反則!」

夏海「ずばり、私が笑いのツボをやった回数は何回でしょう!」

V3「…答えられるか!」

2号「そうだそうだ!」

アマゾン「グルル…!」

スカイライダー「リコール、出題者全員リコール!」

スーパー1「ついでに腐敗政治家もリコール!」

夏海「ちよつとは考えてくださいよオオオ…!orz」

シヨウイチ「しかも、何気に凄じいこと言ってるし」

ZX「…笑いのツボ自体、知らないんだが」 加入する頃には夏海  
の存在なんてほぼフェードアウト状態

ストロンガー「確か、バイク運転していた奴にかまして事故らせた  
アレだろ」

X「今考えても酷いよな、アレ」

スーパー1「電柱の賠償金額って、いくらでした?払いませんけど」

ワタル「じゃあ、第3問です!」

昭和リイマジ「…え…」

アスム「同じくコア大戦から出題します。…正直、シンジさんが

龍騎になった回数は何回でしょう!」

ストロンガー「今更数え切れるかア!」

ライダーマン「それが大正解だと思う!」

1号「というか、当てさせる気がないだろう!」

平成リイマジ「うん」「」

V3「おい!」

2号「サゴーズになった回数なら数えられなくもないんだけどな。  
427回だっけ?」

スカイライダー「死にな?」

1号「いいや、4649回だ」

スーパード「夜六死苦?」

V3「4219回」

X「死に行く?」

ライダーマン「だったら、8181回」

アマゾン「バイバイ?」

ストロンガー「よし、だったら俺は、5963回だ!」

ZX「ご苦労さん?」

スカイライダー「42回とか」

1号「死人?」

スーパード「あー、俺は、91871回!」

1号「悔いはない?」

X「じゃあ...47718143回」

V3「死なないエイジス...上手い!座布団2枚」

アマゾン「5392!」

ライダーマン「ゴミ屑...えげつないから、普段はそんな事言わないようにな」

ZX「それなら...410回!」

ストロンガー「心中?」

シンジ「

お前ら凄まじく好き勝手な回数言つなアアア!3回

だ3回イイイ!!」

エイジス「そしてXお前エエエエ!!」

3 “ス”リー す

V3「と言うわけで座布団寄越せ」

ユウスケ「本当に進呈するのかよ!」

アスム「えーと、もう、第4問行きましょう」

シンジ「コア大戦・ギャグNOVEL大戦SUMMER・21の  
主役とコアメダル・リマジオーズに至るまでの、総てのオーズの亜種  
を答えなさい!」

ライダーマン「何イイイ!?」

X「ZZZZ…」

シヨウイチ「興味がなくなつて寝始めたアアア!?!」

ストロンガー「しょうがねえだろ…あんな意地悪問題、やる気も失  
せるって…」

スカイライダー「総辞職しましょうよ、ライダーの意味でも」

タクミ「何それ胸が痛い!」 中の人が芸能界引退

ユウスケ「お願い、本当に答えて!頼むから!」

スカイライダー「って言つても、分からないし」

スーパードール「って言うか、1作品忘れてるのはわざと?」

V3「むしろ、ライダータウンどうした」

士「…しょうがねえだろオオオ!作者がカウント取ってる亜種は、  
その4作品ぐらいなんだからああああ!!」

ストロンガー「これって、タトバ足していいのかよ」

スカイライダー「タトバってコンボじゃないの？」

アマゾン「歌、流れるの、コンボ！」

ライダーマン「よく出来ました」

2号「おい起きろ、座布団枕にしてる奴」

X「 凄まじく面倒くせえ」 寝起き

ライダーマン「コラ。素顔見えないからって、面倒臭うぢいがらない内面うち悪くしない」

カズマ（きつと物凄く嫌な顔してるんだね）

シヨウイチ（正直…俺だっしててるぞ、この状況だと…）

X「えーと、順番に…シャジャドル・シャゴリター・シャジャタ・シャキリタ・シャキリター・シャジャーター・ガタウタ・ガタウター・ガタゴリター・ガタゴリタ・ラゴリドル・ラウバ・サゴリドル・シャゴリバ・ガタキリタ・シャトラター・ガタジャーター・ラトラゾ・タトバ・タカゴリバ・タカキリター・タカウター・タカゴリゾ・ガタウバ・シャウター」

ユウスケ「結局タトバを亜種に入れた！」

士「まあ、正か…」

X「スピノフ大戦ではサウタ、DCDRWでは（42話執筆段階で）ラゴリゾ・タカトラゾ・ガタトラドル・ラキリゾ・タカジャゾ・サゴリバ・サトラドル・タカウタ…ライ街では」

ソウジ「ストップ、ストップ！」

シヨウイチ「そこまで答えなくていい！答えなくていいー！！」

X「お前らが答えるって言ったんだろ！」

カズマ「そこまで答えるとは言ってないよ」

X「俺の努力返せ！」

スカイライダー「そうだそうだー」

スーパー1「ついでにディケイドライダー、そろそろシンジさんに渡したら？」

V3「あの妖怪の方が絶対強いぞ」  
士「…俺も薄々感じていることを言うな！orz」  
ワタル「感じてるんですか！」

夏海「第5問です！」

スカイライダー「まだやるんですか」

夏海「やりますよ！そういう企画ですから！！」

2号「正直、企画倒れなんだが」

海東「君達のせいだからね！？」

1号「いや、君達がグダグダなせいだからな！？」

アスム「それ言い出したら、グダグダなのはあなた達って言うか作者の」

V3「どうでもいいから、さっさとやってさっさと帰るぞ」

士「遂には適当にやりだしたぞこいつ！」

シンジ「今度は【どたばた！オーズ兄弟】からの出題！！」

スーパー1「……X先生の制裁の上限は、100段階中の100段階目まで！」

スカイライダー「X先生がオーズ一家に送った米の銘柄は、【かざみこまち】！」

X「シャウタ達の通う高校の名前は、本郷町立一文字高校！」

V3「ディケイド一家の経営する店の名前は、【破壊者精肉店】！」

ストロンガー「ギャグNOVEL大戦において、トマトを当てられたのはスーパー1先生とX先生（ただし後者に関しては頭にトマトが刺さっていた）！」

ライダーマン「同じくギャグNOVEL大戦において、ヒナくんと最初に邂逅した本郷二丁目の住人はスーパー1先生・スカイライダー先生・ライダーマン先生！V3先生は後からやってきたので除外

とするー!!」

アマゾン「トライドベンダーの名前は、トライドと…ベンちゃん！」  
1号「タトバの通う中学の校長は、オルタナティブ・ゼロ!」

2号「応援合戦の後のパフォーマンスで、プトティラの歌った曲名は【プトプトげんきだもん!】」

ZX「…教師・生徒対抗二人三脚で1位を取ったのは、V3先生と  
プトティラ…逆にビリだったのは、シャウタとX先生(理由:不幸  
と不憫の相乗効果)！」

シンジ「 先手を打つな先手をオオオ!」

カズマ「皆なんでオーズ兄弟はノリノリなの?」

シヨウイチ「多分、こいつらにオーズ兄弟の問題出したら総て答え  
られるぞ…」

士「だったら、この問題だ!」

ストロンガー「いや、答えられる問題出せよ!」

士「…一昨日(11/11)打ち切られたオーズ兄弟の投票結果、  
好きなコンビで上位となった3つの組み合わせを」

V3「龍騎&リュウガ!」

ストロンガー「ペガサス&シャウタ!」

1号「タジャドル&シャウタ!」

士「…すぐに答えるなアアア!」

アスム「では、先生達の年齢を高い順から」

X「1号(46歳) > 歌舞鬼(36歳) > ZX(35歳) > V3」

響鬼(33歳) > バイオリダー(30歳) > スーパー1(29歳)

> スカイライダーⅡX(28歳) > サイガⅡイクサⅡ威吹鬼(27

歳) > ライダーマンⅡアメイジング(26歳) > デルタ(23歳)」

ワタル「なんでそんな裏事情を答えられるんですかアアア!」

ZX「軽く衝撃的なのは、ZX先生の歳なんだが」

V3「ああ、あれは…確かに」

ストロンガー「フーか、2号は？」

スカイライダー「タジャドルの大学の教授で、37歳だったはずだよ」

ライダーマン「出ていないから分からないな…」

士「…俺、軽く、X先生の歳に驚いたんだが」

ユウスケ「ライダーマン先生のほうが年下だったのか…V3先生と7歳差だったのかよ…」

ソウジ「…ところで、誰がどの部の顧問とか、そういうのは…」

X「スーパー1先生が陸上、V3先生がバスケット、ライダーマン先生がサッカー、スカイライダー先生が弓道、アメイジング先生が剣道、歌舞鬼先生がダンス、響鬼先生が柔道、バイオライダー先生が水泳、サイガ先生が吹奏楽、イクサ先生が書道」

ワタル「なんでそんな事まで分かるんですか…」

カズマ「って言うか、歌舞鬼先生とイクサ先生絶対逆だと思っの」

シヨウイチ「…Xは？」

X「…それ、29話的な意味で言っているのか…？」

全「…ごめん言わなくていい！」

}}}

V3「よし、文字数もノルマの5500越えだし、帰るか」

昭和リイマジ「おー」

士「…今度からは、まともなクイズ作るか…orz」

映司「今更だよね、それ」

Ride009：ライダークイズ！全問正解せよ（後書き）

（次回予告）

ソウジ「キターッ！絵心大戦2012】…始まるぞー」

シヨウイチ「お前がコールかよ、ある意味新しいな」

ソウジ「何だかんだで…俺、前にやった時1位を取れなかったからな…」

シヨウイチ「ああ、俺もだ、…何故なんだろうな」

ユウスケ「ずっと気になっていましたけど、リョウさん、オーズ兄弟の読者ですよね！しかも狂信的な！！」

リョウ「そうか？」

ユウスケ「じゃなければ、こんな、可愛さ振りまくプトティラなんて…描けるはずがない！！」

ケイスケ「だからそれプトティラちがーッ！」

カズヤ「プトティラじゃない、むしろ、恐竜グリードですらない！」  
ヒロシ「自信あったのに！」

士「いつかのラッパを持った下半身ラクダのミジュマルとか、ラブカスとラプラスとライチュウのキメラとか思い出すなあ…」  
ワタル「士さん、本気で殺しますよ？」

R i d e 0 1 0 : キ タ ー ツ ! 絵 心 大 戦 2 0 1 2 そ の 4

ソウジ「【キターツ！絵心大戦2012】：始まるぞー」

シヨウイチ「お前がコールかよ、ある意味新しいな」

ソウジ「何だかんだで…俺、前にやった時1位を取れなかったからな…」

シヨウイチ「ああ、俺もだ、…何故なんだろうな」

士「それは、こんなウヴァとか」

> i 2 4 4 0 9 — 3 2 1 5 <

士「こんなブラカワニとか」

> i 2 4 5 8 7 — 3 2 1 5 <

士「描いてきていたからだろうがアアア！」

シヨウイチ「そうだったか？」

ソウジ「忘れたなあ」

士「もうお前ら、次回の対決で描け！そして恥を晒してこい！！」

ソウジ「いやいや、人に言うなら自分もやるっ。な？」

シヨウイチ「そうだぞ！」

ヒロシ「なんか、あっちで勝手に盛り上がってるね」

カズヤ「そうだな…」

ケイスケ「って言うか、この絵心大戦：ハヤトさんがチートなのは分かったけど、それ以外だと誰が強いんだ？」

ユリコ「さあ…私、2回目だし」  
シロウ「…」

リョウ「どうなんだろうな」

1号「どうせ今日も下から2番目は確定なんだろう、そうなんだろうorz」

弦太朗「よっしゃ！今日も頑張るぜ！！」

ユウスケ「確実に出れば1位だったのは、映司さんだったよ」  
ハヤト「へー、どんな感じだ？」

カズマ「これが映司のパパン」

> i 2 4 5 7 6 — 3 2 1 5 <

参加者達「『上手ずッ！』」

映司「カズマはピンとキリの差が激しいんだよね。ちなみにこっちはピンのシャウタ」

> i 2 4 4 4 3 — 3 2 1 5 <

ケイスケ「普通に上手いし…これぐらい描けないと駄目なのか…！」

orz

エイジス（…：ケイスケも普通に上手い方だろ…スカイライダーとか、Xとか）

カズマ「今回のお題は、プトティラコンボ！」

カズヤ「なにそれぷーちゃんが評価下すの!？」

映司「いや、俺達トリプルエイジです」

エイジ「ヒオウティンコンボです」

エイジス「パンツと怪力と寿命全うしたい人間だ」

ヒロシ「…なんだあ…」

リョウ「……………」

士「なんでそんなに残念そうなんだよ！」

シロウ「…スカイライダー、Xと来れば…プティラを期待して当然だろう」

ケイスケ「だよなあ」

1号「あの子だったら、どんなにヘタでも許してくれる…かもしれない」

弦太朗「むしろ癒されたい」

ユウスケ「いや、無理でしょ…最後二人」

シャウタ「シャシャシャウター」 机からにゅっ

プティラ「シャシャシャウター○○」 机から（ry

シンジ「何か出てきたー！」

ガタキリバ「ごめん、俺達も遊びに来た」

ラトラーター「遊びに来ちゃいました」

タジャドル「ミイラ取りがミイラになりました」

サゴーズ「とりあえず、栄次郎さんに水戸黄門のDVD返しに来ました」

タトバ「とりあえず、出番が欲しくて来ました」

ブラカワニ「暇だから来ました」

トライド「ガオン（訳：ペットだしついてきました）」

映司「うーん、どうしよう。…今回は、シャウタに評価出してもらうことにする？プティラに一番懐かれてるし」

プティラ「プトもやるープトもー」

エイジ「よし！だったら、今回は【まともなプティラ賞】・

【シャウタと俺が選んだプティラ賞】・【プティラが選んだで賞】の3つの救済措置を作ってやるうー！」

エイジ「プティラ来てテンション高いな、王環」

ヒロシ「テンションスカイハイ？」

ケイスケ（2番目、明らかにオーズ兄弟基準枠賞だよな…ああ、これリヨウさん抜けたな絶対）

ヒロシ「っていうか、今答え見えてますけど…」

全「あ」

ソウジ「ハイパークロックアップ」

ハイクロで時間が撒き戻って記憶リセットされました

ちなみに、ヒオウティンコンボとスタンバイシャシャシャウターしてたオーズ一家にはソウジが説明済み

士「さて、もしかしてとは思いますが弦太郎」

弦太郎「まったく分かりません！（ドヤアツ」

士「やっぱりかよ！お前今日も期待できないな！！」

カズマ「今日の罰ゲームどうする？」

シンジ「俺が終末を与えるのもなんだし、春沢さんのQB顔負けの精神崩壊確実のお言葉を聞くのは？」

ソウジ「それなら、DSと名高いスーパードは…」

シヨウイチ「そこまで言ったら、X呼べX」

春沢のみ採用しました

ユウスケ「一応説明すると、プテラ・トリケラ・ティラノのコンボなんだ」

ヒロシ「え？トリケラって何??」

カズヤ「トロザウルスならいるけど…」

カズマ「へ？」

士「大体分かった。…【ライダーのいない世界】じゃ、トリケラは存在せずにトロザウルスと伝えられている世界なのか」

シヨウイチ「なんかここまで来ると、トロザウルスにしそうな奴らがいるから…トリケラぐらいは資料を見せるか？」

ソウジ「そうだな。ついでに、プテラとティラノも」

シロウ「…質問」

シンジ「どうしたんですか？」

シロウ「何で今回はシゲル抜きなんだ？」

シンジ「そんな疑問捨て去れ」

リョウ「はい」

ユウスケ「どうぞ」

リョウ「可愛いプティラはありますか」

ユウスケ「ありにしますから、さっさと描いてください」

ユリコ「あの一」

カズマ「どしたの？」

ユリコ「タジャドルを踏みつけにするプティラを描きたいんで、タジャドルぐらいは見てもいいですか？」

士「なんでどいつもコイツも、タジャドルの扱いがアレなんだよ！」

シヨウイチ「そして、リイマジ昭和は何で発想がオーズ兄弟に行き着くんだ！」

~~~~~

士「終了!」

ケイスケ「…とりあえず頑張った、俺。これで外れたら……首吊り自殺する」

カズヤ「ケイスケそれやめて!」

ソウジ「今回は、【ヒオウティン賞】【オーズ兄弟賞】【プーちゃん賞】の3つを救済措置として置くぞ」

ヒオウティンコンボ「…おー」「」

オーズ一家「…真面目にやらせてもらいます」「」

プトティラ「皆のプト見せてね!○○」

カズヤ「何これプレッシャー!」

ヒロシ「地味にプトティラがプレッシャー過ぎる」

士「じゃあ…今回は趣向を変えて、1号から逝くか」

1号「えええ…orz」

>i35035—3215<

シャウタ「なんつじゃこりゃあああああ!」

ラトラーター「プトティラ違う!これ、王環さん、むしろ王環さん!」

エイジ「俺もこんなじゃねーよ!」

1号「いや、だって今回まともなヒントが0で…orz」

士「さ、次はユリコだ」

ユリコ「何でそんなに適当なのよ!」

ソウジ「彼氏がない分の働きを、見せてもらおう!」

ユリコ「か、彼氏って…そんな人いないわよーッ!？」

> i 3 5 0 3 6 — 3 2 1 5 <

タジャドル「俺エエエエ!」

プトティラ「タジャドル殺ったね　〇　〇」

カズヤ「怖いよぷーちゃん!」

ヒロシ「そんなぷーちゃんが好きです」

ケイスケ「『ぷーちゃん』言うな!」

士「さて…今度はどうする?」

リヨウ「わくわく」

ユウスケ「　スタンバイしている人がいるんだけど」

シンジ「そうですね…じゃあ、リヨウさんお願いします」

リヨウ「任せてくれ」

> i 3 5 0 3 7 — 3 2 1 5 <

シヨウイチ「オーズ兄弟としては正解だー!？」

ユウスケ「ずっと気になっていましたけど、リヨウさん、オーズ兄

弟の読者ですよね!しかも狂信的な!」

リヨウ「そうか?」

ユウスケ「じゃなければ、こんな、可愛さ振りまくプトティラなん

て…描けるはずがない!」

士「そして、あんなに怖いドSを描けるはずがない!」

ヒロシ「スイカを持ったスカイライダー先生なんて…」

ケイスケ「ライドルロングポールを持ったX先生…あれ?なんだ

らう、何か違和感があるぞX先生」

描いた時期がアイアンクロー制裁発覚前だからです

ソウジ「では、今度は…カズヤ君だ！」

士「ここで安定のカズヤを!？」

カズヤ「うう…ごめんなさい、今日は酷めです…orz」

> i 3 5 0 3 8 — 3 2 1 5 <

士「…」

シヨウイチ「お前さ…カズヤ」

シンジ「もしかして、…カズマと同じ…ピンキリだったりするの?」

カズヤ「…ハイ…orz」

ソウジ「ピンキリなら仕方がない」

シンジ「ここらで、弦太郎地獄に落としておく?」

弦太郎「地獄落とし!？」

士「そうだな。そしてシャウタとプトティラと王環と一部読者を敵に回すがいい」

> i 3 5 0 3 9 — 3 2 1 5 <

全「…」お前Xの時間が一番まともなんじゃねえかああああ!!?」

「」
シャウタ「しかも、これも王環さんだろおお!」

弦太郎「そんなこと言われたって!」

カズヤ(X先生…あなたが下から2番目の評価を下した弦太郎は、あなたの回が一番上手かったです)

ヒロシ(むしろ、それに至るまでが最悪すぎました)

ケイスケ(次回のフォーゼが期待できません)

シヨウイチ「どうする？ ケイスケ・シロウ・ヒロシ…誰に転んでも最悪だぞ（ケイスケ以外）」

士「いや、これ以上酷いのではないと信じたい」

カズマ「じゃあ、ヒロシで！」

ヒロシ「いいですよ！」

> i 3 5 0 4 0 — 3 2 1 5 <

ケイスケ「 だからそれプトテイラちがーうッ！」

カズヤ「プトテイラじゃない、むしろ、恐竜グリードですらない！」

ヒロシ「自信あつたのに！」

士「いつかのラッパを持った下半身ラクダのミジュマルとか、ラブカスとラプラスとライチュウのキメラとか思い出すなあ…！」

ワタル「士さん、本気で殺しますよ？」

タジャドル「というか、お前の自信は何処から来るんだよ！」

士「…もうここは、シロウ行って…ケイスケで挽回する流れにしよう」

シロウ「そのケイスケが酷かったら？」

ケイスケ「orz」

カズヤ「ケイスケ頑張つて！」

ヒロシ「今はまだ生きて、俺のためにも！」

リョウ「仁さん、死ぬな！」

ユリコ「…そんなに自信があるって事は、上手いんですか？」

シロウ「ああ」

> i 3 5 0 4 1 — 3 2 1 5 <

シンジ「 だから…王環さんだよこれエエエ！」

映司「むしろ、何で俺とか真木さんの恐竜グリード来ないの!？」

カズマ「まあ上手いけどさ!ギルとしてなら!…」

エイジ「お願い、1号や弦太郎は許せたが…これは似すぎて個人的に許せない！忌々しすぎて！！orz」 実は自分のグリード姿嫌いなエイジ「まだカッコいい方だぞお前は！」

映司「俺なんて化石です！色が！！（ドヤアツ）」

エイジ「俺はグリードになる予定はないけどな！（ドヤアツ）」

エイジ「でも嫌いなものは嫌い！（ドヤアツ）」

シンジ「どや顔で何を言うとするか貴様らア！」

士「ケイスケ…ここまで来てお前が酷かったら、プトティラ泣くからな？」

サゴーズ「いや、むしろ楽しそうにお絵描きしてますが」

シャウタ「何描いてるんだ？」

プトティラ「えーじ！」

映司「ははは…本当だ、……グリード態の俺だあ…orz」

プトティラ「こっちはエイジ！」

エイジ「はっはっは…そうだな、……グリードの俺だな…orz」

ヒロシ「もうエイジスさんも恐竜グリードになれば？」

エイジス「何故に！」

> i 3 5 0 4 2 — 3 2 1 5 <

全「…そうだよそれだよケイスケエエエ！！！！」

映司「うん、一等賞！君が一等賞！！」

エイジ「何これ、いままでのが酷すぎた（？）分の反動が凄まじい！！」

エイジス「出し方って重要だな！」

ソウジ（むしろ、ケイスケ君はプトティラを描けなかったら一番まずいような…） 実はハイクロついでにDCDRWの展開見てきた

〃
〃
〃

士「さて：結果発表の時間だぜ！」

シンジ「じゃあ、まずはヒオウティンコンボ賞…もとい、【まともなプトティラ賞】は！」

ヒオウティンコンボ「「ケイスケ（君）」」

ケイスケ「っしやああああ！」

カズマ「ですよー…！orz」

ヒロシ「俺のプトティラ、自信あったのに…」

ユリコ「なんでシロウさん以上に無駄な自信に溢れているの？」

ユウスケ「続いて、オーズ兄弟賞は…」

オーズ兄弟「「リヨウ（さん）」」

シヨウイチ「だよな！絶対そう答えると思った…！」

カズマ「むしろ、そう答えなかつたらおかしいよ！」

ラトラーター「いや、俺は花崎の絵もいいと思ったんだけどさあ…！」

タジャドル「俺が踏まれているのは論外！」

プトティラ「タジャ××踏まれているのはいいけど、一緒の空間にいるのやだ！リヨウのはシャウタだからいいの！！><」

タトバ「MEGAMAX的な意味で、タカヘッドブレイブが踏まれているのは個人的に胸が痛かった」

ガタキリバ「…つてのがいるから…」
ブラカワニ「パパンはどっちもいいと思ったんだけどね」
シャウタ「俺は時雨さん一択でした」

ソウジ「では、プトティラ賞は？」

ヒロシ「俺だよね！」

カズヤ「俺、せめて俺を！残り（花崎さんを除いて）全然プトティラじゃないから！！」

1号「もう諦めましたorz」

弦太郎「俺だよな！？」

シロウ「俺だ」

プトティラ「うーとね、プトはね、うー…o m o」

ソウジ「悩んでいるなあ」

士「悩むだろ、ユリコ以外どっこいどっこいだし…弦太郎の酷さは安定だが」

プトティラ「これがいい！o o」

> i 3 5 0 3 9 — 3 2 1 5 <

全「…」　　なんだとオオオオオー！！？」「」

弦太郎「奇跡キタアツツツ！！？」

プトティラ「こっちの方が強そう！o o」

映司「プトティラ…プトティラ、メスだよね。だったら…花崎さんの選はない…？」

エイジ「弦太郎のは…その、…酷い…ぞ？」

エイジス「お前ら必死だな」

プトティラ「プト強くてカッコいいほぅがいい…o m o」

ショウイチ（カッコいい…だと、）

士（あの絵が？…あの絵が！？）

カズマ（プトティラのセンスが分からないよお母さん）

シンジ（誰が母だ）

ソウジ「それなら、何故シロウ君のは除外したんだ？」

プトティラ「それ、プトじゃなくてエイジだもん○○」

シロウ「なん…だと」

カズヤ「ちなみに、俺のは…」

プトティラ「…てきとう○○○」

カズヤ「適当って、言われた…頑張ったのに…適当って…！orz」

ヒロシ「俺は？」

プトティラ「…なんか変○○○」

ヒロシ「orz」

1号「一応聞くが、私h」

プトティラ「嫌い！><」

1号「…orz」

ユリコ（私は言わないほうがいいや…さっき、除外された理由聞いたし…）

士「では、残りは今回の罰ゲームを受けてもらおう」

春沢「【Lost memory of the RYUKI】の

春沢美佳です。宜しくお願いします」

シンジ「ビシバシ決めてあげてね」

春沢「ええ、そのつもりです」

シヨウイチ「逃げるぞ、あいつが来た以上、Xやスーパー1以上の恐怖が待っている」

ソウジ「うん」

春沢「まずは月島カズヤさん。

兄のためにと自分の夢を捨て、

自分の体を捨て、血の繋がった家族が兄じゃないとはいえそれを本当に望んでいる人がいると思うんですか。というより、あなたむしろ性格的にスカイライダーの方が合っていますよね、兄弟側の不憫スイカ的な意味で」

カズヤ「ぐふっ！」

春沢「続いて月島ヒロシさん。　事故で死に冷凍保存され、その遺体を敵に利用され…ヒロイン的な立ち居地ですが、あなたの抱える闇はどのくらいあるんですか。話によれば、43話執筆段階で強烈な死亡フラグ&闇堕ちフラグまで立っているじゃないですか何処まで悲劇のヒロインを担当するんですか、どこかのミカンの代わりに」

ヒロシ「あうっ」

夏海「…orz」　誤爆

春沢「花崎ユリコさん。　あなたに関しては、タックルというだけで死亡フラグが立ち…更には出番も限られているという、まさしく『死に際が華』と言わんばかりの状態じゃないですか。同じ女性として言います、…せめて幸せになつてください」

ユリコ「励ましているのか責めているのか分からないけど、最後まで受け取っておく…！」

春沢「さて風祭シロウさん。あなたに関しても、某ライダーに倒される時が華でしたね。それ以降は基本的に空気と言うか、とりあえず喋っておけばいいや状態でしたよ。スーパー1やスカイライダーはおろかZXですらメイン回があり、ライダーマンですら1話分まともな話をもらえ、アマゾン・2号は2話に掛けて強くプッシュ、1号は43話時点で存在していないので論外、Xは立ち位置的に優遇気味…あなたも死に際が華ですかそうですか」

シロウ「…orz」

1号「…orz」　誤爆

春沢「それから門矢土さん、あなたの場合（以下ネタバレのため情報規制）」

土「再起不能

ユウスケ「土ーッ!？」

シヨウイチ「誰か、救急車を…救急車ー!」

シャウタ「タトバ、医者志望なら頑張れ」

タトバ「うん、ごめんシャウタ。俺の目から見ても無理だ、これ!」

エイジス「ブラカワニをするまでもない…むしろ、葬儀の準備だ」

映司「それ程重症!？」

Ride010：キターツ！絵心大戦2012その4（後書き）

（次回予告）

龍騎「さて、【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】続いての遠吠えは…」
タジャドル「遠吠えってなんだよ!？」

ストロンガー「…DCDRWのチャージアップが実装されていないことが不満なんだ！スカイライダー先生は強化形態なのに…!!」
V3「それを言ったら、X先生なんて30話以降でやっとマークユリー回路の存在が…」
ストロンガー「俺なんて存在が微塵もないんですよ!?!…チャージアップ、チャージアップどうしたアアア!」

ケイスケ「技術者として言わせて貰う」
シゲル「…」
ケイスケ「俺には無理!」
シゲル「そんなああああ…!orz」

Ride011：チャージアップ！仮面ライダーの主張その3

Ride011：チャージアップ！仮面ライダーの主張その3

龍騎『さて、【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】続いての遠吠えは…』

タジャドル「遠吠えってなんだよ!？」

龍騎『だって、そうじゃないですかー結局叫ぶんですしー』
ガタキリバ「そりゃあ、主張だし！叫んでナンボだし!！」

龍騎『さ、早くしましうか』

ストロンガー「何こいつ、やりづらい!」

全「「龍騎だし…」」

ストロンガー「えー、俺は」

龍騎『アレは?』

ストロンガー「アレ?」

龍騎『ストロンガーと言えば、あのクソ長い口上じゃないですかー』

ストロンガー「…言うの?リマジやってないのに俺やるの!？」

1号「当たり前だ!」

2号「そうだそうだ!」

V3「あのクソ長い口上やってこそそのストロンガーだろう!」

ストロンガー「えええ…!？」

ストロンガー「……天が呼ぶ地が呼ぶ人が呼ぶ、悪を倒せと俺を呼

ぶ！俺の名は、仮面ライダー…ストロンガー！！」

龍騎『はい次の人』

全『「おつまああああ！！」』

龍騎『ジヨークです』

ストロンガー『ビビるわ！』

ストロンガー「気を取り直して…リマジの俺の脱走劇、良かったですよ！」

V3「ああ、凄かったぞ…リマジXの戦い！」

スーパー1「圧倒的だったな！」

響鬼「いやいや、なんと云っても、三人目のオーズの戦いでしょ」

ガタキリバ「あのブラカワニマジうちの親父」

ラトラーター「親父がダブって見えたぞ」

龍騎『ですよー』

X「あんたらストロンガーの話聞こうか」

ストロンガー「負けない、味方がX先生だけでも負けない…！orz」

タトバ「が、頑張ってる」

シャウタ「そのぐらいでへこたれてると、兄弟側での出番回ってこないぞ」

ストロンガー「その言い分こそ泣くぞ！？…本日俺が主張したいのは、そう！」

V3「LRがないこと？」 02弾でLR化

ストロンガー「ああ、それも言いたいよ！ガタキリバと徒党を組んで、訴えたいさ…でもそこじゃない、ガンバライド知らない人のためにもそこだけは違うと言いつける…！」

ブラカワニ「ちなみに作者は200円でゾルダLR手に入ったって

言ったけど、プレイした台がそれぞれ違うから…厳密に言うと、100円で引いたという」
ライダーマン「ガンバライドの話は切りましょう、V3先生を絞めなくなってくるから！」

ストロンガー「平成の仮面ライダーといえば、アイテムやら何やらで強化される…だが俺は！その先駆けとも言える…強化体持ちの昭和ライダーだ！！」

ダキバ「それが一体…？」

ストロンガー「…DCDRWのチャージアップが実装されていないことが不満なんだ！スカイライダー先生は強化形態なのに…！！」

V3「それを言ったら、X先生なんて30話以降でやっとマーキュリー回路の存在が…」

ストロンガー「俺なんて存在が微塵もないんですよ！？…チャージアップ、チャージアップどうしたアアア！」

V3「お前な…44話執筆段階で、必殺技を決められたライダーがどのぐらいいると思う？スーパー1先生ですら、梅花二段蹴りが出たのが27話！」

スーパー1「それまでは、赤心少林拳の技か…ファイブハンドによる援護のみ！」

スカイライダー「操られている時のノーカウントにしても、強化形態なのにスカイキック以外の技が出たのは…37話！」

ZX「俺なんて…加入時期で考えたら仕方ないけど、22話でZXキック…」

2号「いや、それ早いほう！加入時期で考えたら早いほうだ、俺なんて未だにライダーキックすら…！！」

V3「ちなみに俺、逆ダブルタイフーンは16話初出」

アマゾン「大切断、40話」

X（私は……………黙っておこう） 40話で真空地獄車

ストロンガー「それでも…それでも、チャージアップ欲しいんだよオオオ！」

V3「俺の扱いを知つての発言かアアアア！」

スーパード「正直X出番寄せと叫びたいんだぞこっちはアアア！」

X「そういうあんたが先に存在していただろうがアアアア！」

スカイライダー「このミスリード要因がアアア！」

龍騎「煩いのでプトティラ歌っちゃってください！」

リュウガ「何だよその適当ぶりは！」

プトティラ「【プトプトげんきだもん！】2番歌うよー」

昭和軍団「「ぎゃーすぎゃーすぎゃーす！」」「」

プトティラ「…om o」

シャウタ「あの、先生達+ストロンガー、プトティラ泣きそうなんだ…」

V3「あ、すまんプト介」

プトティラ「プト介じゃないもんom o」

X「とりあえず、歌い終わるまでは静かにしていきましょう…」

ライダーマン「ですね…」

プトティラ「サゴーズのバナナパイ 食べたラトラーター殴られていたよ」

プトティラ「タジャx xとタトバはね 昼ごはんの唐揚げに何故か泣いてた」

プトティラ『パパンはソファの上でゴロ寝して怒られた』

プトティラ『ガタキリバはスーパーの大安売りに泣きながら行ったよ』

プトティラ『プトはまだむつかしい大人のじじょうは知らないけど』

プトティラ『青い海見ていたらシャウタのご飯食べたくなったよ』

~~~~~

エイジ「プットツティラーノ！」  
ヒナ「またお兄ちゃん発狂した！」

士「え、昭和ってストロンガーぐらいしかいないのか？強化形態持ち」  
クウガ「まあ、途中からスカイライダーの色が変わったとは思っていたけど……」

ヒロシ「でも色だけだしね？」

1号「私なんて、桜島1号と呼ばれるマスクの色があるからな」  
ハヤト「ちなみに、DCDRWにおける2号のマスクの色は旧式）  
MOVIE大戦MEGAMAX版）です」

シゲル「いや、もう、本当に…チャージアップぐらい実装してくれよ…」

シロウ「その前にお前が脱走したんじゃないのか？」

シゲル「かもしれないけどさあ…！」

カズヤ「でも、パワーバランスがストロンガーに偏るのもアレでしょ…」

シゲル「いや…待て、20話までのネタバレにならない範囲で言うが、バランスブレイカーはXだからなX」

リョウ「エイジスのオーズは？」

ケイスケ「さ、さあ…」

エイジス「でも、Xたびたび出てくるぐらいだからな…いつそ、【神】で」

シンジ「それは最強すぎるバランスブレイカーだぞ」

存在自体がバランスブレイカーなのはエイジスブラカワニ（死なないという意味で）

シゲル「でもやっぱり強化形態欲しいいいいい！」

士「何言ってるんだ。楽して最初から強化形態を手に入れたら、つまらないだろうが！」

カズマ「チーズ、」

シヨウイチ「士」

ソウジ「士…」

シンジ「士！」  
ユウスケ「…士」

一家＋ユウスケ「…」お前はそれを言ったらいけないよ…」「  
士「黙っとけ！」

ちなみに、現在の最強フォーム状況

クウガ：ライアル覚醒済み

アギト：シャイニング可能

龍騎：サバイブがシス持ち、ただし返す際に遊び半分で仕込む可能性が濃厚

ファイズ：ファイズブラスターがシス持ち

ブレイド：コア大戦の初期から可能だった

響鬼：装甲声刃がシス持ち

カブト：コア大戦ラストでゼクちゃん（＝ハイパーゼクター）がソウジについていった

電王：知らない、ピットだったらケータロス返却済み

キバ：タツロットとザンバットソードがシス持ち

シロウ「いずれにしても、改造人間だけに…再改造するしかないぞ」

シゲル「だよなあ…！ケイスケえ……！！」

ケイスケ「技術者として言わせて貰う」

シゲル「…」

ケイスケ「俺には無理！」

シゲル「そんなああああ…！orz」

カズヤ「当たり前だよ…」

ケイスケ「そういう専門の人じゃないと、無理だって。メンテナンス

スは出来ないことはないけど、改造人間を作るのは専門外」

シゲル「電子レンジを直す要領で出来ないのか…?」

ケイスケ「お前バラバラにして電子レンジに突っ込むぞ」

ハヤト「その手の専門と言えば、ライダーマンしかいないんじゃない」

シロウ「……………シス・コムセをつれてきた方がいいんじゃないか?」 心底嫌そうな顔

ハヤト「いや、シゲルだけじゃなくて俺達の貞操の危機だからな? それ呼ぶつてことは」

リョウ「それ以前に、何故そんなに嫌そうな顔を…」

ヒロシ「はいはい! ライ街の弟切さんか、オーズ兄弟のスーパー1 先生を連れてきて…」

ケイスケ「魔改造かよ!」

シンジ「正直、それは認められない!」

シヨウイチ「例え法が認めても、俺は認めないぞ!？」

カズマ「失敗はしないでるうけど、余計な機能追加されるよ?」

ソウジ「…それは…シヨツカー戦闘員を実験台にした後で考えよう。本当に、彼らでいいのかどうか」

ユウスケ「シスは…性格アレだけど、暴走の危険があったりするものは絶対にしないから…」

士「それで考えると、シスに『改造人間を作れ』…と言ったら、ゴッドシヨツカーは一人残らず殺されるんじゃないのか?」

シンジ「…あいつ、一応、安全の保障が利く人体実験ならするけど…危険と分かっているものはしないから、なあ」

カズマ「笑顔でぶちきれて世界の終焉だね」

ユウスケ「正直、終末サゴーズとタツグを組めば潰せると思うんだ」

… たったの1話で

ソウジ「では、ライ街の弟切やオーズ兄弟のスーパー1先生は？」

全「… あー…」

ワタル「どうでしょうか、… ライ街の弟切さんは… なくなったら壁やオーロラをぶち抜いてでも探しに来るアホ（キラメキ）がいますから」

士「スーパー1は… いない方があの世界平和なんじゃないか？」

シヨウイチ「… Xは教育指導スイッチが入らない限りは、温和だからな」

ケイスケ「それ、温和とは言えないような」

アスム「むしろ… スーパー1先生は、ライダー戦力としての頭数になるんじゃない？」

全「… ああー…」

士「待てよ、じゃあ、鳴滝は」

カズマ「別にナルタコスなんていてもいなくてもどっちでもいいんじゃない」

シンジ「いるだけ酸素の無駄遣いだしな」

シヨウイチ「敵でも味方でもウザイのは、お前が一番分かっているだろうが」

士「… だな！」

ソウジ「ここまで来ると、哀れだな」

ユウスケ「待てよ、… スーパー1もといS-1を作った… 仁敬一郎さんならきつと！」

シゲル「おおっ！？」

ケイスケ「そうさ、親父がいれば…ストロンガーにチャージアップも実装できたろうし、皆のメンテナンスも充分に行き渡っていた…俺なんて俺なんて俺なんて俺なんて俺なんてorz」  
自己嫌悪モード

ハヤシロ「あーあー」

ヒロカズ「触れたらいけない傷を…」

シゲル「俺じゃない、ユウスケ！ユウスケ！！」

ユウスケ「正直ごめんなさい！」

士「やはり、候補としては」

- 1・シスを呼ぶ
- 2・ドSを呼ぶ
- 3・弟切を呼ぶ
- 4・敬一郎博士をどうにかする
- 5・ケイスケにやらせる
- 6・むしろオリジン1号2号呼べ
- 7・リイマジでもオリジンでもいいからライダーマン呼べ
- 8・ゴッドシヨッカーに再び捕まる
- 9・サンダーズによる裁きの鉄槌で強化

シヨウイチ「最後ユウスケエエエー！！！」

ソウジ「個人的には、7が濃厚だな」

シロウ「俺は全力で8を推奨する」

シゲル「また捕まわってかよ！嫌だよそんなの！！」

ケイスケ「そうさ俺の技術力なんて親父には到達できないんだ親父に追いつくなんて無理な話さ…orz」

ヒロシ「どつどつ」

カズヤ「励まし方として違う!…どんまい」  
ハヤト「その励まし方も、追い詰めるだけじゃね?」

士「むしろ」

全「…?」「」

士「ソウジお前サンダーズ呼んで来いよ、そしたらきつと【神】にすら勝てる…墮天使すら圧倒したアレならきつと勝てる」  
ソウジ「悪いが…『サンダーズはチートすぎるので無理』と、作者がな」

士「畜生あのドMめが!」

Ride011：チャージアップ！仮面ライダーの主張その3（後書き）

〈次回予告〉

士「ネタバレ上等！ライダー適合！！」

ユウスケ「今回は、リイマジ昭和メンバーを徴集して行きます！」

海東「尚、例によって1号は1号に変身状態だよ」

1号「泣いていいでしょうか」

カズヤ「俺、今からでも一時的に死んでファイズの適合条件を満たすべきでしょうか…！」

タクミ「お願いだからやめて。リンクも止めるような自己犠牲はやめて」

アスム「と言いますか、今更どうやって死ぬと言っんですかスーパー1」

ワタル「オーズ一家の世界のスーパー1先生なんかは、何に分類されるんでしょうか…！」

ユウスケ「あつ、え、………そういえば…」

シンジ「異端…なのか、な」

シヨウイチ「人外…なのか？」

R i d e 0 1 2 ・ ネ タ バ レ 上 等 ・ ラ イ ダ ー 適 合

## Ride 012：ネタバレ上等！ライダー適合

士「ネタバレ上等！ライダー適合！！」

ユウスケ「今回は、リマジ昭和メンバーを徴集して行きます！」

海東「尚、例によって1号は1号に変身状態だよ」

1号「泣いていいでしょうか」

シンジ「えー、ここで、残念なお知らせがあります  
全「……？」」

シンジ「：海神町にお住まいの、時雨リョウさん。

あなたは

超適合なので参加できません」

DCDメンバー「……ええええええ！！？」

リマジ昭和「……超……え？」

ユウスケ「簡単に解説すると、……今からやろうとしているベルト  
適合はエイジスの世界の基準なんだけど、ごく稀に総てのライダー  
になれる体質の人がいるんだ」

士「つまり、チートだ」

シロウ「流石ZX……」

リョウ「……とりあえず、残念だからたまには混ぜてくれないか……  
？」

シヨウイチ「あ、それは安心してくれ。どうせアギトは誰も適合で  
きないから」

カズマ「それじゃあ、早速いってみよー！」

~~~~~

クウガ「誰かの為に戦う心、誰かを守る為に自分が傷付くことを選ぶ優しさ、異端ではないこと

適合者：カズヤ

ケイスケ「凄い納得する」

ヒロシ「自己犠牲の権化だもんね」

カズヤ「ちょ、その言い分…！」 兄のために夢を捨て人を捨てた士」と言うか、改造人間って異端に入らないのか」

夏海「じゃあ、人外扱いなんでしょうかね」

シロウ「改造“人間”と銘打っている以上、一応人間の部分は残っているんじゃないのか」

シゲル「いやーでも、士達と違って機械の体でもあるし…」

ジョージ「アマゾンはどうしたらいいんだ？」

アマゾン「ガウ？」

ハヤト「これで電王やって、カズヤが変身できなかつたら“人外”扱いでよくね？」

全「」「駄目だよそれある意味認めたくないから！」「」

アギト：魔力を持つ者、神に近い存在、神に認められた存在、聖なるもの

適合者：なし（ただしリヨウを除く）

士「：…な？アギト、普通の人間には無理だろ」

1号「無理を飛び越えていないか」

シロウ「無理以外の何者でもないぞ」

龍騎：制限なし

適合者：1号からZXまで全員

シンジ「さつさと次行こうか」

カズマ「自分のライダーだよシンジ！」

シンジ「だって話題性ないもん」

ハヤト「俺、変身するならベルデがいいな」 サラッと空気読んだ

シロウ「：俺はナイト」

シゲル「俺は：そうだな、ゾルダだな〜！」

ジヨージ「私はライアがいいな」

リヨウ「俺は：うーん、シザース」

カズヤ「俺はオーディンかな」

士「おいチート選ぶなスーパー！」

ヒロシ「タイガ」

ユウスケ「ヤンデレ選ばないでスカイライダー」

ケイスケ「俺は…王Z」

全「お前ファムだろ」

ケイスケ「マジでムッコロすぞお前らアアア！」

ファイズ：死人或いはそれに近い存在

適合者：ヒロシ、ケイスケ

ヒロシ「orz」

ケイスケ「orz」

カズヤ「俺、今からでも一時的に死んでファイズの適合条件を満たすべきでしょうか…！」

タクミ「お願いだからやめて。リンクも止めるような自己犠牲はやめて」

アスム「と言いますか、今更どうやって死ぬと言つんですかスーパー」

ヒロシ「どうせ…どうせつ、俺は死人の体だから…！皆とは違う、3年間の空白のある人間だから…！！」

ハヤト「安心しろ、俺もコールドスリープしてた」

シロウ「改造されたら空白も何もないぞ」

リョウ「頑張ろう、ヒロシ君！」

1号「そうだぞ…私なんて、私なんて…ツorz」

ケイスケ「どうせ俺なんて、6話でいきなり死んだ男だよ…幹部に向かつて行って、即刻死んだ大馬鹿者だよ…！」

シゲル「ケイスケは自分に自信を持って、本当に！」

アマゾン「ケイスケ、泣いたら駄目！」
ジョージ「そんなことを行ったら、オリジナルの筑波洋や神敬介は
どうなる！」

カズヤ「俺のせいだ…俺のせいで、他人に死亡フラグを振り
まく存在である俺のせいで…！！orz」
シヨウイチ「誰か、そろそろプトティラ派遣させる！星ノ宮死のト
ライアングル三兄弟が鬱モードに入った！！」

ブレイド「ダブルのジョーカーサイド適合、スマブラの世界の人間
でないこと

適合者：ケイスケ

カズマ「やったね女装仲間！」
ケイスケ「嬉しくねえよ（女装関係で）！」
士「おい、これもしかして、ダブル…」
ソウジ「かなりやばいんじゃないのか？」
ワタル「本当に嫌な予感がしてきましたね…順番を変更して、次は
ダブルからやりましょう！」

ダブル「信頼し合っている人間同士、生まれの早い人間がジョーカ
ー適合

適合者：カズヤ（右）・ケイスケ（左／リヨウとやる場合は右）

DCDメンバー「っっイメージ昭和軍お前ら仲いいのか悪いのかどつちなんだよオオオオ！」

シゲル「いや、仲いいよ!?それなりに！」

リョウ「オーズ兄弟の話をする時は仲がいいぞ！」

シロウ「ジョージ以外とはそれなりに仲がいいぞ」

ハヤト「植物と妹にしか愛がねーや」

ジョージ「嘘をつくな、ケイスケ君と平然と仲良くしていなかったか君は」

アマゾン「？」

ソウジ「というより…」

1号 予定ではケイスケとハヤトが説得

ハヤト エイジスが止めるが、ケイスケかシロウと話すことが多い
シロウ シゲルとケイスケ安定、ジョージ加入後は彼に突っかかる
ジョージ ケイスケは恩師の息子の為知り合い、カズヤとヒロシとも顔見知りだが会話は少ない、シロウに突っかかれる

ケイスケ 改造人間に対しては加入フラグの一級建築士

アマゾン ハヤトとケイスケが説得、ちなみにケイスケと何かしらの関係あり

シゲル とりあえずケイスケやヒロシと仲良し、シロウには突っかかる、ユリコとは…

ヒロシ カズヤとケイスケ超安定

カズヤ ヒロシとケイスケ超安定

リョウ 止めたのはエイジスとヒロシ、話すことが多いのはケイスケ

ソウジ「 と言う具合に、フラグを何本も突き刺す人間がいるから…」

DCDメンバー「っっケイスケエエエ!!!」

ケイスケ「なあ…正直思うんだよ、……俺以外ともフラグ立てるよ

本気で、特にヒロシとカズヤ！」

ヒロシ「ねー俺がケイスケと合体するー」 3年のブランクのせいでハブられた

カズヤ「そんなこと言われても！」

ヒロシ「じゃあ、ケイスケ真ん中に挟んで変身しよう」

カズヤ「あ、それなら何とか」

ケイスケ「ならねーよ！なんだよそれ、サイクロンメタルエクストリームでも作り出す気か！！」

ヒロシ「いや、俺のほうが年上だから…メタルサイクロンエクストリーム？」

ハヤト「凄まじいカオスだなそれ！」

響鬼：戦いの経験が長い者

適合者：なし（ただしリョウは無条件にOK）

アスム「 なんて戦闘経験ないんですかアアアアア！？」

ハヤト「あるわけないだろ！」

1号「私達は一般人だ！」

シロウ「むしろお前らが異常なんだ！」

アスム「何言っているんですか、あのシンジさんですら響鬼にならないというのに！」

全「…マジ？」「」

シンジ「ヨイ」

カブト…カブトゼクターが認めた相手

適合者：ハヤト、シロウ、ジョージ、ケイスケ

士「ケイスケお前安定しすぎだろ」

ユウスケ「もう、超適応名乗っていいんじゃない？」

ケイスケ「なんでだよ！」 頭の上でカブゼク仮眠中

シゲル「俺カブトムシなのに…！orz」

士「ユリコと二人でダブルになればよ、そしたらブレイドになれるぞ」
シゲル「は…？」

電王…憑依した相手との合意、憑依した人間が何らかの異端、人外
は変身できない

適合者：ケイスケ、ヒロシ

ヒロシ「俺は…俺は、死人だから…！死人だから…！！」

ケイスケ「そうだよな、俺達は異端も異端だよな…！」

ワタル「これで、地味に『改造人間』人外扱い』が確定しましたよ。
スマブラの世界上で」

1号「orz」

キバ…人ならざる存在（人外）

適合者：1号、ハヤト、シロウ、ジョージ、アマゾン、シゲル、カ

ズヤ

士「キバ多すぎだろ！」

カズマ「あそこで凹んでいる二人以外だなんて……」

ケイヒロ「……orz」

ワタル「今、思いました」

士「どうしたワタル」

ワタル「オーズ一家の世界のスーパー1先生なんかは、何に分

類されるんでしょうか……！」

ユウスケ「あつ、え、……そういえば……」

シンジ「異端……なのか、な」

シヨウイチ「人外……なのか？」

カズマ「分類……ドS」

ユウスケ「それは酷い！」

デイケイド……スマブラの世界の人間でないこと

適合者……全員

全「……ですよー」「」「」

}}}

士「さて、続いては…非常に面倒臭い、オーズ適合！」

映司「スマブラの世界では、オーズの使うコアメダルは人によって適合条件がまったく違うんだ！」

エイジ「更に、コンボ単色しか適合しない奴もいたり…」

エイジス「むしろコンボすら出来ない亜種オンリーもいたりする」

ヒナ「さあ！皆の適合を…答えなさい！！」

夏海「まずは1号さんですね！」

1号「変身している状態で変身するのか!？」

全「うん」「」

ユウスケ「ちなみに、ライ街在住の【昭和荘】の皆さん（弦太朗除く）と、オーズ兄弟の世界の先生達＋ストロンガーの適合は…」

本郷猛 ガタキリバ適合（バツタの威力、ジャンプ力上昇）

一文字隼人 シャウタ、ラトラーター＋バツタ

風見志郎 シャウタ＋カマキリ、クジャク、チーター、ゾウ

結城丈二 タトバ適合（タ力強化）

神敬介 ブラカワニ適合（爆発耐性最強）＋プトティラ適合（メダ

ガブリューの威力上昇）

アマゾン ラトラーター適合（トラクローの火力大幅up）

城茂 シャウタ＋クワガタ

筑波洋 超適合（＋セイリングジャンプによる飛行可能）

沖一也 サゴーズ適合（ゴリバゴーンに炎・氷属性追加、雷単体との切り替えも可能）

村雨良 タジャドル、ラトラーター+カマキリ・ウナギ・タコ

1号校長 ブラカワニ適合(ワニ強化)

2号 タカ・クジャク・チーター・クワガタ・バッタ・ゾウ・ウナギ・タコ

V3 タカ・ライオン・クワガタ・サイ・ゴリラ・ウナギ・タコ+
プトティラ適合(メダガブリューの威力上昇)

ライダーマン タカ・コンドル・ライオン・トラ・カマキリ・バッタ
X プトティラ適合(教育指導スイッチON時の全能力大幅強化+
OFF時でもアイアンクロウの威力は王環エイジ並み)

アマゾン ガタキリバ、サゴーズ+チーター

ストロンガー タジャドル、シャウタ+バッタ・ゴリラ・トラ

スカイライダー タジャドル適合(コンドル強化)

スーパードール シャウタ適合(DS)

ZX タジャドル、ガタキリバ、ラトラーター

士「 何処の世界のXも(プトティラ適合的な意味で)駄目すぎるウウウ!!!」

ユウスケ「というか…地味に教師のほうが見ないレベルの最強
プトティラアア!」

シンジ「筑波さん酷すぎるううううう!」

ソウジ「そして、スーパードール先生が何の説明にもなっていない件について!」

シヨウイチ「いや、エイジスを酷くした感じと云えばいいんじゃないかな
いか?」

エイジス「失敬な」

カズマ「それじゃあ、リマジチームはどうなるかな!」

ワタル「レッツ・変身タイム!」

変身は割愛しました

1号「ラトラーター適合で…トラの威力上昇、衝撃波範囲拡大…」
タクミ「なんですかその不遇のトラ救済コンボ」

ワタル「あなたの存在がトラクロー並みだからですよ」

ハヤト「俺ガタキリバー。バツタの飛距離上昇だけ」

映司「ガタキリバのジャンプスペックは200mだけど、どのぐらい飛びました？」

ハヤト「大気圏越えかけた」

全「お前それスパー1（測定不能）だよ！」「」

シロウ「タジャドルとシャウタ関係のメダルだったらなんとか…」
シゲル「あ、俺も、ガタキリバとラトラーター、後シャウタのメダルなら」

士「大体分かった。…お前ら、ツンデレか」

シロシゲ「ツンデレじゃない！」「」

ジョージ「私は…タジャドルとサゴーズ関係のメダル、あとはトラとウナギだな」

アマゾン「アマゾン、シャウタだった！」

シヨウイチ「コイツがシャウタ…だと」

アスム「意外ですね。てつきり、深海科の教授を父に持つケイスケさんかと」

ケイスケ「……親が深海科の教授だからって、海のライダーになれると思うなよ……！」　ガクブル

Rアマゾンシャウタはシャチ強化（水流、ソナーなど）

ヒロシ「俺は、タトバ・タジャドル・ラトラーター・ブラカワニ」

カズヤ「俺は……サゴーズ、シャウタ、ガタキリバ、プトティラ」

ヒロシ「更に、コンボしか出来ない」

カズヤ「俺もコンボしか出来ない……他の皆は、亜種も可能だっていうのに……何故……！」

カズマ「嫌な所だけ似てるね、双子って」

シンジ「しかも、オーズ兄弟的な目で見ればタジャドル　シャウタ・タトバ　サゴーズ・プトティラ　ブラカワニ・ガタキリバ　ラトラーターって何それおかしい」

士「その考えで行くと、双子の兄であるはずのヒロシがガタキリバじゃないのが……なんかこう、3年の空白の差を強調されているように……な」

ヒロシ「orz」

カズヤ「ヒロシイイ！」

ユウスケ「お前は何余計なこと言ってるんだよ！」

リョウ「俺は（タマシー含め）全適合とはいえ、仁さんは……」

ケイスケ「　　タカクジャクコンドルライオントラクタークワ
ガタカマキリバツタサイゴリラゾウシャチウナギタコプテラトリケ
ラティラノコブラカメワニ」

全「……何その呪詛の言葉……？」

ケイスケ「一言で纏めると、……カズヤとヒロシの合体&亜種OK
版……orz」

士「…タマシーが出来ないのが、残念だな…」
アスム「まるでオーズ兄弟でのタマシーの扱い並みのハブられぶり
ですね」

カズヤ「ところで気になったんだけど、…プトティラの適合って皆
メダガブリューの威力上昇なの？」

士「いや？他の亜種やコンボがくっついていていなら、お前みたいに
メダガブリューの威力のみ上昇だが…」

ユウスケ「なれるのがプトティラだけだったら、…：X先生みたい
な大惨事に」

海東「というか、彼と終末サゴーズが戦ったらどっちが勝つんだろ
う」

シンジ「消すぞ本気で」

シヨウイチ「というか、プトティラ時の素のアイアンクロウが王環
並みって…受けた相手は必ず頭を潰されるだろうがああああ！？」

映司「ここまで来たら、前みたいに皆でオーズ大決戦してみたいよ
ね」

士「カズマとは戦いたくないがな！」

エイジス「そうになると、…：誰が筑波オーズに勝てるか考えるぞ。

どのコンボでもセイリングジャンプ飛行可能なんて酷すぎる」

エイジ「馬鹿、それよりドSシャウタをなんとか…」

ヒナ「そこじゃないでしょ！まずはX先生を何とかしないと、誰も
勝てる気がしない…！…！」

シンジ「いや、うん、…あの先生に関してはまず『怒らせないこと』
が重要だからね？」

ケイスケ「orz」

士「で、あいつは何で落ち込みっぱなしなんだ？」

カズヤ「…シャウタも適合だから、かな」

ヒロシ「トラウマを再燃させる海のライダーにまで適合したからかと」

ユウスケ「……シャウタに何のトラウマを？」

ヒロカズ「いや、海のほうです」

Ride012：ネタバレ上等！ライダー適合（後書き）

〈次回予告〉

龍騎「えー、【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】。続いてのお悩みは…」

ラトラーター「お悩み相談室になってないか!？」

龍騎「だってもうそんな感じじゃないですかー」

X「…オブラートに言葉を包めとあれほどいつも」

スーパー1「」

スカイライダー「先生！教育指導スイッチ誤作動させないでください!!!」

士「何故だ、ヒロシの言葉に説得力が…!」

シゲル「むしろ、説得力あつて当然だろあれ…!」

ワタル「死人は口なし、と言いますが…口のある死人ですからね」

アスム「ワタルウウウウ!」

Ride013：エイヤッター！仮面ライダーの主張その4

Ride013：エイヤッター！仮面ライダーの主張その4

龍騎「えー、【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】。続いてのお悩みは…」

ラトラーター「お悩み相談室になってないか!？」

龍騎「だってもうそんな感じじゃないですかー」

リュウガ「まあ、そうだけどな。そうなんだけどな!？」

V3「次、誰行く?」

ライダーマン「私は現段階では行けませんので…ここは、スーパー1先生かX先生では」

スーパー1「タトバもいいんじゃないか、出てるし」

タトバ「ええー…ガタキリバでいいですよ、もう」

ガタキリバ「なんだよそのいい加減さ!…だったら、ディケイドとか」

ディケイド「残念だが、俺は017で確定している!」

X「ちなみに、私も015で確定しているんだ…」

スーパー1「もつと言えば、俺019担当」

タジャドル「 凄い勢いで押し付け大会になってないか!？」

????「だったら、私が行きます!」

全「「お前は!」「」

タツクル「　　えー、皆さんこんにちは。私は電波人間タツクルと申します」

ガタキリバ「タツクルキターッ！」

サゴーズ「ちよつと、タツクルつてOK? OKでいいの!？」

ライダーマン「さっ、さあ…」

タジャドル「だが、ライダーマン先生だって…正直微妙なラインだぞ。顔一部見えてるし」

シャウタ「シヨツカーライダーも地味に出ていたし、いいんじゃない…?」

ブレイド「それに、もっと言えば…『仮面ライダー』って言っているのに、アポロガイストが最初を飾ったからなあ」

龍騎「誰でもいいんで、さっさとお願いしますね」

全「スルーするところじゃないぞここはああ!」

タツクル「皆さん仰るとおり、私は仮面ライダー扱いを受けない女戦士です!ライダーマン先生ですら、仮面ライダーの称号を貰ったと言つのに!」

V3「そーなのかー」

スーパー1「いや、あんただからな?あの人に仮面ライダー4号の名を与えたのは」

龍騎「じゃ、次の人」

タツクル「…まだ主張終わってないです!」

龍騎「え、ライダー扱いを受けられないこと以外に何かあるんですか?」

ガタキリバ「お前酷いな」

タトバ「でも、俺達も正直、それが本筋かなって思ってた」

タツクル「　　タツクルと言えば、皆さん…何だと思えますか？」
シャウタ「シリーズ初の女戦士？」

ストロンガー「天道虫モチーフ…？」

プトティラ「わかんないO O」

スカイライダー「えーと、電波投げ？」

スーパー1「戦死者」

X「ちよ」

タツクル「　　スーパー1先生、正解です…！」　　マイク握り締めながら

龍騎『勢い余って壊さないようにしてねー』

X「…オブラートに言葉を包めとあれほども」　　ヘッドロック中

スーパー1「　　意識ブラックアウト

スカイライダー「先生！教育指導スイッチ誤作動させないでください！！」　　シャウタをクツションで反らしながら

ライア「やるなら宣言してくれ」　　プトティラをケーキで反らしながら

タツクル「私と言えば、何だと思えますか？…死ぬんですよ、必ず！しかも毒にやられて…！」

全「…「あ…」」

タツクル「ライダーマン先生なんて、プルトン爆弾と一緒に自爆したかと思いきや、ちゃっかりタヒチで生きていたことが次作で確定…その後も平然と客演に出る始末！」

ライダーマン「…ごめんなさいorz」

V3「仮面ライダーと認められた弊害だな」

タトバ「いや、認めたのあんたですって。間接的にあんたが犯人なんですって」

ライダーマン「救済措置を何処に投げ捨ててきたんだろう、あの作者」

タツクル「 私が間違っていました…！そうですよね、世の中にはもつと酷い人がいるんですよ…！！」

龍騎『エグイ例を挙げるなら、クウガタイタンに滅多刺しにされた海東大樹さんとか…ワームになって自己犠牲で死んだソウジさんとか…メモリの副作用で一気に老人になって灰になって死んだクリスさんとか…終末サゴーズによって一方的に殺られたダークマルスとか…恐怖心で暴走して消滅したダークネスとか…』

カブト「エグイ例を出すなアホがあああ！」

エターナル「お前に良心はないのかアアア！」

ストロンガー「エターナルに言われてりゃ末期だぞー！」

タジャドル「もうここはプトテイラが誤魔化せ！もう歌え！！」

プトテイラ「ぷええええ…T T」

シャウタ「駄目だ、多分歌える状況じゃない！」

ラトラーター「こ、こっとなったら」

ガタキリバ「お前が歌うのか！？」

ラトラーター「【緊急！噂話大戦2012】…はーじまーるよー！！」

全「…なんじゃそりゃあああ！！」

ラトラーター「というわけで、龍騎…お前の知っている噂話を明らかにしろ！」

龍騎『アイアイサー』

リュウガ「ちよつと待て、俺が言うのもなんだが馬鹿兄貴の情報網はおかs」

龍騎『 デルタ先生は独身で、彼女に好意を持っている人間は多いらしい』

タジャドル『 』

Z X（ああ、こいつ確定だな…）

龍騎『 来春予定の新学期編からは、X先生とバイオリダー先生が入れ替わりになるとの話もある』

A組生徒集団『…ヒイイイイイ！？』

X『まだ確定じゃないからな…って今の悲鳴なんだ！？』

バイオリダー『俺は怒りの王子！バイオ、ライダー！！』

龍騎『 もしそうだった場合、X先生は2年A組（新学期なので1年繰り上がったシャウタのクラス）確定らしい』

1年A組集団『…ぎゃああああああああああ』

シャウタ『…？』 元教え子だが教育指導スイッチの存在を知らない
オーガ『何で皆そんなに怖がるのかな』 教育指導スイッチの存在
知らない

龍騎『 予定段階だが、ファイズも何らかの形で一文字高校に来るらしい』

ファイズ『は！？…おい、せめてCだ。もしそうなら…Aは無理でもC！B組は嫌だ！！』

龍騎『 タツクルもオーズ兄弟の世界に存在するらしい』
タツクル『マジですか？』

タトバ『質問！シャウタは水泳部に復帰できますか』

龍騎『 それは知りません』

全『…おおいッ！』

リュウガ『そこ重要！一番重要だぞ！！』

ファイズ『まあ、水泳部に復帰して彼女で来たら、コイツ完全にリ

ア充だからな!？」

龍騎『あと、冬にはオーズ兄弟のママンが出るらしい』

プトテイラ「ママンにあえるの!?○○」

V3「つか、途中から完全に予言モードじゃないか?」

ライダーマン「これ全部当たったら、もう笑うしかないですよ」

龍騎『あと、X先生の実家はリンゴ農家らしい』

スカイライダー「何それ初耳!」同期

X「なんで人の個人情報分かるのかなアアアア!orz」

高校教師勢()(俺達の個人情報知られなくて良かったー!)()

プトテイラ「○○」期待の眼差し

シャウタ「こら、プトテイラ、やめなさい。ただでさえ家に来たとき、先生からお米貰ってるでしょ」

ラトラーター「市販品だけどね」

ガタキリバ「先生の自腹だけどな」

タジャドル「出世払い返却という約束でな」

X「…いや、むしろ貰ってくれ。毎年、傷が付いていて売りに出せないリンゴを送ってくるんだ…その都度、どう処理したらいいのか分からなくて…orz」号泣

サゴーズ「…農家の息子の辛い所ですね」

)))

士「何を言ったんだ、あのスイカ」

ケイスケ「それよりも、X先生の個人情報ダダ漏れな件について」
シンジ「後、シャウタのは一番重要だぞ本当に」

ユリコ「もう、ね、タツクルだからって死亡だけは…本当に…orz」

ヒロシ「どうして？」

ユリコ「だって、」

ヒロシ「世の中にはね、もう既に死んだ存在であるはずなのに、改造人間にする前提で遺体を冷凍保存されていた上に…それ盗まれて予定していたものと違う改造人間にされて、その拳句改造した集団の使い捨ての駒みたいな扱いをされている人間……もとい死体もいるんだからね？」

ユリコ「…ごめんなさい…！orz」

士「何故だ、ヒロシの言葉に説得力が…！」

シゲル「むしろ、説得力あつて当然だろあれ…！」

ワタル「死人は口なし、と言いますが…口のある死人ですからね」
アスム「ワタルウウウウ！」

ショウイチ「…そもそも、揃いも揃って死にすぎのような気もするぞ」

カズマ「ショウイチさんも死んだ（＝消滅した）じゃん」

ショウイチ「消滅をノーカウントにしても、だ！……振り返っただ

けでも」

士…冬映画でキバールに刺されて一時的に死亡、分岐で鳴滝と相打ち・死亡

海東…嘘予告で死に掛け、分岐で一度死亡

ユウスケ…最終回でアポロガイストによって死亡、分岐では既に死亡済み、仮死状態なんていつものこと（コア大戦）

夏海…BLACK RXの世界で一時的に死んだ

シンジ…終末サゴーズとなった時点で人間的に死んだ

タクミ…そもそも存在自体が既に死んだ身

ソウジ…Heaven'sでヘラクレスワームになった後マユ以外の全世界のワームと意識をシンクロ・そのままカブト（天道総司）によってワーム達もろとも死亡

デビキ…牛鬼の力に支配され弟子に殺される

エイジ…元々病気による命の制限つき、アंकによって致死量レベルの重傷・その後尾張キヨトの体に乗っ取っていたクガにより恐竜グリードにさせられる

カズヤ…死んだはずの兄が改造人間となっていることを知り人としての死を選んだ

ヒロシ…先程語ったとおり

ケイスケ…アポロガイストに心臓刺された（はず）

シヨウイチ「死にすぎだろうが！」

カズマ「シヨウイチさん、シンジ違う！シンジだけ何か違うよ！！」

シンジ「あなたは龍騎SVで焼かれた上に轢き殺されたいか、終末サゴーズの力で塵も残さず消し去られたいか…選べ！」

士「まあ、オリジナルだって…何人色んな意味で死んでいるのか、分からないくらい多いからな」

タクミ「色々な意味でっ…」

士「平成に言えるのは『人間やめますorやめます』パターンだな」五代、津上、乾、剣崎、紅、フィリップ、映司シロウ「それは昭和もじゃないのか？」

士「昭和はそもそも人間やめている前提だろ！」

カズヤ「おい士」

映司「ちよつと士、俺、一応人間に戻ったから」

士「例えそうでも、何らかの副作用は考えないと…？」

映司「orz」

士「それから、『名誉の戦死』パターンだ」城戸っていうか龍騎ライダー全般、加賀美

ユウスケ「それは比較的多いような…敵とかも含めて」

士「中には、加賀美のようにハイパークロックアップで時間を戻せるからって何回も死ぬ奴が」

ソウジ「ウンメイノー」

シンジ「おい！」

士「少し特殊なのは…『何があっても死なない』だろうか」照井、エイジス

エイジス「俺オリジナルですらな…いッ！」

カズヤ「正直、昭和リイマジにそれを求めるのは酷だよ…？」

ハヤト「主に、ケイスケが」

ケイスケ「俺限定！？他にもいるだろ普通！」

士「そして最近あった例では、『自己犠牲の後に消滅・死亡かどうか不明』だな」馬神ダン

シンジ「それ仮面ライダーですらねえええー！」

ワタル「ちなみに、ベルゼブモンのように転生するパターンもありますよね！」

カズマ「その後で死んだけどね！」

シヨウイチ「…最終回でシャウトモン共々生き返ったがな！」

ソウジ「ちなみにデジモンシリーズにおけるレオモン系統は、死亡フラグだ（クロスウォーズ除く）」

タクミ「正直、オーズのラストってそんな感じになるかと思っていました」

映司「タクミ君俺に死んでほしかったの!？」

タクミ「いや、久々に主人公死ぬかなって思ったので！」

アスム「あなたの中でフィリップさんはノーカウントですか、そうですね！」

ヒナ「待ちなさい、まだ典型的なパターンを忘れてるわ！」

全「…典型的…?」「」

ヒナ「『物語の謎を握っていそうな人物の死亡』」もはや不特定多数

士「…そういえばオーズは、伊達ですら生きていた珍しい例だな」

映司「ええ、本当に、途中退場したのが役者のスケジュールの都合で難しくなったメスールとガメルぐらいで…」

カズマ「バトスピの激覇のほうでも、華実死んだしね」

シヨウイチ「ブレイヴでは、ドルルモン声の勇樹も死んでいたという」

シンジ「プリキュアなんて、キュアムーンライトの父親が死につばなしだったからね…救済措置、無かったからね…」

エイジ「それから、『レギュラー陣と何らかの関係があった人間の

死亡』とかな」 小夜子etc
全「「ザヨゴー!!orz」」
エイジス「いや、…死にすぎたる…本当に」
ヒナ「あなたの場合、死ぬなさ過ぎると思うの。むしろ」
エイジス「orz」

カズマ「今後DCDRWで、誰か一人は本当は洗脳に掛かっていないで、内部の動きを知るために動いていたけどそれを知られて殺害…なんてないのかな」

映司「駄目、それ完全にバッドエンド直行!」

カズマ「映司ならやれると思うの!」

映司「そして何で俺の死亡を期待するかな、皆!orz」

カズタク「エイジスが死にそうにないから…?」

エイジス「おい」

士「いや、むしろ、余りにも追い詰められて発狂…お前を殺して俺も死ぬ!みたいな状況になった瞬間、エイジスに銃で頭ぶち抜かれる奴とか」

エイジス「俺が手を下す前提か!」

士「…だっってお前ぐらいだろ、銃持ち歩いてそうなの」

ユウスケ「もう嫌だよおお(棒)」

シヨウイチ「おいそこ、士の妄想エイジスみたいなこと仕出かしたピンクのセリフ言っな」

リョウ「 むしろ、逆に『生きようよ!生きる方法を考えよう!』』と言い出す人がいないのは何故なんだ?」

全「「…あ」」

Ride 013 : エイヤッター！仮面ライダーの主張その4（後書き）

（次回予告）

プトティラ「プトはこれ貰った！」

シャウタ「可愛い可愛い」

ラトラーター「誰から貰ったんだ？」

プトティラ「デルタせんしえ」

タジャドル「なん…だと…」

敬介『何故だろう、QBを見ると残らず駆逐したくなるんだよ』

X『それには同意しますが、本当に落ち着いて、…あああああ誰かプトティラを、オオオオオオ、この人に癒しをオオオオオ！』

V3「あー、お前ら生粋の生徒じゃないからなー。仕方がないから、プト介に見せてもらえ」

プトティラ「プト介じゃないもん。でも見せてあげるね！」

ケイスケ「あ、…どうも…」

Ride 14 : 授業体験！V3先生編

シロウ「今日は、本郷町立一文字高校にて特別授業が行われるそう
だ」

ハヤト「そんなわけで…」

ハヤト「士とユウスケと海東とワタルとアスムとカズマとシン
ジと映司と王環はセーラー服です」

士「何故だああああ！カズマだけでいいだろオオオオオ！！」
ユウスケ「そして、読者の皆様に『お前もう女装して生きるよ！』
とか言われたケイスケはアアアアア！？」

ハヤト「現役大学生なので、研究論文などの課題発表時に着て行く
スーツ。カズヤも同様」

シロウ「ちなみに、尾上・シゲル・花崎・ヒロシ・弦太朗の5人は
通っていた高校の制服だ」

シンジ「理不尽だ！理不尽だアアア！！」

カズマ「シヨウイチさんとソウジさんは？」

シロウ「…三十路二人にセーラー服は…妄想力溢れる読者達への拷
問だ」

映司「エイジスは？」

ハヤト「あいつは学問所在籍時代の服があるみたいだから、それ」
エイジ「…お前達は？」

シロウ「V3だから免除」

ハヤト「2号だから免除」

リョウ「スーツや制服の類を持っていないから免除」

アマゾン「アマゾンも、同じ理由」

1号「変身態だから免除！」

アスワタ「理不尽だアアアア！」

海東「特にV3と2号がね!？」

プトティラ「プトはこれ貰った！」 ナースキャップ

シャウタ「可愛い可愛い」

ラトラーター「誰から貰ったんだ？」

プトティラ「デルタせんしえ」

タジャドル「なん…だと…」 驚愕の表情

サゴーズ（バレバレ過ぎる、この兄）

士「チクシヨウ、あいつらは1号と同じ理由で免除か…!」

V3「 おっはー」

ヒロシ「おっはー」

プトティラ「ぷっぷー」

全「…なんか軽いノリでやってきたぞ先生イイ!」

ケイスケ「そしてヒロシの適応振りイイ!」

V3「えー、それでは、祝・神仮面ライダーSPIRITS5巻発売おめでとう！」

士「挨拶からおかしいだろ！」

V3「今回の表紙はこの俺、V3なので皆買ってくれよな！」

全「…はーい」 適当返し

V3「尚、布教のために風見志郎・俺・風祭シロウのサインをつけ

た漫画本を1名様にプレゼント」

シゲル「何でだよ！」

ハヤト「つつーか、リイマジV3の方もノリで書きちゃったわけね！？」

シロウ「頼まれて、つい」

風見（ライ街）も同じ理由で書きちゃいました

V3「それじゃあ、次回の表紙は多分確定のリイマジライダーマンに渡そう」

ジョージ「あー、申し訳ないですが、（DCDRW側的な意味で）辞退させていただきます…殺気が凄いです」

シロウ「…」

V3「じゃ、正直今ここで漫画読みたい奴」

ユウスケ「おい教師！」

ラトラーター「はい」

シンジ「おい受験生！」

V3「よし、じゃあオーズ家にプレゼント」

ラトラーター「やったー！」

全「おい教師と生徒！」「」

ガタキリバ「どうせなら、ライ街に行って何人分かサイン貰ってくるか」

タトバ「1冊に何処までの人のサイン貰う気なの！？」

シャウタ「って言うか、それだと全巻揃えた方がいいんじゃない？うち、漫画の類ないし…中途半端な巻を貰うと続きが読みたくなるって言うか」

サゴーズ「あ、あるある！」

タジャドル「だが無駄な出費はちよつとなあ」

士「そういう時のための、Xじゃないのか（米とかくれる的な意味

で)」

オーズ兄弟「このアホンダラ!」「」
シンジ「負担増やすな負担をオオオ!」

この後、ライ街の本郷さんに相談して昭和荘（弦ちゃん除く）の人達が無印を1〜16、新を1〜4サイン付きでプレゼントしてくれました

ちなみに全巻律儀にサインしたのは沖さん、自己負担額が高かったのは本郷さん

V3「はい、それじゃあ授業始めるぞ」

シャウタ「先生」

V3「どうしたシャウタ」

シャウタ「コントロールルームってなんですか？」 漫画熟読中

V3「簡単に言うと、バダンの龍の制御を行うようなもの。多分、きつと（適当）」

士「まず授業に関係ない…っていうか漫画読むな優等生!」

カズヤ「大丈夫、うちの兄も話聞いてないから!」

ヒロシ「…」 ユウキから借りた宇宙マガジン熟読中

V3「お前ら、この間スーパー1がファムから没収したBL本読ませるぞ」

全「この学校何処まで持ち込みOK!?!?!」

シヨウイチ「これを見る限り、BLは絶対アウトだな」

ハヤト「植物の本は?」

V3「OK」

リヨウ「落語のDVD…」

V3「ライダーマンなら許してくれるけど、他はアウト」

サゴーズ「時代劇のDVD!」

V3「そっちはスカイライダーが許してくれる」

ガタキリバ「じゃあ、アニメのDVDは！」

V3「あー…見つかる人によっては、だな。スーパーだと殺されるぞ」

海東「士の盗撮写真コレクション本は、OKだね！」

V3「あー、もしもし、V3ですけど…スーパー1先生？ここに、絞め殺し甲斐のある馬鹿がいます」

シャウタ「先生！スーパー1先生に相談したら、バ海東確実に殺されると思います！！」

タトバ「あと先生！呼ぶならX先生にしてください」

V3「え、ライ街の沖さんと一緒に『どうしたら筑波洋のライダーブレイク癖を治せるか』話し合いしてるから無理？絞め殺すならX先生呼んどけ??」

カズヤ「なんとも無駄な話し合いを！」

V3「あーもしもし、V3ですけどーかくかくしかじか…え、ライ街の神さんが『クリスマスで蔓延するであろうリア充を爆発させる為の方法』を聞きに来てる？」

士「ちよつと待てライ街の神敬介！」

プトティラ「しちゅもん！Xせんしえーにかのじよはいますか！！
OO」

V3「いないよ、あいつ好意に疎いらしいもん（スイカ談）」

X「なんか失礼なこと聞こえましたが!？」

敬介「で、やはり男の方に真空地獄車轢き殺しの刑（回されるのは照井竜）だろうか」

全「…何このクリスマスの街を真っ赤な絨毯で彩りそんな内容！」
「」

X「いや、ですから…そういう物騒な方法を取るの、後輩（リイ

マジX)に悪いので…色々と」

敬介『では、…男の方をドラム缶でコンクリ詰めにして深海深くに叩き落とすとか』

X『いやいや、ですから、すみません。彼女を亡くされている身として、クリスマスを幸せそうに過ごすカップルを見ると若干の殺意が湧くのは仕方がないと思いますけど、それで彼女さんのほうは喜ぶと思っっているんですか!?!』

敬介『大丈夫、自己満足に留めておくよ!』

X『爽やかに言わないでエエエ!』

敬介『はははははは(乾)』

ラトラーター「V3先生、通話丸聞こえにしているのはわざとですか?」

V3「なんとなく」

ケイスケ「…ライ街の神さん華麗に病んでないか…」

弦太郎「クリスマスとかバレンタインの時期にああなる、と筑波さんから聞いているだけだから、何とも言えないけど…」

X『神さん頼みますから精神科行ってください、それが一番の解決策です!』

敬介『何故だろう、QBを見ると残らず駆逐したくなるんだよ』

X『それには同意しますけど本当に落ち着いて、…あああああ誰かプトティラを、オオオオオオオ、この人に癒しをオオオオオ!』

V3「いいかプト介、現実(リアル)が充実している人のことを『リア充』と言うんだ」

プトティラ「プト介じゃないもん。じゃあ、『りあじゅーばくはちゅしる』ってなに?」

V3「僻みや呪いの言葉だ」

プトティラ「どんな時に使うの?」

V3「……………タジャドルがシャウタの弁当でノンケ話をする時」
プトティラ「りあじゅーばくはちゅしろ！><」
タジャドル「なんで例えば俺なんだ！何でプトティラに変な言葉を教えるんだ！！」

戸棚に隠れていたライダーマン「…あと、V3先生がデルタ先生と（友達に送る用の）ケーキと一緒に選んでいる時（ボソツ）」

タジャドル「リア充爆発しろオオオオオ！！」

プトティラ「りあじゅーばくはちゅしりよおおおおおおT T」

スカイライダー「リア充爆発しろオオオ！！」

威吹鬼「リア充爆発しろおッ！！」

サイガ「Readyジョー爆発しろでんねんッ！！」

歌舞鬼「リア充闇に堕ちろオオオ！！」

ZO「リア充爆発しろーッ！！」 中学教師

J「リア充爆発してしまえーッ！！」 中学教師

ZX「リア充衝撃集中爆弾で爆破しろ！！」

ライダーマン「リア充プルトン爆弾で爆発しろ！！」

シヨウイチ「…ライダーマンの一言で凄いことにーッ！！」

カズマ「（ ）の部分あまり聞き取れないよお母さん！！」

シンジ「誰が母だ！！…ここまで来ると、スーパー1先生混じらないの凄すぎる…あつ、あの先生女に興味ないからスイカ弄ってるのか！！」

ソウジ「罪作りな人だな、V3先生」

スーパー1の場合：女に興味ない、それより面白いからスイカ弄る。プトティラは愛眼動物兼弟子

Xの場合：まず女性への好意に疎い、自分の好意にも疎い。好き

な人なんて勿論いませんが何か？

ユウスケ「それよりも、授業しようよ！！！！」

V3「あ、だった」

全「おい！！！！」

~~~~~

V3「えー、俺の専門学科は国語。というわけで、本を読んでもらおう」

プトティラ「今日はどの辺りだったかなー〇〇」

ケイスケ「ああ、やっとまともな授業になってくれる」

V3「じゃ、今日は広辞苑の120ページ目だぞ」

プトティラ「ぷーい><」

ケイスケ「ちよつと待てコラアアアア！」

カズヤ「広辞苑…広辞苑つて！？この学校広辞苑読ませるの！？」

ラトラーター「…宿題忘れて、広辞苑の適当に選んだページの文を全部書かせることもあるんだぜ…」

ガタキリバ「それほどまでに、V3先生と広辞苑は切っても切れな

い関係なんだ…」

サゴーズ「例えるなら、スカイライダーとセイリングジャンプとか…妖怪龍騎と終末サゴーズとか、とにかく色々」

タトバ「…拷問に近いよね、それ」

ガタラト「3年間やってきましたが何か!?」

サゴーズ「2年間やってますが何か!」

タジャドル「お前ら、まず宿題を忘れない努力をしような…」

ケイスケ「先生、広辞苑なんて準備されていません!」

V3「あー、お前から生粋の生徒じゃないからな。仕方がないから、プト介に見せてもらえ」

プトティラ「プト介じゃないもん。でも見せてあげるね!」

ケイスケ「あ、…どうも…」 好意は素直に受け取るタイプ

ヒロシ「よし見よう」

カズヤ「お邪魔しまーす」

士「って言うか、広辞苑読んで何処が面白いんだ…文字ばかりだぞ  
プトティラ「ぜくりよしゆせんしえーの絵本とは違ったおもしろさ  
があるんだよ! > <」

シゲル「面白い…?」

シャウタ「うん、プトティラが俺公認で学校に行くようになってか  
ら…プトティラが分からなくなってきた」

ハヤト「っーか、あんたらいつもコイツに何教えてんの?」

シロウ「それは、教え子本人に聞けば早いだろう」

プトティラ「ライダーマンせんしえーは、科学の“やくひん”を使  
った“じっけん”でしょー〇〇」

ジョージ「子供に何させているんだあの人！」

プトティラ「スーパー1せんしえーは、折檻の仕方と赤心少林拳でしよー○○」

カズヤ「折檻：折檻！！？」

プトティラ「ぶいすりやーせんしえーは、漢字の読み方とーこうじえん音読とー美味しいスイカの見分け方でしよー○○」

シロウ「おい最後おかしそ」

プトティラ「ぜくりよしゆせんしえーは、絵本読んだりーお外で遊んだりーたまに事務員のおしごと教えてもらったりー○○」

リョウ「そうか、事務員の…え？」

ハヤト「おい、それ軽くサボり…っていうか、事務員増やそうとしてないか」

シゲル「あの人以外の事務員、見たことないしな…」

プトティラ「スカイライダーせんしえーは、歴史とか…お空の飛び方教えてくれるよ！○○」

ヒロシ「あつれえええ…スカイライダー先生ぐらいじゃない、まともなの…」

1号「誠に悲しいことに、な」

シャウタ「最近だと、たまに中学校にもいくよね」

プトティラ「うん、アマゾンのところ遊びにいつてる！○○」  
タトバ「うん結構見かけてる。そういえば、中学校で仲のいい先生

っていないの？」

プトティラ「うー…えつくしゆえんしえーだけだよ？○○」

全（（何であの隠れDSだけなんだ…）（））

タジャドル「X先生だったら、泳ぎ方教えてもらってるんじゃないか。あの先生、泳ぎ上手いだろ」

シャウタ「確か…今、転勤した先生の代わりに水泳部の顧問やってるんだっけ」

タトバ「うん。で、何教えてもらってるの？」

ラトラーター「まさかとは思うけど、アイアンクローじゃないよな？」

ガタキリバ「真空地獄車じゃないよな？」

サゴーズ「いや、あの先生…社会科だから、そっち系統じゃ」

プトテイラ「お歌一緒に歌ってるよ！><」

オーズ兄弟「「あつれえええつ物凄く想定外なジャンルだったああああ！？」」

ケイスケ「そして、正直納得した…【プトプトげんきだもん！】の  
真実…！」

## キーンコーンカーンコーン

V3「あ、終業のベルだ」

全「「結局まともな授業すらしなかったな！？」」

V3「しょうがないだろ、これを書いている作者のメンタルと疲れと眠気がガーツタガタガタキリツバ、ガタキリバ 状態だったんだ

( 11/21時点 )

ヒロシ「なんでそんな状態で書くこうとするかな、あの作者」

Ride014：授業体験！V3先生編（後書き）

〈次回予告〉

龍騎『【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】…続いての雄叫び、逝っちゃいましょう』

ガタキリバ「漢字イイイ！」

ラトラーター「雄叫び!？」

真「皆遅いなあ…やっぱり俺、こんな見た目で理科の先生だから怖がっているんだろうなあ…orz」

シャウタ「あー、えっと、…真先生の授業…分かりやすく好きですよ…?」

リュウガ「ああ。…脊髓マニアであることを除けば、いい先生だ…」

士「（ライ街とはいえ）沖一也と、月島カズヤの“かずや”

の系譜ウウウウ!!」

ユウスケ「何これ世界終わった!？」

カズヤ「ちよつと!？」

海東「ちなみに、地味にファイブハンドの中のエレキ・冷熱を使えるって酷いからね!」

映司「いや…普通に考えたら、空飛ぶサゴーズも最悪なんですけど！重力低減装置があるからって!!」

R i d e 1 5 : 親父イイイ！仮面ライダーの主張その5

Ride 015：親父イイイ！仮面ライダーの主張その5

龍騎『【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】…続いての雄叫び、逝っちゃいましょう』

ガタキリバ「漢字イイイ！」

ラトラーター「雄叫び!？」

タジャドル「確か、今回は…」

X「私です」

素行悪い軍団「…キイイエイイヤアアア…」

X「何だその謎の雄叫び!？」

シャウタ「過剰反応し過ぎじゃ…」

エターナル「いや、当然だろう。X先生だぞ…」

ガイ「下手したら、世界が…十字に割れる!」

タイガ「大真面目に、この星とサヨナラになる…」

牙王「尻が真つ二つに…」

キックホッパー「闇の世界に光が満ちる…」

パンチホッパー「…隕石が落下する」

ネガ電王「文字通りのさらば電王になっちまうだろ!」

王蛇「イライラするんだよ…」

ストロンガー「正直、あのアイアンクローが…」

X「……orz」 ちよつとショック受けた

龍騎『流石のX先生も凹んだようです』

V3「あーあ」

スーパー1「いじけたら長いぞ、あいつ」

タトバ「どうしよう…」

ファイズ「安心してくれ、先生のお陰でこれ以上捻くれなくて済んだ奴もいるんだ！」

素行悪い軍団「『教育指導スイッチ的な意味で！？』」

ファイズ「んなわけあるか！」

プトテイラ「プト、せんしえー好きだよ！><」

シャウタ「お米にリンゴ、物凄く感謝してます！」

スカイライダー「スイカと言わないのってお前ぐらいなんだ…！」

この後、必死の説得（特にスイカとシャウタ）によって復活しました

龍騎『時間的にはまだ余裕あるんで、主張さつさとどうぞ』

タジャドル「『さつさと』の時点で余裕ないだろ…！」

X「えー、私の主張はただ一つ」

全「『…』」

X「頼むから宿題忘れたりとか、学校の備品壊したりとか、授業サボるとか、体育の授業中に本気のライダーバトルとか…そういうのしないでくれ！」

シャウタ「それが主張でいいんですかー！？」

X「正直な所、それが一番言いたいことなんだ…もう本当に頼む、

最近【赤き眼の処刑台】とかZO先生に言われて困ってる…高校時代なんて【銀の地獄万力】だからな!？」

V3「後、【生きるアイアンメイデン】って俺が名付けた」

X「あんたか!」

スーパー1（アイアンメイデンって、“鉄の処女”って意味なんです）

エターナル「いや、でも、あれ見たら誰だって【銀の地獄万力】とか言っても仕方ないような気もするんだ」

リュウガ「おい、オーガ。一応プトティラとシャウタと一緒に逃げとけ」

龍騎『ペガサスもねー』

オーガ「はい。ファイズは?」

ファイズ「あー、俺、多分その事件知ってるから別にいいわ…」

タジャドル「え、何があつたんだ」

エターナル「アレは、そう…俺達がまだ、中学二年の頃だった」

（回想）

ネガ電王「へっ、授業なんてかつたるいんだよ」

キックホッパー「どうせ授業に出たってな…」

パンチホッパー「そうだね兄貴…」

X「おいお前達、確か次の授業は真先生の理科じゃなかったのか? 早く行かないと、遅刻だぞ」 通りがかった

王蛇「なんだあ…今、無性にイライラしてるんだよ…」

エターナル「どうせ授業に出なくても、問題ないからな」

X「まあ、お前達素行は悪いくせに勉強は出来るからな……(王蛇はほぼ野生の勘だけで)だけど、出席日数のこともあるからあまりサボると卒業できないぞ」

ネガ電王「別に、卒業しなくてもいいんじゃないか?」

X「いや、中学は義務教育だから、卒業しないと学校も困るし皆の家族も困るんだぞ?」

王蛇「イライラするんだよ……」

キックホッパー「俺達はどうせ、どん底の人生さ……」

パンチホッパー「あんたはいいよなあ、闇の深さを知らないんだから」

X「……」 教育指導スイッチが盛大にON

真「皆遅いなあ……やっぱり俺、こんな見た目で理科の先生だから怖がっているんだろうなあ……orz」

シャウタ「あー、えっと、……真先生の授業……分かりやすく好きですよ……?」

リュウガ「ああ。……脊髄マニアであることを除けば、いい先生だ……」  
ファイズ「……それに、来てない奴って他の授業でもサボってる奴だし気にすんなよ……俺も人のこと言えないけど」

X「真先生、先生の昼食って、今日は確かドリアンでしたよね?」

真「そうですね」

X「俺の弁当と交換してくれませんか?と言うか、もう先生の机に弁当置いてますんで」

真「あ、ハイ、別にいいですけど……」

リュウガ「はい(ドリ……え?)」

X「……お前達」 ドリアン片手に帰還



エターナル「うん、俺も正直、のほほんとしているけど生真面目って印象しかなかったから…アレ見てマジ真剣に授業出ようって思った」

タトバ（だから王蛇達は真面目に授業出るのが…）

ファイズ「そして、何故あの先生が教育指導として恐れられているのかマジ分かった瞬間」

スカイライダー「基本的には温和な天然だからな…」

スーパー1「アレって、どう切り替わってるんだ」

V3「ファイブハンドみたいなもんじゃないか？」

X「…なんで俺そういう印象拭えないのかな…orz」

龍騎「もういつそスーパー1先生と一緒に二大ドSになればいいんじゃないですか」

リュウガ「変な提案出すな！」

V3「プト介カモーン！」

プトティラ「プト介じゃないもん！」 3秒で到着

タジャドル「うわ速い！」

V3「X先生癒して来い」

プトティラ「わかったーOO」

スカイライダー「アマゾンも行って来なさい」

アマゾン「ガウ」

X「…」 体育座りで激しく落ち込んでいる最中

プトティラ「ぷいぷいぷい」 尻尾でなでなで

アマゾン「クエー」 頬ずり中

スーパー1「癒されてるのか、アレ」

V3「さあ？」



シヨウイチ「それも駄目すぎる！」

ソウジ「しかし、実際X先生と交代できそうな先生っているか？」  
全「……んー……」

V3 期待しない方が楽（V3フル回転キツク的な意味で）  
スーパー1 いつもと変わらなくな？

ライダーマン ドリルアームはやめて！実験台もやめて！

スカイライダー むしろ生徒にボロクソに言われ負けてスーパー1  
召喚の予感さえする

響鬼 教育指導が合いそうだけど、不良達の肉体がもたない（鍛えて  
ますからの意味で）

デルタ そもそも女性

サイガ 帰ってくる頃には日本語がおかしくなっていそう

イクサ 帰ってくる頃には洗脳済み

威吹鬼 手に負えなさそう、影薄い、スーパー1も来なさそうなの  
で救いなし

士「スーパー1ぐらいじゃないか？」

ユウスケ「それしかないよな」

海東「迷う必要なんて何処にもなかったよ？」

夏海「そうですよね」

ワタル「まあ、スーパー1先生ですし」

アスム「むしろ、何であるの先生いるなら制裁キャラいらなかったよ  
うな……」

ハヤト「お前ら、よく考えるよ」

全「……？」

ハヤト「例えば…シス・コムセの近くに、レイラ＝スノアラントがいなかったら、今頃どうなっていた？」

ユウスケ「…世界の終わり、だな」

カズマ「レイラいないと駄目だよな」

シヨウイチ「ああ…」

ハヤト「シンジのストッパーで、カズマがいなかったら？」

タクミ「スマブラファイター完全壊滅」

ユウスケ「世界の終わり」

シヨウイチ「正直、【神】による支配なんかより怖い」

ハヤト「ソウジさんのストッパーとして、シヨウイチさんがいなかったら？」

士「…それは駄目だ、色々！」

夏海「シヨウイチさん凄く必要なんですよ！？」

海東「彼のお陰で、巻き込まれずに済んでいるしね！」

シンジ「正直…シヨウイチさんの存在意義は、そこだと思う！」

シヨウイチ「おいコラアアア！」

ハヤト「もつと言えば、X先生がいなかったら誰がV3先生とスー

パー1先生を止められる！？」

カズヤ「無理」

シロウ「無理だな」

ハヤト「…つまり、制裁キャラは何かしら必要なんだ。それが、キ

ヤラを改変しようがな!」

シロウ「じゃあ聞くが、DCDRWの制裁キャラは？」

ハヤト「……………ケイスケ」

ケイスケ「何故俺なんだよ!」

シゲル「じゃあ、もう適当にヒロシでいいだろ」

ヒロシ「嫌だよ……」

カズヤ「むしろ、シンジさんがエイジス安定じゃあ……」

エイジ「あ、それいいな」

カズマ「うえーい」

士「むしろ、そこにX（DCDRW版）も足してみた方が」

シンレヴァ「「ライ」」

リョウ「制裁キャラということは、いつも人をバコーンと殺るのか？」

1号「その認識がすでに残念!」

アマゾン「セイサイ…食べれるか？」

ケイスケ「食べられないぞ……」

ソウジ「制裁キャラといえば、サゴーズの印象しかないな」

ワタル「シンジさんの影響ですね」

シンジ「ライあんたら」

士「待てよ、サゴーズになれるのは」

・ ジョージ

・ カズヤ

・ ケイスケ

・ リョウ

(オマケ)

・沖

・筑波

・アマゾン(オーズ兄弟)

士「 (ライ街とはいえ) 沖一也と、月島カズヤの“かずや”の系譜ウウウウ!!」

ユウスケ「何これ世界終わった!？」

カズヤ「ちよつと!？」

海東「ちなみに、地味にファイブハンドの中のエレキ・冷熱を使えるって酷いからね!」

映司「いや…普通に考えたら、空飛ぶサゴーズも最悪なんですけど! 重力低減装置があるからって!!」

シンジ「今挙げられた人達に、ツッコミの栄誉を与えようかなあ…」

カズヤ「嫌ー! そんなの嫌アアアアアー!!」

ケイスケ「勘弁してくれエエエ!」

ヒナ「ゴリバゴーンを使うだけでも、ツッコミよ?」

カズヤ「いや、俺達、終末サゴーズとか空飛ぶサゴーズとかファイブハンドサゴーズと一緒にされたくないだけなんで!」

ケイスケ「っていうかさ、いくらライ街とはいえ…スーパー1とサゴーズの、重力と色合いのネタはやめてやろうよ!」

リョウ「待てよ、ライ街の沖さんがサゴーズと言うことは」

全「…?」「…」

リョウ「 ファイブハンドが進化して、シックスハンドに変化…」

ロケットパンチが可能になるのか!?」  
ヒロシ「嫌ですよそんなスーパー1!」

ハヤト「その発想だと、筑波サゴーズはあの重量と見た目で空を飛ぶんだぞ」

シヨウイチ「考えただけでシユールだな…」

シゲル「いや、待て、それよりも…もつと重要なのは、沖サゴーズだ。スーパー1は重力制御を行えるなら、しない場合でジャンプ100m…した場合は測定不能なんだろ」

ハヤト「スペック上はな?」

シゲル「測定不能の域のジャンプ力から、ズオーンストンプとかサゴーズインパクト時の踏みつけ食らってみるよ。…死ぬなら楽ってレベルだぞ」

全「…あー…」

夏海「赤心サゴーズを倒せる自信はありますか?」

カズヤ「ないです、無理です、そもそも一色適合じゃないです!」

ケイスケ「つか、一色適合ってマジ酷いな!」

ヒロシ「それに、梅花の型も使えるなら…無理じゃないですか?」

士「楽には死ねないとはこのことか」

ユウスケ「いや、一人だけ沖さんサゴーズ…もつと言えば、終末サゴーズすら倒せる人がいるじゃないか」

海東「なんだって?」

士「エイジスなら…やめとけ、あいつ死なない時点で完全チートだから」

エイジス「おい」

ユウスケ「エイジスじゃない…っていうか、エイジス使ったら普通

にエイジスが勝つじゃんか…」  
夏海「なら、誰なんですか？」

ユウスケ「教育指導スイッチの入った、X先生プロティラ」  
全「…やっぱそこに行き着くんじゃねーかツツツ！」

士「冷静になつて考えると、プロティラとして最悪なのはストレイ  
ンドウームやグラランド・オブ・レイジ強化+氷属性特化のオニゴー  
リプトティラと…教育指導モード時に全能力強化+通常でもアイア  
ンクロー強化のXプロティラ…おいケイスケ、お前これに勝てる  
のか？」

ケイスケ「俺かよ！カズヤどうしたんだよ、梅花プロティラ何処行  
つたんだよ！！」

カズヤ「ごめんね、梅花プロティラ勝てそうにない！」

シロウ「だが、どれほどアイアンクローが強化されるのか知りたい  
ハヤト「任せろ。シンジが空間を裂いた所に、リョウがエイジスの  
メダルとドライバー渡してきたから」

全「…シンジマジ人間やめろ！！」

シゲル「そしてリョウさん帰って来い、トラウマ作るぞ！」

〳〳〳

X「え、別にいいんですけど…NOVEL大戦SUMMER並みに混乱起きちゃうんじゃない」

リヨウ「大丈夫だと思います」

タジャドル「じゃあ…シャウタとかプトティラは向こうにやるか」

ガタキリバ「後悔しないうちにな」

ラトラーター「そうだな。親父、もふクッション持ってたらずら？俺

トライド使ってプトティラ引き離すから」

ブラカワニ「何気に、パパン一番危ない役？」

### 変身過程は割愛

Xプトティラ「で、どうしたら？」 首にマフラー

サゴーズ（見分けつける為のアフターケアがバッチリ！）

リヨウ「アイアンクローを」

Xプトティラ「何に!？」

リヨウ「そうだな…」

鳴滝「くくく…この世界にいるライダー達と協力をして、ディケイドを倒す！なんと完璧な作戦なんだ!!」

リヨウ「あれ」

Xプトティラ「QBの方が楽なんだが…」

リヨウ「あれ」

Xプトティラ「あー、うん、分かった…」

鳴滝「まず手始めに、誰から…」

Xプトティラ「あー」

鳴滝「そうだ、まずはあそのアマゾンから」

Xプトティラ「…」 スイッチON

フォーゼ「…セイサイ・オン」 レーダー・オンの発音

Xプトティラ「ちょっと、」

鳴滝「ん、どうして」

Xプトティラ「 誰を…最初に、何するって…?」 超いい笑顔

で頭鷲掴み

鳴滝「ぎゃ ああああああああああああああああああああああ」

この後、鳴滝は病院送りになりました

Ride015：親父イイイ！仮面ライダーの主張その5（後書き）

〈次回予告〉

ヒロシ「カッコいいキメ台詞が欲しい」

ユウスケ「うん、まあ、気持ちは分かるけど何で？」

ヒロシ「だって、ヒーローものと言えばキメ台詞ですよ！？憧れるじゃないですか！」

ケイスケ「Fさんからトマトのニオイがしてきた」

カズヤ「最近だと、ヤシの実やドリアンのニオイがしそうだよね！」

ユウスケ「それ、断定できてない？」

ケイカズ「さあ？」

士「いいか、既存じゃなくてオリジナルで行け！オリジナル！」

ハヤト「お・れ・は・m」

士「早速無視すんなーッ！」

ケイスケ「キメ台詞…キメ台詞か、難しいよね」

ヒロシ「本当に、どっかのXじゃない限り難しいよね」

Ride016：決めるぜ！キメ台詞

## Ride 016：決めるぜ！キメ台詞

ヒロシ「キメ台詞が欲しい」

士「は？」

ヒロシ「カッコいいキメ台詞が欲しい」

ユウスケ「うん、まあ、気持ちは分かるけど何で？」

ヒロシ「だって、ヒーローものと言えばキメ台詞ですよ！？憧れるじゃないですか！」

カズヤ「まあ確かに、DCDRWじゃあキメ台詞なんてまだ何もないもんね」

ケイスケ「いるのか…？」

シロウ「いるだろう。何となく」

シゲル「ああ、何となく」

ユリコ「何となくって何!？」

1号「しかし、何を以ってしてキメ台詞にするんだ？」

ヒロシ「それはやっぱり…」

Aさん「俺は、人として生きようとする改造人間の味方で…人の心すら失った改造人間の敵だ」

ヒロシ「とか？」

カズヤ「そ、それは、…キメ台詞として長い気がする」  
ケイスケ「長いって言うか、キメ台詞じゃないだろって言うか」  
ヒロシ「じゃ、こっちは？」

Bさん『天に代わって、…お仕置きタイム執行ッ！』

シロウ「ネタバレだな」

ハヤト「ネタバレすんなよ」

シゲル「ネタバレは止めようぜ」

ジョージ「ふむ…では、これはどうだろう」

Cさん『ああ、これで…ラタラタ！ラトラーター！！』

エイジス「なんだこの映司臭！」

エイジ「レヴァ、自分の名前を何で叫んでるんだ？」

エイジス「『えいじす』じゃない！『えいじしゅ』だ…！」

士「いや、キメ台詞というのはだな」

1号「他にはないのか？」

ヒロシ「そうですねー、別の作品になっちゃいますけど…」

士「聞けよ！」

Dさん『…シャウタが笑うには、皆いなきゃ駄目なの。誰かいなくなったら、シャウタ、絶対悲しむ！』

ユウスケ「分かりやすいよDさん！」

シヨウイチ「いや、Dちゃんだむしろ！？」

Eさん『理由は知らないがそれはさておき、タトバを襲おうとする

ならお前は【悪】だ!』

ヒナ「あー、うん、納得できる…できるけど、言った人が問題なんだよね…」

士「お前ら…」

シンジ「Eさんはさ、何か勘違いをしていそうな気がする…タトバ的な意味で」

カズマ「そんな気がする」

ソウジ「他にはないのか?」

士「おい!」

Fさん『そのことは海に流して忘れることにした!…見捨てては置けないし、姿が違ってても、困っているならお互い様だ!』

ケイスケ「Fさんからトマトのニオイがしてきた」

カズヤ「最近だと、ヤシの実やドリアンのニオイがしそうだよね!」

ユウスケ「それ、断定できてない?」

ケイカズ「さあ?」

ヒロシ「あー、そういえば」

Gさん『だから、お前がやっていないって言うなら信じる。本当にやったのが誰か探して、二度としないように指導する。…それが教師として、教育指導としての仕事』

ヒロシ「も、あるよね」

ケイスケ「リンゴのニオイがしてきたな」

カズヤ「アップルパイ食べたいね」

シゲル「作ってこようか?」

星ノ宮三兄弟「「「お願いしまーす」」」

シヨウイチ（というか、FとG同一人物じゃ…！）

Hさん『パパンのこと、よろしくお願いしましゅ！』

カズマ『これDさんだよな』

ケイスケ『D介だな』

ヒロシ『Dちゃんだよな』

Iさん『自分のやりたいこと、見つけるよな』

昭和リイマジ『これだー！』

士『確かにいいけど違う、違うー！……お前らは根本的に、キメ台詞を分かってない！』

~~~~~

士『いいか！キメ台詞というのは、ここぞという時に使うセリフのことだ！』

ヒロシ『だから、さっきのIさんが一番いい例じゃない』

カズヤ『そうそう』

士『いかーん！もっと簡潔で、心の琴線に触れる一言…人の心に根強く残る言葉！これが真のキメ台詞なんだ！』

ハヤト「ということとは…」

シロウ「その心の闇、この光で照らしてみせるッ！」 リンク

カズヤ「…あなたの作った、お菓子に合うお茶…淹れるつもりだったのね」 エグル

ヒロシ「俺達は例えどんな時でも、繋がっている。魂だけとなっても、傍にいる。…それを象徴するのが、うちのおでんだ」 ソウジ

リョウ「僕も、土さんのように…誰かのために戦うことが、できるんですか」 ヨウヤ

ケイスケ「映司、…帰ってこい。お前の居場所は、ここだ！」
エイジス

ユリコ「うっん、…むしろ…一緒に戦ってくれるのが君で、良かったと思ってる。勿論、…土さん達もそうだけど」 タクミ

シゲル「でも、プチトマトさんはプトティラ達の中で、プトティラ達の命として生きるのだ」 ブラカワニ

ハヤト「分かってらあ。…一気に倒すぞ！」 ファルコ

ジョージ「…僕の悪運も、ここまで、か」 海東

1号「理由は知らないがそれはさておき、タトバを襲おうとするならお前は【悪】だ！」 V3

リイマジ昭和「……だよな!?」「……」
士「いや、…ああ…もういい!例題来い、例題!」

ダブルC「『さあ、お前の罪を数えろ!』」
フォーゼ「宇宙、キターッ!」
響鬼「はーッ!」

士「こんな感じでいいんだよ!こんな感じで!」
ハヤト「なるほど…」
ユリコ「だったら…」

1号「鍛えてますから!」 ヒビキ

ハヤト「……いや、終わっていない。…仮面ライダーは、死んで
はいない!」 五代

シロウ「だけど、その辛いこと総てを受け入れる覚悟で、城
戸さんはずっと戦ってきていた。だったら、俺もそれを受け止める」
シンジ

ジョージ「通りすがりの、探偵だ。覚えておけ!」 翔太郎

ケイスケ「上等!」 ピット

ユリコ「あなたが…全部、欲しいの…!」 メズール

シゲル「友達にでも何でもなっただけから、もう無茶すんな

馬鹿野郎ッ!?」 ショウイチ

ヒロシ「誰かを守りたい気持ちに、理由って、必要ですか…?」
カランコエ

カズヤ「 ごめ、ん、…なさ…ごめっ…づっ…」 シャウタ
リョウ「やだ、やだやだ、美味しい肉食べたいけど、シャウタが辛
いのやだ!」 プotteira

士「だから…何処をどう受け取ったらそうなるんだアアア!」
ユウスケ「いや、ハヤトさんはある意味でクリアしてるよ!クリア
してるけど!」

ヒナ「そしてリョウさん何故プotteira!」
リョウ「何となく」

士「おい!」
ケイスケ「そして…ヒロシがいずれにしても、死亡フラグっぽい件
について」

士「いいか、既存じゃなくてオリジナルで行け…オリジナル!」
ハヤト「お・れ・は…」

士「早速無視すんなーッ!」
ケイスケ「キメ台詞…キメ台詞か、難しいよな」
ヒロシ「本当に、どっかのXじゃない限り難しいよね」
ケイスケ「ちよ」

カズヤ「…俺が相手だ、アポロガイスト」(キリッ)
ヒロシ「『充分だ』(キリッ)」

シゲル「『その言葉、そのまま返す。…今のお前が、俺に勝てる
本気で思っているのか?』(キリッ)」

シロウ「『皆には、内緒だぞ』(キリッ)」

リョウ「『だから、帰る。それだけだ』(キリッ)」

ハヤト「『逃げる奴には構うな、疲れるぞ』(キリッ)」

ユリコ「やめてあげなさいよ!」

ケイスケ「『…君、…髪の毛ストレートにしてみないか…。なん
か、その髪形で損をしている気がするんだ…』」

ユリコ「そして、ケイスケさんそれXどころか“けいすけ”違いす
きる!」

エイジス「いやいや、お前ら、キメ台詞というのはな…こうい
うとだ」

昭和リイマジ「『?』「『」

ユウスケ「…皆の笑顔を護る戦士!仮面ライダークウガ・ライジン
グアルティメット!」

シヨウイチ「進化する魂!仮面ライダーアギト・シャイニングフォ
ームツ!」

シンジ「人を信じ、護る龍!仮面ライダー・龍騎サバイブ!」

タクミ「大事な人の夢を守る閃光!仮面ライダーファイズ…プラス
ターフォーム!」

カズマ「正義を貫く運命の剣！仮面ライダーブレイド、キングフォーム！」

アスム「意志を受け継ぎ、人々の明日を護る戦士！装甲響鬼ッ！！」

ソウジ「家族を、友を守るために戦い続ける戦士、…仮面ライダーカブト・ハイパーフォーム！」

ピット「天からの審判を下す戦士！」

モモタロス「俺達、前よりてんこ盛りだぜえッ！」

ピット+イマジン×5「………仮面ライダー電王・超クライマックス！！」「……」

ワタル「王として戦う、月光の戦士！…仮面ライダーキバ、エンペラーフォーム！！」

海東「世界を股にかける怪盗、仮面ライダーディエンド！コンプリートフォーム！！」

夏海「月光冴え渡る、麗しき銀の翼！仮面ライダー…キバラー！！」

アイク「闇の鏡に映る黒き龍！仮面ライダーリュウガサバイブ！！」

タジャドル「紅蓮に燃え立つ赤き翼！仮面ライダーオーズ、タジャドルコンボ！！」

エイジ「新緑映える緑の雷撃！仮面ライダーオーズ・ガタキリバコンボ！！」

剣崎「世界を吹き抜ける黄色い烈風！仮面ライダーオーズ…ラトラ

「ターコンボ!!!」

春沢「唸る大地の鳴動、白き鉄槌!…仮面ライダーオーズ…サゴ
ゾコンボ!!!」

エイジス「怒号の大海、激しく波打つは蒼海の誇り! 仮面ライ
ダーオーズ、シャウタコンボツ!!!」

リンク「人々の願いを乗せ、飛び立つ…想いの力!仮面ライダーダ
ブル・サイクロンジョーカーゴールドエクストリーム!!!」

映司「総ての世界の人達のために、今ツ!仮面ライダーオーズ・プ
トティラコンボ、降臨!!!」

士「そして、通りすがりの仮面ライダー…ディケイド・コンプリ
トフォームだっ!覚えておけ!!!」

シロウ「おい、何人かおかしいんだが」

士「どこかおかしいと感じる部分を担当している奴は、死んだり不
在だったりしているせいでそうなった」

夏海「ちなみに出展は、コア大戦の99話です」

リンク「ファルコ生きてるけどね!?ただ、ちょっと都合が悪かつ
ただけで」

シロウ「いや、そこじゃない。そこじゃないんだ…」

カズヤ「シロウさんの言いたいことは、大体分かりましたよ…」

シロウ「 恥ずかしすぎないか?あれ」

ヒロシ「正直、『その場のノリ』にしてもどキツイ何かがあります
けど?」

ジョージ「そして…正直、辰巳君は名乗りを変えるべきだと思うんだ」
ケイスケ「…『総てを終焉に導き、総てを終末へと変える者！仮面ライダー龍騎サバイブ！』…ってか」
シンジ「ライ」

士「だが、名乗りはライダーの基本だぞ！」
ハヤト「キメ台詞から名乗りが変わってねーか？」
ショウイチ「いいからお前らも厨二的な何かを考えろ！そして俺達と一緒に恥ずかしい道に突き進めばいいさー！」
ユリコ「恥ずかしいって自覚あったの！？」

1号「……」
ジョージ「……」
ケイスケ「……」
カズヤ「無理じゃないですか？」
ヒロシ「うん」
士「諦めるの早いんだよ、お前らは！」
ユウスケ「とりあえず、『これが自分なんだ！』って名乗り……ゲ
フン、キメ台詞を！！」

ユリコ「ところで、ストロンガーって天が呼ぶ地が呼ぶ…ってやつ
なかった？」
シゲル「長すぎて覚えられるか！？」
ワタル「ちよ！」

1号「逃走する本能！仮面ライダー1号！！」

ユウスケ「なんかそれ駄目すぎるううう！」

ハヤト「大地に咲く一輪の花！仮面ライダー2号！！！」

シヨウイチ「お前それいつのプリキュアアアア！」

シロウ「…フリーダム・イズ・ベスト、仮面ライダーV3」

シンジ「それ別のV3のこと言ってるだろオオオ！」

ジョージ「くツ、右手が、右手が疼く…！ライダーマン！！」

タクミ「厨二にも程がありますが！？」

アマゾン「アマゾン川からやってきた、仮面ライダーアマゾン！」

カズマ「物凄く…自己紹介です」

シゲル「天が呼ぶ以下省略！仮面ライダーストロンガー！！」

アスム「省略しないでください！？」

ユリコ「愛の花咲く電波人間！タツクル！！」

ソウジ「うん、君が一番まともだった」

ヒロシ「死体？何それ美味しいの？…スカイライダーッ！」

士「お前もう死体ネタ止めるよオオオ！」

カズヤ「歩く周囲への死亡フラグ…仮面ライダー、スーパー！」

海東「沖一也的な意味でも、月島カズヤ的な意味でも、DS教師的な意味でも間違っていないけど…それは駄目だよ！？」

リョウ「JUDOの器？それDCDRWでは死に設定です。…仮面

ライダーZX！」

夏海「死に設定イイイ！」

X（DCDRW版）「例えこの命燃え尽きようとも、改造人間の為に戦う戦士！仮面ライダー…X！！」
クアトロオーズ「…まともだけど死亡フラグ満載イイイイイッ！？」
弦太郎「何気に変身体キターッ！」
翔太郎「あいつ何気にノリノリだよな？顔見えないからってノリノリだよな！？」
フィリップ「興味深いね！」

沖サゴーズ「…ところで、さっきのセリフの意味を教えてくださいんですが？」 海東足蹴

月島弟ブテイラ「分岐的な意味で死亡フラグに言われたくないです」 高速蹴りつけ

ドSシャウタ「俺の何処が死亡フラグか教えてもらおうか？」 ウ

ナギムチ連続殴打

海東「死に掛け

カズマ（一応）「やめたげてよお！」

ヒロシ「よし飽きたし帰ろうか」

士「お前から振ったんだろっが！」

ヒロシ「OO？」

士「お前黒いだろ本当は！スーパーになったほうがいいぐらい黒いだろ！！」

ケイスケ「あ、馬鹿、そんなこと言つと」

沖サゴーズ「どういう意味か教えてくれるかな」 マウントポジシ

ヨンで殴打

月島弟「トテイラ」「つ、か、さ？」　　ワインドステインガー連続串刺し

ドSシャウタ「黒いとはどういうことだ…もやし？」　　ボルターム
ウイップ

月島兄「タジャドル」「黒くないよー心は真っ白な17歳のままだよー」

超至近距離からタジャスピナー弾丸

シンジ「（適当な所で）やめたげてよお！」

シゲル「心から止めてやれよ!？」

ワタル「別にこのまま放置でも良くないですか、焼却場に捨てれば
いいだけですし」

シゲル「そしてこの言い分かよおおーッ!？」

Ride016：決めるぜ！キメ台詞（後書き）

（次回予告）

龍騎「【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】…さて、続いての不憫な人は」

タジャドル「不憫扱いかよ！」

シャウタ「タジャドル、主張してきたら？」

タジャドル「何故に！」

デイケイド「普通は、タイトルに名前のある奴が主人公のはずだ。

だとすれば、俺が主人公なのは当然！」

タトバ「タイトルに名前があるのって、作者ワールドの中では少なくない？」

ガタキリバ「案外そうでもないぞ、龍騎とかカブトとか…」

サゴーズ「もつと言えば、俺達も【どたばた！“オーズ”兄弟】じゃん」

ヒロシ「でも、士だって冬映画で盛大にスーパー1とスカイライダームッコロしておいて、そのスーパー1とスカイライダーに出番奪われてるしねー」

士「orz」

タクミ「士さああああん！」

ハヤト「前々から思ってたけど、ヒロシ腹黒だろ」

R i d e 1 7 : 通 り す が れ ! 仮 面 ラ イ ダ ー の 主 張 そ の 6

Ride017：通りすがれ！仮面ライダーの主張その6

龍騎『【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】：さて、続いている不憫な人は』

タジャドル「不憫扱いかよ！」

シャウタ「タジャドル、主張してきたら？」

タジャドル「何故に！」

サゴーズ「お前が行けとしか言えない展開じゃん」

ガタキリバ「ほら、叫んでこいって」

ラトラーター「そしてプトティラに絞められるんだな」

タトバ「さようなら、タジャドル」

ブラカワニ「短い人生だったな…」

プトティラ「じゃあねー○○」

タジャドル「本格的に泣くぞオオオ！」

龍騎『残念ながら、タジャドルの予定は未定です』

タトガタラトサゴシャウプト「…なんだ…」

タジャドル「おい！」

龍騎『ですが、本日の予定はもう決まっております』

ディケイド「次の主張は、この俺！ディケイドがやってやるぜ

！！」

ラトラーター「もうそのまま主張しないで通りすがれよお前」

リュウガ「それについては、まったく同意」

V3「よし、じゃあ今度は」

ディケイド「待て、いや、待ってください！主張を、主張をさせてください！orz」 土下座

龍騎「するならさっさとしてくださいね、プトティラの歌の時間もありますから」

ディケイド「俺の扱いはプトティラに劣るのかあああ！」

シャウタ「当たり前だ」

ガタキリバ「お前とプトティラ。どっちの方が可愛げがあると思っ」

ディケイド「orz」

X「頑張れディケイド…」

スカイライダー「本当に、超頑張れディケイド」

ディケイド「えー、【仮面ライダーディケイド Re:imagination War】…皆さん読んでますか
全「っはーい」」

ディケイド「このタイトルを、そうだな、フォーゼ（ベースステイツ）！復唱してみる」

フォーゼ「は？…えーっと、仮面ライダーディケイド…リイマジネーションワー」

ディケイド「もう一回」

フォーゼ「仮面ライダーディケイド…」

ディケイド「もう一回」

龍騎「しつこい」

リュウガ「メチャクチャ同意」

ディケイド「そう、DCDRWのタイトルを飾っているのは…ディケイド！つまり、主人公はディケイドだ！！」

ガタキリバ「あっそ」

シャウタ「ふーん」

龍騎「じゃ、次、スーパー1先生」

スーパー1「おー」

ディケイド「聞けよおおお！まだあるんだからあああああ！！」

ディケイド「普通は、タイトルに名前のある奴が主人公のはずだ。だとすれば、俺が主人公なのは当然！」

タトバ「タイトルに名前があるのって、作者ワールドの中では少ない？」

ガタキリバ「案外そうでもないぞ、龍騎とかカブトとか…」

サゴーズ「もつと言え、俺達も【どたばた！“オーズ”兄弟】じゃん」

シャウタ「あーでも、リマジOOOみたいに…ディケイドとオーズのダブル主人公、って感じのややこしいタイトルも」

アメイジング「中を覗けば、ディケイドの出番少なくてクウガが比較的優遇だったかな」

ディケイド「だが、DCDRWはどうだ…6話でカメンライドをほぼ封じられ！14話で主人公が仲間に盛大に裏切られ！！」

全「…」

ディケイド「15話で暴走、16話でかつての仲間にフルボッコ、17話なんて……ついに変身ができなくなったんだぞオオオ！？」

スーパー1「しょうがないだろ」

V3「DCDRWって、ディケイドの冠つけてるけど…主人公とも

言えるのはリイマジ昭和だからな？」

ライダーマン「と言うか、何のためにリイマジ昭和を出すと思っているんだ」

スカイライダー「そして、何のためにディケイドがカメンライドできない縛りをつけたと？」

ZX「オーズも、火力面の欠点が高いエイジスが担当しているからこそ、いいバランスなんだぞ（あれでも）」

1号「辰巳終末シンジサゴーズだって、比較的（実力面で）リイマジ昭和を食わないよう頑張っているんだぞ？」

2号「大体、平成ライダーはアイテムやらなんやらでホイホイ強化するなんて…お前ら、強化形態モードがウル　ラマンより制限時間の短いストロンガーを何だと思っているんだ」

ストロンガー「何のために平成リイマジが敵の立場、という影薄フラグ満載の立ち居地にいると思っっているんだよ！」

ディケイド「orz」

龍騎「ここでもフルボッコですねー」

リュウガ「しかも、教師（ただしX先生除く）+ストロンガーからな」

ディケイド「まあ、それは仕方ないと思っっているさ。……だがな」
全「……」

ディケイド「リイマジXのあのインフレっぷりは何なんだよオオオ！あいつマジ何なんだ、強いとか作者貢献とかそういうレベルじゃねえ何なんだよおおおお！！なあX先生イイイ！！！」

X「知らないよそんなの…」

アマゾン「こつちのXに聞くの、間違い」

龍騎「アマゾン超正しい」

ディケイド「それどころか、それどころか…聞いた話によれば辰巳シンジインフレ回が48話執筆段階で3回！」

龍騎『へー』

ディケイド「フォーゼこと如月弦太朗インフレ回が3回！」

フォーゼ「ほー」

ディケイド「19・20話はスカイライダーこと月島ヒロシに重点を置いた回！」

スカイライダー「ふーん」

ディケイド「Xなんて（若干微妙な回を除けば）約10回活躍の機会が…」

X「…それを言われても、どうしようもないんだが」

ディケイド「それでディケイドが目立つ回は何回だと思う!？」

シャウタ「さあ…」

タジャドル「そんなの知るか」

ディケイド「1回だよ、1回!1回しかないんだよオオオオオ!!」

V3「Xに倒される回と逆ダブルタイフーンを使うのが最高の見せ場よりマシだ」

ストロンガー「脱走する時が最高の見せ場よりマシだろ」

ライダーマン「予定は未定状態の私と、1号校長よりマシだ」

スーパー1「もつと言うと、スーパー1として活躍した回が6話と7話だけよりマシだ（17話現在）」

2号「俺なんて皆無に近いし」

タトバ「大体、ディケイドが目立ってない理由は仲間を素直に認めていないことじゃん」

ガタキリバ「もつと素直になれよ」

ラトラーター「あと、俺の扱人も若干最悪だからな」

サゴーズ「俺なんてフルボツ」
シャウタ「兄弟の中で比較的優遇傾向にある俺が言うのもなんだが、
タトバなんてもつと可哀想なんだぞ」
タジャドル「俺なんてな…俺なんてな…！」
プトティラ「文句いわないの！><」
ブラカワニ「その通りだよ、若者」

ディケイド「だけど…だけどさあ…！orz」
タトバ「じゃ、プトティラ歌う準備しようか」
プトティラ「今日は【プトプトげんきだもん！】の3番だよー〇
〇」

プトティラ「あくびして目が覚めて 今日学校でお勉強だよ」

プトティラ「空飛ぶ訓練に 理科の実験に赤心少林拳」

プトティラ「漢字のお勉強 スイカの見分け方」

プトティラ「ぶいすりゃーせんしえ色々教えて くれるけどプト介
じゃないもん」

プトティラ「お家にね帰ったら シャウタのあったかご飯だよ」

プトティラ「ふかふかのお布団で 今日もぐっすりおやすみなしや」

い
『

B組集団「『プットッテイラーノ！』」

プトテイラ『そしてまた明日がきて 今日は何をしようかな』

プトテイラ『太陽が出てきたら 今日も元気に「おはよ！』って言うよ』

~~~~~

エイジ「プットッテイラーノ！」

ヒナ「でも、確かに主人公影薄すぎない？」 遂にスルー

映司「正直、エイジスどころか俺より存在している意味のないような気が」

士「まだだ、カードを取り戻せば出番は……」

シヨウイチ「……それで挽回できると思うか？」

ユウスケ「士……いくらカードが少なくても、怪我也治っていないとはいえ、激情態になっていてXに勝てなかったのは……【一応】主人公

だろ」

カズヤ（皆の言い分が酷い…）

ヒロシ（正直ダークデイケイドより弱すぎる以前の問題だと思う、あの影の薄さは…）

ケイスケ「っていうかさ、…それはお前らの言えたセリフなのか…  
ユウスケ」

ユウスケ「…まあ、敵側になった以上、…影薄くなるのは当然だけれどね…！」

夏海「私なんて、私なんて…orz」

海東「フツ…僕は元々、作者からの扱いはそれなりに酷い方だから気にしないよ！」

ワタル「自覚症状あつたんですね」

ヒナ「特にユウスケさん、夏映画でXに勝っておいて…DCD  
RWでXに負けるなんて大ボカやらかさないでくださいよ…？」

シンジ「ライアルになれるなら、尚更ね」

シロウ「もしもライアルになってXに負けたら…その時こそお前、  
クウガとして存在する意味が完全になくなるぞ…？」

ユウスケ「お願い、変なフラグ立てないで！…正直DCDRWのX  
だと出来そうな気がするからアアア！！」

ヒロシ「でも、土だって冬映画で盛大にスーパー1とスカイライダー  
ームッコロしておいて、そのスーパー1とスカイライダーに出番奪  
われてるしねー」

士「orz」

タクミ「土さああああん！」

ハヤト「前々から思ってたけど、ヒロシ腹黒だろ」

シゲル「正直…オーズ兄弟のD's的な意味で、本当にスーパー1だったほうが良かったんじゃないコイツ」

士「いいさ…どうせ作者補正なんて、すぐ切れる運命だ…！」

ヒロシ「残念ながら、辰巳シンジ（終末サゴーズ）とエイジス・レ  
ーヴァテイン（死亡不可）とリンク（超適合）と筑波さん（カベブ  
ツコワスカイライダー）は…作者補正が切れる気がしないよ？」

シロウ「その法則で行くと、多分Xも…だな…」

リョウ「オーズ兄弟的な意味でもか？」

シゲル「いや、あの人アイアンクロー補正掛かってないと、V3先  
生とスーパー1先生止められないだろ！」

ケイスケ「あとはシャウタだな。銃火器とか、色々すぎる」

士「分かった…だったら、シャウタにカメラライドできればいいん  
だ！」

シゲル「何故そんな纏めになるんだよ！」

エイジ「第一…火野が敵側にいるせいで、タトバ・ガタキリバ・ラ  
トラーター・サゴーズ・タジャドル・シャウタが出来ない上に、プ  
トティラはコンプリ召喚、ブラカワニはブランク……無理だろ」

ヒナ「それに、ブラカワニって…そもそもメダル持ってるのがエイ  
ジスだけじゃ」

映司「エイジスと仲良くしないとブラカワニすら手に入らないって、  
若干詰んでるよ士」

士「うがあああああ！」

エイジス「ところで、お前らが望むならブラカワニ貸してやっても  
いいんだが…」 絶対死なない

ヒナ「却下、クガのメダルだもん」 橙のグリードに恨みあり

エイジ「ああ…クガのメダルは死んでもごめんだ」 恨みどころかそれを超越した嫌悪

映司「俺は…蛇が、ちよつと…」 蛇嫌い

士「くそつ…シャウタになれるのがリイマジ内だとシヨウイチだけ、しかし、シヨウイチを取り戻すにはやはり洗脳があああああああ」  
ヒロシ「俺も一応、シャウタになれるよー」

シロウ「俺とシゲルもな」

シゲル「でもまあ、何となく無理って気はするけどな」

士「だとすれば…ブラカワニ狙いか、だが、ブラカワニになれるのがワタル・エイジス・ケイスケ…詰みすぎだろこれ…！orz」

ワタル「洗脳されてますしね」

ヒロシ「俺もブラカワニになれるよー」

ケイスケ「後は、ライ街になるけど神敬介さんか…ところであの人のブラカワニ、爆発耐性特化って何なんだ？」

リョウ「何気に、俺忘れられてないか」 超適合

士「映司を取り戻してシャウタったほうがいいのか…だが、映司俺の言葉で説得できる奴じゃないし…！orz」

映司「そもそも、デイケイドの言葉で洗脳解除できないよう強い洗脳掛けられてるからなあ」

エイジ「でもそれだと、レヴァも詰んでるのか？」

ヒナ「エイジスは大丈夫じゃないの？相手も流石に、エイジスの乱入は予想外だし…だとしたら、エイジスの説得はまだ有効なんじゃ」  
映司「でもなんか、戦うフラグ満載だよな」

エイジ「そうか？」

ヒナ「まあ確かに戦闘は免れないけど、大丈夫じゃないの。エイジ

スだから斬つても死なないよ」  
エイジス「おいひな壇」

ヒロシ「そもそも、説得できない時点でディケイドはとっくの昔に  
影薄フラグだったんじゃない」

士「orz」 トドメ

ユウスケ「土アアアア！」

ケイスケ「 大体士、『ケイスケむしろヒロイン』とか言われて  
いる俺より捕まる回数多いって聞いたぞ」

カズヤ「…それが本当なら、士、……もうヒロイン名乗れば」

ハヤト「んー？でも、士の捕まる数〓弦太朗とシンジの捕まる数つ  
ても聞いたぞ」

弦太朗「 何それ俺ヒロイン！？」

シンジ「…久々の幽閉…！？」 期待の眼差し

シゲル「って、 何か期待してるぞこいつー！？」

シンジ「だって、ディケブラの初期の俺って戦闘経験少ないことも  
あってか、敵に捕まって洗脳されたり、実験台にされかけたりして  
いたんだぞ！久し振りに、幽閉ポジションになるんだぞ…喜ばずに  
いられるかイヤッホウ！！」

カズマ「お母さん壊れた！」

シヨウイチ「正直、…それって喜ぶべきことなのか？捕まった時の  
状況がいずれも最悪なソウジ」

ソウジ「さあな？」

士「…影が薄いばかりに捕まるって…そんなのってないだろ、酷す

ぎる！」

ケイスケ「いや、違う。多分リマジ昭和の踏み台だと思う」

ヒロシ「その中の1回は確実にXの踏み台だと思う」

カズヤ「もつと言えば、影が薄かろうが濃かろうが皆1回は捕まるから。拉致を含めたら1号さんでさえカウントできるから」

夏海「何を言っているんですか！ヒロインは私ですよ！？」

シロウ「洗脳の時点でそれはない」

ヒロシ「むしろ、夏海さんがヒロインだったら…俺はケイスケ推しますよ？」

カズヤ「というより、リマジ昭和全員の総意が『ケイスケお前ヒロインでいいよ』だからね？ユリコでさえも」

ユリコ「うん。正直、ケイスケさんヒロインでいいわもつ」

士「そうか…そうだったのか」

エイジス「おいもやし、一体何を」

士「ヒロインになれば影薄から脱却できるのか！よし、こうなればフィリップに頼んでヒロインのいろはを学んで…」

全「…土マジで戻ってこおおい！」「」「」

エイジス「あと、俺個人としては…リマジ000のヒロインは王環でいいと思うんだ」

映司「あ、それは同意。比奈ちゃんの如く怪力という意味でも」

エイジ「ちょよ！？」

Ride017：通りすがれ！仮面ライダーの主張その6（後書き）

〈次回予告〉

カズヤ「【キターツ！絵心大戦2012】…始まりますよー！」  
ヒロシ「宇宙、キターツ！><」

ケイスケ「ちなみに神さんはチェーンアレイ・チェーンソー・スパイク・ウインチ特化」

ヒロシ「筑波さんはマジックハンド・ランチャー・ドリル・レーダー特化+重力低減装置で自由飛行」

カズヤ「沖さんはエレキ・スモーク・ステルス・カメラ特化」

士「なんか一人フォーゼとして酷いのがいるぞオオオ！」

弦太郎「あーでも、モジュールてんこ盛り…」

タクミ「どっかのX先生みたいな流し方で逃避しないでね！？」

Ride18：キターツ！絵心大戦2012その5

カズヤ「キターツ！絵心大戦2012】：始まりますよー！」  
ヒロシ「宇宙、キターツ！><」

士「くッ、今回はこの面子か」  
ソウジ「よし、勝つぞ」

シヨウイチ「このメンバーなら勝てるな！」

エイジ「……ペン壊さないかな……」

映司「ペンの心配ですか！？」

エイジ「つか、恐るべき画力・本郷ハヤトがいるのに……あいつらの自信は何なんだ」

ハヤト「面倒だしやりたくないんだが」

ユウスケ「あれっ、7人？」

弦太郎「らしいな」

映司「本当だ……」

士「敵前逃亡か？」

アスム「そうではないんです！」

ワタル「今回、リイマジ昭和の皆さん…並びに弦太郎さんに、『世の中にはこんな酷い奴もいるんだZEE!』ということをお教えるべく……」

タクミ「【仮面ライダー×仮面ライダー フォーゼ&オーズ MO

【VIE大戦MEGAMAX】から先取り登場したのは……」

アंक「この俺、アंकだ！」

映司「……アツクウウウウー!!」

エイジス「お前大丈夫なのか（絵心的な意味で）」

エイジ「……」

エイジス「王環？」

エイジ「…何故だろう、火野の所のアंकと分かっているのに…殺意が湧くのは……!」

映司「やめてええええええ!!」

リマジ000の世界のアंकは、人間態の見た目がオリジナル基準です

士「待てよ、冷静に考える、アंकさえ連れて来れば映司の洗脳解けるんじゃないか（18話終了時点!）」

ヒナ「そのことで、作者からアナウンスがあつたわ」

全「……?」「」

ヒナ「……」今回、アंकを出すつもりは（スピンオフ以外では）ありません」

全「……マジかああああ!!?」「」

シヨウイチ「そりやそうだ…アंक呼んだら、解けて当然だ」

ソウジ「それ以前に、」が を止めてくれる!」という希望が打ち砕かれているDCDRWだぞ?」

カズマ「ユウスケなんて、夏映画ネタでXと戦うってガチなの?」

ユウスケ「むしろ、ソウジさんの例が通用したのってスーパー1V  
Sスカイライダーぐらいじゃあ…」

ヒナ「じゃあ、ライダーマン誰が止めるのよ…」

弦太朗「えっと、その方式で行くと…V3じゃなさそうだよ…」

シロウ「止める気もないかな？」

ハヤト「2号は？」

1号「君が出てくる時点で私はいないから…」

リョウ「ZXは…？」

ユリコ「あ…SPIRITSネタで行くとなると、濃厚なのは1  
号かV3、ストロンガー、ライダーマン、スーパー1だけ…ス  
カイライダーのような気がするのはなんで？」

ケイスケ「アマゾンは？」

カズヤ「さあ…」

ヒロシ「そもそも、DCDRWで敵側であるがばかりに出番の少な  
い洗脳サイドの皆さん（ただし火野さん除く）は？」

洗脳チーム「orz」

ネタバレにならない範囲で言いますと、48話執筆段階でエイジ  
スマジナイスセーブ状態

士「まあいい、今日のお題はなんだ？」

カズヤ「今日のお題は…」

ヒロシ「宇宙…」

弦太朗「…キターツ！」

ケイスケ「…というわけで、フォーゼだ！」

アंक「フォー…ゼ？」

映司「しまった、アंक絶対分かってない！」

エイジス「えつと…確か、ロケット頭で…『宇宙キター』で…『総てのライダーとダチになる男』」

士「エイジスの認識もヒデエ！」

ヒロシ「宇宙関係ということで、今回の審査員は…」

沖「宇宙！」

筑波「キターツ！」

神「…」

カズヤ「超楽しそうですね、宇宙そそと空コンビ」

ケイスケ「俺、スーパー1とスカイライダーのこと重力コンビって呼んでるんだけど（低減装置と制御装置的な意味で）」

カズヤ「え？俺『そら』コンビ』」

ヒロシ「まあ、結局どっちもサゴーズになれますけどね？（ライ街の沖さんと筑波さんが）」

神「何でサゴーズになる人間は変にチートなんだろうか、一部を除いて」

風見（出番はここだけです）「宇宙といえばロケット、ロケットといえば星ノ宮…というわけで、星ノ宮町出身三人組とそのオリジナル（ライ街から連れてきた）だ」

ワタル「沖さん達、これでライ街本編の出番少なかったら切ないですよ？」

沖「その心配は来年頃にする！」

アंक「フォーゼ…ロケット頭…」

ソウジ「うーむ、俺はイカだと思っていたんだが」  
シヨウイチ「イカ!？」  
エイジ「俺は、おにぎり」

シンジ「なんかあの人の怖いんだけど、発想が」  
カズマ「全部ありえるよね」

映司「ガクガクブルブル」

シンジ「で、あの人は何を震えて？」

ユウスケ「きつと、マジックハンドで投げ飛ばされた衝撃を覚えて  
いるんじゃない」

エイジス「そういえば、フォーゼって色々なモジュールがあるんだ  
つたな」

士「ああ。ロケットとかドリルな」

エイジス「だったら、色々描いたりしてもいいんだろっか」

士「ランチャー!？」

ユウスケ「ガトリング!？」

エイジス「おおいッ!」

弦太郎「でもさ、そもそもフォーゼの適合とかはしないのか？」

全「「「あー」「」」

士「作者によると、『フォーゼのベースステイツに“なら”誰でも  
なれる、ただしスイッチの適合がカオス』らしい」

弦太郎「何故に!？」

ソウジ「人によって、どのスイッチに特化しているのかが変わると  
いうことだろうっか」

シヨウイチ「弦太郎がファイヤーステイツで、炎を吸収できるよう  
にか？」

カズマ「人ごとにスイッチの進化の仕方が違うって奴かな」

全「「じゃあエイジスはファイヤー・ガトリング・ランチャー特化か」」  
エイジス「おいッ!？」

ケイスケ「ちなみに神さんはチエーンアレイ・チエーンソー・スパイク・ウインチ特化」  
ヒロシ「筑波さんはマジックハンド・ランチャー・ドリル・レーダー特化+重力低減装置で自由飛行」  
カズヤ「沖さんはエレキ・スモーク・ステルス・カメラ特化」  
士「なんか一人フォーゼとして酷いのがいるぞオオオ！」

ちなみにオーズと違う所は、他のスイッチも使えることだけです  
大きく違うのは、特化スイッチを使ったときの強化能力

」  
」  
」

カズマ「みなさん、できましたかー！」  
士「フッ、自信作だぜ」  
シンジ「そんなこと言っている奴が、真っ先に墮ちるんだぞ」

ユウスケ「シンジさん、漢字違う」

ワタル「じゃあ、本郷ハヤトさんから行きましょう」

弦太郎「いきなり上手い人から!？」

アスム「上手な人だからこそ、です」

タクミ「皆さん、これが正解のフォーゼです!」

> i 3 5 9 4 5 — 3 2 1 5 <

全「「安定して上手すぎるだろおおおお!」「」

弦太郎「これ、後でプリーズ!」

沖「スイマセン、スパー1を!」

筑波「スカイライダー!」

神「Xを…!」

ヒロシ「続いては…誰から行ったほうがいいかな」

ケイスケ「もう、フィリングで決めた方がいいよな」

カズヤ「赤心少林拳、合掌…」

士「赤心少林拳の技を使うほどのことか!？」

カズヤ「見えた…火野映司さん!行って下さい!」

映司「うん、逝く!」

> i 3 5 9 4 1 — 3 2 1 5 <

弦太郎「すっげえええ!全体しつかりしてるううう!」

1号「これが、『出れば必ず1位』の実力…!」

映司「あーでも、今回本郷さんいるから…」

ハヤト「そのことだけど、俺、罰ゲーム免除&評価対象に入らないことになったってさ」

全「「マジで!?!」「」

ケイスケ「じゃあ何でやるんだ!？」

ハヤト「俺が知るか!」



筑波「無個性」

カズヤ「無個性」

沖「無個性」

ヒロシ「影が薄くなっているせいで無個性な絵しか描けないんですか？」

士「ぐあああああああああああ！」

シヨウイチ「大体士の絵は、いつもインパクトに欠けているんだ」  
ソウジ「ああ……」

士「インパクトの酷い奴らに言われたくないぞ!？」

ユウスケ「残りの4人は、顔ぶれからして不穏な空気漂ってるよな」  
神「じゃあ…適当に、アंक」

ワタル「なんで先に怖いものを見たがるんですか!？」

アंक「はっ、見る、俺のフォーゼを！」

映司「アंक… コアメダルが割れたせいで、性格改変起こってないか？」

アंक「正常だ！」

> i35948 — 3215 <

全「…本当だ、正常だ（絵の酷さ的な意味で）!」「」「」

シンジ「しかも宇宙人いるし！」

弦太郎「確かにロケットだけど、…頭あああああああああああああああああああ」

ユウスケ「待て弦太郎、お前、こんなスーパー1描いておいて人のことを言えるのか!？」

> i333938 — 3215 <

沖「コオオオオオオ…!」 鬼の形相で梅花の型

弦太朗「前に見た鬼神キターツ!？」  
筑波「皆、避難だー」  
全「「「はい」」」

現在先輩ライダーからの折檻中…

弦太朗「屍

沖「じゃあ、次」

ケイスケ「じゃあ…芦河シヨウイチさん」

シヨウイチ「任せる!」

> i 3 5 9 4 6 — 3 2 1 5 <

ユウスケ「怪人イカ男オオオ!」

イカデビル「呼んだ?」

シゲル「巢に帰れ!」

筑波「イカって言うより、これ、クラゲだよな?」

シロウ「そこか?」

ユウスケ「うっ、うーん、何なんだろう…さっきのシヨウイチさんの反応を見る限り、ソウジさんに同調していなかった時点で、イカじゃなかったっばいけど」

ケイスケ「足が10本でもないしな」

夏海「どっちなんですか?」

シヨウイチ「…イソギンチャク…?」

全「「「何それ新しい!」」」

筑波「それじゃあ…王環エイジさん!」

エイジ「…」

> i 3 5 9 4 4 — 3 2 1 5 <

夏海「怪人おにぎり男オオオ！」

士「それ以前に、…タツチ酷すぎるうううう！」

エイジ「仕方ないだろオオオ！お前らの感覚でペンを握っただけでぶっ壊すんだぞオオオツ！？」

映司「相当加減して持たないと、こっちはならないよな…」

エイジス「…王環をビリにするのは筋違いだからな、それ以前の問題だ」

沖「安心してくれ…：… 人事に思えないから」

筑波「むしろ、ビリにしたら一文字さん辺りに殺されそうな気が」  
神「彼も評価対象から外そう。うん」

ワタル「じゃあ…：ヒロシさんのせいで死亡フラグ確定した、ソウジさんのフォーゼは」

ソウジ「ん？」

> i 3 5 9 4 7 — 3 2 1 5 <

全「…：アंकよりヒツデエってなんぞこれ！？」

ヒロシ「ドルルバスター！ドルルバスターって！！！」

カズヤ「しかも、『イカ』から外れていない…：ちゃんと10本！」  
ケイスケ「でも発想が病気！」

弦太郎「あーでも、モジュールてんこ盛り…」

タクミ「どっかのX先生みたいな流し方で逃避しないでね！？」

〜

カズマ「ちなみに、評価対象にはなりません…」

シンジ「沖さん達には、既にフォーゼを描いてもらいました」

全「何ですと!?!?!」

沖「ちょっと待、それだけは…それだけはあああ!」

神「……………」

筑波「?」

ユウスケ「レッツ・ファイト!」

> i 3 6 0 4 3 — 3 2 1 5 <

画：神敬介

> i 3 6 0 4 2 — 3 2 1 5 <

画：筑波洋

> i 3 6 0 4 1 — 3 2 1 5 <

画：沖一也

> i 3 6 0 4 4 — 3 2 1 5 <

画：如月弦太郎

士「おいちよつと待て最初、病気…ソウジより発想の病気イイ!」

タクミ「二番目可愛い！可愛いけどー！」

アスム「弦太朗さんがまともに見えるって…こんなものってないです…！！」

ワタル「三番目…人参ですか、人参フォーゼですか！？」

沖「左手は大根だ！」

全「…」  
「…」  
「…」  
「…」

シンジ「そして、若干ネタバレ臭が漂うのは何故」

ヒロシ「でも、アंकだって華麗に酷いんだよ」

ケイスケ「ああ…実は、楽屋で待機している間、これまでの絵心大戦のお題を描いてもらったんだ」

カズヤ「そして…その結果が、これだ！」

> i 3 6 0 3 7 — 3 2 1 5 <

スーパード

> i 3 6 0 3 8 — 3 2 1 5 <

スカイライダー

> i 3 6 0 3 9 — 3 2 1 5 <

X

> i 3 6 0 4 0 — 3 2 1 5 <

プロティラ

沖「おいコラ口の中から手エエエエ！」

筑波「何このスカイライダー酷いを飛び越してるううう!？」

神「…メタグロエックスかあああああああ!！」

映司「アソクウウウウウウ!！」

エイジ「よりもよってグリード態かよおおおお！」

エイジ「シャウタ回を見せてもらったが、お前映司の次に描けな  
いとおかしいんだぞ!何故そうなった!？」

アソク「覚えているのと、絵のセンスは…別だ!(ドヤアツ」

沖「…」

神「………」

筑波「ぐっす…ぐっす……orz」

現在、昭和荘の折檻組おかんによる成敗中…

アソク「」 屍

映司「で、今回一番上手かったと思う人は?」 スルー

死のトライアングル「」 映司さん「」

映司「やった!」

エイジ「ちよつと待て、ツッコミどころ放置か!？」

エイジ「名前!名前表記が!！」

ヒロシ「何も間違っていないですよ?」 そもそも死体

ケイスケ「だよな」 自分も他人も死亡フラグ  
カズヤ「もう諦めた」 他者への絶大な死亡フラグ  
エイジ「諦めるなアアア！」

ユウスケ「じゃあ、2番目は…」

東北（村雨除く）組「…エイジス君」

エイジス「よっし！」

士「ぐっ、だが3番目は俺のものだ…」

筑波「いや、俺、案外ソウジさんの好きなんだけど…」

全「…へ！？」

プトテイラ「プトもー〇〇」 机からシャシャシャウター

ヒナ「何か出てきた！？」

神「それを言い出したら俺だって、天堂さんを推したいさ」

士「発想の病気同士、何か惹かれあってるのか！？」

筑波「もうソウジさんでいいんじゃないですか」

シヨウイチ「いや、ちよつとそれだけは」

神「？」 ブラカワニスタンバイ

士シヨウ「…すいません調子乗ってましたアアア！」

ワタル「じゃあ、ビリは？」

沖「アंक（スーパー的な意味で）」

筑波「…アंक（スカイライダー的な意味で）」

神「アंक（X的な意味で）」

カズヤ「アंक（スーパー的な意味で）」

ヒロシ「アंक（スカイライダー的な意味で）」





Ride 019：見つけたり！仮面ライダーの主張その7

龍騎『【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】、はてさて、次に絶叫するのは』

サゴーズ「よし、この空気ならシャウタいける！」

ガタキリバ「Shout outしてこい！」

シャウタ「行かないからな！」

龍騎『シャウタの予定はありません』

シャウタ「うん、俺の愚痴なんて主張の場に出したら皆後悔するからやめたほうがいい」

タジャドル「いや…お前の場合は腹の中のもの全部ぶちまけた方がタトバ「うん、割と本当に」

スーパー1「おいお前ら、そろそろ主張していいのか？」

オーズ兄弟「」「あ、どーぞ」「」

スーパー1「えー、DCDRWを読んでいる皆さん…こんにちは。

スーパー1です」

V3「またの名を、DS先生です」

スーパー1「後で締め上げる」

リュウガ「華麗な犯行予告！」

ブラカワニ「ナチュラルに言ったね」

スーパー1「さて、DCDRWの見所といえは何か分かる人」

サゴーズ「戦えないディケイド」

ガタキリバ「暴走するディケイド」

タトバ「役に立たないディケイド」

ラトラーター「どうしようもないディケイド」

タジャドル「価格の破壊者が存在の破壊者になる」

シャウタ「ディケイドライバーのないディケイド」

プトティラ「タジャ××より役に立たないじけーど○○」

ディケイド「ちょー！」

リュウガ「前々から思っていたけど、オーズ一家ってディケイドにかなり恨みがあるのか…？」

龍騎「え、マイ弟…お前よく絞めてるのに意外と殺意持ってないんだね」

リュウガ「言うな、忘れてたのに」

タジャドル「暢気に構えて俺のカード盗られた奴」

ガタキリバ「シャウタどうしたシャウタ」

ラトラーター「プトティラに高い肉買わせようとした」

サゴーズ「俺へのカメンライドどうしたカメンライド」

シャウタ「うちの子騙そうとした」

タトバ「お前映司さんに続くコンボ狂だろってぐらいにタトバの出番がない」

プトティラ「プトに高いお肉買わせようとした！><」

ディケイド「orz」

X「そういえば、タジャドルのカードって返って来たんですけどっけ？」  
V3「さあ」  
スカイライダー「返って来たんじゃないですか？」  
リュウガ「いや、この間（＝14話）返されたのってクウガ系統だけじゃ」  
ストロンガー「クロックアップは返されてないよな……」  
オーガ「返してもらったところで、使えないし」  
ブラカワニ「パパンの出番は？」  
ブレイド「そのうちありますよ」

この後、作者がタジャドルミスに気付き執筆中だった23話を加筆修正してきました

ついでに、Xと土の会話も若干追加してます

リュウガ「メチャクチャ要らない情報提示するなアア！」  
龍騎『23話は“オーズとシャウタとタジャドル不憫”だよ！』  
タジャドル「変なタイトルつけるなアア！」  
プトティラ「-m-」 不機嫌  
龍騎『プトティラも一応出ます』  
プトティラ「ぷーい！><」  
ガタキリバ「俺は！？」  
ブラカワニ「パパンは！？」  
サゴゾ「俺はどうなんですか……」  
ラトラーター「俺…俺は！？」

龍騎『その前後を含めるなら、…サゴゾドンマイ』  
サゴゾ「ちつくしよおおおおおー！！orz」  
リュウガ（どうしてだろう、……第一次シャウタ・タジャドル戦争



スーパー1「……必殺技が出てない」  
全「……は？」

スーパー1「考えても見る……これまで俺、っていつかDCDRWの  
スーパー1は何をしてきた！」

スカイライダー「えっと、確か……」

- ・ 赤心少林拳合掌
- ・ 赤心少林拳梅花
- ・ 赤心少林拳諸手打
- ・ エレキ光線
- ・ 超低温冷凍ガス

スカイライダー「でし、たっ、け……？」

スーパー1「その他の技が出ていると思うか？」

V3「その他って何かあったっけ」

タジャドル「えーっと、」

- ・ スーパーライダー月面キック
- ・ スーパーライダー梅花二段蹴り
- ・ スーパーライダー閃光キック
- ・ スーパーライダー旋風キック
- e t c . . .

タジャドル「とか、ありましたよね。確か」

スーパー1「その中で、出てきた技は？」

タジャドル「……」

スーパー1「ないだろ？ないだろ??」

タジャドル「……ハイ」



シャウタ「なんか今回、プトティラは昭和重力コンビのフォローで忙しそうだな」

龍騎『歌で誤魔化せませんね』

タジャドル「おいコラ」

ラトラーター「じゃ、仕方ないんで、…X先生」

X「はい？」

ラトラーター「スーパー1先生とスカイライダー先生って、仲いいんですか悪いんですか？」

全「…何その腐女子の喜びそうな質問！」「」

腐女子二人「ワクワク！」

X「あつ、あー、…あー…うん…うん、…V3先生…」

V3「俺に助けを求められても困るぞ！」

ライダーマン「私も答えませんよ」

ZX「っていうか、あんたぐらいじゃないですか…スイカ先生と同期で、DS先生と同じマンション住んでるのは！」

X「そんなこと言われたって！」

ガタキリバ「なんでそこで誰も答えられないんだよ！？」

サゴーズ「ああ、腐女子達が次のネタを仕入れんとばかりにメモ帳や何やらを装備している！」

ちなみにスイカは実家通いです

リュウガ「仕方がない…アホ兄貴！」

龍騎『はいはい。スカイライダー先生って弄った時のリアクションが某絶叫アギト並みですからねー、きつと、それをいじり倒すのが楽しんでしょスーパー1先生』

タトバ「安定の龍騎すぎる！」

ベルデ「…」スイカの件でDSに脅された経緯あり

オーガ「疑問に思ったんだけど、月島兄弟といい…うちの先生達と  
いい、ライダータウンの沖さんと筑波さんといい、スーパー1とス  
カイライダー仲いいですよね」  
龍騎『DCDRWのスイカとドSは、いずれ大喧嘩するけどね？』  
リュウガ「もつと言うと、沖さんは泣く泣くカベムツコロスカイラ  
イダーの面倒を見ているんだと思うぞ」

〃  
〃  
〃

ケイスケ「で、…なんで必殺技を出せないんだ？」  
ヒロシ「ある意味俺もただけだね？強化後色素なのに」  
シロウ「色素言うな」

カズヤ「え、えーと、それは…その」  
士「？」

カズヤ「なんか、必殺技の名前叫ぶのが、…恥ずかしいなあ  
つて…orz」

ケイスケ「お前、やる必要のないのに『ライドルホイップ！』とか宣

言しないといけないX舐めんなよ」

シロウ「普段のキャラ崩壊と言わんばかりのV3クオリティ舐めるなよ」

ヒロシ「カズヤ…アマゾン加入までスカイキックで通してきた俺への愚弄？」

カズヤ「なんかごめんなさい！」

ハヤト「第一、お前、『チェンジ、グリーンハンド!』とかは普通に言ってるだろ」

カズヤ「だって…あれはスイッチだけ押すんじゃないで、声に出して言わないと起動しない仕組みで…!」 公式設定

ヒロシ「なんで？」

ケイスケ「そういえば親父が、『誤作動などが起きない為に、二重ロック機能を掛けている』って言ってたな」

カズヤ「そう、それ…」

リョウ「だけど、赤心少林拳の技は声に出すよな」

カズヤ「orz」

ヒロシ「ナイスツッコミです、リョウさん！」

シロウ「今のは上手かったぞ」

シゲル「さあ、これで必殺技を出す時に声を出さなくちゃいけないなっただな！」

カズヤ「だって…」

全「…?」「…」

カズヤ「 恥ずかしいものは恥ずかしいんだってばあああああ！  
何と言うか、厨二病みたいで！！」  
シゲル「それ言ったら昭和全員厨二になるだろうがあああ！」  
ハヤト「もつと言え、Xがかなり重度の厨二に」  
ケイスケ「すんな！勝手に！！」

アマゾン「 “チュウニ” って？」

1号「…土のことだ」

アマゾン「分かった！土、チュウニ！！」

土「おい1号覚えてろ！」

弦太朗「いやいや、カズヤ…そこはもう少し押さえて、自由にやっていこうぜ」

カズヤ「だけどさ…」

弦太朗「お前は生真面目すぎるんだ！今こそ、硬い殻を破って…青春を謳歌するべきなんだ！！」

カズヤ「何故青春の話に！？」

ユリコ「私なんて、『電波投げ』！ですよ。恥ずかしいにも程があるんです、でもこれしかないんで言うんです」

シゲル「俺なんて何の捻りもないからな、『電キック』とか『電パUNCH』」

ハヤト「俺なんてもはやカオス」

ジョージ「…特定の必殺技のない私よりは…カセットアームの名称を叫ぶだけの、私よりはいいじゃないか…」

シロウ「お前真面目ない子ぶるんじゃないぞ」

ヒロシ「ホントA型って生真面目で融通の利かない人多いよね、俺もA型だけど」

1号「私なんて出番すら…」

アマゾン「？」

リョウ「さあ、頑張って言うんだ！カズヤ君！！」

カズヤ「だって…だって…orz」

ケイスケ「カズヤ、【仮面】ライダーだからこそ…できること  
だってあるんだぜ…？」

カズヤ「ふえ…？」

ケイスケ「仮面で顔見えないから、恥ずかしいもクソもなく  
色々ぶつちやけられるだろ」

カズヤ「それケイスケだけだよ」

士「なんか、あいつら楽しそうだな」

ユウスケ「だけど、必殺技を宣言する…か」

映司「ダブルやフォーゼは一般的だけど、うーん」

（以下映司の妄想（元々技名を言う人は除外））

デイケイド「デイメンションキック！」

クウガ「マイティキック！」

キバラー「ソニックスタンプ！」

デイエンド「デイメンションシユート！」

キバ「ダークネスムーンブレイク！」

龍騎「ドラゴンライダーキック！」

ブレイド「ライトニングソニック！うええーい…！」

ファイズ「クリームゾンスマッシュ！」

アギトTF「ライダーシユート！」

タトバ「タトバキック！」

ガタキリバ「ガタキリバキック！」

ラトラーター「ガツシユクロス！」

サゴーズ「サゴーズインパクト！」

タジャドル「プロミネンスドロップ！」

シャウタ「オクトバニツシュ！」

プトティラ「グランド・オブ・レイジ！」

ブラカワニ「ワーニングライド！」

タマシー「魂ボンバー！」

〈妄想終了〉

映司「駄目なぐらい厨二だった。タジャドルの違和感がないのが不思議なぐらい、それ以外皆…厨二だった」

全「…おいタジャドルお前の相棒のメダルのコンボだぞ」「…エイジス「あいつもう末期だからな。厨二の」

タジャドル「末期じゃねえええよおおお！…！」 トライドで壁破壊

全「…なんかキターッ！？」

タジャドル「俺が末期なら…俺が末期ならなあ…！」 血の涙

士「分かった、分かったから落ち着け。落ち着けよお前！」

ヒロシ「赤いから血の涙かどうか分からないね」

士「そんなこと言ってる場合か！？こいつどうにかしろ！」

ヒロシ「無理」  
ソウジ「頑張れ」  
シヨウイチ「じゃあな」  
シンジ「知らね」  
カズマ「バイバイ！」  
士「コラアアア！」

プトティラ「タジャ××うるしゃいね」 オマケでついできた  
トライド『グオン（訳：無自覚なのが逆に怖いよ）…』  
エイジス「まあいい、クッキーでも食うか？」  
プトティラ「うん○○」

シロウ「さあ、根性見せるんだ…カズヤ！」  
ハヤト「ガラスの仮面を被るんだ！」  
スーパー1（カズヤ）「無理です…無理です…あぁあ…orz」  
リョウ「赤心少林拳の技は言えるのに？」  
スーパー1「orz」 追撃貰った  
ヒロシ「頑張つていこー」  
ケイスケ「あ、ちなみに、攻撃対象は…海東大樹な」  
海東「本編の復讐かい!？」

スーパー1「スーパー…らいつ…orz」  
シゲル「まずそこからかアアア！」  
スーパー1「だって…技の前に『スーパーライダー』の時点でエエ」  
1号「なんと言うことだ、そこが最大の課題点だったとは」  
ハヤト『『スーパーライダー』言わなければいいんじゃない？』

スーパー1「…旋風キーツク！」

海東「うおーたーすいつちツ！？」

シロウ「何か足りないな」

ケイスケ「足りない理由は分かるけどな」

ヒロシ「カズヤ…『スーパーライダー』を手前につけない旋風キーツクなんて、個性がないにも等しいからね？スーパー1を代表する月面キーツクなら尚更」

スーパー1「他人事だと思っただけえええ！？」

ヒロシ「他人事だよ？だって俺…スーパー1じゃないし…スカイライダーだし…」 本来なるはずだった人

スーパー1「 全力でごめんなさい！」

ケイスケ「頑張ろうか、うん」

スーパー1「スーパーライダー…閃光キーツク！」

鳴滝「めでいかるすいつちツ！？」 巻き込まれ

シゲル「おお、やっぱこっちがしつくり来るな」

スーパー1「恥ずかしい…恥ずかしいよ…orz」

リョウ「赤心少林拳…」

スーパー1「それはもう言わなくていいですつてばあああ！」

Ride019：見つけたり！仮面ライダーの主張その7（後書き）

（次回予告）

スカイライダー「さて、皆揃ったか？」

士「おい、今日お前だったのかよ！何でこんな格好にした！..！」

夏海「何でエイジさんだけ免除なんですか！」

スカイライダー「何故か？そんなの決まってるじゃないか..！」

スカイライダー「えー、俺の専門教科は歴史。ということでは..歴史の教科書を開こう」

ブテイラ「ぷーい〇〇」

ハヤト「なあ、V3先生のように変な授業しないよな」

スカイライダー「..一応、“一文字高校で一番まともな授業”と言われているんで、そこは安心してくれ」

シロウ（それ以外は..？）

ソウジ「元気を出すんだ、スカイライダー先生」

ショウイチ「ソウジの天堂教、久々にキターッ!？」

Ride20：授業体験！スカイライダー先生編

Ride020：授業体験！スカイライダー先生編

ケイスケ「ここは、本郷町にある一文字高校：」  
ヒロシ「今日は特別に、授業体験が行われるのだ！」

夏海「何で私、ミカンの着ぐるみなんですかあああ！？orz」  
士「俺なんて、もやしだぞ！」

海東「僕はナマコだよ？うう、着ぐるみだと分かっているのに寒イボが」

ユウスケ「俺なんて、俺なんて人参：！」

ワタル「僕、キャビアです」

シンジ「俺、団子です。むしろ“だご三兄弟”です」

カズマ「カルボナーラです」

タクミ「羊です」

ショウイチ「リンゴ：だと：orz」

ソウジ「大根」

アスム「僕はローストチキンですよ？」

映司「俺：おにぎり」

エイジ「俺ケーキ」

ヒナ「私、なんで菱餅なの？ひな壇繋がり??」

エイジス「見ようによっては、タカゴリバの配色だな」

普通

弦太朗「バガミール、キターッ！」　ハンバーガー

ヒロシ「ハイハイハイヘーイ」　蟹

カズヤ「なんで、卵？」

シロウ「俺はレタスだ」

ハヤト「ナス」

アマゾン「レモン」

ジヨージ「パプリカ」

1号「タマネギ」

リョウ「トマト」

シゲル「ジャガイモ」

ユリコ「…なんでキウイ？orz」

タトバ「パン」

タジャドル「鶏…？」

ガタキリバ「バナナ」

ラトラーター「ドラゴンフルーツ」

サゴーズ「豆腐」

シャウタ「なんで…イカ？」

プトティラ「プトはプリンだよ！○○」

ブラカワニ「パンはパイアだったよ」

トライド『グオオン（訳：親父なのにパイアやって）…』

頭部に

カボチャの被り物

ケイスケ「…俺だけ納得いかない！」　メイド服

全（（（コイツ順調に女装キャラにさせられてきてるな…）））

## キーンコーンカーンコーン

スカイライダー「さて、皆揃ったかー？」

士「おい、今日お前だったのかよ！何でこんな格好にした！！」

夏海「何でエイジスさんだけ免除なんですか！」

スカイライダー「何故か？そんなの決まってるじゃないか…」

全「…」

スカイライダー「1号校長の強制命令だよ！相手校長だから逆らえないんだよ！！」 大号泣

士「そんなくだらない理由でこうなったとか…ふざけんなあああ！！」

ヒロシ「ヘイ？ヘイヘーイ」

ユウスケ「ヒロシはヘイガニ語をやめようか！」

スカイライダー「後、エイジスは今回の着ぐるみの代金とか出してくれたから免除らしい」

全「…おつまああああ！！」

ケイスケ「あの、それで、…なんで俺メイド服なんですか…！？」

スカイライダー「世間の荒波に揉んでやってください、というオリジナルのXさんからのお達し&差し入れでした」

ケイスケ「最悪だあの天才オオ！orz」

士（おい、このまま恥ずかしい着ぐるみなんて冗談じゃないぞ！）

夏海（絶対私、名前呼ばれるときに『ナツミカン』ですよ…）

海東（こうなったら、ボイコット…は今更無理だから、【DS先生作戦】でいこう。それで相当堪えるはず！）

ユウスケ（……って、それスカイライダー先生虐めじゃん！やめと  
けて、後でスーパー1先生とかが怖いから……！！）

スカイライダー「えー、俺の専門教科は歴史。ということで……歴史  
の教科書を開こう」

プトティラ「ぷーい〇〇」

ハヤト「なあ、V3先生のように変な授業しないよな」

スカイライダー「……一応、“一文字高校で一番まともな授業”と言  
われているんで、そこは安心してくれ」  
シロウ（それ以外は……？）

スカイライダー「えー、それでは……体験授業だし、プトティラの進  
みに合わせるけど、大丈夫か？」

リイマジ昭和「……はい……」

オーズ一家「……お願いしまーす……」

クアトロオーズ「……全然OKです……」

ケイスケ「脱いでいいですか」

スカイライダー「気が済んだというより、可哀想なのでよし」

ケイスケ「おっしや」 全力ダツシュ

ヒロシ「ハイハイガツ？」

カズヤ「だからハイガニ止めようか！」

プトティラ「んとねー、23ページからだよ！」

スカイライダー「じゃあ……800年前に起こったと言われている、  
王とグリードの戦いについてだな」

プトティラ「ぷぷぷぷーい〇〇」 ノート取り出しながら

ラトラーター「ちゃんとノートあんの！？？」

スカイライダー「知らないノートあげました」

ガタキリバ「本当に比較的まともな方だよ、スカイライダー先生！」  
ケイスケ「…復活！」 その辺にいた筑波の服奪ってきた

シゲル「ケイスケお前追い剥ぎしてきただろ！」

ヒロシ「ハイハイ？」

ソウジ「『筑波さんつて186cmじゃなかったっけ、服の丈は大丈夫？』と言っている」

全「『何故分かる！？』」

ケイスケ「大丈夫、誤差4cmはズボンの裾ちよつと捲くつて埋めてるから！」

スカイライダー「えー、じゃあ、この部分を…そうだなあ」

士「おい、スイカ先生」

スカイライダー「スイカじゃないよ!？」

夏海「そうでしたっけ、スイカライダー先生」

スカイライダー「だから」

海東「まあ、さつさと授業を進めてくれないかな。スイカ先生」

スカイライダー「…じゃあ、ぐすつ…シゲル君…」

シゲル「（大丈夫かこの先生…？）はい」

シゲル「えー、800年前、錬金術師によって作られたコアメダルを使うことのでかつての王は…」

士「おいスイカ、あんた彼女いるのか？」

スカイライダー「スイカじゃないって!っというか、今授業中だから…」

夏海「士君、失礼ですよ。スイカライダー先生に謝ってください」

スカイライダー「あの、だから…」

海東「まったくだよ。さ、スイカ先生、授業を遠慮なく続けたまえ」

スカイライダー「orz」

シゲル「しかし800年前、特別な10枚目のメダルを使って変身した王は」……」

士「スカイ先生、X先生以外の友達っているのか？」

スカイライダー「あの、だからね……」

夏海「スカイ先生！気にしないでいいですよ、士君のことは」

スカイライダー「あ、のね……」

海東「まったく二人とも、やめてくれないか。スカイライダー先生を困らせるのは」

スカイライダー「……ぐつず、スカイじゃ……スカイ……スカイ……o

rz」メンタルガタキリバモード

士「スカイ先生」

夏海「どうしたんですか、スカイ先生！」

海東「大丈夫かい、スカイライダー先生」

1号「……えげつないな」

アマゾン「先生、可哀想」

映司「しかも、かごめかごめで取り囲んでスカイ連呼って……あれキツイよ、相当」

士海夏「……スカイ！スカイ！スカイ！スカイ！スカイ！」

スカイライダー「……うわああああああん！スカイじゃなああああ

ああああーい！！」

プトレイラ「……しゅかいらいだーせんしえ苛めないの！><」

プテラ氷結

土海夏「……」 氷結

全「……よつしやああああナイスポトティラアアアア！」「……」  
シャウタ「うちの子いい子！」

タジャドル「今回はかりはGJと言わざるを得ない！」

スカイライダー「スイカじゃない……スイカ違う……orz」

ケイスケ「あーあ、どうするんだよ……かなり凹んでるぞ」

エイジス「もはや授業どころじゃないな」

スカイライダー「スカイだもん……空を飛ぶライダーだもん……空を飛ぶスイカじゃないもん……orz」

映司「ヒナちゃん……元々は、ヒナちゃんがギャグNOVEL大戦だからって、スカイライダー先生を『スイカ』扱いしちゃったのが……」  
ヒナ「私のせい！？」

ソウジ「元気を出すんだ、スカイライダー先生」

シヨウイチ「ソウジの天堂教、久々にキターツ！？」

ソウジ「確かに、名前を間違えられることは辛いかもしれない……だが、それで凹んでいてどうするんだ」

スカイライダー「だって、だって皆して事あることにスイカって……ぐすっ……」

ソウジ「親から貰った名前は、確かに大切なもの……それで馬鹿にされるのは、辛い。その気持ちはよく分かる……」

スカイライダー「うっっ……」

ソウジ「自分の名前にもっと誇りを持つんだ。君は空を飛べるライダー……スカイライダーなのだから」

スカイライダー「うわあああああ……！教組様アアアア……！！」

シンジ「おでーん」

カズマ「おでーん」

ワタル「おでーん」  
タクミ「おでーん」  
アスム「おでーん」  
ユウスケ「おでーん」  
映司「おでーん」  
エイジ「おでーん」  
ヒナ「おでーん」  
弦太郎「おでーんキターッ！」  
シヨウイチ「久々の『おでーん』コール……」  
エイジス「でも、今回は仕方がないよな。うん」

スーパード「お、まだ授業してたのかスイカ」  
V3「頑張れよスイカー」

スカイライダー「orz」 またメンタルガタキリバ  
全「……あんたらはアアアアア!?」  
ケイスケ「 X先生、X先生、出勤お願いします!場所は、本郷  
二丁目にある本郷町立一文字高校… B棟3階にある特別教室です!  
!」  
カズヤ「沖さん!ライダータウンの沖さん、サゴーズのメダルとオ  
ーズドライバー貸しますんで、ちよつとオーズ兄弟の世界のスーパ  
ード先生絞めてください!!」  
筑波「後、俺の服も持ってきてくれたら嬉しいです…」 ケイス  
ケがさつきまで着てたメイド服

スカイライダー「スイカじゃないもん…スイカじゃ……ぐっすひっ  
ぐっすひっ……orz」



シヨウイチ「おい、誰かアレどうにかしろよ…」

ソウジ「うーむ…彼の心の闇は深いなあ」

シゲル「結局授業になってねえし…」

ヒロシ「ハイハイ」

筑波「スカイライダー先生、その気持ち凄く分かりますよ…」

スカイライダー「ううっ…」

筑波「俺だって、俺だって、子供の時は佃煮とか言われていて…弁当箱に一度、友達の軽い悪戯でイナゴの佃煮びっしり詰められましたからね？」

ユウスケ「何そのイジメ！」

タクミ「それを何故笑顔で言えるんですか!？」

筑波「スカイライダー先生の弁当はどうですか…白ご飯がスイカの实になつていたり、おかすがスイカの皮の浅漬けになつていたりとかしてないでしょう？」

スカイライダー「はい…」

筑波「…確かにからかい半分で言ってきたりする人も居るかもしれないですけど、スカイライダー先生の場合は、むしろ愛されていますよ」

スカイライダー「そんなことないですよ…特に、特にスーパー先生辺りが…」

筑波「世の中には、素直になれないばかりに天邪鬼行為を取る人だつています。そういう人じゃないですか、あの先生」

士「…」 天邪鬼

エイジ「…」 天邪鬼

海東「…」 時々ツンデレ

ケイスケ「…」 若干ツンデレ

シロウ「…」 ツン

ガタキリバ「…」 参考：NOVEL大戦SUMMER

ラトラーター「……」 上に同じく  
シヨウイチ「……」 ツンデレの権化  
スパー1「え、俺別にツンもぐっ」  
X「黙ってましよう」 Dの口押さえつつ

筑波「考えても見てくださいよ……俺だって、ライダーブレイクで壁ぶっ壊したりする個性がなかったら、今頃このスピンオフにも出れていませんでした」

スカイライダー「はあ……」

筑波「スカイライダー先生だって、……辛いかもしれないですけど……スカイ扱いされることにより、個性が確立し、今こうして出番があるんです。……1号校長やZ先生、ライダーマン先生よりも！」  
ジョージ（物凄い誤爆がアアア！）

筑波「辛いかもしれないけど、耐えるんです。……明けない夜も、春の来ない冬もないんですから」

スカイライダー「でも正直耐えられません……冬を越す前に冬眠、いや永眠しそうなくらい精神やばいですもう……orz」

筑波「負けたら駄目ですって！見てください、あそこにいる若者達は、あなたよりずっと辛いんですから！！」

ヒロシ「ヘーイ？」 冷凍保存された死体、S-1になる予定だったがゴッドシヨッカーが遺体を盗んでスカイライダーに、ヒロイン扱いその1

ケイスケ「……」 謎の心臓への一撃、ヒロイン扱いその2、自分の軽率さで父親死亡、避難させた住人の大半が拉致or死亡

カズヤ「……」 両親を亡くし、祖父を亡くし、兄を亡くしその兄は改造人間、兄のために夢と人としての体を捨てた

シゲル「……」 友がストロンガーの検体となり失敗・その後廃棄

シロウ「……」 父と母と妹をV3の検体にされ失った

リョウ「……」 記憶を奪われ（しかも一生戻らない）、人としての体の部分も殆ど残っていない

ハヤト「……」 協力を拒絶したばかりに改造、暴走してコールドスリープ

1号「……」 結婚式当日に誘拐、改造人間になった自分の姿に絶望し変身解除不可能

スカイライダー「ごめんなさい、俺が馬鹿でした……! orz」  
筑波「分かればいいんです……!」 ちなみに父はネオショッカーに殺され、母親は城茂を助けた所を殺された

沖「ファイト……!」 両親他界、育ての親のヘンリー博士を失い、ドグマの襲撃で玄海老師・弁慶含めた赤心寺の人達を失う、漫画版ではバダンシンδροームに掛かって変身不可能

X「頑張れ……!」 両親他界、今の育ての親とは血が繋がっていない  
せいでイジメ経験あり

ケイスケ（なんでだろう……なんで今日は神さんいないのかな!）

父を失い、婚約者とその妹を失い、漫画版では左腕を落とされ捕

まった上に暗闇大使によって操られている

キーンコーンカーンコーン

全「……結局授業にならなかった（主に馬鹿三人のせいだ）！」「」「スカイライダー」「うっ……ぐすっ……」  
アスム「あの、大丈夫ですか？」

スカイライダー「……ひろーん！！！」

沖「しまったあああつ、筑波教ができあがったあああああ！？」

ハヤト「掛け声作ればその場で立教かよ！？」

ユウスケ「……別にいいけど、筑波教って何を説くんだ……？」

シンジ「……ライダーブレイク？」

カズマ「壁破壊？」

ヒロシ「ハイハイ？」

Ride020：授業体験！スカイライダー先生編（後書き）

（次回予告）

龍騎「【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】…さてさて、続いで  
の主張はナンジャラホイ？」  
全「「ナンジャラホイ!?」」

ZX「なんかもう既に昭和リイマジ内でもスーパー1・スカイ  
ライダー・Xの三人が主人公争奪戦に走っているような展開だから  
だよおおおお!!」  
スカイライダー「あ、大丈夫、それないから!…スカイライダーむ  
しろ…重い、から……」  
X「…あつちのXは…うん、……うん……」

シゲル「後はアレだ、ベターに…ライバルを作る!」  
士「おいおい、俺達の中にライバル関係がいると思ってるのか?」  
海東「えっ!?!」

Ride21：BADAN！仮面ライダーの主張その8

Ride021：BADAN！仮面ライダーの主張その8

龍騎『【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】…さてさて、続いての主張はナンジャラホイ？』

全「『ナンジャラホイ！？』」

シャウタ「だったら、V3先生そろそろ…」

V3「えー」

タジャドル「もう、ラトライターとか」

ラトライター「めんどい」

ガタキリバ「サゴーズは？不遇を叫ぶチャンスだぞ」

サゴーズ「それだったら、タトバのほうが…」

タトバ「ええー…？」

ZX「…俺が行こう！」

龍騎『事務員の仕事は忙しいんだからな！？…って言うのはなしですよ』

ZX「おい先手取るなあぁあ！？」

スーパー1「そのつもりだったのかよ！」

ZX「でも実際には、忙しいんだからな！プティラとグローイングの面倒見てるけど、掃除にゴミ捨てに書類整理に授業料の受け取り・保管管理にプリント印刷etc…とにかく忙しいんだからな！



全「「「あ」「」」

ZX「…オーズはまだいいですよ！？今のところ、作者が唯一（動画サイトを使ってまでも）全話視聴できたライダーですから！デイケイドに関しては…：…まあ、構成上の関係で仕方ないとして」  
デイケイド「おい！？」

ZX「出番は、出番はちゃんとあるんですか…：…主役回とも言える話はあるんですか！私はそれが心配でならない…：…何故なら、」  
タジャドル「何故なら？」

ZX「…なんかもう既に昭和リイマジ内でもスーパー1・スカイライダー・Xの三人が主人公争奪戦に走っているような展開だからだよおおおお！！！」

スカイライダー「あ、大丈夫、それないから！…：…スカイライダーむしろ…：…重い、から…：…」

X「…あっちのXは…：…うん、…：…うん…：…」

ZX「余談だけど、ヒロイン争奪戦もその三人で枠を奪い合っているようなもんだと聞く！」

スーパー1「待て、主人公とヒロインが1枠ずつと考えると…：…余ったやつはどうなる」

ブラカワニ「そこ！？」

龍騎「余った奴は、生存フラグ獲得者ってことでFAにしときましようよ」

全「「「やだよそんな展開イイ！」」」

サゴゾ「…：…つてか、それ、主人公かヒロインになる＝死亡フラグじゃん！」

ガタキリバ「スノウのことが、ダンのことかあああああ！」  
ラトラーター「メルヘヴンとバトスピブレイヴ、二つとも知ってい



ブラカワニ「パパン…スーパーショーツク！orz」  
タツクル「あんまりよ…そんなの、そんなのおお！！」  
スカイライダー「そんな、…死亡フラグなんて微塵もなかったはずなのに…どうしてええええええ！！」

ZX「どうしよう、…生きていて欲しい…全員生きていて欲しいよ…！！」

ストロンガー「誰か一人でも死んだら、駄目なんだよ…生きるよ…  
…生きる…！！」

V3「短冊を！今すぐ、クリスマスツリーに短冊を！！」

X「七夕じゃないんですよ！？」

リュウガ「畜生…ちつくしよおおおおお…！！！！」

~~~~~

リイマジ昭和「…物凄く気になる終わり方するなアアアア！！」

昭和荘メンツ「…何これ酷い！！」

士「しかし…何気にあっちのZXは心理を突いてきたぞ」

海東「ってか、ディケイド見ているはずなのにこの不遇さって…orz」

orz

ユウスケ「仕方ないだろ、書きやすさって言うのもあるんだ」
シンジ「後、その作品を知っているかどうかと…愛」
映司「あ、最後ありえる気がする」

翔太郎「まあ、これまでの傾向からすると…」

デイケイド チートすぎるが故に冷遇傾向

デイエンド 上よりも酷いので当然冷遇

キバーラ 個性が薄い

クウガ とりあえずシンプルなので出しやすい、ただしDCDRW
では敵側であるせいで出番低め

アギト 上同様の理由

龍騎 作者のお気に入りライダーであることが強い、何気に全話視
聴済み+49話ボロ泣き、オリマジシリーズ記念すべき1作目のラ
イダー

ファイズ 全話見ているけど基本的に押されガチ

ブレイド 出番は多いがそれはカズマとして、ブレイド自身の戦闘
描写は少ない

響鬼 技が多い上に面倒なので冷遇傾向

カブト シンプルな技も多い反面マスクドフォームの出番が少ない、
DCDRWでの出番は少なめ

電王 イマジンが面倒臭い

キバ 未視聴が響いてか出番少なめ&冷遇傾向

ダブル そもそも出ている作品自体が少ない、ちなみに作者はジョ
ーカーの方が書きやすかった

オーズ 絶賛優遇中、オーズ兄弟効果ヒデエ。亜種のヒナ・コンボ
の映司・強力のエイジ・策士のエイジスで住み分け出来ているのも
大きい

フォーゼ 放送中の上に登場作品もDCDRWなので試行錯誤中

1号 そもそも52話執筆段階で存在皆無、鹿児島から本気出す
2号 メイン回自体がない予感がする

V3 ポジション迷走

ライダーマン 技術者としての出番は多い、戦闘は…

X ライドル便利

アマゾン 2号同様にメイン回の危機

ストロンガー チャージャップエ…

タツクル 彼女の戦闘描写に割く余裕がない

スカイライダー スーパー1のアイデンティティ奪った

スーパー1 スカイライダーにアイデンティティ奪われ、ファイブ

ハンドも冷熱・エレキ・スーパーしか出番なし

ZX SPIRITS 読みながら頑張る

BLACK メンゴ

タトバ 不遇

タジャドル 映司のせいでそこそこの優遇、ただしオーズ兄弟では不憫

ガタキリバ そこそこの出番

ラトラーター 誰か挽回してやってくれ

サゴーズ 終末なら強い

シャウタ エイジスのせいで比較的優遇

プトティラ ぷーちゃん効果かそこそこの優遇

ブラカワニ そもそも現段階でエイジスしか変身者該当者がいない

ワタル「理由最悪すぎるじゃないですかアアアア！」

アスム「こんなのつてないです…！」

シゲル「メイン回があるかないかって、スゲエ重要なんだな…！」

筑波「そうそう。…いいよな、皆、メインの話があつて…俺なんて

『8巻の最後らへん〜9巻の序盤辺りまでがスカイライダー編じゃないのか』って噂すら……」

沖「俺なんて、一時期、新の3巻後半〜4巻序盤までの展開で『へタしたらX編になるぞww』とまで……」

シロウ「筑波さんの場合は、奪還できる場合が一つだけあるだろ」
筑波「はい？」

シロウ「 ジンドグマ編の主役をスーパー1から奪って……」

筑波「それ凄く無理がある！」

神「そもそもジンドグマ自体が、ドグマと共闘してライダーや赤心寺の人達のいない青森の街を襲うんじゃないかって気がするんだ」
ヒロシ「そもそも、筑波さんの場合、ネオショッカーが既に壊滅したのが痛いですよね」

筑波「うん、そう……ネオショッカーいなくなったの結構痛いんだよね……!orz」

ケイスケ「今年の冬映画ネタになるけど、……銀河王とかサドンダスは……？」

シンジ「あー、そういえば、ストロングベアーとかスーパー1の劇場版の敵か……」

筑波「そこまで詰め込んで、終わると思ってる？」

全「……ないです」「」

村雨「ところで、義経が死ぬってマズ」

全「……シヤラアアップ!」「」

沖「orz」

ワタル「そんなことよりも、

どうやれば目立てると思いますか

！」

ハヤト「さあ？」

アスム「こうなれば、謎の召喚術で呼び出した装甲声刃を持ち出すとか…！」

タクミ「いや、それ、世界の法則崩れるからね！？」

士「それより…現行で出番のある奴が、不遇ライダーに変身する…？」

ヒロシ「…」 安定性強い

ケイスケ「…」 序盤の置いてけぼり状態を除けば存在感満載

カズヤ「…」 今のところ皆勤に近い？

リョウ「…」 ZX登場したばかり

シゲル「…」 存在感それなり

シロウ「俺は免除…か…？」 出番は微妙

ユリコ「私も免除、よね」 同じく微妙

エイジス「さて、寝るか」 今のところ存在感強い

シンジ「…」 存在感自体パネエ

ケイスケ「超・絶・却・下」

弦太郎「だよな…」

神「こうなったら、悪役に立った+洗脳されたのを利用して、悪逆非道の限りを尽くすとか」

シゲル「あんた本当に仮面ライダーか！？」

ユウスケ「いや、ライ街だと多分アレで平常運行だと思う…」

ワタル「悪逆非道って、何をすればいいんですか」

士「…え、お前、人に聞かなくても分かるだろ」

海東「快樂のための処刑とか？」

ワタル「あんたらライフエナジー吸いますよ」

筑波「分かった、…強烈な個性を残す！」
カズマ「例えば？」

筑波「あの鉄板をバイクに乗った状態での体当たりで破壊！」
全「…お前一人でやれ！」「」

ケイスケ「無理してフォームチェンジ・必殺技決める必要ないんだし、とにかく動けよ」

カズヤ「おーっと、なんか体育会系的な凄い一言が…」

ヒロシ「そういえばケイスケってさ、モップに消火器・箒・鉄パイプ…色々使ってない？」

リョウ「つい最近では、エイジスのオーズドライバーを使っていたよな…仁さん」

シヨウイチ（生身でのリアルファイト凄すぎないか、あいつ）

シゲル「後はアレだ、ベターに…ライバルを作る！」

士「おいおい、俺達の中にライバル関係がいると思ってるのか？」
海東「えっ!？」

シゲル「こいつ偉そうだないつかぶっ飛ばしてやるぜって奴は」

ハヤト「こいつ生意気だな隙を見て吹き飛ばしてやるって奴なら」

城「仲いいな、お前ら」

風見「喧嘩するほど何とやら…な」

シヨウイチ「それか、そうだな、濃い背景を持つ！」

ワタル「シヨウイチさんみたいにディーブな黒い過去は要りません！」

アスム「そうですね！夏海さん捕まえてミカンジュース的な」

シヨウイチ「未遂じゃい！」

映司「未遂でも駄目ですよ！？」

タクミ「ベルト剥ぎとか！」

シヨウイチ「仕方ないだろ、土がしつこすぎたんだ！」

エイジ「前科満載かよあんた！」

ソウジ「俺の例題で言えば」

シヨウイチ「やめえええい！お前のは作品ごとに違つとはいえ、黒すぎるんだよオオオ！」

ソウジ「渋谷隕石で両親を」

シヨウイチ「そしてよりによってHeaven'sかよオオオオオ！？」

ハヤト「分かつたぜ！」

土「うわあ絶対期待できねえ」

ハヤト「今の所、一番出番のある奴と積極的に会話すればいいんだ！」

ケイスケ「うげっ！？」 今の所一番出番のある奴

アスム「あ、それ結構お手軽ですよね！」

海東「よし、これで影の薄さは解消……」

「一文字」……いや、人間ドラマ面じゃなくて、そもそも戦闘時の扱
いの悪さをどうするかって話じゃないのか？」

DCDRW洗脳組「……ですよー……！orz」「」

士「やはり、チートを手に入れるべきだ」

海東「チート奪われてるもんね、士」

シンジ「チート言うな！つか、チートすぎるから冷遇されてるの忘れてるなお前ら！！」

ソウジ「チートがあっても、展開上の都合で出番が少ない人はとことん少ないぞ？」

カズマ「何この説得力！」

シンジ「後、キャラが多いのも問題だよね……」

タクミ「確かに、主役サイドにしても…洗脳サイドにしても、何人か減ってくればいいんですけど……」

映司「早くて…40話以降だっけ、洗脳サイドに動きがあるのって士「お前らはいいいよな、後は減るだけなんだから！……俺らなんて…洗脳されていない限りこれ以上減りようがないんだぞ！」

村雨「分かったぞ」

沖「嫌な予感が…」

カズマ（むしろ、なんで昭和荘の皆が屯っているんだろう）

村雨「目立っていない人間が、最期に輝ける希望…それは、」

・「俺に任せて先に行け！」 瓦礫に埋もれる

・「後は任せた！」 敵と相打ち死亡

・瀕死の重傷、恋仲相手に「お前のこと、好きだった」 最期の抵抗で敵に一撃

・敵とフルパワーのぶつかり合い、最終的に押し負けて死亡

・インパクトの残る死に方（首チョンなど）

・黒幕orラスボスのかませになる つまり死亡

・瀕死の重傷、誰もいない路地裏で「ざまあ…ないな…」 死亡

・最終決戦、相手を称えて死亡

・最低一人残らなければ開かない仕組みの扉などのトラップ発動、
「絶対に、救ってくれよ…この世界を」 死亡
・巻き込まれ覚悟で爆発寸前（範囲・威力共に大きければ大きいほど有効）の敵を空中に回避させ死亡
・敵に精神を乗っ取られ「俺ごとこいつを倒せ！」 死亡

村雨「 どうだ!?! 」

全「「「『 どうだ!?!? 』 じゃねええええよおおおおー!?!? 」」

「

リイマジ昭和「「「しかもそれできるのって（俺/私）達だけだろ
うがああああ!!!」」」

エイジス「全部死亡フラグだろ…!」

エイジ「だが、それでもレヴァなら…レヴァならきつと!」

エイジス「死ねってか!」

カズヤ「あの中のいくつかが、実際にありそうで怖いんだ…俺」

ヒロシ「首チョンパが?」

ケイスケ「何気に一番怖い奴言うんじゃないよ!」

Ride021：BADAN！仮面ライダーの主張その8（後書き）

〈次回予告〉

士「（中略）答えるヤモリジン。どうやってスカイスイカーを操った！！」

スカイライダー「新しすぎだろそれえええ！？」

アポロガイスト「スカイスイカに…スイカ！…」

カズヤ「つぶつぶつぶ…！」

ヒロシ「あはははは…！」

特にヒロシも、スカスカスイカとしてゴッドショックカーに利用されていた立場のh

ヒロシ「スカアアアイ！」

スカイライダー「ラアアアイダアアアアッ！」

筑波「（俺は）空を飛べる仮面ライダー…スカイライダーだッ！」

Ride022：トンデモNG集！1〜20まで

ライダーはオーズ兄弟の世界からのスタントです
アフレコ時のミスの際には、（ア）が付きます。ただし名前はラ
イダー名のままなので注意

Episode 1：始まり

プトティラ「ところで、ぷちよらちのねばんは？〇〇」
タジャドル「…これ、スルーしていいのか」
ガタキリバ「お前がスルーしなかった時点で、もうアウト」
ラトラーター「プトティラに一発取りを要求するなよアホ」
プトティラ「とこりよで、ぷとたちのりえばんは？〇〇」
タジャドル「…レポッ、…ごめんどうしても気になった…！」
ガタキリバ「スルー覚えるバーカ！」
タトバ「さつきからアホとバカに言われてるよ、タジャ××」

（中略）

何事もなければ、不変の生活。
だが…

カズヤ「うぎゃあああああああああー！」
ドンガラガツシャン！

士「…なんだ今の音は!？」

ユウスケ「カズヤ、カズヤー！」

カズヤ「…：負けなない…orz」 自転車のブレーキが利かなくて
ずっこけた

海東「なんだい、ナツミカンぐらいじゃないか、」
ユウスケ「どうした？」

海東「ごめん、メロンだった」

ユウスケ「…ナチュラルに気付かなかった」

夏海「ちよつとあなた達」

士「だはは…おまつ、あはは…だったら、…：笑わせるなあははは
ははは！」

ドンガラガツシャン！

士「」 電柱じゃなくて壁にめり込んだ

夏海「」 巻き添え

ユウスケ（これ、普通スタントいるよな…これじゃあまるで、体当
たり芸人だ…）

ケイスケ「海は…（以下省略）そして、総ての生命は海に還る…そ
う考えると、ロマン…チツ…ク…：」 体掻いてる

夏海「…ケイスケさん」

ユウスケ「無理…しないでください」

ケイスケ「ごめん休ませていくら台本でもアウト超アウト俺の
性分に合わない！」

ファイヤーコング「決まっているだろう…息子は博士に協力させる
為の人間にし、残りは殺す！」

ケイスケ「それで、どちらも違っていたら？」
ファイヤーコング「……」
ケイスケ「……」
ファイヤーコング「カンペ、カンペ……あつ、その場合は」
ケイスケ「カアアーツト！」

Episode 2：混戦、混乱

カズヤ「士はS-1の方に興味があるんだね？分からなくもないけど」

士「……」

カズヤ（士、セリ……）

士「おい美術スタッフ！スーパー1逃げてる、ドS逃げてるぞオオオ！！」

カズヤ「つていうか……スカイライダー先生！」

スカイライダー「ドSに殺られてケースの中に入れられた

カズヤ「宇宙に行くことが、俺の……俺達の夢だから、かな」

士「……なあ」

カズヤ「え？」

士「……あのドS、さっきとポーズが違うんだが。棒立ちから、梅花の構えを取ってるぞ」

カズヤ「つか、ケチって本人使うのもどうかと」

スーパー1「……飽きてきた」

この後、長話などの間にスーパー1先生が暇つぶしに色々なポーズを取りました

カズヤ「祖父から受け継いだ…赤心少林拳の力！ここで使わなくて、何処で使うー！」

(ア) デイケイド「カズマ！」

(ア) カマキリガン「…」

(ア) デイケイド「…」

(ア) カマキリガン「 休憩はいりまーす」

(ア) デイケイド「間違えた…カズヤとカズマ、間違えた…orz」

(中略)

ケイスケはそれを手に取ると、黄色の安全ピンを引き抜き……

ケイスケ「……」

夏海「どうしたんですか!？」

ケイスケ「ピンが硬くて抜けない…!」

クウガ「あー、よくある」

デイケイド「カマキリには…カマキリを使ったコンボだ!」

『Form Ride OOO-SAGORZO!』

デイケイド「…」

出番スタンバってたガタキリバ「…」

カマキリガン「…」

ガタキリバ「…休憩入りまーす」

カマキリガン「お茶、飲もうか」

デイケイド「orz」

Episode 3：甦りし太陽

士「(省略) なんなら、S-1でも盗んでみたらどうだ?」

海東「お断りするよ。あんなドSはこっちも扱いにく……」 手裏剣
頭に突き刺さる

士「海東オオオ！」

スパー1「……」 ケースの中から手を出して手裏剣投げた

カズヤ「……ところでケイスケ、“仮面ライダー”って知ってる……？」

ケイスケ「何だそれ……バイクでもつけてお面でもブイブイ言わせてるのか？」

カズヤ「……ぷっ」

ケイスケ「……笑うな……」

アポロガイスト「（省略）……さて、お前が仁敬一郎か？」

敬一郎「そうだとしたら、何だと言っんだ」

アポロガイスト「S-1システムを、我々の【神】の為に役立てていただくのだ……」

敬一郎「……」

アポロガイスト「……くうう、異世界の、異世界の呪いが……呪いが……！」

敬一郎「ああ。……何があっただんだ？」

ケイスケ「いや、無いならいいんだけど。……そうだ、今日の夕飯、おむりゃいしゅにしゅる予定……」

敬一郎「……」

ケイスケ「……orz」

敬一郎「頑張れ、頑張れ」

ヤモリジン「（中略）改造人間！その名も……スイカライダー……」
スカイライダー「おおい！」

カズヤ「土。スイカ“ライダー”ってことは……」
スカイライダー「ちょおおい!？」

土「（中略）答えるヤモリジン。どうやってスカイスイカーを操った!！」

スカイライダー「新しすぎだろそれえええ!？」

ヤモリジン「このスカイスイカ……」

スカイライダー「スカアアイドリル!」

ヤモリジン「グギユグバアツ!」

直後、スカイライダーの放った、ドリルのように腕を回転しながら殴る“スイカドリル”……

スカイライダー「お前もかナレーター!」

カズヤ「……ヒロシ!」

ヒロシ「なにー?」

全「……そこで返すなアアア!」「」「」

カズヤ「……はい、」

ケイスケ「かじゅや。夕飯でききききききき……」

カズヤ「ケイスケ頑張って」

Episode 5：固い絆

子カズヤ「…天空…じゃなかった、月島…カズヤ、です」
子ヒロシ「月島ヒロシ…です」

子ケイスケ「“月島”？ってことは、…ああお前らか、ちゆきしま
しゃんが引き取った…」

カズヤ「…ケイスケの子役も噛むねえ」
ケイスケ「orz」

(中略)

“しゅかいライダー”という改造人間となって…
スカイライダー「ナレーターアアア！」

ケイスケ「(中略)お前らの好きなもの作ってやるからさ」
カズヤ「…ケイツ、…おかあさああああん！」
ケイスケ「誰が母だあああ！」

Episode 6：その名はスーパー1

夏海は、土の眠っている部屋に入る。

丁度起きたところだったのか、生まれたままの姿…

夏海「キヤーッ!？」

土「おまつ、ちよ、…早いんだよおお!？」

鳴滝「夏海君…今すぐ、私とともに来るんだ!早く」

夏海「きゃあああー!笑いのツボ、ツボ、ツボー!！」

鳴滝「ガひえrjはおい4mwq2-39、mkだおw9」

空中から、飛び蹴りを放つ存在がいた。
しゅかいらいだーだ。

スカイライダー「もういい…もういいだろオオオ！orz」

スカイライダーに、イモリジン。

その上…

ヤモリジン「ヤモリだヤモリイイ！」

(ア) デイケイド「カズヤ、お前…どうして改造人間を受けた！」

(ア) スーパー1「ちよ士」

(ア) スカイライダー「…」

(ア) デイケイド「もう嫌だ俺…！」

(ア) スカイライダー「ドンマイ」

アポロガイスト「(中略)普通の人間に渡すなど…裏切りの代償は
重いのだ！」

敬一郎「…」

アポロガイスト「異世界の、異世界の病気…！orz」床ダンダン
ケイスケ「…オムライス、一緒に食べるか…！？」 親近感

Episode 7：空と宇宙

(中略)

それは二人がそれぞれ、『スカイライダー』と『スーパー1』…
スカイライダー「だからあああああ！」

スーパー1「煩いぞスイカ」

(中略) 一撃を受け、スカイライダーはその場に倒れる。
スーパー1は地上に着地すると、……

スカイライダー「」 脳震盪起こして気絶

スーパー1「あれ?」

ディケイド「先生、やりすぎだ」

ヤモリジン「(中略) 【神】に勝てると思うな……!」

龍騎(ベルトはディケイドドライバー)「何か数え忘れてないか?」

…えーっと、ユウスケやー夏海やーあれ、海東って人からだっけ?」

ヤモリジン「指で数えるなアホオオオ!」

カズヤ「良かった、元に戻ったんだな…ヒロシ…!」

ヒロシ「カズヤ太った?」

カズヤ「何故開口一番にそうなるお前エエエ!」

カズヤ「とりあえず、ケイスケの家に行こう。ここだと、色々厄介だから」

ヒロシ「ケイスケの家かあ…夜這いしようかな」

カズヤ「おいコラアアア!」

アポロガイスト「スイカスイカに…スイカ1…」

カズヤ「つぶつぶつぶ…!」

ヒロシ「あはははは…」

ヒロシ「しゅかい、」

カズヤ「…」

ヒロシ「変身!」

カズヤ「続行!?!なあ、続行するのそこ!」

士「(中略)アंकはどうした。一緒じゃないのか？」

映司「…アंक、」

士「？」

映司「…アックウウウウー！！」 号泣

士「落ち着けー！？」

Episode 8：逃走

(ア) スترونガー「……くっそお、まだ追ってきやがる！」

(ア) タツクル「本当にこれでよかったの！？」

(ア) 「煩せえ！俺達をこんなワケのわかかかかかかか」

(ア) タツクル「落ち着きなさい！」

士「正気か。人間を改造して、総てのライダーに復讐しようとして
いる奴らなんだぞ！」

プトティラ「しよれが？」

士「……ッ、ぷくく……！」

ユウスケ「士、馬鹿、耐えろって！」

プトティラ「OmO」

シャウタ「…Kill you」 親指下に向けながら土睨む

士「死の判決食らった、俺！？」

スーパードーとしゅかいらいしやー…

スカイライダー「出落ちイイ！」

アポロガイスト「ぐうっ…！？」

シャウタ「おーよし、おーよし…」
デイケイド「何してるんだ、あいつら」
マイティ「…プトティラが、演技でもシャウタと戦いたくないって
駄々捏ねて」
デイケイド「おい、誰か代わり立てろ」
以降、音響を担当していたX先生がプトティラを代行してくれま
した

Episode 10：侵食世界

ガタトラドル「貰うね」
ザクッ！
ガタトラドル「…」 プテラ×3
ラトラーター「カーツト」
サゴーズ「ガタキリバ、もといガタトラドル…しっかりしてよ。こ
れで18回目だよ？」
タカジャバ「早いところ済ませて、タトバと頭で見分けのつかない
俺をどうにかしてくれ」
タカキリバ「ホント早くね」
ガタトラドル「ごめんなさい！」

神「ほう、リ・イメージションのカプトか…自分の世界を見捨て
てここに来たのか？」
(ア)カプトHF「ある男に任せてきた。…シヨウイチ達を洗脳
して、何をしようとしている！」
士「カツ…ト!？」
ユウスケ「合ってるよね、ある意味合ってるよね!？」

シンジ「 何でここにいますかぁッ!？」
ソウジ「この世界が、ある意味で最後だからだ」
シンジ「…はい？」
ソウジ「シンジ。……なんでお前が最後なんだろう」
シンジ「俺が聞きたい!」

Episode 11：疾風轟雷

シンジ「…何か？」
シゲル「何やってんだよ。こんな道のと真ん中で、うろついていたらゴッドシヨッカーの餌食だぜ」
シンジ「俺は探し人しているんだ。…ああ、そうだ、背が無駄に高くてひよる長くて生意気で写真を撮るのがヘタクソで自信過剰っぽい男を見なかつたかな」
シゲル「随分な言いようだな」

スーパードット「…チェンジ、エレキハンド……エレキ光線!!」
ガタキリバ軍団「…ギヤーツ!」
スーパードット「アーンド、赤心少林拳諸手頸動脈打!」
ディケイド「ゴボガツ!？」
スカイライダー「先生暴走しな!い!」

ブラカワニ「…それだけ、か…」 瀕死
ガタキリバ軍団「…な!この脚本無理あるんじゃない?」
ディケイド「50VS1って、普通に考えて…アレだろ」

ヒロシ「とにかく、宜しくお願いします」

シゲル「ああ！…それにしても、ゴッドシヨッカーから逃げ出せた
同年代の改造人間は俺とユリコの奴しかいないと思ってたが…なん
か心強いぜ！！」

ヒロシ「…年上にはタメ語使っなって習わなかった？」　ゴゴゴ
シゲル「ひいつ！？」

Episode 12：疑心暗鬼

士「…つたく、行くぞ、ナツメロン」

夏海「でも、土君…」

士「何の根拠もないのに疑うとはな。海東…しまった、ナツミカン
だった」

エイジス「遅ッ！」

ケイスケ「ああ、ちゃんと生きてるぜ」

カズヤ「…っ、…うわああああああ…！」

ヒロシ「よかった、これで夜這い出来る」

ケイカズ「…コラ！」

Episode 13：内通者

たーんたたー、たたったー

サゴーズ「…えっ、もう放送始まってんの？やば暴れん坊將軍のC

D聞いてたのに」
士「おいコラアアア！」

ユウスケ「海東、お前やれよ……」

海東「いや、台本どおり君がやるべきさ」

ユウスケ「だけど、エイジスだし演技と言っても後が怖いし……」

海東「それを言ったら僕だってねえ」

エイジス（こいつら……後で絞める）

神「冗談だ。ブレイドとファイズ、それから……ブイスリヤアア

ア！を寄越そう」

地獄大使「あつ……ありがたき幸せ！……ん？」

アポロガイスト「……成程。納得しました、ですが、……Xだけは狙わぬようお願いします」

神「フツ、お前の執着心も中々のものだな……」

アポロガイスト「お褒めの言葉として、受け取っておきます」

ヒロシ「ケイスケの貞操は俺のだからね」 舞台裏からシャシヤシャウター

アポロガイスト「おいそこ」

海東「そういえば士、朝からナツマロンもないんだ」

士「何？どういうことだ！」

海東「さあね。ただ、……マスターを探しに行ったのかもしれない」

ハルミ「どうしよう……」

カズヤ「どうかしたんですか？」

ハルミ「弟のマモルが、何処にもいなくて……」

ユウスケ「 何事もなかったかのようにミスを流すのやめようよおおお！」

「うつ、うわあああああ！」

「「逃げろおおお！」」

「「嫌あああ！？」」

エイジ「あつ、おい…！待て、今逃げたら逆に…！」

「「うおわあああああああああ！」」

「「ぎゃあああああああああああ！」」

どっかああああん！

エイジ「…おい、何があった？」

V3「あー、逃げようとしたエキストラと…やってきたスーアクさん達が、正面衝突」

クモナポレオン「ぐあああああ！？」

エイジ「邪魔は…させない！ 借りるぞレヴァー…！」

『タカ！クジャク！コンドル…！タージャードル』

スタンバイしてたサゴゾ「……」

エイジ「うん、ごめん！」

ズドオオオン！

フォーゼ「宇宙、キターッ！…あれ？」

エイジス「 瓦礫の下敷き」

Episode 14：闇の破壊者

デイケイド「答える…夏海！ユウスケ、海東…！」

デイエンド「土、 そんなもの、演技に決まっ…！」

デイケイド「黙らっしやあああああああ…！」 右ストレート

デイエンド「なばーむっ…！」

(ア) X「ここは本来、宇宙への夢が詰まった場所…今は時代の流れでしゅてらあああああああ！」

(ア) スーパー1「本当に落ち着いて！」

そう言いながら、軽くスーパー1の頭をライドルロングポールで小突くX。

おい、とスーパー1は文句を言おうとしたが、

スーパー1「Xお前覚悟しろよふーふふーのふー…！」

X「ちよ、演技、演技ー！？」

地上では、XとV3は互いのバイクで激突していた。

一見すると、得物を持っているXの方が有利かと思われる…

しかしV3は巧みなハンドル捌きでライドルスティックの攻撃をかわし、逆にハリケーンを急旋回させてクルーザーにタックルを仕掛けてくる。

V3「注文多くね！？あと、クルーザーに体当たりしたらX先生涙の海作るぞ！？」

X「クルーザー…クルーザーアアアア…！」

Episode 15：敗北

(ア) X「だが、俺に人としての感覚が欠けてしまったからこそ、人としてのかんきゃく…！」

(ア) ストロング「大丈夫か、おい」

(ア) X「…俺のセリフ長いんだよオオオオオ！」

シロウ「……」
ケイスケ「何か？」
シロウ「いや、…右腕を痛めた」
ヒロシ「ケイスケは俺の嫁ですからね！」
シロウ「……………そうか、そういう関係だったのか」
ケイスケ「違ーう！」

そう告げると、士は急に立ち上がり、休憩室から飛び出していく。
「士」とシンジは叫ぶが、
シンジ「止まらんかあああ！」 ラリアット
士「ググググバアツ!？」
昭和リイマジ「…止め方ひつでえええええ!」「」

Episode 16 : 激情

プトティラ「パパーン、おさんぽーおしゃんぽー〇〇」
ブラカワニ「はいはい」
プトティラ「ぶきゅーい!><」
士「…なんでこいつらが、あらすじを…ッorz」
(終了後)
プトティラ「ぶきゅーい!」 士弾き飛ばし
士「うごあああああ!？」
ブラカワニ「 虫の息

(ア) デイケイド激情態「退け、 稚魚は引っ込んでいろッ!」
全「……」
(ア) デイケイド激情態「中止にするならしろよ!」

士「(省略)今のあいつはお前にとってまさに、害でしかないからな」

シンジ「士！」 キック

士「すーぱーたとはこんぼッ!？」

ヒロシ「また長いねえ」

士「お前が俺に勝てるだけでも？」

X「その言葉、そのまま返す。…今のお前が、俺に勝ると本気で思っているのか？」

士「随分と自信があるようだな…その鼻っ柱、へし折ってやるぜ…
丁度肩慣らしをしておきたかった所なんだ」

X「ほう…」 教育指導スイッチON

エイジス「セイサイ・オン」 スタンバイ中

ジャーク將軍「ZX、【神】の命はこうだ…デイケイド達を襲撃しろ、ただし確実に封じるのはスーパー1だと。他は、追って指令を出す」

ZX「……」

ジャーク將軍「おい」

ZX「…ZZZ…」

ジャーク將軍「寝るなー！」

ジャーク將軍「居心地はどうだ？鳴滝」

鳴滝「あっはっは…んむっ？」 ワンセグテレビ見ながら煎餅バリ
ボリ

ジャーク將軍「くつろぐなアアア！」

Episode 18 : 戦力不足

エイジス「…さあ。あいつがどうしたんだ？」

士「俺のオーズドライバーを奪っていったんだ。…あれがないと…！」

全「…」

士「…だあああ、最近ではドライバーが多すぎるんだよおおお！」

キノコジン「くははは！【神】の言っていたことは本当のようだな
スーパー1「何ッ…！」

キノコジン「スーパー1はチェックマシンによるメンテナンスを
受けられないと、使いm」

スーパー1「長い」 赤心少林拳正拳突き

キノコジン「めておどらいばーっ!？」

スカイライダー「先生！苦戦して、苦戦してエエエ…！」

シオマネキング「ぐほっ!？」

ラキリゾ「…重いこの足…！」

サゴリーター「ラトラーター、もといラキリゾ！我慢して俺だって
この足速すぎ気持ち悪い…！」

ガタトラバ「あとトラクローで大根切れない！」

プトティラ「ぷくしゅん！ぷきゅしゅん！！T T」

フォーゼ「あー…スモーク、相当きつかったのか…！」

V3「撒きすぎたもんなー！」

Episode 19 : 笑顔の理由

ケイスケ（俺は…楽勝なんですけど、…海とか川に落ちること以外は）

ゴガアアアーン！

カズヤ「あ、失敗した」

そこから激しく血が飛び散り、真っ赤な汁がスカイライダーの腕から流れ落ちる。

スカイライダー「汁じゃない！」

タジャドル「逃げることはいつだって出来る。だが、大事なものは逃げないで戦うことだ…俺はそう思っている」

スカイライダー「……」

タジャドル「一人で無理なら二人だ。どちらも空を飛べるライダー、力を合わせることは容易い」

スカイライダー「ここまでカッコいいタジャドルに違和感」

タジャドル「先生ヒデエ！」

（ア）タジャドル「ヒロシ、同時に決めるぞ！」

（ア）スカイライダー「はい！」

（ア）タジャドル「敬語はいらん！」

（ア）スカイライダー「ええええ！？」

エイジス「まさか、あそこで体を張ってスイカ頭を止めるとはな…
が…んが…んじい「えっ、いや、」

シロウ「…スイカってお前…スカイライダーは味方だろう」

エイジス「俺はZXのことを言ったんだが…」

スカZ「…どっちにしてもスイカじゃないッ！」

～次回予告～

夏海「【キターツ！絵心大戦2012】：今回の参加者は、この人達です！！」

シロウ「これが宿命だ」

ハヤト「でも、罰ゲームを受けるのが誰か選ぶ権利もあなたにある」
リョウ「そして、罰ゲームの内容を決める権利も」

DCDメンバー「『『ないよ！ライ街の神さんが特殊すぎただけだよ！？』」

シゲル「なんか惜しい！」

タクミ「でも何処かムカつくー！」

アスム「殺意沸いてきますね！」

ワタル「キラキラしているから余計にそう感じますね！」

シロウ「抹消対象だな」

Ride023：キターツ！絵心大戦2012その6

夏海「【キターツ！絵心大戦2012】：今回の参加者は、この人達です！！」

タトバ「初参戦、タトバです！」

ガタキリバ「同じく初参戦、ガタキリバ！」

ラトラーター「以下省略！」

サゴーズ「うわー、緊張するなあ」

タジャドル「絵は少し自信ないんだよな…」

シャウタ「……」 SPIRITS13巻黙読中

プトテイラ「ぷ！」

ブラカワニ「パパン頑張るよー」

ママン「頑張りましょうね」

トライド『グオオン（訳：俺もかい）！？』

士「多いな！？」

ケイスケ「…大丈夫なのか…？」

ユウスケ「今回の審査員は…」

カズヤ「何故審査員からばらす！？」

カズマ「この人です！」

シゲル「聞けよ！」

乾巧「何で俺がこんな目に…！orz」

ヒロシ「ライ街の誇るツツコミ大王・乾巧さんです！」

海東「もはや見境ないね」

シンジ「さて、今回オーズ一家に描いてもらうお題は…」

シヨウイチ「だから…！」

ソウジ「皆も知っている、あのキャラ…そう！」

アスム「アポロガイストです」

リイマジ昭和「敵だろそいつうううう…！」

プトテイラ「おいしい？」

ケイスケ「食べられません！」

プトテイラ「あう」

ママン「どんな人なのかしら」

ワタル「そのヒントを言ってくれるのは…」

タクミ「ケイスケさんと敬介さんとX先生とAさん（仮名）です」

カズマ「ちなみに、Aさんはカーテン越しに話していただきます」

タジャドル「おいAさん本人だろオオオ！？」

ユウスケ「ところで、…今更だけど皆アポロガイスト覚えてるんじゃない…？主張の1回目で何故か出てたし」

ソウジ「安心しろ、主張を行う前の段階　つまり、Ride001の頃のタジャドル達+今回が初登場のママンさんを連れてきたから」

士「おい裏事情」

ケイスケ「ええっと…そうだな、…なんか頭がタジャドルっぽい
な」

プトティラ「えええ…タジャ××なの…-m-」

ケイスケ「違った、スーパータトバもとい…シャウタ達のマ
マ
ンだ」

プトティラ「ママンなんだ！○○」

士「そして、この態度の差！」

夏海「タジャドルさん…」

タジャドル「もういつものことだ…」

神「…神話の神をモチーフにしているそうだが、ぶっちゃけるとD
CDでは『く』なのだ』が口癖の嫌味な刑事だな」

ガタキリバ「なんかメタイ！」

タトバ「あー、相棒だったっけ…なんかシャウタに有利そうだ、今
回…！」

ラトラーター「頭の問題なら、タジャドルとか母さんじゃね？」

シャウタ「…」 絵描き中

X「うーん、なんだろう、…白いマントに…太陽のような形の盾…」

ワタル「X先生、ヒントが普通すぎます」

カズマ「もっとカオスなヒントで」

X「…え…？」

プトティラ「飛べる？○○」

X「飛べな…」

オリマジX「飛べます」 大変身

X「オリジナルとリイマジのXが一つの場所にイイイ！？」

カズヤ「あなたもXです、先生！」

アポロガイストは飛べません（多分）

Aさん『そうだな…やはり神話の神とあってか、神々しさがある』
オリジX「そうだったっけなー」

Aさん『それから、Xの宿敵とも言えるそのポジションはその人気に拍車をかけ』

リマジX「だっ たっけー？」

Aさん『そして、 爆発。ご所望なら今すぐにでも』

X「いや、しないでください本気で。皆も爆発描くなよ」

オーズ一家「「「はい」「」」

）
）
）

乾「マジかよ…マジでやるのかよ」

シゲル「諦めてくれ」

シロウ「これが宿命だ」

ハヤト「でも、罰ゲームを受けるのが誰か選ぶ権利もあんだにある」
リョウ「そして、罰ゲームの内容を決める権利も」

DCDメンバー「「「ないよ！ライ街の神さんが特殊すぎただけだよ！？」」「」」

プトテイラ「できたー！」
ママン「これでいいのかしら」
トライド『クウン…（訳：鼻痛いニオイきつ過ぎるだろこのペン）』
タジャドル「…??？」
ラトラーター「できたー」
サゴーズ「うっ、うーん…」
タトバ「こんなだったっけかなあ…」
ガタキリバ「…駄目だ、運に任せよう」
シャウタ「…よし、できた」

士「じゃあ、黙々と描いていたシャウタからだな」
シャウタ「分かった」

> i 3 6 6 2 6 — 3 2 1 5 <
全「…おいシャウタ真面目に描いてやるっよオオオオオ！…？」

ハヤト「あつ、なんだこれ、…一文字さんもいる！」
弦太郎「右側の一番上つて俺!？」
リヨウ「いや、このメンツだと村雨さん…か…？」
アマゾン「アマゾン、いる！」
ケイスケ「神さんが一番陣取ってるぞオイ！」
シロウ「“じん”だけに？」
ユウスケ「誰が上手いこと言えと！」

ソウジ「で、問題のアポロガイストは…」
シャウタ「右下」
シンジ「ちっさ！アポロガイストちっさ！！」
士「ところで、お前…今何巻まで読んでるんだっけ…？」
シャウタ「13巻」

海東「おかしいよ!? 13巻つてV3編じゃないか!」
夏海「後、ZXとJUDOが戦ってますよね!?!」
シヨウイチ「それで何故神敬介の比率が大きい!」
シャウタ「…さあ…?」

士「 シャウタには真面目に描き直してもらおう」
シャウタ「真面目だったのに…」

士「変な方向でな!?!」

ケイスケ「じゃあ…順番どおり、タジャドル行こう」

タジャドル「…」

> i 3 6 6 2 2 — 3 2 1 5 <

全「…」おい待てよタジャxお前エエエ!」「」

タジャドル「だから嫌だったんだ…!」

ガタキリバ「そんな問題じゃないだろお前!」

ラトラーター「なんと言う変態チツク!」

シャウタ「…」 無視

タジャドル「…せめて見て…! orz」

プトテイラ「タジャxの絵なんて見たらシャウタの目が汚れるから駄目!><」 タジャとシャウの間座る

サゴーズ「なんか今回ばかりは同意だ!」 席交代した

ハヤト「今度はガタキリバだな」

ガタキリバ「…いや、ラトラーター。ラトラーターで」

ハヤト「ガタキリバ」

シロウ「ガタキリバ」

リヨウ「ガタキリバ」

ガタキリバ「orz」

> i 3 6 6 2 3 — 3 2 1 5 <

シンジ「何故こんなムキムキマッチョになったあああ!？」

カズマ「剣とか要らないねお母さん!」

ケイスケ「これは…ないわー!」

ガタキリバ「いや、だって、碌なヒントもないし!」

ワタル「それにしたってこれは酷いですよ!？」

海東「これは、双子の弟が気になるね…」

ソウジ「ああ」

ラトラーター「別にいいけど」

> i 3 6 6 2 4 — 3 2 1 5 <

カズヤ「『頭がタジャドル』の弊害がここに…!orz」

ヒロシ「股間の…って何?」

ケイスケ「聞くなよ!」

シゲル「なあ…オーズ兄弟、全体的に駄目なんじゃないか…?」

シヨウイチ「ええい、次はサゴーズだ!」

ヒロシ「絵ぐらいは個性的に行こうね!」

ワタル「でないと、存在感本当になくなりますよ!」

タクミ「割と本当だよ!」

サゴーズ「わ、分かった…!」

> i 3 6 6 2 5 — 3 2 1 5 <

全「…おいオーズ兄弟全員絵へタクソか?」「」

サゴーズ「ちよつとおおお!?!」

タトバ「まだ出してすらいらないよ、俺!」

ユウスケ「それにしても、この絵、…酷い」

夏海「酷すぎます…」

ソウジ「まあ、アंकとか弦太郎君よりは…」

シンジ「あんたが言えた義理か！」

カズマ「今度はタトバだよ！」

タトバ「うえっへえええ…やだなあ、もおお…」

> i 3 6 6 2 7 — 3 2 1 5 <

シゲル「なんか惜しい！」

タクミ「でも何処かムカつくー！」

アスム「殺意沸いてきますね！」

ワタル「キラキラしているから余計にそう感じますね！」

シロウ「抹消対象だな」

タトバ「そんなこと言わないであげてえええ！頑張つて描いたのに
いいいー！」

プトテイラ「わくわく」

映司「…プトテイラ、いこうか…？」

プトテイラ「うん！」

> i 3 6 6 2 9 — 3 2 1 5 <

士「なんか酷（ry）」 ライドルロングポール×3

トリプルX「…」

シンジ「そこ！楽屋裏で何してんのー！」

エイジ「でも俺も同じことしてた」 士にアイアंकローしつつ

エイジス「言っていることと、今していることが一致していないぞ」

シヨウイチ「…こいつも、やるのか？」

シンジ「期待できませんよね…」

ブラカワニ「パパンシヨック！orz」

ソウジ「百聞は一見にしかず。とりあえずやってみよう」

カズマ「いいこと言ったはずなのに、『とりあえず』で台無しなのは気のせい？」

> i 3 6 6 3 0 — 3 2 1 5 <

士「何故だ…コメントに困る！」

映司「うん、俺も正直困った！」

カズヤ「ねえ、オーズ兄弟本気で期待できないんだけど！」

海東「そろそろ…真面目に描いている、よね？」

夏海「ずっと見ていましたけど、…赤と青のペン持ち出してみましたよ」

士「…アポロガイストって、赤と黒で充分だろ？」

ハヤト「なんか嫌な予感しかしないな」

シャウタ「できた！」

リョウ「じゃあ見せてくれ」

> i 3 6 6 3 3 — 3 2 1 5 <

ユウスケ「だからあああああ！？」

士「上手いよ、上手いけどな、方向性が間違っています！」

シャウタ「え、ケイスケの方がよかった？」

シゲル「そんな問題じゃねえよ！」

アスム「シャウタさん、根幹から間違っています！」

ワタル「あなた人の話聞いて絵を描きましょうよ！上手いですけど…！」

シャウタ「しまった、グローブ忘れた…！orz」

士「心底どうでもいい…！」

タジャドル「…どつでも…？」
プトティラ「ふう…？」

士はこの後、タジャドルとプトティラの連携プレーで炭もやしになりました

ママン「」

カズマ「なんでスーパータトバがママンなんだろう」

士「馬鹿、そこに触れるな」

シャウタ「母さん馬鹿にすると許さない」 ライドルホイップ二刀流
タクミ「あれっ…あのライドルどこから借りてきたの！？ねえ、ねええええー！！？」

オリマジX「…」 貸した張本人達

>i36631—3215<

シヨウイチ「ママンさん！これは…アポロというよりイカロスだ
ああ！？」

ママン「あら、そうだったかしら？」

シンジ「描いている時から怪しかったですよ！だって、明らかに
イカロスのうた】歌いながら描いていたじゃないですか！！」

海東「もう嫌だこの一家！」

全「…」こいつもやるの？」「」

トライド『グオオオオン（訳：そんな顔するなら何故呼んだ！
』？

ヒロシ「まあまあ、一応やるだけやってみようよ」

トライド『グオオ（訳：一応って）…orz』

>i36632—3215<

シゲル「ちょっと待て！トライドのほうがちやんと描く努力をしてるぞ！？」

シンジ「全員見習え！特にアポロガイストを描く気のなかったシャウター！！」

カズマ「違つよお母さん、『少し苦手』以前の問題だったタジヤドルだよ！」

シヨウイチ「それを言ったら、筋肉隆々の絵を描いたガタキリバだつて…」

ワタル「それなら貧相な絵のサゴーズの方が…」

アスム「変質者丸出しのラトラーター&ブラカワニさんの絵だつて！！」

士「発想の元を間違えたママンも処罰対象になるぞ！？」

プトテイラ「皆を虐めないでー！><」 プテラ氷結

DCDメンバー「『』」 全・員・氷・結

}}}

カズヤ「さて、士達が凍ってしまったので…」
ケイスケ「乾さん、あんたの判決を答える！」

乾「つつつても…酷いにも程があるぞ、今回」

X「シャウタの二枚目はスティックなのか、ホイップなのかそこが気になる」

神「あ、それは俺も思った」

乾「何故に!？」

シャウタ「ホイップのつもりで描きましたけど…」

乾「お前も答えんなよ!」

ヒロシ「さっさとお願いしますね」

乾「お前も安定した酷さだな!舌が!」

乾「……トライドベンダー1等賞」

全「……ですよね」

乾「って言うか、トライド以外本当に駄目だろ…ツツコミの本懐を果たしてもいいか!？」

カズヤ「どうぞ!」

乾「まずタジャドル: お前発想の病気だよ無駄に絵が綺麗な分病気が弦太朗や1号より際立ってんだよ!」

タジャドル「orz」

乾「ガタキリバ: お前なんでこんなゴツイ天使(?)みたいなのを思いついた!なんで海パンなんだ!?!おかしいだろ発想!?!」

ガタキリバ「: タジャドルよりは、いいと思います:」

乾「ラトラーターは: とにかく はやめろ はああ!」

ラトラーター「メンゴ!」

乾「お前後で殺す! : サゴーズは: サゴーズは本気でお前キャラの立ち居地やばくなってくるぞ! せめてお前の長所である時代劇ネタ入れるよ!」

サゴーズ「ごめんなさい! orz」

乾「シャウタは: …… まずお題を聞けお題の絵を描け神さん描くが一番上手いけどオオオ!」

ヒロシ「で、ビリは？」

乾「人の話聞いてないシャウタに決まってる…！上手いけど！」

タジャドル「駄目だ…シャウタに罰ゲームをさせるぐらいなら、俺をビリにしてくれ！」

乾「いや、お前充分ビリのレベルだよ！レベルなんだけどな！？」
プトティラ「プトモー！シャウタ虐めちゃだめえええ！！><」
ガタキリバ「すいません、このコーナーの罰ゲームって大抵酷いものばかりで…」

ラトラーター「正直、シャウタ死ぬレベルかもしれないんです！」
サゴーズ「俺達の明日のためにも、シャウタ殺さないで！」
タトバ「俺が、俺がビリになりますから！」

X「あと、あの子授業はちゃんと真面目にしているんです…授業中は本当に真面目ない子で、授業が終わった後も分からない所を質問したりとか」

スカイライダー「もう本当に、貴重ないい子なんです…！他の奴らなんて、リュウガとオーガ…とついでにエターナルを除いて不真面目ばかりなんです…！」

スパー１「他の兄弟と比べると運動神経はアレだけど、成績優秀で結構女子にモテてるから！」

ライダーマン「人の話を聞かないなら、ラトラーターだって相当なものだ！人がこれとこれは混ぜたら駄目だと言っているのにその薬品同士を混ぜたり…正直アホラーター、プトティラ以下ですからね！？」

V3「たまに大学入試レベルの意地悪問題出してもすぐ答えられるぐらいできる奴だから」

歌舞鬼「あの問題見どもの中では、オーガ・リュウガと並ぶぐらいにいい奴なんです…！胃の消化にいい料理のレシピ教えてくれ

たり、… お願い頼むシャウタに罰ゲームだけはやめてくれ私の良心
がいなくなる!!orz」

ファイズ「オーズ家の存亡が掛かっているんだぞ!」

リュウガ「頼む、シャウタを殺さないでくれ!」

ペガサス「お願いします!」

弦太郎「熱い友情キターッ!T T」 号泣

乾「何だこのフレンドリーファイヤー!教師達まで混じりやがった
!!!」

ケイスケ「シャウタ、皆に言うことは!」

シャウタ「俺なんかのために気を使わせてごめんなさいうん俺なん
て死ねばいいのにorz」

プトティラ「らめええええ!T T」

兄弟世界全「」シャウタアアア!」」

乾「悪化させんなアア!」

ママン「乾さん、ハーブティーでも飲んで落ち着きましょう?」

乾「…ハイ…ああ、普段の三倍疲れた……」

〈次回予告〉

エイジ「うおおおおおおお！小さいプティラあ
ああああああああああああああああ！！！」

映司「小さいタバ：ガタキリバ：ラトラーター：サゴーズ、シャ
ウタ：タジャドル：プティラ：ブラカワニ：スーパータトバアア
ア！」

エイジ「小さいシャウタお持ち帰りイイ！」

ヒナ「トリプルエイジ落ち着きなさい！」

X「調子に乗るの…やめようか…？」

ベキベキベキ…

士「ぎゃああああああ！骨折れる、粉々になる、鬱血する、血が
止まるううう！？」

ケイスケ「 助けて神さん！」

神「俺を頼られても…」

ケイスケ「俺の代わりにウエディングドレスを！」

オーズ兄弟全「「「なんで！？」」「」

R i d e 0 2 4 : 復 活 ・ シ ャ ウ タ の 一 日 1 0 c m

海東「皆は覚えているだろうか。【シャウタの一日10cm】という企画を」

ユウスケ「いや、あれ、企画じゃなくて…偶然そうなっただけだろ」
海東「まあそうだったにしても、アレは僕にとっては非常によかった。10cmの土を堪能できたし」

ユウスケ「ホント、これ以上にないぐらいいい罰だった」

海東「さて、何で急にこんな話を始めたか…知りたくないかい？」
ユウスケ「知ったら後悔しそうだから、言わなくていい」

海東「それではお話ししよう！」

ユウスケ「だからいつて!？」

海東「それは…この【DCDRWスピンオフ!】にて、復活するところが決定したからだよ!」

ユウスケ「うわぁ、とんでもない企画を復活させたなオイ!？」

海東「ちなみに、第二弾はサゴーズだよ」

ユウスケ「サゴーズ哀れすぎる!神さんの相談が見えた的な意味で!!!」

神「彼、後で、熱したカレー鍋の中に頭から犬神家の一族させようかな…」

ケイスケ「むしろ天国なんで、止めてもらえませんか?」

ヒロシ「でも、手の平サイズといえばワールドコレクタブルフィギュアもだよな？」

シヨウイチ「ワールド…なんだって？」

カズヤ「ワールドコレクタブルフィギュア。略してWCF…今、ゲ―センとかで取れるはずですよ」

シゲル「マニア心くすぐる出来だからさ、つついプレイしちゃうんだよなー！」

ハヤト「で、お金が大量に消えていくと」

シロウ「俺は、V3は確実に手に入れたぞ」

シンジ「10cmって…大体、WCFぐらいの大きさって思ったほうがいいのかな」

士「もつと言えば、ガンバライドカードぐらいの大きさだな」

ヒロシ「ところで、今回もしかしてWCFを愛でる回？」

海東「そんなわけないだろう。今回の企画は…そう」

プトティラ「ぷーい〇〇」 コップでかくれんぼ

海東「ちっちゃくなったオ―ズ兄弟の世界の皆と遊ぼう、というものです」

エイジ「うおおおおお！小さいプトティラあああああああああああああああ！！！」 テンションブラステイングフリーザ

映司「小さいタトバ…ガタキリバ…ラトラーター…サゴ―ゾ、シャウタ…タジャドル…プトティラ…ブラカワニ…ス―パータトバアアア！」 テンションマグナブレイズ

エイジス「小さいシャウタお持ち帰りイイイ！」 テンションオク

トバニツシュ

ヒナ「トリプルエイジ落ち着きなさい！」

V3「小さくなってケーキ食うのが夢だったんだ！」

シロウ「あんた平常運行過ぎるな」

スカイライダー「orz」

ヒロシ「お持ちかえりー」 テンションスカイハイ

スーパー1「小玉スイカ…」

カズヤ「こういう時ぐらい、虐めないでくださいね!？」

X「…orz」

ケイスケ「…ドンマイ」

ユウスケ「クウガ全部お持ち帰りしていいか!？」

士「ドラゴンなら別にいいんじゃないか？」

マイティ「あ、どーぞ。そのまま返さなくていいんで」

タイタン「むしろ、クウガとしての自覚を持たせてやってください」

ドラゴン「シャウタさあぁん!小さくなくてもハアハアハア」

ZX「駄目だ!あいつもう、末期だ!！」

リョウ「しかし、小さいライダーとただ遊ぶだけじゃつまらないな」
1号(リイマジ)「自分達も小さくなるのか？」

ハヤト「却下」

アマゾン(リイマジ)「?」

龍騎「それなら、かくれんぼ!」

シンジ「お前らが有利だろうが!却下」

ケイスケ「ところでさ…」

全「…?」「」

ケイスケ「ずっと思っていたんだけど、小さくてもスペックって変

わらないのかな」

エイジ「あ、確かに…：そうだな」

映司「プトティラの可愛さスペックは、小さくなって倍以上になっ
てるけどね」

プトティラ「ぷ？」

士「なら、Xのアイアンクローの威力も下がっているってことだな」

X「……………」 教育指導スイッチON

弦太郎・フォーゼ「セイサイ・オン」

X「…」 土見上げながら

士「はっはっは！身長180cm台を舐めてもらったら困るな！！」

ケイスケ「うわ、卑怯」 182cm

ヒロシ「でも、そんな士でも負ける人はいます」

スカイライダー「せーの」

ヒロスカ「筑波（さーん／くーん）」

筑波「呼んだ？」 186cm

X「私を持ち上げて、士の所に寄せてくれないか」

筑波「いいですよー」

士「げっ、反則だろ！村雨の次に高い奴出してくるの！！」

海東「それ考えると、でかいの二人に挟まれた沖一也って相当可哀
想だよな」

X「調子に乗るの…：やめようか…？」 士の右手小指締め上げ中

ベキベキベキ…

士「ぎゃああああああ！骨折れる、粉々になる、鬱血する、血が

止まるううう!?!」

海東「屍

沖「あ、映司君メダルとドライバーありがとう」

映司「いえ……初めて見ましたよ、あんな機敏な動きで月面キックを放つサゴーズなんて」

エイジ「稲妻閃光キックもな」

エイジス「しかも相手の攻撃は、総て梅花の型で受け流すしな」

ヒナ「海東さんも、余計なことしなければいいのに」

ヒロシ「えーと、小型化してもスペックに変わりはないと。そして、士と海東は馬鹿……と」

士「おい、その纏め!……アイタタタ、小指が変な方向に曲がった……」

海東「サゴーズ怖い……サゴーズオオ……」

サゴーズ「なんか俺のせいにされていそうで怖い!」

V3「実際そうだよ」

サゴーズ「そうなんですけどね!?!沖さんサゴーズが!」

ヒロシ「ところで、皆を縮めた薬って残ってないの?」

海東「……え、ないと思うよ」

ヒロシ「ちっ」

カズヤ「ナチュラル笑顔で舌打ち!?!」

ヒロシ「だって……薬があったら、小さいケイスケお持ち帰りできるじゃん……!」

ケイスケ「却下!」

スーパー1「くっそ、俺が大きくてスイカが小さいならコップの中

カズマ（美味しそうだなー）

ワタル（適当に土さんと夏海さんにして、幸せ絶頂の所を突き飛ばしてケーキにダイレクトアタックさせましょうかね）

タクミ（ケーキ入刀、か…ふふ、由里ちゃんと結婚式できるまで生きていられるかな僕…！orz）

アスム（トドロキさんとアキラさん呼ぶべきですかね）

シヨウイチ（何でウエディングケーキを短期間に作れるんだよ…！）

映司（シャウタとペガサスが小さくなかったら、二人にやらせたのに…）

エイジス（V3とプ…いや、止めとくかこの発想）

エイジ（ブラカワニと…ママン？）

ヒナ（シャウタとプトティラ、って言おうとしたけど小さかった）

弦太郎（ケーキ入刀、キターッ！）

神「破壊していいかな、あのケーキ？」

ケイスケ「ソウジさんに殺されかねないんで、止めてください！」

筑沖（何でクリスマスの時期に、神さん刺激するもの作ったんだ

あの人…！）

1号（リイマジ）「……！orz」

シゲル「なんか、物凄く落ち込んでいる人がいないか!？」

ハヤト「あー、1号か…」

シロウ「こつちの1号は…」

リョウ「…仕方ない、というか…」

ユリコ「刺激したらいけなかった、というか…」

ヒロシ「だって結婚寸前に拉致られたんですよ…そりゃトラウマ

になりますよー」

カズヤ「ネタバレ禁止!」

ジョージ「ああ、…彼は…相当辛い」

アマゾン（リイマジ）「…?」

1号(リイマジ)「いいよ、ケイスケ君とやるから…!」
全「…「なんでだよ!?!」」
ヒロシ「いやいや、相手ケイスケなら…俺がケイスケとしますよ!」
カズヤ「なんでそうなる!?!」
リョウ「仁さんだから…ドレスは青か」
シゲル「勝手に決めんなよ!しかも屈辱の新婦側かよ!?!」

ケイスケ「 助けて神さん!」

神「俺を頼られても…」

ケイスケ「俺の代わりにウエディングドレスを!」

オーズ兄弟全「…「なんで!?!」」

神「…いや、こういうのは華奢な方が合う」

沖「何真面目に返してるんですか!?!」

ケイスケ「母親似だからって、これ以上女装ポジションに居たくないんです…「なんだしたら、コンラッドさんとかベイカーさんとか呼んでますよ!?!」」

タクミ「SPIRITS限定の人呼ぶのはやめて!?!」

シンジ「時間と空間を引き裂けば出来るよ?」

土「お前マジで人間やめろ!」

筑波「でも、それができるなら義経さんを!沖お母さんに婿を!?!」

沖「俺が新婦って何それカオス!」

ケイスケ「俺が女装しなければ誰だっていい!誰でもいいから、…
さっさと入刀してあげてプトティラ可哀想!?!」

プトティラ「ケーキ…ケーキ…O O」 よだれダラダラ

ガタキリバ「よだれで海が出来そうな勢いだぞ!?!」

サゴーズ「ええい、こうなったら、禁断の…ユウスケがクウガペ

ガサス・シヨウイチさんがシャウタになつてのケーキ入刀！
ユウシヨウ「嫌だああ！！？」

プトティラ「けーき…〇〇」よだれストレインドウーム
タトバ「プトティラアア！」

シャウタ「誰でもいいから切つて！この子、凄く我慢してる…本来
の耐久時間10分を超えて頑張ってる！！」

V3「もう齧りつけばよくね？」

スカイライダー「せめて切つてからにしてください、プトティラの
教育に悪いから！」

神「分かった、分かった…俺が入刀する」

全「…いいんか！？」

神「ただし条件がある」

夏海「条件…？」

神「今日一日、小さいX借してくれ」

全「…あ、どうぞどうぞ」

X「ちょっとおおおおおおおおおおおおお！！！！」

神「あと、影の薄い主人公&ヒロインカップルを後でリアットし
ても…」

シンジ「それは好きにしてください」

カズマ「どうせ士と夏海ちゃんだし」

シヨウイチ「ただ、ナツケリントンは女だ…士に倍でやっつけ」

士「お前からあああああああ！！？」

筑波「で、相手は？」

沖「決めるんですか！？」

神「…相手を決めていたらプトティラが野性に返るぞ」

プトティラ「きゅっっっっっっっ」 タジャドル齧りまくり

タジャドル「ぎゃあああああ！ぎゃあああああ！ぎゃあああああ！

？」

シャウタ「久々に噛まれてるな」

サゴーズ「良く、『タジャドルと仲良くしてあげようよ…』なコメ

ント見るけど、最近あまり噛まなくなった分、譲歩はしてるよなあ」

ラトラーター「ホントだよ」

ガタキリバ「成長してるよ、プトティラ」

タトバ「うんうん」

士「」 ラリアット100発+真空地獄車

神「さて、ケーキ食べようか」

ヒロシ「これが本当の『リア充爆発した』」

カズヤ「色んな意味で酷い！」

V3「うおー、やっぱりでかいな」

タトバ「食べきれるかなあ…」

プトティラ「もきゅもきゅ」 残り1/3

タジャドル「こいつなら絶対に食べきれるな、うん」

ラトラーター「うえー、お腹一杯…」

ガタキリバ「…なあ、プトティラ以外は3人一組で食った方がいい
って…一人で一個はちよつと無理」

ブラカワニ「うんうん、美味しいねえ」

ママン「そうね」

プトティラ「ごちさーさまでした！O O」 満腹

シャウタ「…食べ切れません…orz」

タジャドル「プトティラは」

プトティラ「ぶきゅぷつ。」「」
サゴーズ「ゲップしちゃったよ…うえっぷ」
タトバ「プトティラでも満腹って…ねえ、プトティラずっと小さい方がいいんじゃない…?」

ユウスケ「皆グロッキーだな…」

X「……うっ…」 吐きそう

ケイスケ「なんで全部食べようとしたかな…X先生…！」 胃薬探し中

神「ええと、正露丸…どこにあるんだ？」 Xの残したケーキ食べつつ

X「だって残すの勿体無い…うっ、…orz」

ヒロシ「つわり?」

カズヤ「冗談言う前に、薬探してやろうよ!」

龍騎「ケーキの中からドカーン!」 ドカーン

リュウガ「お前それ自分で食べよ!?」

カプト「食べ物で遊ぶな!」

龍騎「えーでも、ジューズの海とか憧れない?」

ケイスケ「憧れません!」

士「なんか、」

カズマ「どしたの」

士「 当事者じゃないと、こんなに詰まんないのかって思ってない…」

シンジ「まあ、小さくなってるのが自分じゃないしな…あ、士、コーヒー砂糖4つ入り」

士「珍しく気が利くな」

カズマ「ナマコとナツミカンちゃんもどうぞー」

夏海「ナチュラルに初めてカズマさんにナツミカン呼びわりされた気が!？」

数分後…

士「おい…」

海東「ちよつと」

夏海「そんな…」

ユウスケ「オイ」

映司「え」

弦太郎「な?」

エイジ「…へ?」

ヒナ「は?」

タクミ「えええ…」

アスム「な…な、」

ワタル「ムツコロ」

沖「ちよ、え」

筑波「へあ?」

上全員「…」 母と息子覚えてるオオオオ!!?」「」 全員1

0cm化

シンジ「いえーい」 母

カズマ「うえーい」 息子

シヨウイチ「最悪だあいつら…!」 飲まなかった人

ソウジ「シンジとカズマだからな」 上に同じく

ヒロシ「折角小さくなったんなら、着せ替えごっこでもさせてみる？」

ハヤト「おー、面白そうだな！」

シゲル「やってやるうぜー！」

シロウ「そして、その恥ずかしい写真をネットにはら撒くか」

リョウ「…いざという時、それで脅すという考えはないのか…？」

ジョージ「特に、今現在オンドウルルラギタンディスクカー状態のリイマジメンバーには効果絶大だな」

ユリコ「あ、ほら、着せ替え人形用の服がたくさん」 夏海の昔の

おもちゃ箱弄りながら

カズヤ「皆酷いよ!？」

ケイスケ「皆、自分がされた時の恐怖を考えて言ってるか？」

ヒロシ「こういうのはとことん遊ぶのが常識だよ？」

ケイカズ「…ねえよそんな常識!」

ハヤト「じゃ、土はバニーガールで」

シロウ「海東は…スク水だな」

リョウ「映司君は…」

エイジス「せめてパンツ一丁に留めてくれ、見ている俺が辛い」

シゲル「じゃ、弦太郎は…体操服」

シャウタ「やめたげてよお！」

Ride024：復活・シャウタの一日10cm（後書き）

（次回予告）

パパン「なんだろうね、…ラトラーターの10点のテストを大量にプリントしたものが、本郷町に撒かれる感じ」

ママン「あらあら…」

トライド『クウウン（訳：俺、一瞬X先生とアマゾンとストロンガーで…何のコンボが出来るんだと思ってしまいました）』

シャウタ「そこはもう言わないであげようか！」

ワタル「むしろ、何で僕を呼んでくれないんですか…いい処刑方法、たくさん提示できたのに！」

アスム「だからなんじゃないですか!？」

タクミ「やめようよ!なんか、凄いグロテスクな殺人処刑になりそうだから!！」

ワタル「首吊りよりリアリティあるし、確実に殺せますよ!？」

神「あと、映画のXキックは凄く忠実だと思う」

ケイスケ「あー、謎の空中制止ライドルスティックですか…」

X「それもあるけど、ライドルスティックで交差する感じは忠実だと思うんだ」

シゲル「目の前の惨劇を無視してないか!？」

R i d e 0 2 5 ・ 処 刑 方 法 に つ い て 考 え よ う

Ride025：処刑方法について考えよう

タトバ「『仮面ライダー×仮面ライダー フォーゼ&オーズ MOVIE大戦MEGAMAX』…好評上映中！」

ガタキリバ「今回は何と！テレビでも見られなかったあの亜種が登場！…！」

ラトラーター「パンフレットでも、俺のスキャチャン公式名称が出ているぞ！」

サゴーズ「三馬鹿の中では割と出番あったよ！」

タジャドル「シャウタの歌が流れました！俺の出番どうでもいいです、映画でしっかり聞いてきてください！…！」

シャウタ「母さんマジチート」

プトティラ「うちゅーキターツォ」

ブラカワニ「パパン出番ないけどマイ息子達やママン、なでしこの出番見に行くよ！」

ママン「フォーゼのニンジンさんステイツもよかったわね」

トライド「グオオン（訳：タトバキックも何気に決まったな）！」

タトバ「ただ、うん、うん」

ガタキリバ「1号・2号・V3・ライダーマン・X先生+アマゾンとストロンガー…！」

ラトラーター「…DC版で

とか

になるシーン、追加

されてないといいな…！」

サゴーズ「なんか切ないよね…！」

タジャドル「…ライダーマン先生なんて、完全に公開処刑だろ」
プトテイラ「こーかいしょけー？」
パパン「なんだろうね、…ラトラーターの10点のテストを大量にプリントしたものが、本郷町に撒かれる感じ」
ママン「あらあら…」
トライド『クウウン（訳：俺、一瞬X先生とアマゾンとストロンガーで…何のコンボが出来るんだと思ってしまいました）』
シャウタ「そこはもう言わないであげようか！」

タトバ「処刑といえば…」
ガタキリバ「ああ…」
ラトラーター「遂に…」
サゴゾ「やつちやったかあ…」
タジャドル「いつか、こうなると思っていただけに」
シャウタ「そうだよな」
プトテイラ「ぷうO m O」
ブラカワニ「パパン微妙にショック（棒）」
ママン「そうねえ」
トライド『ガオン』

オーズ一家「…破壊神龍騎と自称破壊者の処刑なんて」
プトテイラ「バイバイO O」
トライド『グオオン（訳：短い人生だったな）…』
捕まったDCDRメンバー「…コラコラコラコラ！」

士「第一、何で処刑されなくちゃいけないんだ！」
シンジ「まったく…」
ヒロシ「俺何もしてないのに」

カズヤ「いや、16話でスカイターボを…」
ガタキリバ「まあ、一応罪状について纏めたけどさ」

士 八代藍を殴った、ライオンファンガイア殺害、インペラー撃破、
人の手紙を勝手に読む、天堂屋のおでんに具を大量投下、その他様
々な破壊活動

シンジ 破壊神龍騎としての大量破壊&蹂躪、飛行艇ジャッカー墜
落事件首謀者、終末サゴーズとしての圧倒的フルボッコリンチ、D
CDRW27話・40話・44話での恐ろしいまでのスーパー辰巳
タイム

エイジ グリートの力を制御できず器物損壊しまくり、クモナポレ
オン、カメバズーカ

エイジス 重火器であることと死亡不可である事

カズヤ 他者への死亡フラグ、変身できなくなること定評のある
スーパー1

ヒロシ 毒舌と腹黒とDS

シロウ とりあえずどっかのV3がフリーダム過ぎるが故のとはっ
ちり

シゲル 敵味方問わずの攻撃(初期)

リヨウ 天然ボケ

弦太郎 54話的な意味で

ユリコ とりあえず不運

がながんじい 漫画のがながんじいがスカイより出番が多い的な意
味で

ハルミ サラツとカズヤと恋愛フラグ立てた

ルミ リヨウとの恋愛フラグ

士「おい、ケイスケとX！ケイスケとX！！」

ラトラーター「捕まってるんだから仕方ないじゃん」
サゴーズ「だよな」

タジャドル「あえて挙げるとしたら」

ケイスケ「挙げなくていいよ！」

ケイスケ 他者への死亡フラグに加え、シャキリタでシオマネキン
グ撃破・プトティラで逃走

X 正直【仮面ライダーディケイド】の部分を变えていくぐらいの
活躍

シャウタ「でもね、正直、二人ともそこまで重罪じゃないと思うん
だ：ヒロシより」

ヒロシ「なんで？」

シゲル「なんでって!？」

シロウ「お前：自分の罪を数え直せ」

エイジス「それにしたって、処刑とか冗談じゃないぞ！」

エイジ「そうだそうだ!？」

士「俺達を処刑するなら、現在進行形で裏切っている映司達はど
うなるんだ！」

映司「俺達は……」

ヒナ「ゴッドショット側だし……」

ユウスケ「絞殺ぐらいじゃ死なないし……」

ソウジ「俺は処刑台に上がっても違和感ないと思うぞ？」

シヨウイチ「やめい！」

ワタル「むしろ、何で僕を呼んでくれないんですか：いい処刑方法、

たくさん提示できたのに！」

アスム「だからなんじゃないですか!？」

タクミ「やめようよ!なんか、凄いグロテスクな殺人処刑になりそうだから!！」

ワタル「首吊りよりリアリティあるし、確実に殺せますよ!？」

シロウ「こんな言い方もなんだが、子供達とケイスケと+でXが助けなければならないのに、間に合わないような処刑なんて作者が許すか!！」

カズマ「そういえば、今上がっている問題って何だっけ?」

全「...問題?」

カズマ「ほら、何で簡単にチーズ達が脱出できないのかとか」

ブラカワニ「あー、それね」

ママン「ええつと、確か...」

- ・ 土やエイジスといった面々の変身アイテムが奪われている
- ・ 改造人間達の変身が不可能
- ・ 更に、ゴッドショットカー製の改造人間（強化人間も含む）対策の超音波&変身妨害装置
- ・ ただし効果があるのはライダー+タツクルのみ
- ・ 変身妨害装置の効果はXとスーパー1にも有効
- ・ 周囲には洗脳ライダー（カズマ、ヒナ、翔太郎&フィリップ）
- ・ ソウジ来ない
- ・ エイジの紫メダルは1枚を残して残りは奪われた
- ・ 三幹部集結済み（地獄大使、アポロガイスト、ジャーク將軍）
- ・ 残っているのがケイスケとジュニアライダー隊
- ・ あと変身出来ないX

弦太朗「正直、詰んだー!!!」

ソウジ「いつだって俺達は手詰まりじゃないか」

シヨウイチ「お前も手詰まりの原因だというのに何を!」

ワタル「で、どんな感じの処刑内容がいいですか？」

全「お前人の話聞けよ!」

タジャドル「後、あまりグロテスクなの禁止な!シャウタが青ざめてる!」

プトテイラ「シャウタ虐めたら凍らせるよ!」

シャウタ「...」 顔面蒼白

~~~~~

ラトラーター「仮面ライダーらしい処刑と言えば、ウンメイノール...」  
ガタキリバ「論外!」

沖「縄に吊るされて、縄が完全に焼ききった瞬間、下の巨大剣山に突き刺さるとか」

筑波「身動き封じられて、海にドボンとか」

神「四肢の一つを奪われて、鎖で吊るされて」 とんでもない発言のため以下省略」

ソウジ「身動き一つ取れないような拘束椅子で幽閉された後、人でなくなる装置の力で人外になる」

乾「捕まって鎖で縛り付けられ、バイクで引き摺られる」

サゴーズ「皆あげつないよ!？」

ブラカワニ「後、一人だけ別の意味での処刑だね!【人間としての処刑】って意味で!!」

シヨウイチ「終末サゴーズによるリンチ」

ユウスケ「終焉バース・デイによる今ある自分の終わりを迎える」

タクミ「破壊神龍騎によるスーパー絶滅タイム」

アスム「混沌ナイトによる死の追いかっこ…そしてその果てに待ち受ける、ウイングランサー串刺しの刑」

シンジ「ようし、今意見を出した全員、その例題の死を与えてやる」

映司「死なないブラカワニにゆっくりと殺される恐怖」

エイジ「地味に嫌だな!？」

ケイスケ「なんか怖いし!」

シャウタ「一週間メシ抜き」

全「…それ処刑?」「」

タトタジャガタラトサゴ「…充分処刑だよ!!」「」

プトテイラ「ぶっきゅい!」

海東「あ、X先生のアイアンクロー絞め落としの刑」

X「……」 両手バキボキ

弦太郎「セイサイ・オン」

海東フルボツコ中…(ちなみにシャウタはタジャドル、プトテイラはラトラーターがガード)

海東「」 ただの亡骸

X「ちなみに、トライドの疑問を解消するなら、エゾンガーコンボとかどうだろうか」

トライド『グオーン（訳：その話題、今出す）！？』

士「あとは、タイガーロイドを再改造して全方位レーザー処刑とか」

神「…」 左腕の肩慣らし中

筑波「エックスノヒツサツ」

士フルボツコ中…（シャウタとプトティラはガタキリバに軍団に連れて行かれました）

士「」 もはや死骸

神「あと、映画のXキックは凄く忠実だと思う」

ケイスケ「あー、謎の空中制止ライドルスティックですか…」

X「それもあるけど、ライドルスティックで交差する感じは忠実だと思うんだ」

シゲル「目の前の惨劇を無視してないか!？」

プトティラ「えつとね、でっかい人が頭からガブツて」

ブラカワニ「所謂『マミる』？」

ママン「あら凄そうね？」

ガタキリバ「凄いとかなう問題じゃないよ!？」

夏海「じゃあ、リマジXによるスーパーフルボツコタイムとか」

リマジX「……」 ストレッチ中

月島兄弟「ファイナルアタックライドウ…エ・エ・エ・エックス

！  
「」

夏海説教中…（シャウタとプトティラはサゴーズとタトバが、命を懸けてもふもふとお菓子で注意を反らしました）

夏海「」 逆さ吊り

ユウスケ「うん、これ以上制裁トリオの怒りゲージを溜めないようにしよう…他の話をしよう！」

ヒロシ「溺死」

シヨウイチ「いきなりえげつないの言っただな！？」

シャウタ「溺死ねえ…それ、筑波さんの意見とどこが違うの？」

ヒロシ「筑波さんのは、海にドボンじゃないですか。俺のは…体を椅子で固定させて、洗面器の中に頭突っ込ませて息全部吐き出して完全に動かなくなるまで頭押さえつける溺死ですよ」

カズマ「それ、むしろ窒息死！」

シンジ「つか…シャウタ！シャウタアア！！！」

シャウタ「」 血の気引いた

ワタル「目隠しをして、相手の腕を切るフリをして、切ったフリをした部分に水を大量に流して『血が大量に流れている』と錯覚させそのまま死に至らしめるという」

ソウジ「怖いな」

シヨウイチ「なんでそんなに普通に流せる！？」

タクミ「それか、シヨウイチさんの超能力で前身変な方向に骨を曲げられるとか」

シヨウイチ「泣くぞオオオ！」

シャウタ「……………」 まだ顔青い  
プトテイラ「しゃうたあああああーッッ」  
タジャドル「もう、お前帰ろう…お前帰ろう。な…！」 号泣  
サゴゾ「ところで、何でシャウタを今回呼んだのか、その意味が  
分からない」  
ガタキリバ「怖い話とか、グロとか耐性ないんだから…！」  
士「いや、じゃあ、そんな話題振るなよ！ワタルが食いつきそうな  
話に持ち込ませるなよ…！」

ラトラーター「いや、そもそもね、お前が『第一、何で処刑されな  
くちゃいけないんだ』って言った時点で駄目だったと思うよ？」  
士「俺のせいか!？」

ブラカワニ「罪を認めるのだ、若者よ」  
ママン「まあ。もやしさん…何か罪を犯したんですか？」

タトバ「さつさとお縄に突いたら、警察（＝シヨウイチさん）いる  
し逮捕してもらえるよ」

士「認めるも何も、俺のせいじゃないし…もやしさんじゃないし！  
お前はお前で、俺の扱い酷いし…！」

ラトラーター「嫌いから浄化光線」 ライオディアス  
全「…ぎゃあああああああああああああああああつす！  
?」

ガタキリバ「説明しよう！ラトラーターのライオディアスは、王蛇  
やホッパ―兄弟といった悪のライダーに特効があるのだ…！」  
タトバ「ついでに、性格が歪んでいる人は綺麗になります」

サゴゾ「ちなみにシャウタは熱光線的な意味で耐えられないので、  
タジャドルがダツシュで別の場所に連れて行きました」

プトテイラ「>M<」 目隠し中

士「はっはっは！今日も清く、正しく、破壊をしよう！！」

海東「ふふ、今日も綺麗な空だね…」

夏海「あら、可愛いお花さん…うふふ。うふふふ」

ユウスケ「ははは。士も海東も夏海ちゃんも、相変わらずだなあ」

ワタル「今日も人間とファンガイアの共存目指して、頑張るぞー！」

シンジ「破壊神って…そんな物騒なこと、僕がするはずないじゃないですか」

カズマ「ゼロからのスタートだ！」

タクミ「やあ！今日も一日、元気に生きて行こう！！」

シヨウイチ「今日も空気が美味しいなあ！」

映司「いけますって。少しのお金と、明日のパンツがあれば！」

ヒナ「生まれ変わったかのように、清々しい気持ちですね！」

エイジ「素直な心で皆と打ち解けるぞ！おい、レヴァー！！」

弦太郎「何あれ気色悪い」

沖「おおっと、弦太郎君から酷い一言が」

筑波「でも、じゃあ何でエイジス普通なんだろうっね？」

アスム「さあ…？」

ソウジ「もう、360度振り切って普通なんだろうっな」

エイジス「オイ、俺の捻くれに捻くれまくった性格は軌道修正不可能と言いたいのか？」

神「士は爆発すればいいのに」

筑波「何でこの人変わってないの！？」

アスム「あーでも、筑波さんのリイマジである…あのヒロシさんだっけいつも通りみたいですから、改造人間には効かないのかも…」

沖「効いてくれたってよかったのに…」

沖さん叱られ中…（主にプトティラコンボによる蹂躞ノプトティラはシャウタ迎えに行った）

沖「…すみませんでした…」 何とか人の形は留めている

筑波「何で俺も？」 でかいタンコブ

シャウタ「うわぁ、相変わらず気持ち悪いぐらいに性格改変されてる」

プトティラ「ぶきゆう?」

タジャドル「……個人的にエイジスが予想外」

エイジス「オイ」

シロウ「ある意味、見ている側への処刑だな…」

シゲル「つつーか、こんなの普通耐え切れないっての…特に土とか海東」

カズヤ「もう、本当に、ね」

ヒロシ「で、結局どういう感じの処刑がいい?」

ケイスケ「まだ話す気なのか!？」

アスム「いつそのこと、エイジスさんにマスキットなどの銃火器類を渡して…蜂の巣にしてもらおうとか!」

エイジス「…お前、ちよつと楽屋裏に來い」

ママン「あらあら」

アスム折檻中…（銃火器シャウタがShout outをBGMにやらかしました）

アスム「」 文字通り蜂の巣

ソウジ「…南無」

シゲル「コラコラ！」

リヨウ「と言うか、プトテイラとシャウタはアレ見て大丈夫なのか？」

プトテイラ「えーじすのシャウタ、怒ってガブリューどっかーんってしなければ楽しいよ？OmO」

シャウタ「って言うか、もう、諦めましたし…見慣れましたし」

士「ははははは…弦太郎君、友達になろうじゃないか！」

弦太郎「丁重にお断りさせてくださいお願いしますから」

カズヤ（見ている限りだと、弦太郎も光の影響を若干受けてるよね…？）

Ride025：処刑方法について考えよう（後書き）

（次回予告）

ケイスケ「本日は、場所を変えて…某中学校の教育指導教室に来て  
おります」

カズヤ「ここでは、一日授業体験を行うとのことですが…」

映司「よし、俺達も避難しよう」

エイジ「そうだな、レヴァを置いて逃げよう」

エイジス「俺に死ねってか」

ヒナ「いや死なないでしょ」

シャウタ「T T」

タジャドル「T T」

サゴーズ「二人ともさっきから何してんの!？」

Ride026：授業体験！X先生編

## Ride026：授業体験！X先生編

ケイスケ「今日は、場所を変えて…某中学校の教育指導教室に来て  
おります」

カズマ「ここでは、一日授業体験を行うとのことですが…」

ユウスケ「やった！今日はまともな服だ！！」

士「まともなら、ファイズの世界での学ランでもいいぜ！」

夏海「ちゃんとしたセーラー服です！」

カズマ「俺もブレザーだよ！」

映司「へえ〜。俺は…学ラン」

エイジス「通っていた学問所の学生服だ」

カズヤ「ちなみに、俺とケイスケは高校時代の制服です…！って  
いうか、俺ヒロシ死んだ数カ月後ぐらいから身長伸びて、制服の丈  
ちよつと合わないんだよね…！！」ズボンだけ別物

ケイスケ「俺は高校2年の時点で180だったし…割とどうでもい  
い」

ヒロシ「いいなーケイスケ、身長10cmちようだい？結構本気で」  
ケイスケ「あげられる物なら、あげたいけどな…！！」

プトティラ「今日の授業は初めてだなー楽しいといいなー〇〇」  
シャウタ「あれっ、そうなの？」

タトバ「まあ、中学には基本、アマゾンと遊ぶために来てるから…」



な目に遭いたいのか!？」　ちなみに警察服

タクミ「お願いだから、折檻とか処刑を期待しないで!それ、前回のネタと被るから!!」

ユウスケ「ちゃんと真面目にしないと、アイアンクローが飛ぶから!」

ソウジ「そういえばあのアイアンクローは、どんな威力なのだろうか」

カズマ「えーと、多分、【神】すら捻り潰せる?」

シンジ「そんな当然のことを言っただろうすんの、あと、あいつ殺るならもつと残酷な最期を…」

X「…」　スイッチ起動率98%

タジャドル「よし、避難!」

ガタキリバ「タジャドル、サゴーズ、ラトラーター、親父。反対側の扉押さえつける。俺は50人分の力で頑張る」

ラトラーター「いえす」

サゴーズ「任せてくれ…」

ブラカワニ「さ、プトティラもシャウタも、ちょっと席離れてようか」

シャウタ「え、でも、もうすぐ授業が」

プトティラ「えつくしゅせんしえーの授業、後3分で始まるよ?　om」

タトバ「大丈夫、　先生…チャイムが鳴る前には終わりますか?」

X「　1分で片つける…」　教育指導スイッチ完全にON

映司「よし、俺達も避難しよう」

エイジ「そうだな、レヴァを置いて逃げよう」





ライダーブレーイク!

筑波さん何しに来てんのオオオ!?

ズゴオオオン…

ドガアアアン…

ドガツシヤアアアアン…

映司「これ、教室大丈夫かな」

ヒナ「凄い荒れ果ててそうだよね…」

タジャドル「X先生の給料がちよっと心配になってきた」

エイジス「今回は財団Xがスポンサーだから、修理費とかは何とかなるだろ」

エイジ「X繋がりでか!?!」

X「おーい、もう終わったから授業するぞー」 スイッチOFF

全「…はーい」

ヒロシ「ところで、粗大ゴミはどうなりました?」

カズヤ「馬鹿、蒸し返すな…!」

X「財団Xに実験材料として渡してきた」

シロウ「それなら問題ない」

ハヤト「じゃ、授業するか」

リョウ「ああ」

シゲル「士達なら問題ない、問題ない」

1号「そうだな」

アマゾン「授業、する!」

プトティラ「授業 授業 せんしえーのじゅっぎょう > <」  
サゴーズ「この人達、切り替え早すぎる！」

ちなみに財団Xは、事前にライ街の神敬介+リマジXの【お願い】  
で泣く泣く資金提供しております

尚、【お願い】を引き受けるまでに財団が受けた被害は財団関係  
者の20%以上損失・被害総額5億円超

~~~~~

キーンコーンカーンコーン

X「さて、私は基本的に社会科の担当なんだが…スカイライダー先
生と被るだろう」

シゲル「あー、大丈夫っす…全然授業にならなかったの
カズヤ」というか、士達が授業にさせませんでした…」

X「かといって、国語もV3先生と被るだろう」

ヒロシ「それも大丈夫ですよ？」

シロウ「授業すらしなかったからな」

ハヤト「むしろ、プトティラの話しか覚えてねーや」

X「え、じゃあもしかして、スーパー1先生の授業は」

ジョージ「体育なのに、最初教室に集合だったな」

ユリコ「ヘタすれば折檻を受ける事態になりかねなかったです」

リョウ「後、回避力が酷い」

X「……なあ、シャウタ」

シャウタ「はい？」

X「【授業体験】なのに、何で授業になっていないんだ…？」

シャウタ「俺に言われても」

プトティラ「おべんきょ…まだ…？〇〇」

X「するから待つてる。…えーと、じゃあ何したらいいんだ…何を体験授業したほうが（プトティラの意味でも）いいのか分からないって惨い」

ケイスケ「V3先生の授業はもはや、授業とは言えない何かだった」

X「よし、じゃあ国語だ。国語にしよう」

ラトラーター「そんなわけで国語になりました」

X「はい、じゃあまずは漢字の書き取りをしよう。黒板にカタカナで書いてもらいたい漢字を書くから、それを配った紙に書くこと」

昭和リイマジ「…はい」

ラトラーター「分からなかったらカタカナでいいですか」

X「なるべく書く努力をしようか」

X「じゃ、まず…『新聞紙をやぶる』」
ガタキリバ「えーと、確か…やぶる…やぶる……」
ラトラーター「…なんだっけ」
サゴーズ「“はかい”と同じ字だったような…あれ、“は”と“か
い”、どっちが問題のだったっけ」
タジャシャウ「おい三馬鹿」
プトテイラ「できたー〇〇」
ブラカワニ「パパン楽勝だよー」
三馬鹿「うええ!?」

X「次に、『予算をケントウする』」
三馬鹿「フリーズ」
カズヤ「ちよつと本気で大丈夫!？」
シゲル「……」
弦太郎「……」
ユリコ「ちよつと、嫌な予感しかしないんだけど」

シロウ「…なあ、もう、1つでも正解の漢字を書けなかった奴は…
ライ街のルナドーパントの所に送ったらどうだ？」
ガタキリバ「やああめろおお!」
ラトラーター「それ、マジ勘弁!」
サゴーズ「お願い…俺達アウト確定じゃあああん!」
シャウタ「何故普段から漢字の勉強しなかった!」
タジャドル「受けなくても漢字検定の本ぐらいは見るよ!」

プトテイラ「シャウター、このケントウで合ってる?〇〇」
見当『
シャウタ「…あー、それは、…例えるなら……『サゴーズのおやつ

を食べた犯人の見当がつく』のケントウだな」

プトテイラ「バナナパイならラトラーターだね！」

ハヤト「どこの【プトプトげんきだもん！】だよ！！」

サゴーズ「…食べたのか…？」

ラトラーター「食べてないです！食べてない、食べてないから！！」

X「…えっと、まあそれは一応…ギャグ要素と言っ意味では採用と
して…」

三馬鹿+シゲ弦「…オウノーツ！？」「」

X「次は『テンゲントツパ』」

全「…何それ！？」「」

ガタキリバ「あつ、…分かったー！！」 アニメ好き

シャウタ「って言うか、ガタキリバ、それ分かったらお前最初の問
題書けないとおかしい」

X「今度は、『キョウホウの改革』」

ラトラーター「何それ分かんない…！！」

サゴーズ「あ、分かった！分かったー！！」

タトバ（…X先生、罰ゲーム阻止に必死になって問題考えてるよ…
！）

ヒロシ（まあ、内容がルナドーパントじゃね）

X「…ラトラーター、何なら得意だ…？」

シャウタ「先生！三馬鹿に気を遣わないでいいですから！！」

ラトラーター「漢字は壊滅的です！（ドヤアツ）」

X「ちよつと後で説教。『アイビヨウを探す』」

タトバ「げっ、分かんない…！！」

ラトラーター「あ、分かった」

タジャドル「何故それだけは分かった！？」

ちなみにアイビヨウは『愛猫』と書きます

プトテイラ「ぷっぴー」

タジャシャウ「……」心配でチラ見

・石皮る

・イ建とう

・天言突石皮

・京法

・愛苗

タジャシャウ「……」泣きそつな目でXに訴える

X「次は、『別れのウタ』……」

シゲル「お、それは書けるぜ！」

プトテイラ「きゅきゅい！」

・口貝

シャウタ「……！」全力で首を横に振る

タジャドル「……」目で『こいつ“唄”にしています』と説明

X「……プトテイラ、とりあえず漢字は書けるんだな？」

プトテイラ「うん！」

X「意味とか読み方って、教えてもらったか？」

プトテイラ「うん！」

X「使い方は？」

プトテイラ「わかんない……」(どやあっ)

X「……教えてもらった後で、書き取りテストとかしたことは？」

プトテイラ「ないよ？」

X「後でV3先生絞めてくる」

ケイスケ（むしろ、教えっぱなし放置しないでくれ…広辞苑読み聞かせよりそっち重点的にしてくれ…！）

X「…プトテイラ（と、ついでに反応が一切ない弦太郎君）…何書けるかな…」 漢字の本パラパラ

シャウタ「あああ、遂には本まで取り出した…！」

タジャドル「マジすいません、先生…！」

X「あ、そうだ、これなら…『シャウタのごハン』」

プトテイラ「今日のご飯何!？」

カズヤ「いや、これ問題だから！」

シャウタ「あえて答えるなら、ラトラーターの好物のオムライス」

ラトプト「やったー！」

シャウタ「ただし、二問以上当てないとメシ抜き」

ラトラーター「大丈夫、今のと愛猫、そして歌で3問確定だから！」

プトテイラ「うー、うーomO」

X「（あれ、そういえばプトテイラって漢字は読めるんだよ…プトプト歌詞カード、完全に漢字で書きちゃったし）……プトはまだーむつかしいー、大人の事情は知らないけどー」

オーズ兄弟「…突然歌いだした!？」

リヨウ「しかも何気に上手い！」

ハヤト「あー、そういえば、なんか知らないけど歌を歌ってるのか…言ってたな…」

プトテイラ「青い海ー、見ていたらー、シャウタのご飯食べたくなっただよー……ぷう!! O O」 かきかき

・ご飯

シャウタ「T T」 声にならない喜び

タジャドル「T T」何か知らないけど泣けた
サゴゾ「二人ともさつきから何してんの!？」

ガタキリバ「そういえばプトテイラって、広辞苑読まされたりして
いるから、漢字は『読める』んだよな」

プトテイラ「うん」

ラトラーター「書いたことは？」

プトテイラ「たまに」

タトバ「ところで、どんな漢字なら普通に書けるの? “ご飯” って、

親父が教えた奴じゃん」

プトテイラ「こんなの」

『鼎』

ラトラーター「なんて読むの!？」

プトテイラ「『かなえ』」

X「あー待て、もしかして、『又エ』とか『ミソギ』とか『シャチ』
とか…書けるのか」

プトテイラ「きゅぷい」

・ 鵠

・ 楔

・ 鯨

X「…なんで難しい漢字ばかりを先に教えて、一般レベルの漢字を
教えないんだあの人!」 机ダン

ブラカワニ「パパン教えてるよ!？」

X「ブラカワニさんじゃないですV3先生ですあの人为本気で絞める
!」 V3に対してのみ教育指導スイッチON状態

弦太郎「…全然分かんねえ…orz」

昭和リイマジ全「…駄目だこいつ」

X「えーっと、じゃあ最後に、『キサラギ』」

弦太郎「あ、それなら分かった！」

ヒロシ「流石に苗字書けなかつたらやばいよ？」

X「じゃ、紙を隣の人に渡して、答え合わせしましょう」

全「…はい」

X「ちなみに、『こいつ罰ゲームになっちまえ』と思ってわざと×にしたら…ライ街の神さんのところに送るぞ？」

全「…イエッサー！」

プトテイラ「さー！」

プトテイラ「×つけないでね」

タジャドル「天元突破の時点で無理」 容赦なく×

X「ちなみに、間違っているのに つけたらそれも対象になるので
プトテイラ「…おむらいしゅ食べたいから、今日は にするね…！」

黒板に書かれた正解見ながら 付け

タジャドル「俺の場合は、… 1問目は『字を大きく書きすぎた』
として多めに見てやるよ…！」 ×にしてやりたいけどシャウタの

ご飯お預けだと泣き喚くので

X「あ、それは許す…」

X「えー、回収した紙の結果を見ますと…皆、最低でも1問は正解
しているの……【ルナドーパントと逝く・イケメン嫌いじゃない
わー！の旅】はナシです」

映司「むしろ、どうぞナシで…！」

エイジス「嫌な予感しかないしな」

X「後プトティラ、『破る』もそうだけど、漢字はバランスよく書こうな」

プトティラ「ばらんしゅ？」

X「『破』の場合は、大きく書きすぎちゃうと『石』と『皮』になるから…ちよつとスリムにしてあげよう」

弦太郎「目安は？」

ヒナ「聞くの!？」

X「そうだな…まず、漢字全体の作りを大きな四角で例えるとなると、丁度縦に半分にしたらバランスが良くなるぞ」 サラツと書きながら

プトティラ「字きれい！」

キーンコーンカーンコーン

X「あ、チャイムだ」

エイジ「初めてまともに授業した気がする…！」

シロウ「ああ、本当に…」

映司「じゃ、まともな授業だったから…まともな終わり方をしようか」

ラトラーター「現行の学級委員長、号令」

シャウタ「確かに学級委員だけどさ！」

サゴーズ「俺もだけどね…！」

プトティラ「二人でやれば? O m O」

シャウタ「起立！」

サゴーズ「礼！」

全「……ありがとうございましたー！」「」「」

X「はい、ありがとうございました」

ヒロシ「……先生もまともで、妨害が一切ないと、ここまですれどまともな展開になるんだね」

カズヤ「毒舌自重！」

Ride026：授業体験！X先生編（後書き）

〈次回予告〉

筑波「あれ終わった？」

本郷（何気に重量級メダルの存在と、コンボOKのルール忘れていたな…）

神（洋が言わないと誰も出てこなかった時点で、コンボと重量級メダルの存在って…）

DCD全「おいX先生」

昭和リイマジ「おいV3先生とついでに響鬼先生」

スパー1「もうお前、音楽教師になれよ」

スカイライダー「確かピアノできたよな…？」

X「泣いていいですかーorz」

シャウタ「正直、スタントにしても本人にしても、あれは痛い…正直言つて、俺の歌が出る出ない以前にあの落ち方めちゃくちゃ心配だった」

映司「ごめんなさい…でも、一応大丈夫だから…」

士「それに、エイジスの意味であればセーフだろ」

エイジス「俺をガードベントとして扱うな」

R i d e 0 2 7 : 出張、混沌！亜種ゲーム

Ride027：出張、混沌！亜種ゲーム

ガタラト「【出張、混沌！亜種ゲーム】！！」

タトバ「皆お待ちかね、亜種ゲームの時間だよ！」

タジャドル「ルールはもう、分かるよな！」

ブラカワニ「今回は、DCDチーム・オーズ兄弟・DCDRWチーム・オーズチーム・教師チーム・作品選抜チーム・昭和荘チームの戦いだよーん」

シャウタ「ルールは簡単、各チームで亜種ゲームを行い…」

ママン「負けちゃった人は…人生で一番恥ずかしい話、ってカンペに書いてあるわね？」

サゴゾ「恥ずかしい話をしたくなかったら…」

プトテイラ「頑張っついてね！OO」

士「他はともかく、選抜チームってどうなってるんだ」
ユウスケ「選抜チームは…」

LMO龍騎代表 春沢美佳

HROカプト代表 鑑アラタ

分岐代表 鳴滝

ディケ雪姫代表 モモタロス

ディケブラ代表 リンク

コア大戦代表 ピット

NOVEL大戦代表 御手洗シンゴ

ライダータウン代表 リユウガ
全スピンオフ作品代表 左翔太郎
特別枠 如月弦太郎

ユウスケ「らしいよ」

カズヤ「何それ多すぎる」

タジャドル「さあ、まずはVS昭和荘チームだ！」

シャウタ「例によって、立花藤兵衛さんは旅行中です！」

ラトラーター「後、てつを呼んでません」

沖「せめて南光太郎と呼んであげてエエエ！」

本郷「ガタトラドル」

一文字「ラジャ…タ！」

風見「タカウーター」

結城「シャトラ…バ？」

神「ラキリドル」

山本「ガタジャーター！」

城「タトバ！」

筑波「ラキリバ」

沖「ガタキリタ」

村雨「ガタウーター」

本郷「シャトラドル」

一文字「ラジャバ」

風見「タカキリタ」

結城「ガタウタ」

神「シャウドル」

山本「シャジャタ！」

城「えーと、タカウタ」

筑波「シャウゾ」

沖「！シャゴリドル！！」

村雨「サジャーター」

本郷「タカトラタ」

一文「ラウバ」

風見「シャキリゾ」

結城「ガタゴリーター」

神「サトラーター」

山本「ラトラゾ？」

城「ラゴリバ」

筑波「シャウタ」

沖「シャウゾ…！」

トライド『ガオオオオン（訳：沖さんアウト）！』

沖「筑波さん本気で嫌だ！！orz」

村雨「それは筑波さんの責任なのか？沖さん…」

筑波「あれ終わった？」

本郷（何気に重量級メダルの存在と、コンボOKのルール忘れていたな…）

神（洋が言わないと誰も出てこなかった時点で、コンボと重量級メダルの存在って…）

土「じゃあ、恥ずかしい話をどうぞ！」

沖「…… 8月頃の話なんだが、風呂に入っているときにまた壁の壊れる音がしたから、筑波さんかと思って飛び出していったら…」

全「……行ったら？」「」

沖「 何故か…風呂から出た先が、何処かの高校のチア部の部室で…露出狂扱いされて酷い目に……！orz」

タジャドル「ああ…NOVEL大戦の時の…」

サゴーズ「生まれたままの姿を晒したんですね…」
ラトラーター「大変でしたね」
ガタキリバ「で、沖さんの部屋に突っ込んだ筑波さんは、何処に？」
筑波「えーっと、…：ブラカワニさんと徳川吉宗がいたような…：そのまま飛び越しちゃったから、覚えてないけど」
神「さあ、次はDCDチームだ」 NOVEL対戦の時、何処かの次元のX先生と会って茶を飲んでいた人

士「シャトラーター」
海東「ラトラゾ」
夏海「ラゴリバ？」
ユウスケ「サキリーター！」
ワタル「ガタトラドル！」
シンジ「ラジャバ」
カズマ「タカキリゾ」
タクミ「ガタゴリタ！」
シヨウイチ「サウゾ！」
ソウジ「シャゴリドル」
アスム「サジャーター」
士「タカトラドル」
海東「ラジャーター」
夏海「タトバ！」
ユウスケ「ラキリバ」
ワタル「ガタキリーター」
シンジ「ガタキリバ」
カズマ「ガタキリゾ！」
タクミ「ガタゴリドル」
シヨウイチ「サジャバ」

ソウジ「タカキリタ」

アスム「ガタウーター」

士「シャトラーター！」

シャウタ「士、アウト！」

プトテイラ「自分で言った亜種だよ…？OMO」

士「しまったあああ！」

沖「さあ…お前の恥ずかしい話を、答えるオオオ！」

風見「沖が吹っ切れた」

士「俺の恥ずかしい話…そうだな、しいて言えば、洋とヒロシが徒党を組んで…」

Wひろし「…」

士「まずは筑波洋が俺のベルトを奪い、月島ヒロシがズボンを下ろし、筑波洋がパンツを下ろし、月島ヒロシがそれらを奪い去って二人でセイリングジャンプ逃走…！」

Wかずや「あんたら何してんだ！」

筑波「だってヒロシ君が」

ヒロシ「だって土虐めたかったから？」

沖「だからって、何で筑波さんも手を貸しているんですか！」

筑波「なんとなく」

沖「…」 血管ド派手にブチイッ

城「やばい、逃げる」

サゴーズ「ああなった沖さんはマジ怖いからね…！」

この後、筑波は容赦なく怒られ、ついでに諸悪の根源も鉄脚制裁を浴びました

筑波「∴orz」 雷落とされ再起不能
ヒロシ「∴∴orz」 強烈な腹キツク決められ動けない
ユウスケ「∴よし、次は、オーズ兄弟の教師チームだ」
シヨウイチ「何なんだ、この、スカイライダー先生が負けそうだな
感は」

V3「タカトラーター」
ライダーマン「ラトラドル」
X「ラジャーター」
スカイライダー「タカトラゾ」
スーパー1「ラゴリドル」
ZX「サジャタ」
V3「タカウバ」
ライダーマン「シャキリドル」
X「ガタジャバ」
スカイライダー「タカキリゾ」
スーパー1「ガタゴリバ」
ZX「サキリーター」
V3「ガタトラドル」
ライダーマン「ラジャゾ」
X「タカゴリバ」
スカイライダー「サキリゾ」
スーパー1「ガタゴリドル」
ZX「サジャバ」
V3「タカキリタ」
ライダーマン「ガタウタ」
X「シャウゾ」
スカイライダー「シャゴリゾ」

スーパー1「サゴリドル」
Z X「サジャゾ」
V3「タジャドル」
ライダーマン「タカジャーター」
X「タカトラタ」
スカイライダー「ラウゾ」
スーパー1「シャウタ」
Z X「シャウバ」
V3「シャキリゾ」
ライダーマン「ガタゴリーター」
X「ラトラーター」
スカイライダー「ラトラゾ」
スーパー1「ラゴリタ」
Z X「サウドル…！」
V3「シャジャゾ」
ライダーマン「タカゴリタ」
X「サウーター」
スカイライダー「サゴーゾ」
スーパー1「サゴリーター」
Z X「サトラゾ」
V3「ラゴリバ」
ライダーマン「サキリーター…！」

カズマ「ライダーマン先生、アウトー！」
ソウジ「41亜種3コンボ…！」
V3「ってかスイカ、お前こそとばかりにイジメに入ってるね？」
スーパー1「ソウ攻めってお前それ卑怯」
スカイライダー「何故責められなきゃいけないんですか！？orz」
X「後、何気に一番辛いものってゾウしか言っていないスカイライダー先生ですから！」

ZX「ホント、途中から『この人Mだ…』としか思えないぐらいだったから！」

ライダーマン「恥ずかしいこと…そうだな、しいて言えば、」
V3「どうした？」

ライダーマン「つい最近、V3先生のせいで悪酔いして…生徒の前で醜態晒したことだな…！」

シャウタ「あー、鍋パーティーの」

タトバ「俺達、まったく気にしていないんで」

ラトラーター「むしろ、あれ、飲ませまくった人が悪いです」

シンジ「ところで、酔った勢いで出来たのがプトプトだけどさ、」
プトティラ「ぷう？」

シンジ「…X先生って、お酒一杯で寝るほど下戸じゃん。それでよく、約束取り付けられたよね…」

プトティラ「あう、それねー」

〈プトティラ回想中〉

プトティラ「運動会に出られるー ……ぷい？」

V3「おらおらー、飲め飲めー」

ライダーマン「うう…もういいれる、いいれしゅから…」

X「…」 半分ぐらい飲んでウトウト

スカイライダー「X先生、ここで寝たら駄目ですよあはは〜」

今日は笑い上戸

スーパードクター「ぐっす…ラトラーターの取り得は走ることなのに、ト

ラベンを出させたいがために短距離代わりに入れるって俺ってほんとに馬鹿…！orz」

ブラカワニ「いやー皆飲んでるねえ」

ZX「本当ですよ…ひつく、」 飲みすぎるとしゃっくり出るタイプ
響鬼「皆で飲むお酒って、いいよねえあはは」 笑い上戸

X「……」 あと一口で寝そう

Vバイオ「ああ先駆けの、一文字高校」

ライダーマン「校歌歌わないでくださいよ…シャウタ達に聞こえたりやどうしゆるんですかあ…」

プトティラ「ねーねーねーねー」

V3「んあー、どしたプト介」

プトティラ「プト介じゃないもん。…プトもお歌欲しい…」
響鬼「え〜？だったら、ライダーマン先生作ってあげたら」

ライダーマン「何で私なんれすか…」

スカイライダー「だって、そういうのできそうだし…あ、歌はX先生にやらせましようよ」

V3「んえ、あいつ社会科だろー？」

スカイライダー「歌うの好きらしいですよ昔、カラオケに行ったら誰よりもマイク握ってた時間長かったですから」

X「……ふえ？」 半起き

プトティラ「お歌作って…omO」

X「…うん、作って歌おうか…」

プトティラ「いいの！？O O」

X「……うん、…うん…」 もう寝そう

V3「じゃ、ライダーマンは作曲ってことで」

ライダーマン「なんれ私の意見まったく聞いてないんれしゅか…」

X「:ZZZ」寝た

〈回想終了〉

DCD全「おいX先生」

昭和リイマジ「おいV3先生とついでに響鬼先生」

スーパード「もうお前、音楽教師になれよ」

スカイライダー「確かピアノできたよな…?」

X「泣いていいですかーorz」

ユウスケ「じゃあ、今度はオーズ兄弟チームで」

ケイスケ「張り切ってどうぞ!」

タジャドル「タカキリバ」

ガタキリバ「ガタキリター」

ラトラーター「ガトラドル」

サゴーズ「ラジャゾ」

シャウタ「タカゴリタ」

タトバ「サウバ」

ブラカワニ「シャキリター」

プトティラ「ガトラーターOOO」

ママン「ラトラドル」

タジャドル「ラジャバ」

ガタキリバ「タカキリゾ」

ラトラーター「ガタゴリバ」

サゴゾ「サキリタ」
シャウタ「ガタウーター」
タトバ「シャトラーター」
ブラカワニ「ラトラバ」
プトティラ「ラキリタ〇〇」
ママン「ガタウゾ」
タジャドル「シャゴリーター」
ガタキリバ「サトラバ」
ラトラーター「ラキリドル」
サゴゾ「ガタジャゾ」
シャウタ「ラトラーター」
タトバ「ラトラタ」
ブラカワニ「ラウタ」
プトティラ「シャウドル」
ママン「シャジャゾ」
タジャドル「ガタキリバ」
ガタキリバ「ガタキリゾ」
ラトラーター「ガタゴリドル」
サゴゾ「サジャゾ」
シャウタ「タカゴリーター」
タトバ「サトラタ」
ブラカワニ「シャウタ」
プトティラ「シャウゾ」
ママン「シャゴリドル」
タジャドル「サジャーター」
ガタキリバ「タカトラタ」
ラトラーター「ラウタ」
カズマ「ラトラーターアウト」
ラトラーター「ぐああああああorz」

シヨウイチ「36亜種3コンボか…」

シンジ「やっぱ、コンボまで言わないと長続きしないんだよ」

ガタキリバ「つか、お前に恥ずかしい話ってあったっけ…？」

サゴーズ「毎日晒してるよね？」

シャウタ「確かに…」

タジャドル「お前が罰ゲームって、なんかつまらないな」

タトバ「恥を晒して生きているラトラーターだからね…」

ラトラーター「何これ悲しい！orz」

ブラカワニ「なら、パパンの恥ずかしい話をしよう！」

タジャドル「いや、親父はラトラーター以上に恥曝しだから」

ブラカワニ「パパンシヨック！」

ママン「じゃあ私の」

ガタキリバ「やめてくれ母さん！」

映司「…もう免除でいいからさ、次、行こうよ」

エイジス「次は…適当に、選抜チームで」

春沢「シャキリーター」

アラタ「ガタトラーター!？」

鳴滝「ラトラバ！」

モモタロス「…ラキリドル…？」

リンク「ガタジャゾ」

ピット「タカゴリバ」

シンゴ「サキリタ」

リュウガ「ガタウター」

翔太郎「シャトラタ！」

弦太郎「ラウター！？」

春沢「シャトラター」

アラタ「ラトラドル」

鳴滝「ラジャーター！」

モモタロス「…タトバ？」

リンク「ラキリゾ」

ピット「ガタゴリドル」

シンゴ「サジャタ！」

リュウガ「タカウタ」

翔太郎「シャウバ！」

弦太郎「シャキリタ！？」

春沢「シャウタ」

アラタ「シャウドル！？」

鳴滝「シャジャゾ！」

モモタロス「…タカゴリゾ…？」

リンク「サゴリーター」

ピット「サトラター」

シンゴ「ラトラドル」

ソウジ「御手洗君、アウト！」

エイジ「シンゴ…お前、頑張った、頑張ったよ…！」 号泣

シンゴ「うおおおおお…！orz」

翔太郎「何気に、春沢が3回目のシャウタを除くとシャチ+チータ
ー攻めだった件について」

春沢「どうでもいいので、さっさと恥ずかしい話お願いしますね」
シンゴ「いいだろう、あれは子供の頃の話だ…王環生態科学研究所

で、俺がトイレに行きたいとトイレを探している最中、エイジがやってくる…」

ヒナ「やってきて…?」

シンゴ「…俺の尻に浣腸してきて、その衝撃で漏らしたんだ…! 〇
rz」

ヒナ「ちよつとお兄ちゃん」

エイジ「うん、ごめん!」

海東「さ、次はクアトロオーズ+アंकだよ」

映司「タカトラーター」

エイジ「ラトラゾ」

ヒナ「ラゴリタ」

エイジス「…サウバ?」

アंक「シャキリタ!」

映司「ガタウドル!」

エイジ「シャジャーター」

ヒナ「タカトラゾ」

エイジス「…ラゴリーター…?」

アंक「サトラバ!」

映司「ラキリゾ」

エイジ「ガタゴリドル」

ヒナ「サジャタ!」

エイジス「…タカウタ?」

アंक「シャウバ」

映司「シャキリーター」

エイジ「ガタトラーター」

ヒナ「ラトラタ」

エイジス「……ラウタ？」
アंक「シャウター！」

映司「ガタキリバ！」

エイジ「ガタキリター」

ヒナ「ガタトラゾ」

エイジス「…ラゴリドル…？」

アंक「サジャーター」

映司「タトバ」

エイジ「ラキリゾ…」

夏海「王環エイジさん、アウト！」

エイジ「なあ…レヴァさ、亜種あまりしないのになんで…しぶといわけ…？」

エイジス「さあ」

ヒナ「困ったわ、お兄ちゃんもラトラーター同様、恥を晒して生きているようなものだわ」

シンゴ「ああ…」

エイジ「おい！？」

エイジス「もう、空から落ちてきた際に地面に頭から突っ込んだと言えればいいだろ、MEGAMAXの映司が頭から落ちた的な意味で」

映司「何でそんなマニアックな部分を！？」

シャウタ「正直、スタントにしても本人にしても、あれは痛い…正直言つて、俺の歌が出る出ない以前にあの落ち方めちゃくちゃ心配だった」

映司「ごめんなさい…でも、一応大丈夫だから…」

士「それに、エイジス的な意味であればセーフだろ」

エイジス「俺をガードベントとして扱うな」

アスム「さあ、次はDCDRWチームですよ！」

ワタル「誰がポカるのか楽しみですね、ケイスケさん！」

タクミ「噛む人出そう…なわけではないですよ、ケイスケさん！」

カズマ「頑張つてねケイスケ！」

ケイスケ「どう考えたって俺が間違えること期待してるんじゃないかアアア!？」

カズヤ「サゴリーター」

ヒロシ「サトラタ」

シゲル「…ラウバ？」

ユリコ「シャキリタ」

シロウ「ガタウゾ」

リョウ「…シャゴリタ？」

ハヤト「サウタ」

ケイスケ「シャウーター」

アマゾン「ガウ…シャトラドル！」

ジョージ「ラジャゾ」

1号「タカゴリタ」

カズヤ「サウーター」

ヒロシ「シャトラバ」

シゲル「ラキリーター？」

ユリコ「ガタトラゾ」

シロウ「ラゴリーター」

リョウ「サトラーター」

ハヤト「ラトラドル」

ケイスケ「ラジャタ」

アマゾン「ムウ…タカウタ」
ジョージ「シャウドル」
1号「シャジャーター」
カズヤ「タトバ！」
ヒロシ「ラキリバ」
シゲル「ガタキリタ」
ユリコ「ガタウーター」
シロウ「シャトラゾ」
リョウ「ラゴリバ」
ハヤト「サキリタ」
ケイスケ「ガタウタ」
アマゾン「ウウ…ガタキリバ」
ジョージ「ガタキリドル」
1号「ガタジャバ」
カズヤ「タージャードル」
ヒロシ「タカジャバ」
シゲル「タカキリドル」
ユリコ「ガタジャドル」
シロウ「タカジャタ」
リョウ「ラトラーター」
ハヤト「ラトラゾ」
ケイスケ「ラゴリーター」

士「ケイスケアウトオオオ！」

ケイスケ「orz」

ワタル「あの人意外と、スイカ先生より豆腐メンタルですね」
リョウ「いや、それは事前に『お前間違えたら笑いものだぞ』的な
集中プレッシャーを与えた君達が悪いような」

カズヤ「ケイスケ、他人のことに關しては受け入れられる度量はあるけど、自分のことに関してはスカイ先生顔負けの豆腐っぷりなん

だからね…!？」

海東「さあ、恥ずかしい話！」

士「はーなーし!はーなーし!！」

鳴滝「恥ずかしい話力モーン！」

ケイスケ「……」泣きそう

シヨウイチ「コラ、ここぞとばかりに虐めるな！」

シンジ「まあ、士は罰ゲーム受けた立場だからしょうがないっばさ
はナマコとナルト巻きよりあるけどさ…」

神「後輩虐めんな」ライドルスティック

海東「すーぱー!？」

X「後輩(?)泣かすな」ライドルホイップ

士「すーぱー!」

ヒロシ「ケイスケ泣かせんな」諸手頸動脈打

鳴滝「すーぱあー!？」

カズヤ「調子に乗るな」正拳突き×3

海東「すーぱーたかつ!？」

士「すーぱーとらっ!？」

鳴滝「すーぱーばったっ!？」

筑波「…このまま攻撃したら、スーパータトバコンボの音声言っか
な!？」スカイターボ跨り中

沖「今日は許す！」

スカイ「…どぞ殺っちゃってください！」

DCD界の三馬鹿はライダーブレイクで轢かれました

ケイスケ「恥ずかしい話、って言ったって、…俺のっ、トラウマ…
トラウマ……再燃、するっ…orz」

風見「よしよし、もういい、もう話すな」

春沢「過去のトラウマ関係でしたら、筑波さんみたいにフラットに
流せる精神力がなければ、別に話す必要はないのでは」

エイジ「ジン…あの三人のことなんて忘れて、もう泣き止め…な？」

プトティラ「ぷきゅっっっ」

ママン「それじゃあ…代わりに、私の恥ずかしい話を」

全「…ママンさんそれやめて！」「」「」

Ride027：出張、混沌！亜種ゲーム（後書き）

〈次回予告〉

サゴーズ「水戸黄門…うおおお、うおおお…！
〇
r z」号泣

ママン「あらあら」

ブラカワニ「サゴーズ…まだショックを引き摺っていたんだね…」
トライド「ガオン（訳：突然の最終回だもんなあ）…」

V3「じゃ、このまま俺が主張します」

リュウガ「あんたかよ！あんた、正直期待できないんだよ！！」

V3「えー、現在稼働中のガンバライド02弾…俺は新しい技を引
つさげて、レジエンドレアで活躍しているぞ！」

ライダーマン「マジするいですよね」

X「あんたのせいです」

V3「えっ」

X「先生のキャラが濃すぎるんですよ」

スーパード「それについては同意だわー」

スカイライダー「個性が濃すぎる人がいると、それと比較してしま
う傾向が強いですよ」

R i d e 0 2 8 : ブ イ ス リ ヤ ア ア ! 仮 面 ラ イ ダ ー の 主 張 そ の 9

スーパー1「こいつも泣いちゃったよ…」

ライダーマン「時代劇とか、好きでしたっけ。確か」

X「大学時代、時代劇研究会ってサークルにいましたから」同期

プトティラ「みとこーもんって?」

ライダーマン「まあ、水戸のご隠居様が世直しの旅に出て、その先々で悪人に対してお供の助さんと格さんが敵を切り伏せ、最終的に『この紋所が目に入らぬか!』と印籠を見せて一件落着の物語」

プトティラ「OMO?」

シャウタ「長すぎて分かってないですよ」

ライダーマン「え、要点しか言っていないのに…」

V3「でも正直、印籠とか抜かすと話しにくいよな」

ZX「まあ、簡単に紙芝居で解説しよう」紙芝居取り出しながら

プトティラ「わー!」

グローイング「にゅー!」

アマゾン「?」

全「『準備いいあなた!』」

龍騎「ZX先生マジで転職考えた方がいいですよ」

「ここからはZXの紙芝居です」

昔々、ある所にシャウタがいました。

シャウタは世直しの旅に出て、お供にはガタキリバとラトラーターがいました。

シャウタ「なんで俺なんですか」

オチ要因。

まあそれはさておき、旅の途中で、タジャドルとプトティラが喧嘩をしているのを見つけました。

しかもその喧嘩には、サゴーズやタトバ、ブラカワニさんにトライドも巻き込まれています。

プトティラ「ママンは？」

ママンさんがいない時に作った紙芝居なので、残念ながらもありません。それはともかく…

シャウタは一言、『ガタさん、ラトさん、殺ってしまいなさい』と言い、ガタキリバとラトラーターは皆の喧嘩を仲裁しました。

ちなみにブラカワニさんはドサクサに紛れて、一番殴られています。

ブラカワニ「パパンの扱い！orz」

大半がガタキリバの数の差で押さえ込まれ…

争いが収束に近付いた所で、ラトラーターが『これが目に入らぬか！』とばかりに、ある物を取り出します。

それが印籠です

…が、印籠はプトティラ達にとっては難しいので、“ういろう”というお菓子にしておきます。

タトバ「何故に!？」

ういろうを取り出した瞬間、争っていたプトティラ達はピタリと止

として、リュウガに殺られたクセに！」
デイクイド「それは世の中の厳しさをだな……」
フォーゼ「まだあるんだぞ！アマゾンの目の前で肉焼いて、食った肉の代金をX先生に弁償させようという魂胆でいたくせに！！ファイヤーステイツ兄貴がいなかったら、お前X先生に絞め殺されてたぞ！？」

X「…デイクイド？」 教育指導スイッチ作動まで残り1%
デイクイド「 ごおおおおめんなさああああああああああ
ああーいッツツ！！？」
ラトラーター「あれ、フォーゼは対象じゃないんだ…」
ガタキリバ「『アマゾンの』というのが重要なんだろ」
サゴーズ「少なくとも、『X先生に絞め殺された』は重要じゃないみたいだね」

V3「きりもみ反転キイック！」
ドラゴン「ほろすこーぷすっ！？」
全「…」なんか空気呼んでない人が来た！「」

V3「じゃ、このまま俺が主張します」
リュウガ「あんたかよ！あんた、正直期待できないんだよ！！」
V3「えー、現在稼働中のガンバライド02弾…俺は新しい技を引っさげて、レジエンドレアで活躍しているぞ！」
ライダーマン「マジずるいですよね」
ストロンガー「うん」 でもチャージアップの希望はある人
ZX「そうだな…」 ZXかげろう崩しが採用されれば…？

V3「でもなんでXはXキック忘れて真空地獄車なのかね」

X「忘れてない！」

スカイライダー「でも、何でなんですか？」

X「…じゃあ聞くが、空中静止ライドルの恐怖をガンバライドで見たいのか？」

ストロンガー「映画で充分です」

ラトラーター「漫画で充分です」

V3「まあそんなことはどうでもいい！」

龍騎「うんどうでもいい」

リュウガ「おい兄貴！少なくとも弟の俺より波長の合ってる相手だぞ！！」

ファイズ「それ切なくならないか、リュウガ」

V3「DCDRWでの俺の出番の少なさは、一体何なんだ！」

X「あんたのせいです」

V3「えっ」

X「先生のキャラが濃すぎるんですよ」

スパー1「それについては同意だわー」

スカイライダー「個性が濃すぎる人がいると、それと比較してしまう傾向が強いですよ」

リュウガ「馬鹿兄貴みたいに、どっかの辰巳やら城戸と均衡が取れているほどの濃さならまだいいが…」

サゴーズ「俺なんて、終末サゴーズの影が濃すぎて…影が薄いんですよ」

タトバ「俺なんて『ヒナちゃんが変身した方が強いww』とも言われる始末」

シャウタ「でも、銃火器とか絶叫とか変なあだ名つかないだけいいだろ」

ラトラーター「俺はディケブラシリーズでしか通用しない、サンダーラトラーター以外のラトラーターの影が…」

ガタキリバ「カズバカキリバ…500とか色々反則じゃないのか…」
タジャドル「教組タジャドルとタジャ××、どうして差がついた」
ブラカワニ「パパンなんて変身者エイジスしかないよ？」

ママン「でも、DCDRWのV3さんってセリフがまだ多いだけいいじゃないですか」

トライド「グオン（訳：世の中には、ただでさえセリフが少ないのに敵側にいるせいでもっと少ないキバ・ファイズ・響鬼やら、敵側になったせいで出番すら少ないクウガ・ブレイド・ディエンド・キバラ・アギト・ダブルがいるからな）…」

龍騎「あと、伝書鳩ポジションになってしまったカブトとかね」

全「…」 お前トライドの言ってる意味分かってんの！？」「…」

龍騎「大体…えーと、“DCDRイマジなんて妖怪以外影薄いだろ、ディエンドとキバラ含めて”だったっけ？」

トライド「グオオオオン（訳：大体合ってる、ダブルいないけど）」！」

スーパー1「でも俺の最大の見せ場ってまだ序盤の6〜7話だけだろ」 影でスカイの足蹴りつつ

スカイライダー「痛い痛い！」

ZX「俺の見せ場は…今後、あるのだろうか…」

1号（校長）「それを言ったら俺だって…」

2号「俺なんてオース兄弟での出番すらまだないんだぞ、ふざけんな」

V3「結論：Xから出番奪い去るしかないか」
ライダーマン「ですね」

X「ちょおおおおお！？」

アマゾン「Xいじめる、ダメ！」

プトティラ「いぢめちや駄目だよ！><」

タトバ（でも結論には近付いている気がする…）

龍騎「割と大丈夫でしょ、途中で死ななければ。ねえスカイライダー先生」

スカイライダー「なんで俺を狙い撃ちで聞くのかな!？」

龍騎「噂とか作者ネタバレとかそういうの抜きに、何となく」

スーパー1「単に弄りたい？」

龍騎「いえす」

スカイライダー「…俺の良心はX先生だけかそうなのかアアア…！
Orz」

龍騎「じゃ、そろそろ本題のスカイ先生弄りをしますか」

スカイライダー「そつち本題!？」

V3「任せる。おいプト介、【おいしいスイカの歌】だ」

プトティラ「プト介じゃないもん。久々に歌うから、1番から2番するよー><」

スカイライダー「やめてエエエ！」

V3「お前も歌えよ、2番からお前もやるんだから」

スカイライダー「ワケが分からないよ！」

V3「ようしプト介、これから美味しいスイカの見分け方を教えるぞ」

プトテイラ『プト介じゃないもん』

V3『まず最初に、スイカというのはウリ科のツル性一年草といわれている』

プトテイラ『ふう』

V3『ウリ科と言うのは他にも、キュウリやカボチャ、トウガン、ヘチマ、メロンなどがある』

プトテイラ『ふうふう』

V3『ツル性とはツル植物とも言われていて、』

プトテイラ『ふいぶ』

V3『自らの力で体を支えるのではなく』

プトテイラ『ぶきゅん』

V3『他の樹木を支えにすることで』

プトテイラ『ぶとぶと』

V3『高い所に茎を伸ばす植物だ』

プトテイラ『ぶつきゅん』

V3『そして一年生植物とは種子から発芽して一年以内に』

プトテイラ『ねーねー』

V3『何だプト介？』

プトテイラ『プト介じゃないもん スイカの見分け方は？』

V3『あ、そうだった』

プトテイラ『きゅーん』

V3『美味しいスイカの』

プトテイラ『見分け方ふうふうぷー』

V3『へそが緑なら』

プトテイラ『美味しいよ〇 〇』

V3『叩いてポンポンと』

プトテイラ『鳴ったらうまいよー』

V3『スカイ叩いたけど』

プトテイラ『気にしない○○』

スカイライダー『気にしてくださいよ！あんたら何、人の頭叩いてるんですか』

V3『あーすまんすまん』

プトテイラ『ぷきゅーん』

スカイライダー『なんでそんな白々しく言えるかな！』

V3『スイカというのは、果肉が赤色か黄色なんだ』

プトテイラ『ぷきゅーん』

スカイライダー『無視かい！』

V3『糖度は大玉で大体11〜13とされていて、約90%以上が水分なんだ』

プトテイラ『はい！』

V3『どうしたプト介』

プトテイラ『プト介じゃないもん しゅかいらいだーせんしえも黄色があるの？』

スカイライダー『何そのドロリンゴ！』

V3『あるぞ』

プトテイラ『あるの！？』

スカイライダー『あるけどね！？』

V3『黄色のスイカライダーはレアだぞ』

プトテイラ『レアなんだ！』

スカイライダー『いやまあ確かにレア…ってそうじゃない！人をスイカと呼ぶなスイカとオオオ！！』

V3『嫌いから歌うか』

プトテイラ『ぷい』

スカイライダー『おい！』

V3『美味しいスイカの』

プトテイラ『遊び方ふうふうぷー』<

V3『ライドルステイクで』

プトテイラ『スイカ割りO O』

V3『目隠し指示出して』

プトテイラ『思いつきり割るよー』<

V3『スカイ叩いたけど』

プトテイラ『気にしないO O』

~~~~~

ケイスケ「えー、兄弟側が尺を取り捲ったので、俺達の時間はラスト約1000文字分です」

全「「ヒデエー！」「」

シロウ「本当に、濃すぎると思うんだ…オース兄弟のV3」

カズヤ「まあ確かに…」

リョウ「実際、兄弟側との関係と比較してみたいな」

エイジ「…いいのか…？現段階（本編・スピンオフ各28話）で言うとなると、…1号とアマゾンとライダーマンと2号がオワコンだぞ」

エイジ「特に1号が」

ディケイド⇨士（扱いの悪さが）

クウガ兄弟>ユウスケ（ドラゴンが色んな意味でヤバイのと、DC  
DRWにおけるユウスケの出番が残念）

キバーラ>夏海（腐女子キャラが強すぎる）

ディエンド<海東（そもそも兄弟側のディエンドが…）

シャウタ>タジャドル>ブラカワニ>プトティラ>サゴーズ>ガタ  
キリバ>ラトラーター⇨タトバ（主にエイジスと映司の偏癖とヒナ  
の亜種癖のせい）

キバ<ワタル（そもそも兄弟はキバ系も…）

龍騎⇨シンジ（もうこいつら酷い）

ブレイド<カズマ（ライダーブレイクと終焉バース・デイ耐えた）

ファイズ>タクミ（リンクさえいれば…）

アギト<ショウイチ（まだ絶叫の方がキャラ強い）

電王⇨良太郎⇨イマジン（扱いの酷さが安定）

カブト<ソウジ（まあ、まだ喋っている分教組はマシ）

響鬼>アスム(個人的に響鬼先生のほうが印象強いつて何)

ダブル<翔太郎とフィリップ(比較しようがなかった)

映司||エイジス||ヒナ||エイジ||オーズ一家(安定の法則)

ベンちゃん||DCDRWクルーザー>DCDRWその他バイク(X  
が呼び出しまくっているのにお前ら...!)

スーパー1>カズヤ(あのドSどうしると?)

スカイライダー||ヒロシ(主にスピノフで輝く)

X||ケイスケ(色んな意味で安定)

ストロンガー<シゲル(ストロンガー出てきたばかりだし...)

タツクル<ユリコ(タツクルは銭湯回で初出)

V3>シロウ(あの個性と張り合うのは無理がある)

ZX||リョウ(V3とは違い兄弟側がそこまで個性がない)

フォーゼ||弦太朗(出て来たばかりだし...)

カズヤ「...orz」

アマゾン「カズヤ、なんで落ち込む?」

ケイスケ「...放っておいてやれ」

ジョージ「しかし、…実際私達と兄弟側の私達を比較するとどうなるんだ？」

士「……聞きたいのか？」

シンジ「主に一人、かなり後悔しますが」

1号「その覚悟は…当に出来ている…！orz」

2号<ハヤト（兄弟側の2号が見る影なし）

兄弟アマゾン≡RWアマゾン（加入回2つは目立つけど、それ以降が…）

ライダーマン<ジョージ（まあ、うん、設定の勝利）

兄弟1号>RW1号（60話以内に直接出る保障がない、話題には出るが）

1号「…ふ、ふふ。やっぱりな」

シロウ「……なんだ、その、その分強烈な個性を残せば大丈夫だ」

リョウ「仁さんと話せば何とかなる」

ハヤト「正直、士よりもエイジスかケイスケとの会話のほう割と重要だぞ…」

カズヤ「ハヤトさんの意見、DCDRWの真理ですよ」

ヒロシ「いつそ堂々とケイスケに告白すればいいんじゃないでしょうか、兄弟ドラゴンのような変態にさえならなければ」

ケイスケ「泣くぞヒロシ」



## Ride029：キターツ！絵心大戦2012 MEGAMAX

映司「【キターツ！絵心大戦2012 MEGAMAX】！！」

夏海「なんか、今日はタイトルが違いますね？」

エイジス「クリスマス・イブ仕様だ！」

海東「何故!？」

1号（DCDRW）「まあ、今回は皆で気軽に…気楽に描こうってことで、」

カズヤ「罰ゲームはないみたいだね」

ヒロシ「良かった」

シゲル「クリスマスまで罰ゲームなんてキツイしな…」

1号（兄弟）「と、思うだろう？」

2号「しかあし！」

V3「今回の絵心大戦は…」

ライダーマン「我々の決めた代表10名と、」

X「オーズ兄弟10人による」

アマゾン「絵心大戦！」

ストロンガー「メガ、マークス！！」

スカイライダー「簡単に言つと、二組に分かれてガンバライドカードを引いてもらい…」

スーパー1「同じカードを引いた二人がチームを組む！そして、引

いたカードの“人間時の姿”を描いてもらおう!!」

ZX「そして、ライ街出身の方々による評価によつて…上位7組とそれに対応するリイマジ昭和メンバーがディナーを食べられるのだ!!」

全「「なんだとおおお!?!?!」」

士「はっ、まさか、一時間前にやったくじ引きつて…」

シヨウイチ「は…?」

弦太郎「責任重大キターツ!?!」

カズヤ「もう不安しかないよ!?!」

映司「あ、でも、俺やエイジスは呼ばれていないから…」

スーパード「残念。実は…お題決めにくじ引き大会の際、ついでにお前達の運命を握る組み分け票も作ったのだ!」

V3「それがこちら!」

アंक・ラトラーター 本郷猛

王環エイジ・プトテイラ 一文字隼人

王環ヒナ・タトバ 風見志郎

剣立カズマ・ガタキリバ 結城丈二

門矢士・トライドベンダー 神敬介

辰巳シンジ・シャウタ 山本大介

天堂ソウジ・タジャドル 城茂

如月弦太郎・ママン 筑波洋

本郷ハヤテ・ブラカワニ 沖一也

芦河シヨウイチ・サゴーズ 村雨良

### 巻き込まれ一覧表

・ラトラーターチーム 1号(DCDRW)、海東大樹

- ・プトチーム 本郷ハヤト、光夏海
- ・タトバチーム 風祭シロウ、小野寺ユウスケ
- ・ガタキリバチーム ジョージ、ワタル
- ・トライドチーム 仁ケイスケ、アスム
- ・シャウタチーム アマゾン、尾上タクミ
- ・タジャドルチーム 紫電シゲル、花崎ユリコ
- ・ママンチーム 月島ヒロシ、エイジス
- ・パパンチーム 月島カズヤ、火野映司
- ・サゴーズチーム 時雨リョウ、キバーラ&キバット

タジャドル「マジかアアア!?!」

ガタキリバ「何この苛め!」

タトバ「シャウタ超有利!」

士「まずい…真剣に描かないと、殺されるぞ!」

2号「自信はあるんだよね?」

ケイスケ「あの、すいません、…トライドが一番描く努力をしているんで、そっちは評価してやってください」

夏海「プトテイラと、後、王環さんも…!」

X「いや、評価するの私じゃないから…!」

))

士「くっそ、オリジナル出て来い…！」

スカイライダー「彼らはクリスマスパーティーの準備中です」

ライダーマン「頑張って創造力を極限まで高めるんだ！」

スーパー1「でもまあ、ヒントぐらいは与えようか」

ラトラーター「そのヒントも期待できないんですが」

1号（兄弟）「えーと、本郷さんは…顔が濃いな」

2号「一文字さんは…まあなんだ、漫画は途中から童顔になっていったような」

V3「風見さんは…ホスト風？」

ライダーマン「そっからおかしい！…ええっと、結城さんはなんだろう、独特だった」

X「いや神さんヒント要らないだろ、この間シャウタが描いていたし…」

アマゾン「んー、野生！」

ストロンガー「そうだな、服が特徴的だな」

スカイライダー「いつもあんなに出ているのに、分からないのが一番やばいような」

スーパー1「沖さんも言わんでいいなこれ」

ZX「ええっと…弦太朗君の髪形を、パンチにしたような…」

士「くっそ…シャウタのハードルがバカ高い」

タジャドル「…城さん、城さん…駄目だ、どう足掻いても神さんと被る」

プトティラ「ぷっぷー」

トライド『グオン』

ユウスケ「っていうか…あれ？プトティラとトライド、前回とペンが違っような」

プトテイラ「おつきいほつが描きやすいから、交換したの！」  
トライド『グウン（訳：あのペン、ニオイきつかったし…）』

シヨウイチ「……………」

シンジ「…」

カズマ「……………」

ソウジ「……………」

夏海「あの人達、期待できないんですが！」

ワタル「カズマのピンに期待したいです…！」

タクミ「シャウタ、シャウタ頑張つて…シンジさんはちょっと無理  
っぽい！」

キバーラ『あんた達はいいわよね、私達なんて希望もへったくれも  
ないのよ？』

ユリコ「奇跡が起きるしかないんだから…！」

ケイスケ「アスム、俺達は多分無理だ」

アスム「もう諦めつきました。士さんですもん」

エイジス「弦太郎…か」

映司「ブラカワニさん…かあ」

海東「…アंकなんだよ、こつち」

アंक「お前ら失礼だな!？」

士「…そして、俺がトライド以下の扱いを受けている件について  
！」

ZX「終了〜！」

全「…何これオワタ」「」

スーパー1「さて、オリジナルの皆さん…ご登場です」

スカイライダー「皆、良く描けましたか？」  
士「……………」目を反らしつつ  
神「その破壊者もどき、俺の目を見ようか？」  
アंक「フツ、自信あるぜ！」  
本郷「ほう。楽しみだな」  
映司「やめるアंक、後で楽屋裏に呼び出されてライダーキック食らうフラグ！」

V3「それでは…（箱中のガンバライドカード引き中）…………Xこと  
神敬介を担当した、トライドチームからだな」  
X「ちなみに前回のシャウタを基準に見てみよう」  
ケイスケ「何それ酷い！」  
アスム「土さんへの処刑ですよ！」  
士「お前らな!？」  
> i 3 6 6 3 3 — 3 2 1 5 <  
V3「え、その時のお題なんだっけ」  
ヒロシ「アポロガイスト」  
スカイライダー「アポロガイスト違う！作品は同じだけどこの絵の  
主人公、アポロガイストと戦う人!!」

神「じゃあ…破壊者もどき、見せてもらおうか？」  
士「大体分かった。　　ここが俺のゴールだ…！」  
> i 3 7 5 7 7 — 3 2 1 5 <  
ケイスケ「無個性」  
神「無個性」  
X「無個性」  
一文字「むしろ茂に見える」  
本郷「『セタップ!』がなかったら敬介に見えない」  
風見「せめてパーフェクターとレッドアイザーぐらい描けよ」

士「orz」

ケイスケ「さーてと、俺達の期待はトラベンに委ねられた」

アスム「トラベン期待してますよ！」

士「ちよおおお!?!」

> i 3 7 5 7 8 — 3 2 1 5 <

沖「あ、上手い…」

筑波「トライドが人間だったら、絶対上手かったんだろっな…」

城「仕方ないことだけど、せめてハンドモジュールさえあれば…」!

士「俺との差が酷くないか!?!」

プトテイラ「ベンちゃん無個性な絵じゃないもん…OMO」

士「orz」 再起不能

ケイスケ「…何故か心が痛む！」

結城「安心しろ。君は原型をしつかりと描いているし、そこまで無個性な絵じゃない」

ライダーマン「続いては、結城丈二さんだ！」

V3「そうだな、ガタキリバから行け」

ガタキリバ「ええーっ!?!」

> i 3 7 5 7 5 — 3 2 1 5 <

筑波「…結城さんって言うより、」

本郷「滝……だな」

ガタキリバ「orz」

結城「…うん、髪分け方が逆になっていたら、まあ…通じたかも  
しれない……」

ライダーマン「低評価ですね」

V3「でも、結城さんは難しいだろー」

ガタキリバ「うわああああ…orz」

結城「orz」 V3の一言が誤爆

ワタル「カズマ…ピンですよね！キリじゃないですよね…！」

ジョージ「我々の運命は、君に委ねられた！」

カズマ「うーん、こんな感じ」

> i37576 — 3215 <

ワタル「何故ドリルアームじゃないんですかアアアアア！」

ジョージ「いや、そこじゃない。…何故…何故魚を釣っているうううう！？」

結城「いや、普段から物騒な腕のままじゃないから…変身した後で、そうなるから…orz」

カズマ「うえい？」

ユウスケ「もう、色々と期待できないな…今回」

1号（兄弟）「さあ、今度は…仮面ライダー1号こと本郷猛さんだ！」

本郷「楽しみにしているよ」

シンジ「ああ…アंकという存在が申し訳ないほど、清々しい笑顔だ…」

タクミ「本当に、アंकじゃなければ安心できたのに…」

カズヤ「リイマジ昭和を代表して、謝罪したいです…！」

アंक「失礼な奴らだな！」

ガタキリバ「もうラトラーターから行けよ」  
ラトラーター「オツケー！」

> i37570 — 3215 <  
ユウスケ「ラトラーターにしては上手い!?」

海東「これは意外と、いい線行く…わけないよねー」  
シヨウイチ「アंकだぞ、アंक」

本郷「では、アंक君。見せてくれ」

昭和リイマジ「「ホントやめたほうが!」」

アंक「いいだろう…これが俺の絵だ！」

> i37569 — 3215 <

映司「アックウウウウウウー!!!」

エイジ「最低だ、あいつマジ最低だ！」

エイジ「よりもよって、仮面ライダーの本家本元の目の前で…  
！」

本郷「……」

一文字「まあ、うん、落ち込むなよ…ドンキーコングみたいな姿だからって、お前はお前だぜ…」

風見「ああ。えっと、…えっと…」

神「…『セイヤー』って火野君だよな」

筑波「このパンツもむしろ…」

Wかずや「「しっ!」」

本郷「アंक君、これが終わったら、楽屋裏に来ようか…」  
全「「アंकオワタ」」

アマゾン（本家）「次、アマゾン！」

アマゾン「ケケーツ」

アマゾン（リイマジ）「ケーツ！」

夏海「同じ名前ってややこしいですね!？」

カズマ「とりあえず、変身状態のアマゾンはオーズ兄弟のアマゾンだ！」

ヒロシ「ここは、シャウタから行ってシンジさんに行くのは？」

士「おいおい、シンジの残念振りを比較してどうする」

シンジ「無個性に言われたくない！」

シャウタ「まあ、一応見せるけど……」

> i37580 — 3215 <

昭和リイマジ全「安定のシャウタアアアア！」

昭和荘メンバー「アマゾンうつまあああああ!？」

ヒロシ「さあ、シンジさんとの落差を楽しもう」

シンジ「おいその腐れスイカ！」

スカイライダー「じゃあ、シンジ君のな」

シンジ「スカイドリル脳天直撃」

カズマ「お母さああああん！」

シンジ「誰が母だ！」 復活

スーパー1「復活早いな！」

> i37579 — 3215 <

神「……」

シゲル「えーつと、」

ユウスケ「葉っぱ隊……?」

シロウ「懐かしいな」

シンジ「いや、だって、『野生!』ただだと発想が」

ハヤト「言い訳よくない」  
一文字「お、よく言ったリイマジの俺！」  
ヒナ「2号同士は仲良さそうね……」  
アマゾン「X、あれ食べられ……」 シンジのボード指差しながら  
X「ない！」

スカイライダー「さて、今度は筑波さんを見てみよう！」

筑波「間違えて山描かないでね！」

アスム「あなたを描くより難しいと思いますが！」

弦太郎「早速、タイマン張らせて貰うぜ！」

> i 3 7 5 8 3 — 3 2 1 5 <

筑波「なんで全裸アアアアア！」

沖「何処かの壁壊してるううううう！」

神「！ が！！！」

ヒロシ「何これ酷い（裸的な意味で）」

カズヤ「何これ怖い（飛び出した先が空的な意味で）」

ケイスケ「何これやばい（生身で壁を破つた的な意味で）」

シロウ「何だこれ危ない（そのまま真つ逆さまになる的な意味で）」

ママン「じゃあ、次は私ね」

筑波「…言っておきますけど、生身では飛べませんよ俺……せめて  
ハングライダーを……」

ママン「これよ」

ハヤト「話聞いてやるうか！」

> i 3 7 5 8 4 — 3 2 1 5 <

全「」「ああつと、今回はまともだった！」「」



カズマ「 漫画を知っているかいがないかの差？」

全「「「それか！」「」」

ジョージ「その方式で行くと、…ママンさんも呼んでいるのか…」  
3先生の授業回で貰った漫画」

X「なんでそんなことに！？」 真面目に授業した人

ハヤテ「絵心大戦もスピノフも、初めての参加で緊張します…」

ハヤト「もう少し自己主張しろよ、お前」

一文字「どうせ周囲はヘタクソばかりだし、胸張っていけて。沖なら許してくれる」

本郷「…許容範囲を知っているか、一文字」

ヒロシ「しーっ」

ハヤテ「はい、分かりました」

> i 3 7 5 8 6 — 3 2 1 5 <

全「「「あつれええええええええええ上手いよ普通に上手いよ！  
？」「」」

映司「何これ本郷兄妹って絵上手い人ばかりなの！？」

ハヤテ「でも、手のデッサンが狂って…」

シャウタ「それ俺も一緒です」

シロウ「何気に細かいな」

ストロンガー「天が呼ぶ地が呼ぶ俺が呼ぶ…」

シゲル「その絵を見せると俺も呼ぶ…」

城「聞け、参加者ども…俺はデッサン元、ストロンガー……城茂！」  
シンジ「煩い！」



ハヤト「磁界もできてるし…」  
士「あいつの発想マジでどうなってるんだよ」

V3「さー！今度は風見志郎さんで逝ってみるか！！」

タトバ「さつきから漢字がおかしい！」

ライダーマン「気のせいだ」

シンジ「じゃあ…ヒナちゃんから逝く？」

ヒナ「別にいいけど、漢字ぐらいはそろそろ訂正してよ！？」

> i 3 7 5 7 3 — 3 2 1 5 <

ワタル「どう見てもホストです、本当にありがとうございました」

アスム「…ここまでホストっぽいのも正直、どうかと」

ヒナ「だって、ヒントを出した人が…ヒントが…！」

風見「言い訳するな」

エイジス「諦めろ、ひな壇」

タトバ「……」

V3「次はタトバだな」

タトバ「あの、どうしても見せないと駄目なんですか？」

V3「当たり前だ」

タトバ「…うっ…」

> i 3 7 5 7 4 — 3 2 1 5 <

全「…普通」「…」

タトバ「普通って言うなああっ！？」

筑波「…この、チラツと見える赤い部分は？」

タトバ「いや、なんか描いている途中で筑波さんに見えて…服もそ

んな感じで…」

沖「言われてみれば…」

タトバ「それで、服の色を何とかしようって思って…そしたら、…  
…間違えて最初に赤を…」

カズヤ「赤にしたら筑波さんだよ!？」

ヒロシ「だから、この風見さんは80%の割合で筑波臭がするんだ  
ね」

ケイスケ「何そのニオイ」

一文字「次は俺か…」

エイジ「俺は…俺はどうせ、ペンすらまともに持てないんだ…」

「r z」

プトテイラ「o o」

一文字「 よーし、もう二人一緒に見よう。そのほうが気が楽だ」

> i 3 7 5 7 1 — 3 2 1 5 <

> i 3 7 5 7 2 — 3 2 1 5 <

士「誰がどれか、名前を書かなくても…」

夏海「自然と分かってしまうミラクル」

一文字「王環さんの…えっと、ポーズ。そう!ポーズがしっか  
りしているな…顔の傷もなかなか…あー、ベルトもちゃんと描い  
てあるなー!!」

エイジ「俺は怪物俺は怪物俺は怪物俺は怪物俺は怪物俺は怪物…」

一文字「プトテイラは…えっと、…可愛いな!デフォルメって言  
うんだよな…なかなかセンスを感じるなあ…顔の傷も忠実に描い  
てあるし、元気一杯って感じで!」

プトテイラ「きゅー」

士「無理すんな」

アंक「ヘタなものはヘタと言え」

シャウタ「どの口で言うかお前ら」

タジャドル「言っておくが、士よりプトティラのほうが個性的だぞ」

プトティラ「もにゃちよりプトのほうがうまいもん」

士「おいっ!？」

ガタキリバ「アंकより…王環さんのほうがまだ忠実だ」

ラトラーター「お前、一回神さん描いて殺されてこいよ」

サゴーズ「あと、前のメタグロエックスは二番煎じだったよ」

アंक「お前ら酷いな!？」

ZX「さあ、最後はZXこと村雨良さん!」

村雨「…なんか、怖いんだが。JUDO首領の器の勘がそう告げている」

タトバ「まあ、うん…うん」

ユウスケ「残っているのが…こんな絵を描いたシヨウイチさんと、」

> i 2 4 4 4 1 — 3 2 1 5 <

ソウジ「この絵を描いたサゴーズだからな」

> i 3 6 6 2 5 — 3 2 1 5 <

城「酷いを一周して、逆に凄い!」

サゴーズ「くうう…だけど、こっちだって伊達に漫画は読んでいない…!」

一文字「おい来年受験生」

サゴーズ「俺に失う物は何も無い、水戸黄門も終わったし…もはや当たって碎けるまでだあああ!」

タジャドル「せめて金メダル取るまで死ぬなよ！シャウタ泣くぞ！  
！」  
シャウタ「普通に泣くどころか、水分無くなるまで泣くぞ！」  
ガタキリバ「サゴーズの後追って死ぬなよ！シャウタ死んだら皆死  
ぬぞ！？」  
リヨウ「じゃあ、見てみようか」勝手にサゴーズの見せつつ  
> i 3 7 5 8 7 — 3 2 1 5 <  
沖「あれー！意外と上手かった！！」  
筑波「漫画の力って偉大！」

士「……」  
村雨「……」  
リヨウ「……」  
海東「本当に、やるのかい」  
タクミ「まあ、弦太朗さんやアंकよりは酷くないと思うけど……」  
シヨウイチ「泣くぞ！？」  
ソウジ「泣け」  
シヨウイチ「ちよっおま！」  
ヒロシ「オープン」勝手にシヨウイチの見せつつ  
> i 3 7 5 8 8 — 3 2 1 5 <

X「………何これ酷いを通り越して惨い……！」号泣  
ケイスケ「最低だ、最低だあの人……本当に最低だ……！」上に同じく  
神「……何故だろう。目から大量の汗が」目頭押さえつつ  
カズヤ「残酷すぎる……！」  
ヒロシ「いくらパンチだからって……」  
スカイライダー「こんなのってないよ、酷すぎるよ……！」  
スーパードー「ワケが分からないよ」  
沖「……村雨……村雨エエエ……！orz」 大号泣

村雨「こんな不良みたいに描かれて、…俺はどうやって生きていけ  
つて言うんだ…！orz」

筑波「それでも…生きていいんだ。誰にだって、生きる権利はある」

村雨「…うおおおおお…！orz」

スカイライダー「ひろーん！」

村雨「ひろーん！」

沖「ああつ、なんか信者増えてる！」

〃  
〃  
〃

ライダーマン「さて、話し合いも終了して…」

V3「それでは、1位から最下位までのメンバーを発表してください！  
い！」

本郷「うむ。これが話し合いの結果だ！」

1位…チームブラカワニ

2位…チームシャウタ

3位…チームタジャドル

4位…チームプトテイラ

- 5位…チームガタキリバ
- 6位…チームタトバ
- 7位…チームトライドベンダー
- （ここからアウト判定）
- 8位…チームスーパータトバコンボ
- 9位…チームラトラー
- 最下位…チームサゴーズ

ママン「あら…」

弦太郎「メシ抜きキターツ or z」

ラトラーター「なんでえええ！？いや、理由大体分かるけど！」

アंक「なん…だと！？」

サゴーズ「無理ないよ、うん…アレは酷い」

シヨウイチ「何故に！？」

本郷「えー、1位はもはや文句なしだった」

一文字「2位もよかつたんだけど…妖怪が酷かったのが」

シンジ「俺かい！」

風見「3位は…まあ、それなりに個性も出ていたし上手かった」

結城「4位は王環さんの事情を考慮したとしても、相手の特徴を捉えていたな…」

神「5位は…片方手袋だったり、ロープアームだったりしていたからな」

アマゾン（本家）「6位、タトバ、ベルトちゃんとしてた！」

全「…地味な評価だな！？」

城「7位…は、正直ママンさん達と迷ったんだ。迷ったんだが…弦太郎の筑波が後で沖に殴り殺されるレベルなのと、トライド頑張った」

筑波「8位は、弦太郎君が総てを物語っていた」

ヒロシ「えええ…」

沖「9位：論外。ラトラーターはともかく、アंक論外」

村雨「最下位は…最下位、は…orz」 思い出したらまた泣けた

ライダーマン「それでは、1〜7位の人達とその巻き込まれメンツはクリスマス会場にGO！」

全「わーい！」

ラトラーター「何これ惨い…惨いよオオオ…！orz」

ガタキリバ「…」

カズヤ「…」

ケイスケ「…」

映司「…」

エイジ「…」

本郷「あれ、君達は行かないのか？」

ガタキリバ「ラトラーターやサゴーズ、母さんは悪くないのに、なんか行き辛くて…シャウタ達と話し合って、三馬鹿代表として俺が残りました」

カズヤ「…ヒロシだけクリスマス・イブを満喫できないのは…」

ケイスケ「飯抜きでもいいから、久し振りに三人で過ごそうかなって」

映司「アंकに関してはどうでもいいけど、エイジスが巻き込まれるのはちよつと…」

エイジ「ヒオウティンコンボだしな…ガタキリバと一緒に理由だ」  
城「何こいつらめっちゃいい奴ら！」

筑波「じゃあ、ラトラーター・サゴーズ・ママンさん・エイジス・ヒロシ君・後ついでにリヨウさんと1号さんは免除するんで一緒に会場に行つていいですよ」

自主残り組「マジで!?!」

免除組「やったー!」

アंक「ちよつと待て、それ不平等...!」

神「何か言つたか」 X直伝アイアंकローでドリアン破壊

アंक「イイエ!!!」

海東「どうぞ、行つてください!」



R i d e 0 3 0 : パ パ ー ン ! 仮 面 ラ イ ダ ー の 主 張 そ の 1 0

Ride030：パパーン！仮面ライダーの主張その10

龍騎『【第19回：本郷町仮面ライダーの主張】…次の魂の叫びは誰だ！』

タマシー「俺!?!」

ラトラーター「ないない」

タマシー「叫ばせるよ…俺だつて言いたいことは、色々あるんだ。

『なんで出番ないんだ』とか言いたいことは…山のようにあるんだ

……!」

ポセイドン「それを言ったら俺だつてなあ…!」

アクア「あー、お前からここで暴れるのはやめておきなさい。と言っ

かポセイドン」

ポセイドン「何だ?」 謎の円盤直撃

タマシー「ポセイドオオオン!」

サゴーズ「ジャストミート!」

シャウタ「流石そこまでノーコンじゃない奴」 円盤用意犯

タジャドル「次これな」 岩塩

タトバ「その次これね」 サゴーズのダンベル

プトティラ「これもいる?」 漬物石

ポセイドン「orz」

ガタキリバ「お前、本当になんであいつらに尽く嫌われてるわけ?」

ラトラーター「だよな」

龍騎『メタ発言するけど、映画のMEGAMAX関係じゃね?』

タトバ「パンツの恨みは忘れない」

サゴーズ「久々の出番が抑え役の恨みは消えない」

シャウタ「存在自体が消えうせて欲しい」

タジャドル「シャウタの歌流れたんだぞ…それをお前…お前…」

プトティラ「ゆるしないよ」

ポセイドン「ちつくしよおおおおお確かにそれ関連でネタ

作ってるのは分かっていたさ！わかっていただけ…俺お前らの親父

じゃないんだぞ、限度考えろおおおお！」

シャウタ「兄弟側からの嫌われ原因、挙げてやろうか？」　ウナギ

ムチビシイ

タジャドル「人のベルトにナマコ…」

タトバ「…幼い頃の俺にやらかしてきた悪戯の数々は、忘れない…」

サゴーズ「あの日のバナナの恨みは消えないぞ」

シャウタ「…蛇嫌いだって言ってたんだろ？」

プトティラ「シャウタとタトバとサゴーズ虐めた」

ポセイドン「お願い同年代助けて！」

ラトラーター「やだよ」

ガタキリバ「味方したらこっちが（主にシャウタに）殺られるし」

ラトラーター「やっとプトティラに懐かれてきたのに、またストレ

インドウム食らうの嫌だし」

ガタキリバ「もう諦める、因果応報だ」

ポセイドン「泣くぞ!？」

シャウタ「泣けよ」

スーパードン「ポセイドンに対するシャウタがドS」

スカイライダー「ドSが言います?!」

トライド「グウン（訳：だけど、なんでガタキリバとラトラーターにはイジメ的なことをしていないんだ？）」

龍騎「アクアさん、ちよつとお答えください」

アクア「ええ…？ポセイドンじゃないから分からないが、多分…」

・ガタキリバ 50人フルボッコ反撃が目に見えている

・ラトラーター 悪役と水系特効に定評のあるライオディアス

アクア「じゃないかな？」

ポセイドン「『じゃないかな？』じゃねーって、助けてくれ！なんかあいつら怖い、特にシャウタ怖い!!」

アクア「無理」

タマシー「諦める」

ラララ「そうね」

ポセイドン「俺に味方はいないのかアアア！」

タジャドル「いねーよ」

デイケイド「俺に味方がいないようにな…!!」

フォーゼ「お前はもつと無理だろ」

龍騎「ポセイドンは果てしなくどうでもいい」

ポセイドン「おおい!？」

龍騎「そろそろ誰か主張しないと、企画倒れですよ。シャウタはタジャドルとポセイドンを絞めてもいいから参加して」

リュウガ「何気に怖いこと言うなよ!」

龍騎「後、なるべくDCDRWに触れてね」

ブラカワニ「じゃ、パパンやるよー！」  
タジャドル「さ、レポート纏めに帰るか」  
シャウタ「ポセイドン海に沈めるか」  
サゴーズ「帰って時代劇の再放送見よう」と  
タトバ「帰ってパンツ観賞しよう」と  
ガタキリバ「ガタツクから借りた漫画探さないとな」  
ラトラーター「寝よ寝よ」  
ブラカワニ「パパンの叫びを聞いてマイ息子達！orz」

プトテイラ「ポセイ井はどうでもいいけど、パパン置いて帰っちゃ駄目だよ…OmO」 進行方向ガード  
ポセイドン「おいペットオオオ！」  
リュウガ「…気になったんだが、『タジャ××』の『××』ってどうやって発音しているんだ…？」  
ライア「それは…やはり、『ピー』の擬音が一般的だろ」  
ギヤレン「いいや、『チヨメチヨメ』だな！」  
フォーゼ「『キターツ』！」  
アギト「『バキューン』」  
ママン「『バツバツ』かしら？」

プトテイラ「タジャ××だよ」  
オーガ「『ぷー』なの？『ぷー』なんだ!？」  
プトテイラ「たまにタジャ××<sup>び</sup>だけどね」  
リュウガ「なんか可愛い擬音だな！」  
ライア「それに比べて、ポセイ井ときたら…」  
ギヤレン「井は『ぽー』だな！」

プトテイラ「ポセイ井<sup>どん</sup>」

シャウタ「ホント嫌われてるなお前」

ラトラーター「俺は名前呼ばれてるだけマシだったのか…」

ガタキリバ「ポセイドン、ファイト」

ポセイドン「俺：今すぐ主張してえ、ブラカワニ押しつけてでも主張してえ…！」

龍騎『DCDRWに絶対触れない主張なので、認められません』

ブラカワニ「パパン…主張していいですかーorz」

X「もう、OKです。やってください」

ブラカワニ「うん…」

ママ「頑張ってー」

プトテイラ「プト達がいるよ！OO」

ブラカワニ「DCDRW、エイジス青年が決めてくれたね〜ワーニングライド！」

タジャドル「親父よりカッコよかったん」 プトテイラの足払いで

転倒

プトテイラ「ぷーいぷーい！」

ポセイドン「やーいやーい！」

ポセイドン「メダガブリュー頭に刺さって倒れている

プトテイラ「タジャ××虐めていいのプトとかシャウタただだよ

ポセイ井は駄目だよOO」

スカイライダー「何そのスーパードー先生理論」

タジャドル「そもそも虐めんなよ！」

ブラカワニ「だけどさ、エイジス青年のブラカワニは…その、ちょ

つと、……硬すぎるんだよね」  
リュウガ「遂には無視したぞ」  
オーガ「まあ、それが正解なんだけどね」  
ブラカワニ「GKB50に襲われても無傷、何を食らってもすぐ回復、まさに不死身と名高い性能に仕上がっている青年のブラカワニ……それで、最近気付いたんだ」  
ママン「何が？」

ブラカワニ「パパンの扱い……エイジス青年のブラカワニと同じように思われているのかな、ってさあ……」  
全「……あー……」

ブラカワニ「そりゃあ、何されてもすぐ回復するけどさ。青年ほどじゃあないんだよ、パパンだってダメージ受けすぎると……流石に死んじやうよ？」

タマシー「まあ、そうだな」

ライダーマン「普通はそうなんですよね……」

ブラカワニ「パパンだってね、普通に怪我するし……痛いんだよ。それなのに……それなのになんで、皆してパパンをフルボッコ!？」  
シャウタ「自分の胸に手を当てやがれ」

タジャドル「自分の行動を振り返れ」

ブラカワニ「……パパンメガマックスショック!orz」

ママン「だけど、エイジスさんのパパンってどれくらい凄いのかしら?」

V3「あつちで試させたらどうっすか?防御強化のエイジスVS適合外で低スペック確実のもやしVS適合してるけど防御強化恩恵のないリンク」

リュウガ「防御力検証大会かよ!誰が付き合うんだよ、生半可な人

間じゃヤラレチャツタ になるぞ!!」  
V3「あつちのXが主に頑張ってくれる」  
ライダーマン「ええ、あつちのX先生が…」  
ZX「銀の地獄万力と、鮮血ロードローラーの後輩が…」  
スーパー1「黒の殺戮兵器と名高いリイマジXが」

X（ドブチイツ） 教育指導スイッチON  
フォーゼ「セイサイ・オン リミットブレイク」  
タジャドル「シャウタとプトティラとペガサスとグローイングは逃  
げる！見るな!!」  
ガタキリバx50「俺達におまかせ!!」  
プトティラ「きゅー!?!」  
シャウタ「ガタキリバの波に流されるううう!」  
グローイング「きゃー!」  
ペガサス「きゃあああ!?!」

スカイライダー「ところでアマゾンって、X先生の教育指導スイッ  
チの存在…」  
アマゾン「?知ってる」  
スカイライダー「だよな…」  
ズドガアアアアアン!!  
アクア「あ、ポセイドンとタマシー巻き込まれた」

}}}

エイジス「本当に、なんで俺、死ねないんだ…？orz」  
ケイスケ「死ねないと分かっているだけいいだろ、俺達なんてな…」  
エイジス「なんかもうすまん。生存フラグを分けてやりたいほど、すまん」

士「しつかし、余計なことを…！」

リンク「でも、何処までエイジスが硬いのか気になるし」

エイジス「リンクお前何気に酷くないか」

タクミ「リンクだから…」

シヨウイチ「というわけで、ブラカワニフルボッコ部隊は以下の皆様！」

- ・ 1号
- ・ 2号
- ・ V3
- ・ ライダーマン
- ・ X
- ・ アマゾン
- ・ スترونガー
- ・ スカイライダー
- ・ スーパー1
- ・ ZX
- ・ プトティラ映司（メダル借用元：エイジス）
- ・ ギル

- ・サゴーズシンジ（メダル借用元：エイジス）
- ・タジャドルソウジ（メダル借用元：エイジス）
- ・ガタキリバカズマ（メダル借用元：エイジス）
- ・シャウタシヨウイチ（メダル借用元：エイジス）
- ・ラトラータータクミ（メダル借用元：エイジス）
- ・タトバヒナ（メダル借用元：ある意味アंकとカザリとウヴァ）
- ・電王PFピット（黒の巨塔装備）
- ・クウガRU

電王PF「さて、鬱憤晴らしのフルボッコ・ショータイム！」  
 士「なんだあの電王、プラットフォームなのに怖い」  
 リンク「ピットですし」

↳土ブラカワニの場合

もやしブラカワニ「くそっ、エイジスのメダルを使っているせいで弱体は確実とか…！」  
 エイジス「守備力は…どうなんだろうか」  
 リンク「ライオディアスとか分身とか、コンボごとの能力は弱体化してないんだよね」  
 エイジス「ああ」  
 リンク「ブラカワニのコンボ特有能力のソーマ・ヴェノムによる回復は、通常スベックってことなんだ」  
 アスム「…あれ、そうになると、ゴウラガードナーって」  
 リンク「弱体してるんじゃない？」

X「Xキイイック！」

もやしブラカワニ「　　じゃいあんとふっとッ!？」

海東「あ、吹き飛んだ」

夏海「脆いですね適合外ブラカワニ」

ワタル「今ここで、シンジさんが追撃したらどうなるんでしょう」

リンク「結果…分かりきつてると思うよ…?」

スカイライダー「三点ドロップ！」

もやしブラカワニ「すくりゅーッ!？」

スーパー1「スーパーライダー…旋風キック！」

もやしブラカワニ「はんどッ！」

V3「V3きりもみ反転キック！」

もやしブラカワニ「すこっぷッ!?!？」

Sサゴーズ「追撃行くぞオオオ！」

電王PF「おー」

Tトラクター「もうやめたげてよお!?!」

くリンクブラカワニの場合

Lブラカワニ「最初に言っておく…蛇は丸焼きにして塩コショウを振れば、それなりにイケる！」

電王PF「あんたナニテナダ」

Sサゴーズ「ズオーンストップ！」

Lブラカワニ「おっと!？」　ゴウラガードナー防御

べきよっ

Lブラカワニ「盾凹んだー!地味に再生能力遅くなるぐらい凹んだ

「！！！」

S タジャドル「クロックアップ！」　クジャクウイング展開  
電王P F「リミットブレイク！」　黒の巨塔振り回しつつ  
L プラカワニ「皆楽しそうにしすぎじゃない!？」

夏海「リンクさんは持ち堪えますね……」

アスム「やっぱり、通常スペックというのが大きいんですよ」

K ガタキリバ×500「うーい!」「」

L プラカワニ「ちょこれは無理イイイイ!!」

「エイジスプラカワニの場合」

電王P F「最初に、結果だけを伝えますと……」

X「　　いつでええええええ!!!!　　ライダー持てないぐらいの

衝撃

スーパー1「何これ痛い…腕が、腕がアアア　　右手が完全に動か  
ないレベルの衝撃

スカイライダー「硬すぎる!痛い!!」　　右足抑えつつ

V3「もうチートだ、チートだコイツ!」　　右腕押さえつつ

2号「チートってレベルじゃねえよ!」　　左足に激痛

ストロンガー「死なないコプラカメワニ納得!」　　右足にかなりの

鈍痛

E S プラカワニ「泣くぞ」

Z X「攻撃した側が、硬すぎてダメージを負うという事態に……  
折れた電磁ナイフ見ながら

士「つか、ケイスケとカズヤは本気でやりすぎなんだよ……」  
包帯ぐるぐる巻き

リンク「特にケイスケ、腕大丈夫？」 変身解除後にピットに殴られた

X「ごめん両腕痺れた…全ツ然動かない…！」

Sサゴーズ「サイヘッドスマツシャアア！」 ただの頭突き

Hタトバ「なんか変な名称つけてる!？」

E sブラカワニ「ちよつ待て防御の準備が」

ガゴオオオン!

Sサゴーズ「……」

E sブラカワニ「……」

Sサゴーズ「…頭痛いいい…！」

全「…終末ヘッドバット耐え切ったアアア!？」

E sブラカワニ「orz」

ピット「当主の勝ちー」

リンク「パチパチパチ」

オオたち「たちえー」

Eイジス「もう嫌だ!何だこの死ななさ、ケイスケとかヒロシに分けてやりたい!!あとカズヤとかシロウとか、とにかくたくさん!」  
! ! orz」

ケイスケ「っていうか…一致適合ってこんなに怖いのか」  
ヒロシ「エイジスがね？」

1号「だが、その分弱点もありそうだな…」

士「そうか…?思ったが最強すぎるだろ、あいつら」

1号「いや…強すぎる力を持つと言つことは、その反面、弱点も顕

著というものだ」

ヒロシ「龍騎呼ぶ？」

カズヤ「何故!？」

ヒロシ「そういう事情に一番詳しくそうだし」

龍騎「来たよー」

全「「ナズエコレルンデイス!!」「」

ハヤト「で、実際どうなんだ？」

シロウ「聞くんかい」

龍騎「そうだなー…分かっている範囲だと、こんな感じ」

・ソウジタジヤドル 利点：飛行スピードがクロックアップ並み・  
ギガスキャン効果上昇、欠点：クジャクウイングが開けないとク  
ックアップ不可能

・エイジスブラカワニ 利点：絶対に死なない、欠点：火力が（エ  
イジスがスマブラ世界製のメダルを使った場合のコンボと比べても）  
一番低い

・シンジサゴーズ 利点：破壊力が既に世紀末、欠点：守備力が低い  
・カズマガタキリバ 利点：最大500もの分身生成、欠点：15  
0を越えると勝手な行動に出る分身も出てくる

ヒロシ「意外と万能じゃないんだね」

龍騎「神さんとX先生以外ね。あの人達、マジ弱点ないらしいよ」

ケイスケ「何故に」

リンク「質問。…ケイスケってブラカワニとプトティラになれるん  
だよな」

ケイスケ「ん、まあ」

リンク「エイジスはシャウタ適合だけど、ブラカワニにも適合して  
いるし…これ二色適合にならないの？」

龍騎「その疑問にお答えすると、ブラカワニは他の単色適合（赤、白、黄、緑、青、紫）の相手でも適合する例のある特殊なコンボで、適合能力は神さん（爆発耐性最強）みたいにつくよ」  
ピット「で、プトティラはプトティラ単体じゃない限り…」メダガ  
ブリューの威力上昇』なんですよね」

リンク「……ケイスケのブラカワニって、特殊能力あるの？」  
全「……あ」「」

龍騎「…言わない方が」

ケイスケ「何それ！？なんか嫌な予感がする、凄まじく嫌な予感がする！」

士「言うよりもやってみたほうが早いな！」

ケイスケ「やああめろおお！」

（ケイスケブラカワニの場合）

Kブラカワニ「スーパー1のチョップで轟沈  
全「…守備力低ッ！」「」

龍騎「守備力が極端に低い上に、回復能力遅いの」

スカイライダー「でもケイスケって確かカイゾーグ…」

スーパー1「カイゾーグの守備力なんてあつてないようなものに近いんだろ…」

ストロンガー「それ考えると神さん硬てえ」

龍騎「ただな」

Kブラカワニ「　　っのやるおおお！」　　回し蹴り

スーパー「ディエンドガード！」  
海東「えっちよっと待って僕生m」

ズドガアアアアン！！！！

海東「タチバナアアアアア……！！」 全身複雑骨折  
龍騎「その分攻撃力が終末並みだし、攻撃受けた分だけ火力増すんだよ」

全「……何そのドM向け！」「……」  
Kブラカワニ「ドM違えよ！？」

スーパー（直撃しなくてよかったアアア……！） 確実にヒロシの弟

スカイライダー「……最大でどのぐらいの威力まで強化できます？」

カズヤの兄

クウガRU「ヒロシ君怖いんだけど」

龍騎「あえて言うなら、……ケイスケが死ななければいくらでも強化できるんじゃない？」

ピット「爆発耐性最強のブラカワニ、アイアンクロー強化＋教育指導モードで火力超強化プロティラ、防御を捨てた完全攻撃型ブラカワニ……」

リンク「Xになる人なんでこんなにおかしいの？」

Ride030：パパーン！仮面ライダーの主張その10（後書き）

〈次回予告〉

カズヤ「っていつか、弦太朗って…本編でもあんな絵のセンスだったんだな…」

弦太朗「偶然って怖いぜ」

ユウスケ「スーパー1先生クソ上手ウウウ！」

ヒロシ「でも『スイカー』だけはいただけないイイイ！」

スーパー1「だってこんなんだろ、あの人」

ケイスケ「スイカに関しては、あんたもだ！」

リンク「なんか…アंकと弦太朗って…」

ピット「発想似てますよね」

アंक「ふざけんな！俺のほうが目に気合を入れてるぞ…！」

弦太朗「俺はマフラーで飛んでいるんだ！」

Ride031：キターツ！絵心大戦2012その7

Ride031：キターツ！絵心大戦2012その7

シロウ「キターツ！絵心大戦2012」：2011年最後のお絵かき対決だ！！」

風見「今回の参加者は、こいつらだ」

スカイライダー「はい！なんで俺が参加しなくてはいけないのか、ワケが分かりません！！」

カズマ「俺もいるよー」

リョウ「久々だな」

スーパー1「1位になったら罰ゲーム執行権譲れよ」

アスム「2012版は初出場です！！」

ワタル「気合入れていきますよ！」

弦太郎「よっしゃ！タイムン張らせて貰うぜ！！」

アंक「このメンツなら…勝てる！！」

ケイスケ「無理だろアंक」

カズヤ「今のうちに謝ろうよ」

ヒロシ「ただのメダルになりたいの？」

アंक「おいそこの三兄弟！」

映司「アंक…弦太郎君に勝てなかったら、お前もつ1号さんにか勝てないぞ」

エイジス「せめて気合入れて、弦太郎には勝てよ」

エイジ「まあなんだ、頑張れ」

アंक「そつちの“えいじ”三兄弟も黙ってる！」

映司「アंक？」 映司さん目エ怖！モード+リユウガデツキ+メダガブリユー

アंक「すいっませんでしたアアアア！」

シロウ「まあ、それはともかく…」

風見「今日のお題は【仮面ライダーV3】だ！」

スカイライダー「えええつ、そりゃあ、V3先生しか残ってないよなあとか思いましたけど…」

スーパー1「1号2号は見た目が似ているしな」

1号（リイマジ）「orz」 実は映司の言葉にもダメージ受けてる

風見「ちなみに、負ければチェーンアレイ・チェーンソー・スパイク・ウインチを装着した、敬介フォーゼが襲い掛かるぞ」

Kフォーゼ「俺個人としては、リア充っぽいリョウ君を狙って」

ケイスケ「やめてください」

シロウ「ついでに、X先生プトティラも呼んでいるぞ」

Xプトティラ「泣いていいですかーorz」

ケイスケ「やめてやってください！」

Wしろ「あと、ケイスケにはXになって得意のスーパーフルボッコタイムを…」

ケイスケ「誰がするかアアア！」

~~~~~

弦太郎「V3…V3ってどんなのだっけ…orz」
アंक「V3…か…」

エイジス「ヒントを出すなら、V3はトンボのライダーだな」
弦太郎「トン…ボ？」

映司「後、背中のマフラーに滑翔能力があるとか聞いたことがあるんだけど…」

エイジ「それマジか？」

スーパード「それがマジならスイカいらんない子だな」

スカイライダー「いらんないと言わないでエエエ！」

風見「グライダーイングマフラー…2つのマフラーと襟の安定翼で滑空するという26の秘密の1つで、正しくは『滑空能力』だな」

映司「あ、そうなんですか」

スーパード「でも滑空できるならスイカいらんな」

スカイライダー「だからアアア！」

シロウ「だが、スカイライダーは自由飛行が可能…対してV3はあくまで『滑空』だから、上昇や下降、更に空中での細かい動きなどは苦手と言っことだな」

弦太郎「へえ〜」

ヒロシ「でも、スカイライダーの99の技って多すぎてワケ分かんないですよね」

シゲル「おいスカイライダー」

スカイライダー「でもまあ、俺もあまり知らないし…」

ハヤト「それでいいのかスカイライダー（現物）」

ケイスケ「でも、確かに99の技とか…解明できる気がしないな…」

ヒロシ「大半は赤心少林拳の技で埋めるとして…それでも50ちょっと越えるぐらいだろうから、後は適当に真空地獄車とかモンキーアタックとかをパクって」

ケイスケ「おいコラ」

カズヤ「でも、本当に解明できる気がしないんだよな」

ヒロシ「俺としては…一番手っ取り早いのが、スーパー1の技をラ―ニングすること」

カズヤ「やめて！そうになると俺、本格的に要らなくなるから…!!」

ヒロシ「後はそうだね、士の知り合いを締め上げて…聞くとか」

士「俺の知り合いだと？…誰がいた？？」

ヒロシ「一番知っていそうなのは、作者もちよつと存在忘れるほど長く捕まっている納豆キノコと…ホモの代表格・カニ柱たらこ」

士「…そんな奴ら、いたか？」

〃
〃
〃

風見「さあ、終了だ！」

参加者達「うええ……」

シロウ「それでは、審査員のV3先生を探してくるから、暫く待ってろ」

スカイライダー「ああ、待ちきれなくなってその辺ほつつき歩き始めたんですね……」

スーパー「マジフリーダム」

カズヤ「っていつか、弦太郎って……本編でもあんな絵のセンスだったんだな……」

弦太郎「偶然って怖いぜ」

ヒロシ「え？でも作者は、『もつと酷くしてやればよかった』とか後悔してるよ」

シゲル「後悔すんな！こつちが怖くなる……」

プトティラ「探しに行かなくても、すりゃーせんしえーすぐ来るのに……om o」

エイジス「お前は呼べるのか？」

プトティラ「うん。シャウタのおやつだよー、今日のおやつはイチゴ大福だよー！><」

V3「シャウタのおやつと聞いて！」 0・3秒

全「速ッ！」

スカイライダー「俺達よりV3先生の扱い方、分かってないかプトティラ!?」

スーパー「あいつ賢いな……」

Xプトティラ「今更ですか？」

シロウ「では、次はワタルだ」
ワタル「いいですよ！」

> i37894—3215<
シンジ「なんと言うか、」

シゲル「コメントに困る…とはこのことが」
ワタル「失礼な!？」

シャウタ「むしろこれ、ZOか」っばい…」
全「「「あー…」」」

Wしろ「「何かに似ていると思ったら…」」
ワタル「ノオオツ！あんな無個性な映画限定ライダーと思われるな
んて…!!orz」

ユウスケ「今日のワタルテンション高いな!？」

V3「次スイカ」

スカイライダー「スイカじゃないっ！」

> i37887—3215<
カズヤ「普通に上手い！」

スーパード「スイカのクセに」

スカイライダー「だからスイカじゃないですって!」

風見「だが、口がちょっと残念だな」

スカイライダー「ですよ、自分でも正直そう思ってます…orz」
シロウ「だが、まあ、後は許せる範囲」

リョウ「わくわく」

V3「次、あの人いつてみるか？」

シロウ「だな」

> i 3 7 8 8 9 — 3 2 1 5 <

士「だから…これオーズ兄弟だろおお！」

ケイスケ「しかも、『プト介』って…」

プトテイラ「プト介じゃないもん！」

カズヤ「ああつ、ブーメラン成立した！」

風見「…オーズ兄弟としても、本家としても否定できる箇所がない件について」

シロウ「ああ…あんた、なんでオーズ兄弟を描いている割には上手いんだ」

リョウ「さあ…？」

スーパー1「次は俺だ！」

カズヤ「自分で決めた！」

スーパー1「行くぞ！」

ケイスケ「しかも勝手に開こうとしている！」

> i 3 7 8 9 0 — 3 2 1 5 <

ユウスケ「スーパー1先生クソ上手ウウウ！」

ヒロシ「でも『スイカー』だけはいただけないイイイ！」

スーパー1「だってこんなんだろ、あの人」

ケイスケ「スイカに関しては、あんたもだ！」

シロウ「何故だ…これもあまり、否定できないぞ…!?!」

風見「というか、一番否定できない気がする…」

V3「スイカー」 絵のポーズ取りながら

スカイライダー「うわああああ、気持ち悪いぐらいに一緒だ！」

シャウタ「スカイライダー先生、本音ボロ出してますよ」

カズヤ「じゃあ、アスム君」

アスム「ううう…自信ないです…！」

> i37893 — 3215 <

DCDメンバー「…相変わらず可愛いなお前の絵は！」「」

アスム「うわーん、やっぱりヘタなんだあああ！」

ソウジ「いや、…後の二人よりは上手いぞ」

風見「だから…滑空専用と言っていたのにあのマフラーは…！」

机ドン

シロウ「マフラーで飛んでどうするんだ…！」 同じく

アスム「うわああああああ」

ワタル「あんたら容赦ないですね、13歳の子供の絵ですよ!？」

キバット「いや、お前も同い年だから」

リンク「お邪魔します」

ピット「イチゴ大福と聞いて推参しました！」

カズマ「うえ？」

シャウタ「なんかもう、どんどん増えてきてない…？イチゴ大福足りるかな」

ラトラーター「足りなかったら、もう1位と2位以外やらないようにしたら？」

参加者達「…ヤメロオ！」「」

弦太郎「次は俺の番だぜ！」

ピット「は？」

リンク「ちよっとピット」

エイジス「まあ、その反応は分かるが」

> i37892 — 3215 <

全「「おいちよつと待てよお前」」

アंक「はっ、これなら俺は大丈夫か」

タジャドル「凄い自信だな」

サゴーズ「虚勢じゃない？」

タトバ「虚しくなるだけだよ、アंक」

アंक「くっ…まあいい、見てみる！」

> i37891 — 3215 <

全「「なんでお前自身満々だったのか知りたい」」

リンク「なんか…アंकと弦太朗って…」

ピット「発想似てますよね」

アंक「ふざけんな！俺のほうが目に気合を入れているぞ…！」

弦太朗「俺はマフラーで飛んでいるんだ！」

ジョージ「どつちもどつちだと思っただが…」

ケイスケ「って言うかさ…アंकの何出してるんだよ………」

アंक「卵だ！トンボと言えば、夏場に小学校のプールなんかで卵を産みつけているからな…！」

映司「なんでそんな無駄な知識だけ豊富なのかな、アंक」

〃
〃
〃

映司「ところで、スカイライダー先生が3位の理由は？」

V3「クラッシュヤー部分」

スカイライダー「…やっぱそこですよねorz」

士「じゃあ、罰ゲームを受ける奴らは？」

スーパード「俺個人としては、3位から最下位」

スカイライダー「それ俺入ってるじゃないですか！嫌ですよそんなの、イチゴ大福貰えたのに地獄って!？」

スーパード「仕方ないな…だったら、4〜6位までは鉄拳天使に殴られ…7位と最下位はX先生と神さんに絞められる感じでいいんじゃないか」

V3「いいな、それ！」

アスム「え、なんか4〜6入りたくないんですが」

ピット「僕だつて殴り飛ばしたくないですよ、面倒臭い」

リンク「3月発売のゲーム宣伝がてらに、豪腕で殴れば？」

ピット「おいその寝ぼすけ勇者覚えてろ」

エイジス「…これは友人関係に入らないんだろつか」

映司「さあ…？」

ソウジ「まあ、『悪縁に近い仲間』だろうな」

V3「4位はワタル…5位はアスム、6位は…オンドウル」

カズマ「うえっえええええーい!？」

ヒロシ「うえいうえい煩いよ」

カズヤ「そういうお前も、ハイハイ言つてた時があつたけどな」

ワタル「理由は…？」

V3「いや、7位と最下位を先に決めて、後は消去法で適当に」
アスム「どんな理由ですか…！orz」
士「じゃあ、最下位は…誰なんだ？」

V3「 アンク」

アンク「何故だあああああ！！」

V3「ベルトどころか、マフラーすらないだろお前」

アンク「いや、それだったら弦太郎も…はっ」

弦太郎「俺はマフラーで飛んでいるんだ！」

アンク「…口での説明がなかったら、アレもマフラーに見えないだ
ろオオオ！？」

V3「でも何となくお前を落としたかった」

アンク「おい！」

ヒロシ「それでは、7位と最下位には神さんフォーゼとX先生プ
ティラとの、命を懸けた【逃走中】ごっこをしてもらいます」

Kフォーゼ「さあ…絶命タイムだ！」

Xプティラ「…もう…いいや…orz」

弦アン「…ぎゃあああああああああああああああああああ
」

映司「頑張れー…」

スーパード「イチゴ大福うめー」

リョウ「ああ」

スカイライダー「何とか貰えてよかった…」

〈次回予告〉

サゴーズ「この企画復活とかふざけんなああー！」

タトバ「頑張れ、頑張るんだサゴーズ！」

ガタキリバ「草葉の陰で見守っているぞ！」

ラトラーター「さあ、悩める子羊達を導くんだ！」

Cさん「LEDをちょっと（魔）改造して、脳改造を受けた改造人間達を解放するための【アンチ脳改造システム】とか…まあ、3時間クオリティである上に、膨大な電気エネルギーを充電しないと使えない代物なんですけど」

サゴーズ「ちよつと待って、それ充分凄いこと！そして物語の大きなキーアイテム…！」

Cさん「だけど、だけど親父だったら…同じLEDを素体にしても、欠点のない上に性能のいいものを作れたはずなんだ…！」

サゴーズ「落ち着いて…！では聞きますが、その死亡フラグでエイジスは死にますか！？」

Dさん「…エイジスは死なないと思う」

サゴーズ「そう！死なないんです、あの人は…むしろ天寿全うすら超越して200歳越えるまで生きそうですよ…！」

Dさん「それは流石に…死ねないことが残念に思えるレベルじゃあ」

Ride032：復活・サゴーズの一日シスター

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1264y/>

仮面ライダーDCDRW スピンオフ大戦！

2011年12月28日21時53分発行